

390.1

cG62k

N.



0055509000

0055509-000

390.1-cG62k-N

国民皆兵論

日本陸軍大学校・訳

偕行社

1936 2版

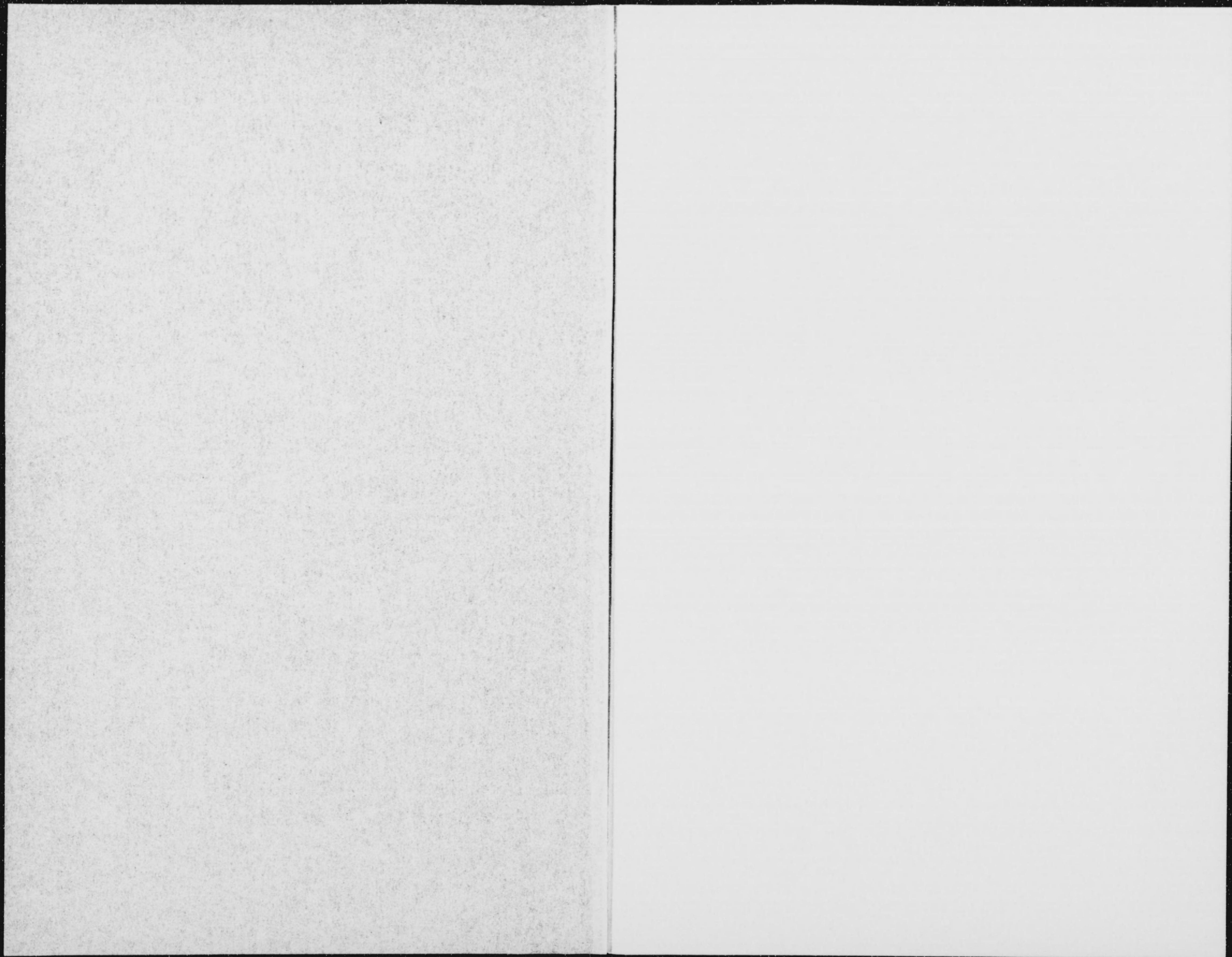
AJA

東京市牛込區改代町三十三番地

高 本 文 雄

電話牛込四一七〇七番

1023



コルマル、フォン、デル、ゴルツ元帥著
フリードリッヒ、フォン、デル、ゴルツ大佐増補
日本陸軍大學校譯

國民皆兵論

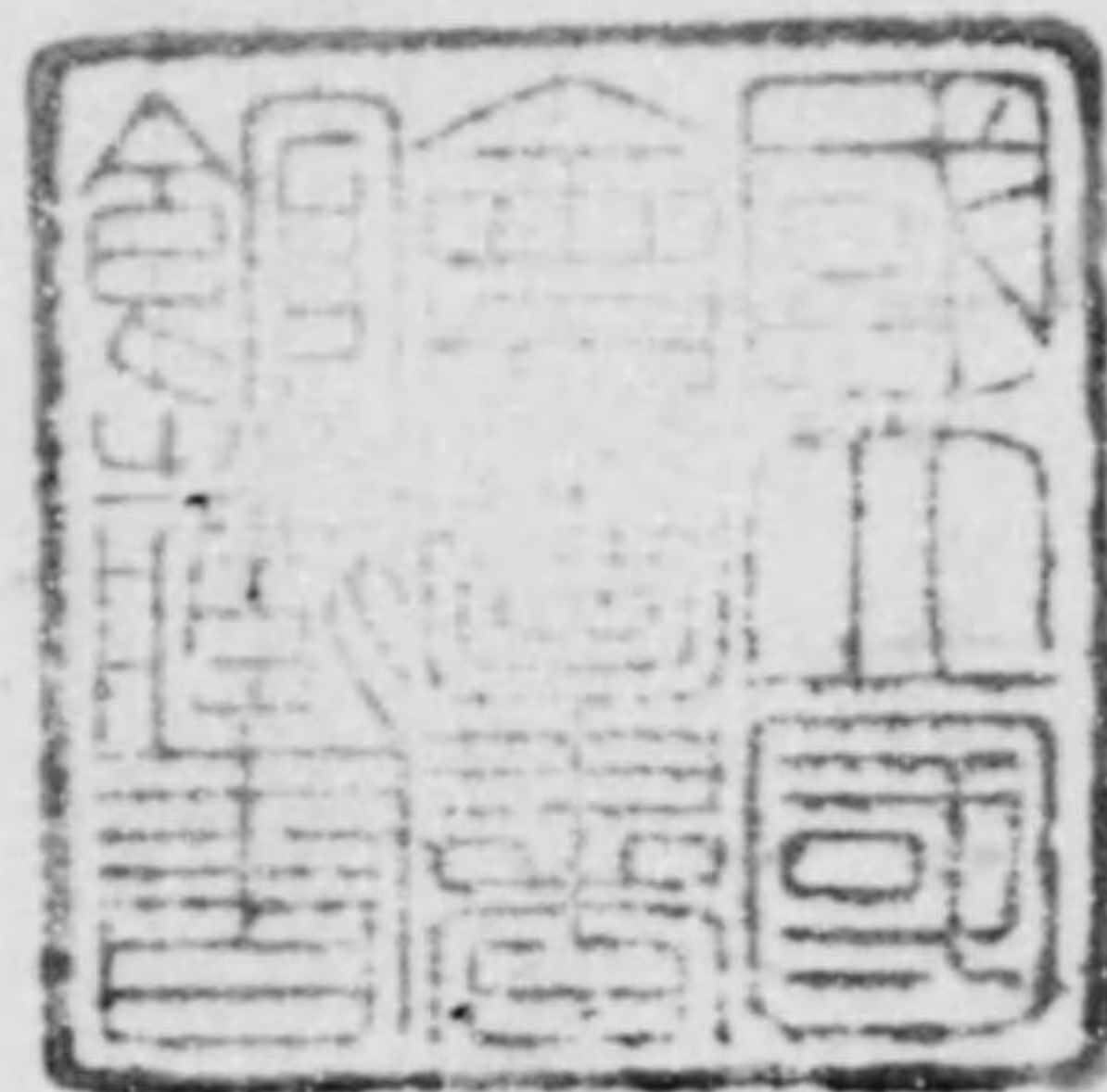
(現代ノ軍制ト統帥)

東京市牛込區改代町三十三番地

高本文雄

電話牛込四一七〇七番

390.1 c 462 kN



389788

改訂ノ序

コルマル、フォン、デル、ゴルトツ元帥ガ、「現代ノ軍制ト統帥——國民皆兵論」ヲ公ニシタノハ、千八百八十三年即チ元帥ノ少佐時代ノ事デアツタ。

元帥ハ其前ニモ大分、軍事學及戰史ニ關スル著書及論文ヲ發表シテ、既ニ世人ノ注目スル所トナツテ居タノデアルガ、此ノ書ガ一度世ニ出ヅルニ及ビ、一躍シテ軍事界一流ノ著述家トシテ認めラル、ニ至ツタ。

此ノ書ハ外國ニ於テモ多大ノ成功ヲ收メ、十餘箇國ノ國語ニ翻譯サレタ。斯クテ千八百九十九年ニハ、第五版ヲ出スニ至ツタガ、其後世界大戰ノ前マデ、長イ間絶版トナツテ居タ。蓋シ、著者モ亦、此ノ間ニ陸軍ノ最高地位ニ進ミ、繁劇ナル公務ニ追ハレテ、自ラ筆ヲ執ル暇ガ無カツタ爲メニ、止ムヲ得ズ本書ノ改版ヲモ退職ノ時マデ延期スルコトニナツタノデアル。

然ルニ夫レモ終ニ實現ヲ見ルニ至ラナカツタ。元帥ハ千九百十三年ニ閑地ニ就イタガ、開戦後間モナク、再ビ起ツテ祖國ノ難ニ赴キ、軍旅ノ間心ナラズモ著者トシテノ責任ヲ果シ得ヌ中ニ、千九百十六年四月十六日ヲ以テ、バグダットノ地ニ薨ジ、元帥ノ健筆ニ接スルノ機會モ終ニ永久ニ喪ハレテ了ツタ。

爾來獨逸ノ全土ハ颶風ノ襲フ所トナリ、戰爭ノ不幸ナル結末ヤ、惡ムベキ革命ハ、我が帝國ト共ニ獨逸統一ノ支柱タル我が光輝アル軍隊ヲモ葬リ去リ、ヴェルサイユ條約ハ徵兵ノ制度ヲモ覆ヘシ、獨逸ノ強國トシテノ地位ヲ保チ、國威ノ進展ヲ助長セル大切ナ立木ニ、無情ノ斧ヲ加ヘテ了ツタ。

獨逸國民モ今ハ最早「皆兵ノ國民」デハナイ。今後ト雖モ、曩ノ敵國ヤ、我が國民多衆ノ意志ニ從ツテ、再ビ「皆兵ノ國民」ニ歸ルノ時ハ、永久ニ來ナイデアラウ。

此ニ於テ、元帥ガ嘗テ「國民皆兵論」ヲ公ニセル當時ノ事情ハ、根本カラ變ツテ居ル。余モ本書ニ筆ヲ加フルニ當リ、改訂出版ノ當否ニ就テ一應此ノ事ニ就テ、熟考セザルヲ得ナカツタ。

惟フニ此ノ際、故ラニ現在ノ獨逸國民ニ訴ヘ、且ツ世界大戰ヲ單ニ戰略、戰術、技術、經濟等ノ研究資料トシテ之ヲ引用スルノデナク、特ニ之ヲ捕ヘ來ツテ觀察ノ資料ニ供スルコトハ、或ハ時機ヲ得タモノデナイカモ知レヌ。

余ハ固ヨリ、其様ナ企圖ヲ以テ、此ノ書ノ改版ヲ世ニ出スノデハナイ。蓋シ此ノ書ヲ單ナル軍事上ノ興味アル讀物トシテ了フコトハ、元々純粹ノ學術的著述タル此ノ書本來ノ性質ガ許サナイ。余ハ寧ロ、往年此ノ「國民皆兵論」ガ我が邦及諸外國ニ於テ其價値ヲ認メラレタ所ノ、客觀的觀察、具體的研宄ノ埒内カラ脱逸セヌコトニ、嚴ニ意ヲ用ヒタ。即チ本書ノ使命トスル所ハ單ニ軍事學ヲ通俗平易ニ解説スルニアル。

余ハ本書ヲ改訂シテ、茲ニ新裝ヲ整ヘ、以テ著者フオン、デル、ゴルツノ靈前ニ捧ゲ、同時ニ元帥ヲ以テ其ノ好箇ノ代表者トスル所ノ、舊獨逸軍隊ノ記念トスル。而シテ又舊軍隊ノ養成ト、獨逸國民ノ文化ノ發展及風教ノ向上トノ爲ニ、不斷ノ獎勵、扶掖ヲ惜マレザリシ「ホーヘン、ツオルレルン」家ノ芳名ニ對スル吾等ノ記憶ガ、本書ニ依ツテ永久ニ新タナルベキヲ希フモノデアル。

本書ハ戰爭其物ヲバ、單純ニ國民生活上ノ一現象トシテ觀察シ、現今ノ世界ヲ動カシツ、アル政治上並ニ軍事上ノ情勢ニ對スル、一般的ノ關係トシテ、之ヲ率直ニ取扱ツタモノデ、別ニ其間ニ何等ノ意味ヲモ含マセテ居ラス。

而シテ余ハ、「現時ノ文明世界ハ、尙ホ此ノ現象ニ就テノ知識ヲ是非必要トスルモノデアル」、ト云フ考ノ下ニ、此ノ書ノ改訂ヲ試ミタ。

「往年ノ世界大戰ノ如キモノハ二度ト起ラズ、獨逸ノ武裝解除ヲ以テ其第一歩トスベキ、列國軍備ノ撤廢及世界平和ノ時代既ニ到來セリ」ナドト、誰ガ確信ヲ以テ主張シ得ルデアラウカ。歴史ハ頻リニ吾々ニ向ツテ警告ヲ與ヘテ居ルデハナイカ。夫レニ就テハオスワルド、スベンゲル氏ガ「西洋文明ノ沒落」(千九百二十四年出版)中ニ述ベタ所ヲ茲ニ紹介シテ置キタイ。

『世界改造論』ノ實際ノ結果ハ、大抵形ノ備ツテ居ナイ、内容ノ空ナ、從ツテ歴史の根據ノ無イモノデアル。世ノ世界改造論者及世界ノ民ヲ以テ自任スル者ノ如キハ、其自ラ覺レルト否トヲ問ハ

ズ悉ク皆、「フエラハ」民族ノ亞流デアアル。(註曰。「フエラハ」ハ埃及ニ居タ非國家主義ノ民族デ、亞刺比亞人ガ埃及ヲ占領スルヤ、次第ニ其國語ヲ棄テ、支配者ノ言語ト宗教トヲ採リ入レテ了ツタモノデアアル)。彼等ノ成功ハ即チ、「永久ノ平和ノ爲デハナクテ、他人ノ利益ノ爲ニ」自ラ歴史ノ中ニ住ム國民カラ逃ゲ出ス」ト云フコトニ歸スル。所謂「羅馬ノ平和」ナルモノガ、其後ノ武力ニ依ツテ立ツ國王ト僅カニ異ナル點ハ、「内容ノ空ナ、百千萬ノ民ガ、少數武人ノ一團ノ支配ヲ受ケテ居タ」コトダケデアアル。此ノ平和ハフレデリック大王ノ犠牲トナリ、夫レガ又カンネノ戰ノ犠牲トナツテ了ツタ。パピロン、印度、埃及等ノ天下モ、相次デ外敵ノ手ニ歸シテ、自ラノ流血ヲ以テ、其國土ヲ染メタ。夫レガ彼等ノ所謂平和ナルモノデアアル。千四百一年ニ蒙古ノ軍ガメソボタミアヲ侵略スルヤ、自ラ防衛スルコトヲ敢テシナカツタ所ハ、バグダット住民ノ數萬ノ鬪闘ヲ以テ、戰勝記念塔ヲ築イタノデアアル。(中略)「奴隸ニ成ル位ナラバ死ンダ方カマシダ」トハ、昔ノフリヂア農民ノ俚諺デアアルガ、後世ノ文化人ナル者ノ箴言ハ、皆「死ヌヨリモ奴隸ニ成ル方ガ良イ」ト云フノデアツテ、夫レガ果シテ如何ナル結果ヲ招來スベキカハ、今ニ彼等自ラ經驗スルノデアラウ。」

今茲ニ、過度ノ平和主義ノ理想カラ必然的ニ生マレテ來ル極端ナ思想ヲ掲ゲルコトニスル。之ニ依ツテ、實際現下ノ文明國民ガ、其大戰ノ勝者タルト敗者タルトヲ問ハズ、悉ク皆再ビ一大災厄ニ瀕シ

テ居ルコトガ、自ラ分明ニナルデアラウ。

此ノ大危險ハ即チ過激主義ボルシェヴィズムカラ來テ居ルノデアアル。元來過激主義ハ、到ル所デ、恐怖ト嫌惡トヲ以テ迎ヘラレナガラ、而カモ單ニ一時的ノ現象ト思ハレテ居ルノデアアルガ、實ハ其間ニ益々廣ク蔓延シツ、アルノデアアル。此ノ思想ハ、文化ト國民生活ノ進展トニ資スベキ總テノ事物ニ對シテ、故ラニ反抗シテ居ル。要スルニ過激主義ハ無節制ナ暴行兵ヲ支援トシテ、全世界ニ其勢力ヲ張ラントスル、原始的威壓ノ性質ヲ帶ブル、專制主義ニ外ナラヌ。

此ノ主義ハ亞細亞ノ半開民族ニ向ツテ其怪腕ヲ振ヒ、黑人ヤ新世界ニ對シテモ、着々其教義ヲ傳播シ、而シテ其有色人種ノ間ニ入り込ンダ所デハ、常ニ白人ノ優越的地位ニ反抗ヲ試ミテ居ル。

然シ、實ハ單ニ植民地ノミデハナク、文明國民モ亦過激主義ノ脅威ヲ受ケテ居ル。否ナ何レノ國民ト雖モ、既ニ自己ノ國內ニ於テ其破壞的勢力ノ影響ヲ受ケテ居ラヌモノハ無イデアラウ。

此ノ如キ形勢ニ於テハ、眞ニ「國民皆兵」ノ意義ニ叶ツタ國民的軍隊ヲ有スル國家ハ、之ヲ有セザル國家ニ比シテ、其自國ノ文化ヲ防護スル上ニ於テ、遙カニ有力デアアル。後者ハ赤イ流ニ溺レ、隣國ノ惡風ニ感染スル可能性ガ非常ニ多イノデアアル。

今日ノ文明諸國ノ利害ノ共通セルコト、イザト云フ場合ニ、人類ノ福祉ヲ防護スル爲メニ、吾々獨逸國民ノ共力ヲモ閉却シ得スコトガ、一般ニ認メラル、時モ、最早ヤ遠イ將來ノ事デハアルマイ。

千九百二十五年一月

ジュードハルツノザクサ温泉場ニ於テ

退職大佐、男爵 フリードリッヒ、フォン、デル、ゴルトツ

國民皆兵論

目次

緒言

第一章 現時ノ國軍	一
第一節 近代國民的軍隊ノ是認	一
第二節 戰爭ノ實行法及徵兵令ト一般文化トノ關係	一二
第三節 國軍ノ要素	二四
第四節 國軍ノ區分	三八
其一 國軍、集團軍及軍	四一
其二 軍團、師團	四五
其三 騎兵師團	五九
其四 軍團ノ直屬部隊及軍ノ直屬部隊	六四

緒言

千九百十四年我が獨逸軍ガ征途ニ上ツタ時ニハ、明ラカニシユリーフエン伯（千八百九十三年ヨリ千九百六年マデ普國參謀總長在職）ガ、戰史的研究ヲ遂ゲタ所ノカンネ會戰ノ特色ヲ帶ビテ居タ。伯ハ紀元前二百十六年ニアプリノ平野ニ羅馬軍ヲ包圍シ、之ヲシテ一敗地ニ塗レシメタルハンニバルノ處置ヲ以テ、古今ノ名將中ノ絶技ト認メタノデアル。蓋シカルダーゴノ英雄ノ没後二千餘年ノ間ニ於テ、克ク此ノ妙技ヲ再演シ得タル者ハ、セダンニ於ケルモルトケ、タンネンベルヒニ於ケルヒンデンブルヒノ兩將軍アルノミデアル。

シユリーフエンハモルトケノ衣鉢ヲ受ケタモノデ、モルトケガ口ニ述べ、又現ニ實行シタル戰爭ノ教訓ノ研究ヲ進メ、之ヲ現代ノ大軍ニ適用スルノ道ヲ講ジタノデアル。

モルトケハ又クラウゼウイツツノ門弟デアル。クラウゼウイツツノ遺著ニハ戰爭ノ本質ニ就テ言ヒ得ベキ總テノ事ヲ網羅シテアル。

クラウゼウイツツハ實ニ近代ニ於ケル總テノ軍事研究者ノ師トナツテ居ル。

然シク將軍ガ「戰爭ニ就テ」ヲ著ハシタ時代ト、今日トハ、非常ニ其情況ガ違ツテ居ルカラ、今日ノ戰爭ノ外形ハ、將軍ガ想像シタ所トハ頗ル趣ヲ異ニシテ居ル。將軍ノ炯眼ヲ以テシテモ、猶ホ且ツ、

其没後幾千ヲモ經ズシテ、世界大戰ノ戰場ニ演出セラレタル狀況ノ如キハ、到底明ラカニ之ヲ想像スルコトガ出來ナカツタノデアアル。

之レヲ大觀スレバ、千七百九十二年ヨリ千九百十四年ニ至ル戰史ハ、一ツノ纏マツタ系體ヲ爲スモノデ、其特色トスル所ハ、國民ヲ基礎トスル軍隊ト、那翁ガ初メテ實行シタルガ如キ神速ナル大打撃ヲ與ヘテ戰爭ノ勝敗ヲ決スル點トノ、二ツニ存スル。然ルニ世界大戰ト共ニ、又茲ニ一大進展ヲ見ルニ至ツタ。但シ其徵候ハ、早ク既ニ、日露戰爭ニ於テ現ハレテ居タノデアアル。

本書ニハ此ノ新ナル進展、即チ現代ノ戰爭ニ就テノミ講説スル考デアアル。

然シ先ヅ、戰爭ガ此ノ如ク其外貌ヲ根本的ニ改ムルニ至ツタ理由ヲ、一應研究シテ見タイ。今回ノ大戰ノ勝敗ガ從來ノ如ク、主トシテ天才の名將ノ働ニ依ツテ決定セズシテ、却テ今迄ノ戰爭ヤ會戰ニ關スル法則ニ於テハ、寧ロ第二義ニ置イタ所ノ他ノ幾多ノ勢力ガ、大ニ之ヲ左右シタノハ、抑々如何ナル理由ニ基クノデアアルカ。

吾々ガ世界大戰ヲ觀テ、先ヅ第一ニ目ニ着クノハ、其規模ハ宏大ナル點デアアル。軍事上ヨリ觀察スレバ、彼ノ羅馬ノ羈權ヲ覆ヘシタル民族ノ移動ノ際ノ戰、蒙古ヨリ南露ニ亘レル成吉思汗ノ遠征、アレキサンダー及那翁ノ征戰ナドモ、此レニ比スレバ、殆ンド言フニ足ラヌホドデアアル。此ノ如キ多數ノ國民ガ戰ニ參加シ、此ノ如キ廣大ナル地域ニ亘ツテ戰爭ガ行ハレ、又其影響ガ全世界ニ波及シタ

コトハ、未ダ曾テ其類例ヲ見ナイノデアアル。

惟フニ此レ等ノ現象ハ、總テ皆十九世紀後半ニ於ケル人類發達ノ結果ニ基因スルノデアアル。即チ人類ノ發達ノ結果トシテ、國民ガ自己ノ禍福ヲ自己ノ手ニテ支配スル所ノ大ナル國家ヲ自ラ建設シ、若シクハ既存ノ國家ヲ強固ニスルニ至ツタ。世界大戰ニ從事シタ諸國ノ政府ガ、何レノ時代ヨリモ、國民ノ有スル全勢力ノ上ニ依頼シ得ルコトガ多カツタノハ、全ク之レガ爲デアアル。之レニ依ツテ又其戰爭行爲ガ四年餘ノ久シキニ亘ツテ未曾有ノ猛烈サヲ以テ實行サレタノデアアル。

然シ其當時ニハ、單ニ政治的方面ノミガ、戰爭ニ此ノ如キ現象ヲ與ヘタノデハナク、文化的、社會的及經濟的ノ諸方面モ亦、此ノ現象ヲ助成スルノニ、與ツテ力ガアツタノデアアル。

彼ノ技術及工業ノ偉大ナル興隆ヤ、之ニ伴フテ生ジタル新舊兩世界ノ多數ノ國土ニ於ケル物貨ノ増産ト人口ノ繁殖ヤ、自國ノ生産品ヲ以テ國外ノ食料品ト交易シ、以テ自國ノ住民ノ饑餓ヲ救フノ必要ナドカラ、世界ノ貿易及交通ガ非常ニ緊密トナルニ至ツタ。之レガ爲メ、各國民間ノ利害關係ハ到底從來想像ダニ及バヌホドニ、互ニ密接錯雜スルコトニナツタ。

故ニ此ノ巧妙ナル仕組ニ、一度故障ヲ生ジタ場合ニハ、現代ノ文化ノ圈内ニ在ル國民、若シクハ少ナクトモ之ニ近接シアル國民ハ、程度ノ差コソアレ、悉ク皆其ノ害ヲ被ムルコトニナリ、ソコデ一ツノ戰爭ニ對シテモ、今迄ニ例ノ無イホドノ多クノ人類ガ、之ニ參與スルコトニナルノデアアル。今回ノ

戦争ノ際ニハ、世界ノ凡ラユル方面カラ、我が獨逸ニ對抗シテ、戦争ノ焦點ニ向ツテ幾百萬ト云フ大軍ヲ繰リ出シテ來タ有様ハ、如何ナル空想家ト雖モ、到底想像シ得ナカッタ所デアアル。

之レガ爲メニ、世界大戰ハ古來歐羅巴ニ傳ハツテ來タ不變ノ戰略ヲ、猛烈ニ破壊シテ了ツタ。即チ從來ノ戰略ニ於テハ、光榮アル平和ヲ贏得スルニハ、是非共敵ノ主力ヲ徹底的ニ擊破スルヲ要スト教ヘテアルガ、扱テ此ノ名案モ、現代ノ大軍ニ對シテハ、何等ノ用ヲ爲サナカッタ。成ルホド、ハンニバルハカンネニ於テ八萬六千ノ羅馬兵ヲ包圍シ、モルトケハセダンニ於テ九萬ノ佛兵ヲ包圍シテ、之ヲ捕虜トスルコトガ出來、又サムソノフノ二十五萬ノ露軍ノ如キモ、若シ巧妙ナル戰略ト軍隊ノ有爲ナル働トヲ以テスレバ、或ハ同様ノ運命ニ陥ラシメ得タカモ知レヌ。然シ露國ガ動員セル三百五十萬ノ大軍ニ對シ、唯ダ一回ノ打撃ニ依ツテ、前述ノ如クニ、其抵抗力ヲ失ハシムルコトハ、單ニ地域ノ關係ダケデモ、既ニ不可能デアツタラウ。

固ヨリシユリーフエンガ佛國ニ對スル作戰計畫ヲ立ツルニ當ツテハ、若干之ニ似タ打撃ヲ與フル考モ持ツテ居タ。即チ白耳義ヲ通過シテ有力ナル右翼ヲ進メ、次デ、メツツヲ樞軸トシテ、南方ニ旋回シ、以テロートリンゲンニ向ツテ前進スル佛軍ヲシテ、新正面ヲ作ツテ戰フノ止ムヲ得ザルニ至ラシメ、爲シ得レバ之ヲライン上流若シクハ瑞西國境ニ向ツテ壓迫シ、之ヲシテカンネニ於ケル羅馬軍ノ二ノ舞ヲ演ジサセル希望ヲ懷イテ居タノデアアル。

此ノ考ヲ實現スベキ企ハ、終ニ失敗ニ歸シタ。而シテ夫レガ果シテ獨逸ノ統帥法ニ缺陷ガアツタ爲メカ、將タ又タ其計畫其物が元々不可能ノモノデアツタ爲メカト云フ問題ニ至ツテハ、遺憾ナガラ十分判明スル時ガ終ニ來ナイデアラウ。

然シシユリーフエンノ計畫ガ、縱令其考通りニ遂行サレタトシテモ、「アングロサクセン」ノ諸國ハ、決シテ其戰ヲ斷念シナカッタデアラウ。佛軍ヲ殲滅シ得テモ、彼ノ戰場ニ於ケル大成功ニモ拘ハラズ、我が獨逸ヲシテ終ニ屈服スルノ止ムヲ得ザルニ至ラシメタル英國ノ食料品封鎖ニ對シテハ、策ノ施シヤウガ無カッタデアラウ。

地球上ノ總テノ大陸及海洋ニ亘ツテ行ハレタル世界大戰ハ、作戰上ニ新シイ現象ト新シイ意義トヲ現ハシテ來タカラ、其要求ニ適應センガ爲メニハ、復タ新シイ手段ヲ取ラネバナナクナツタ。

規模ノ宏大ニ次デ目ニ着クコトハ、要塞ノ構築ト、兵器ノ技術上ノ革新デアツテ、之レガ爲メ戰闘ヲシテ、一般ガ豫想シタ所トハ、全ク異ナツタ状態ヲ呈セシムルトコニナツタ。此ノ兩者ハ戰闘ノ神速ナル進捗ヲ妨ゲテ、陣地戰ト稱スル所ノ數年ニ亘ル經過ノ頗ル緩漫ナ惡戰苦闘ヲ演出スルニ至ツタ。

彼我ノ兩軍ハ宏大ナル鐵道ノ設備ニ依リ、尙ホ協商國側デハ、更ニ船舶輸送ヲモ利用シ、互ニ非常ナ能力ヲ發揮シ得タノデ、短時日ノ間ニ莫大ナル兵力ヲ集中シ得、且ツ必要ニ應ジテ、之ヲ各所ニ移

動スルコトが出来、尙ホ長ク貯蔵ニ堪ユル食料品ヲモ製作シ得タ爲メニ、此ノ大兵團ヲ長時日ニ亘ツテ集結シテ置クコトが出来タノニ、敵ト一度戦闘ヲ交フルニ至レバ、其運動ハ忽チ停顿シテ了ツタ。壓倒的ニ優勢ナ兵力ヲ使用シタ、場合デサヘ、莫大ナル人命ヲ犠牲ニシテモ、尙ホ且ツ、我が行動ヲシテ再ビ滯滞ナク進捗サセルコトガ終ニ出来ナカッタ。

唯ダ西方戦線ニ於ケル最初ノ數週間ニ於テ、我が軍ガ白耳義及北部佛蘭西ヲ通過シ、勝ニ乗ジテ進軍シタ際ニハ、世人ガカネテ想像セル戦争ノ經過ニ、稍々似タ所ガアツタ。彼ノタンネンベルヒノ會戰ヲ起コサシメタ所ノ作戰モ亦、之ト同様デアツテ、吾々ヲシテシユリーフエン流ノ畫策ヲ想起セシムルモノデアツタ。然ルニ千九百十四年ノ九月中旬以降ハ、佛國ノ戦線ハ鐵條網及壕ノ中ニ停止シテ了ヒ、運動ノ自由ヲ回復スル爲メ、凡ラユル手段ヲ試ミ、屢々兵力ノ移動ヲ行ツタニモ拘ハラズ、此ノ状態ハ、最後ニ獨逸側ノ内部ノ崩壊ヲ生ジタ時マデ、依然トシテ繼續サレタ。東方戰場ニ於ケル戰鬪モ、遂ニリガヨリ黑海ニ達スル戦線ニ於テ終息シテ了ツタ。

佛國ハ普佛戦争ニ敗レテカラ間モナク、防禦ノ方針ヲ定メ、夫レニ適應スル適切ナ防禦設備ヲ、東北境ニ施シタ。即チ獨逸軍ノ強ミハ運動戰ニ在ルト思ハレタカラ、詳言スレバ、其大兵團ヲ迅速、確實ニ運用シ、且ツ夫レヲシテ決勝點ニ於テ協力セシムル點ニ存スト考ヘタカラ、國境ヲ越エテ侵入シ來ル獨逸軍ノ運用範圍ヲ、爲シ得ル限り局限シ得ル如ク、大規模ノ要塞系列ヲ設置スルコトニシタ。

此ノ考案ニ從ツテ瑞西國境ヨリ白耳義國境ニ至ル間ニ、佛國ノ要塞ノ一大連鎖ヲ設ケ、其ノ中間ニ若干ノ空隙ヲ置キ、此ノ中ニ敵ヲ進入サセテ置イテ、豫メ準備シタ戰場ニ於テ、四方ヨリ之ヲ攻撃シテ殲滅スルト云フ計畫デアツタ。尙ホ不意ノ襲撃ニ備フル爲メ、總テ佛國ニ通ズル大道路及鐵道ニハ之ヲ閉鎖スル所ノ阻止堡ヲ設ケタ。

其後佛國ガ防禦ニ固着スルノ必要ガ無クナリ、自ラ攻撃ヲ行ヒ得ルモノト自認スルヤウニナツテカラモ、確實ナル同盟國タル白耳義ノ要塞ニ期待ヲ置クコトガ多大デアツタ。即チ佛軍ハ獨逸軍ノ右翼ガリユツチツヒ(リエーヂ)城下ニ阻止サレテ居ル間ニ、主力ヲ以テモーゼル河トサンブル——マースノ線トノ中間ヨリ突進シ、又一部ヲ以テエルザス、ロートリンゲンノ方ニモ進出スル考デアツタ。此ノ計畫ハ千九百十四年八月ニ、其實施ノ第一歩ニ於テ、早クモ失敗ニ歸シタコトハ周知ノ事實デアアル。然シ若シリエーヂノ要塞ガ、克ク協商國側ノ希望通りニ獨軍ヲ支ヘ得タナラバ、西方戰場ハ最初カラ陣地戰トナツタデアラウ。唯敵味方共ニ不落ノ堅城ト許シテ居タ此ノ要塞ガ、意外ニ早ク陥落シ、尙ホナムール、モーブーヂユ、アントウエルベン(アンベルス)ノ要塞モ亦、相次デ同一ノ運命ニ陥ツタノデ、獨軍ノ右翼ハ白耳義ヲ通過シテ突進スルヲ得、爲メニ我が軍ノ征戰ハ、軍事上ノ立場カラ之ヲ見レバ、各方面共有利ニ開始サレタノデアアル。

然ルニ其後、永久的防禦工事ガ、軍ノ運用ニ與ヘ得ベキ支援的効力ガ、再ビ顯著トナツテ來タ。

デヨツフル將軍ハ巧ニ之ヲ利用シテ其頹勢ヲ挽回スルコトガ出來タ。即チ將軍ハ大ナル蹉跌ナク軍ヲ
グエルダン——巴里ノ線ニ退ケ、兩翼ヲ堅固ナル要塞ニ托スルニ及ビ、其ノ危機ハ既ニ去ツタノデア
ツタ。又ロートリゲンノ戰線ニ於テモ、佛國ノ要塞ノ効力ガ現ハレタ。夫レニハ固ヨリ、我が軍ガ
マルヌノ戰線ニ十分ノ兵力ヲ有シナカッタコトガ、彼レニ取ツテ一層好都合トナツタ點モアツタノデ
アル。讀者ノ知ラル、通り、當時我が總司令部ハ、佛英兩軍ガ、從來ノ敗戦ノ爲ニ極度ニ疲憊セルモ
ノト過信シテ、本來ノシユリーフエンノ考案ヲ廢棄シテ、敵ノ兩翼包圍ヲ企テタ。之レガ爲メニハ、
獨軍ノ左翼タル第六及第七軍ハ、ロートリゲンノ要塞線ヲ突破スルヲ要シタ。若シ夫レガ成功シテ、
マルヌ會戰中ニ、強大ナル兵力ヲ以テ、佛軍ノ右側及背面ヲ衝イタナラバ、確カニ獨軍ノ勝利ニ歸シ
タデアラウ。然ルニ實際ハ、此ノ兩軍ガ要塞ト依托セル劣勢ノ敵ニ支ヘラレ、其進路ノ開拓ニ頻リニ
努力シテ居ル間ニ、遙カニ遠方ノ所デ、早クモ決戦ガ濟ンデ了ツタ。而カモ夫レガ獨逸軍ニ取ツテハ
全戰役ニ關スル失敗トモ云フベキモノデアツタ。

實ニ、佛國ガ陸地要塞ニ投ジタル莫大ナル經費ト努力トハ、美事ニ酬キラレタモノト云フベキデア
ル。獨逸側ニ於テモ亦、之ニ似タ狀況ガ起リ得タノデアアル。即チ若シ、我が軍ノ左翼ヲ、永久築城ト、
動員中ニデイーデンホーフエン——メツツ——ストラースブルヒ——ライレ上流ノ線ニ構築セル野戰
築城トニ據ツテ、嚴ニ防勢ヲ取ツテ、多大ノ兵力ヲ節約シ得、之ヲ以テ右方ノ決戦翼ニ増加シタナラ

バ、恐ラクハ右翼ヲシテ豫期ノ任務ヲ達成セシメ得タデアラウ。

其時若シ佛軍ガ、獨軍ノ守勢翼ニ對シテ成功ヲ收メテ、フランクフルトニ向ヒ、若シクハ更ニリ
イン上流ヲモ越エテ侵入シ得タトシテモ、夫レガサシテ佛軍ノ爲メニ役ニ立タズ、徒ラニ深入シテ包
圍ニ陥ルノ危険ヲ増スニ過ギナカッタデアラウ。

獨逸軍ガ此ノ如キ處置ヲ取レバ、勿論エルザス、ロートリゲンノ地ノ一部ヲ、一時敵手ニ委ヌル
コトニナルノデアアル。獨逸ノ總司令部トシテハ、「決戦點ニ有力ナル兵ヲ集メル爲ニハ、是レ位ノコト
ハ忍バネバナラヌ」ト云フ辯明ハ十分ニ出來タノデアアルガ、遺憾ナガラ、斷乎トシテ此ノ處置ニ出ツ
ルコトガ出來ズ、終ニ一ツモ其要塞ヲ利用セズニ終ツタ。

露國モ亦開戦前ノ十年間ニ、獨逸東境ノ波蘭及リタウエンニ於テ宏大ナル地域ニ亘ツテ、防備ヲ施
シタ。ナレウ、ブーグ、ワイクセル(ウイスチユラ)ノ諸川ノ沿岸ニハ、各所ニ築城ヲ爲シ、内地ヨ
リ之ニ向ツテ多數ノ鐵道線ヲ建設シ、以テ獨逸及埃甸國ニ對シテ、安全ナル開進地域ヲ作ツタ。

此ノ處置モ亦奏効シ、千九百十四年ニ於ケル露軍ノ困難ニシテ且ツ比較的長時日ヲ有スル集合モ、
安全ニ之ヲ實施シ得タ。其後モ此レ等ノ要塞ガ、ニコライ大公ニ依ツテ巧ニ利用サレ、之ニ依ツテ屢、
軍ノ運用ニ便利ヲ得、且ツ敵ノ任務ヲ困難ナラシメタ。

然シ戰爭ノ經過スルニ從ツテ、グエルダン以外ニ於テハ、臨時ニ間ニ合ハセニ作ツタ防禦線、即チ

野戰築城ガ、永久築城ニ代ツテ重用サレルコトニナツタ。

彼我ノ兩軍ヲ土地ニ膠着サセルコトニ一番與ツテ力ノアツタノハ、機關銃ノ効力デアツタ。機關銃ガ藁ヲ束ネタヤウニ、彈丸ヲ雨注スル場合ニハ、餘程優勢ナ兵力デモ、前進シ得ナカツタ。僅カニ一挺ノ機關銃ノ爲メニ、全大隊ガ阻止サレ、其前進ヲ繼續スルニハ先ヅ之ヲ征服セネバナラナカツタ。ソコデ、獨逸軍隊ノ生命トセル果敢ナル攻撃ニ代フルニ、^{ハ、}際限ノ無イ、非常ニ骨ノ折レル前進法ヲ以テシ、土工具ヲ用ヒ、而カモ敵ト衝突シタ際ニハ、手投彈、照明彈、塹壕刀ナドデ、格闘ヲ行ヒツ、之ヲ實行スルコトニナツタ。

而シテ敵ガ多ク防禦工事ヲ行フニ從ツテ、掩蔽後ノ目標ノ射撃ニ適スル砲種ヲ、益々増加スルノ必要ヲ生ジ、之レガ爲ニ、臼砲ヤ重榴彈砲ヲ益々多ク野戰ニ使用スルコトニナツタ。(元來此レ等ノ砲ハ、其以前ニハ、僅カニ特殊ノ目的ノミ用ヒ、且ツ要塞戰用ノ兵器庫ニ屬シタモノデアアル。)ソコデ敵モ亦益々深く掘リ下ゲ、最初ニハ輕榴彈ノ破片ヲ防グ考デ作ツタ掩蔽部モ、終ニハ自然地ヨリ八乃至十呎モ下ニ、本式ノ休憩所ヲ設ケルト云フ有様ニナリ、土地ノ關係上(例ヘバフランダールニ於ケル地下水ノ淺イ場合ノ如キ)、此ノ如キ鑛山式ノ工事ヲ施シ得ヌ場所ニハ、鐵ヤ「ベトン」ヲ用ヒテ、永久築城ト殆ンド變ハラヌホドノ設備ヲ爲スニ至ツタ。此ニ於テ攻者ハ更ニ此ノ如キ掩蔽ヲ擊破スベキ新手段ヲ採用スルコトニナリ、砲ノ口徑ヲ増大シ、且ツ特ニ威力ノ大ナル彈種ヲ發明シタ。即チ陣地ヲ猛烈

ニ砲撃シテモ安全ニ守兵ヲ收容シ得ル所ノ掩蔽部ニ對シテハ、急角度ヲ以テ落下シ、且ツ深く地中ニ侵入シテカラ、破裂スル仕組ノ榴彈ヲ用ヒタ。大口徑ノ迫撃砲ガ此ノ種ノ彈丸ヲ發射スルニ最も適シタ。而シテ「ベトン」製ノ工事ニ對シテハ、臼砲及榴彈砲ヲ以テ、飛行機ヨリノ觀測ヲモ併用シツ、精密射撃ヲ行フテ、之ヲ破壊シタ。

毒瓦斯モ最初ハ、單ニ放散ノ方法ヲ取ツタガ、後ニハ普通ノ砲ノ彈丸及迫撃砲彈中ニ之ヲ收メタ。此ノ毒瓦斯モ亦、掩蔽後ノ敵ヲ害スルコトガ出來タ。之ニ對シテハ僅カニ防面ニ依ツテ眼ト肺トヲ保護シ得タガ、敵モ亦早速防面内ノ藥劑ヲ通ホシテ作用シ得ル新瓦斯ヲ發明シタ。ソコデ又々防面ノ改良ヲ企テ、之ニモ終ニ成功スルニ至ツタ。

掩蔽部ガ深くナルニ從ツテ、敵ノ突撃ヲ受ケタ際ニ、守兵ガ胸牆ニ就クマデノ時間ガ、益々多クカ、ルカラ、敵ニ後方ニ廻ハラレルコトヲ絶對ニ防止セネバナラヌコトニナツタ。依ツテ數線ヲ以テ一陣地ヲ爲ス所ノ各塹壕ノ前方及中間ニ、鍔ビタ具棘鐵線ノ纏綿シタモノヲ廣ク散布シ、之レヲ以テ敵ノ攻撃ヲ喰ヒ止ムルコトニシタ。戰車ハ之ヲ犯カシテ攻撃ヲ進捗サセル考ノ下ニ案出サレタノデアツテ、其目的トスル所ハ、鐵條網ヲ踏ミ潰シ、壕ヲ越エ、其開拓セル小蹊ニ依ツテ、歩兵ニ進路ヲ與ヘルニアル。尙ホ機關銃ノ巢ノ制壓ニモ有力ナル援助ヲ與ヘル。然ルニ兵器ノ技術ハ、此ノ戰鬪ニ對シテモ亦、對抗手段ヲ案出シ、大口徑ノ銃ヲ以テ裝甲部ヲ貫徹シ得ル彈丸ヲ發射スルコトニナツタ。

斯クノ如クシテ攻防兩者ノ使用スル武器ハ、互ニ激激ナル競争ヲ爲シ、一ツ一ツト前ノ發明ニ打ち勝ツテ進デ行キ、之レガ爲、其戦闘法ハ、技術上ノ細部ノ點ニ於テ、絶エズ變化シテ來タガ、而カモ尙ホ、戦闘ノ一般的性質ハ、最後マデ依然トシテ、陣地戦争ノ性質ヲ失ハナカッタ。

此ノ陣地戦争ナルモノガ、從來ノ總テノ戦争ト異ナル所ハ、大ナル決戦ノ無イコトデアアル。陣地戦争ノ數年間ニハ、運動ト戦闘ノ交替モナケレバ、未知ノ地ニ侵入シテ、戰士ノ氣分ヲ新ニスルガ如キ軍ノ策動モナク、又祖國ヲ安泰ナラシムルニ足ル如キ平和ヲ招來スベキ戦勝ノ高潮點ヲ、陣中生活ニ卷キ起スコトナドガ、少シモ無ク、唯ダ彈痕ノ一杯ニ散在シテ居ル荒レ果テタ、泥土ノ深イ土地デ、到底想像ノ及バヌホドノ激烈ナ小戦ヲ行フノミデアッタ。

固ヨリ彼我共ニ行動ノ自由ヲ回復セント欲シテ、此ノ如キ状態カラ脱センコトヲ再三再四企テタノデアアル。其場合ニハ自己ノ選定シタ場所ニ、多クハ月餘ニ亘ル準備ヲ爲シテ、莫大ナル人員、彈藥其他ノ兵器材料ヲ集メタ。而シテ本攻撃ニ先チテ、數日ニ亘リ數千ノ砲ヲ以テ、敵陣地ニ向ツテ猛烈ナル砲撃ヲ加ヘ、同時ニ爆撃飛行機ト遠距離射撃砲トヲ以テ、遠ク後方地區ヲモ擾亂セシメ、且ツ前例ノ無イホドノ優勢ナ兵力ヲ使用シタルニ拘ハラズ、再ビ運動戦ニ移リ得ルホドノ完全ナ突破ハ、何レノ地點ニ於テモ、一度モ成功シタコトガ無カッタノデアアル。

其經過ハ何時モ同様デアッタ。即チ縱令防者ノ防禦設備ヲ全ク破壊シ盡クシ、爲ニ戰車隊ト飛行機

トヲ伴ヘル歩兵ヲ以テ、既ニ崩潰シアル敵陣地ヲ左程ノ努力ヲ要セズシテ占領シ得タ場合ニ於テモ、何時モ豫期ノ成功ヲ見ルコトナクシテ、終ツテ了ツタ。第一陣地ノ後方ニハ通常第二陣地ガ設ケテアリ、之ヲ奪取シテ見ルト、第三、第四ノ陣地ニ遭遇スルト云フ有様デアッタ。而シテ攻者ガ深く地歩ヲ占ムルニ從ツテ、彈藥、建築材料、糧食等ノ莫大ナル量ヲ、彈痕デ荒ラサレタ、道路ノ無イ戰場ヲ越エテ、軍隊ニ補給スルコトガ、益々困難トナリ、之ガ爲メ、終ニ此レ等ノ物資ノ缺乏ヲ來スニ至ルノデアアル。之ニ反シテ防者ノ方デハ、後退スルニ從ツテ、其資源ニ接近スルノデアツテ、新銳ナ師團ヤ砲兵ヲ、鐵道及自動車縱列ヲ以テ招致スルノニ、何等ノ困難ヲ感ゼヌノデアアル。夫レデアアルカラ、攻者ガ自然ニ疲憊スルト同一ノ程度ヲ以テ、防禦ノ力ガ増大シ來リ、終ニ彼我ノ勢力ガ伯仲スルニ至ツテ、攻撃運動ガ中止シテ了ツタノデアアル。

此ノ如クシテ至大ノ犠牲ヲ拂ヒシニ拘ハラズ、終ニ戰略的狀勢ヲ根本カラ變更スルニ至ラナカッタ。其第一ノ原因ハ、此ノ種ノ攻撃ハ何時モ敵ノ主力ヲ撃タスカラデアアル。例ヘバ獨逸軍ニ取ツテ、大戰間ノ大部分ヲ通ジテ、敵ノ主力ハ何レニ在ツタカト云ヘバ、夫レハ勿論西方戰場ニ在ツテ、且ツ英佛海峡ヨリアルプス山脈ニ至ル間ノ佛英ノ兩軍ノ全體デアアル。然ルニ獨軍ノ行ツタ大攻撃ニ於テモ、毎回此ノ兩軍中ノ比較的小部分ヲ引キ着ケタニ過ギス。而シテ敵モ亦我が軍ト同様ニ、爲シ得ル限り多クノ兵器等ヲ使用スルガ、戦闘員ハ成ルベク少ナク使用スルコトヲ努ムルニ至ツテ、益々其兵力ハ

少ナクナツタノデアアル。

ソコデ既ニ實行不可能トナツタ從來ノ戰略上ノ信條ヲ抛ツテ、新ナル方策ヲ案出スルニ至ツタ。

即チ一回ノ打撃ヲ以テ達成シ得ヌコトヲ、多數ノ小ナル打撃ヲ以テ之ヲ爲シ遂ゲルコトニシ、困難ナル攻撃ヲ何回モ繰リ返シ實行シテ、敵ニ堪ヘ難キマデノ損害ヲ與ヘ、補充ノ出來ヌホドノ物質的大消費ヲ爲サシメルコトニシタ。此ニ於テ今迄ノ殲滅戰略ハ遂ニ疲憊敵器ト變ツタハデアアル。

此ノ種ノ作戰ニ於テハ、若シ彼我ノ精神的價值ヲ同等ト假定スレバ、人員及戰用資材ヲ多ク有スル方ガ、勝ヲ得ル見込ガアル。

我が獨逸ノ狀況ハ此ハ點ニ於テ最初ヨリ甚ダシク不利デアツタ。世界ノ各國ヲ敵ニシテ、足手纏ヒノ埃國ヲ同盟トスルノミデアツタ。土耳其及ブルガリアガ加盟スルニ至ツテモ、左程形勢ヲ有利ナラシムル所ガナカツタ。加之獨逸ハ陸上及海上ニ於テ、外界ト交通スルコトガ少シモ出來ズ、恰カモ攻圍ヲ受ケタ一大要塞地ノ如キモノデアツテ、唯ダ自ラ生産シタモノダケデ立ツテ行ク外ハナク、而カモ其内ノ一部ヲ割イテ、同盟諸國ニ供給セネバナラナカツタ。故ニ物質本位ノ戰ノ時期ニ入ツテカラハ、終ニ敵ニ一步ヲ讓ルニ至ルコトハ、到底免レ得ヌ運命デアツタ。

最モ有力デアツタノハ、結局饑餓デアツテ、終ニ獨逸國民ノ抵抗力ヲ葬ツテ了ツタ。即チ我が敵國ハ野戰軍ノ勝利ニ依ラズシテ、封鎖ヲ以テ國內ニ壓迫シテ、終ニ勝ヲ占ムルニ至ツタノデアアル。

故ニライブチツヒノ戰ヲ以テ那翁ノ歐洲霸權ノ覆滅ヲ示シ、ユーナノ戰ヲ以テフレデリック王國ノ崩潰ヲ示シ、セダンノ地名ヲ以テ第二帝國ノ没落ヲ現ハスヤウニ、一ノ戰場ノ名ヲ掲ゲテ、獨逸帝國ノ終焉ヲ標示スルコトガ出來ナイノデアアル。

然シ良ク考ヘテ見レバ、結局ハ獨逸モ亦ハンニバルノ戰略ノ大考案ニ依ツテ、屈服サセラレタモノトモ云ヘル。獨逸ハ今迄ニ類例ノナイ一種ノ優勢ニ依ツテ、カンネニ於ケル羅馬軍ノ如キ狀勢ニ陥レラレタノデアアル。即チ單ニ軍隊ノミナラズ、軍隊ト共ニ全國民ヲモ、戰略的、政治的、經濟的及精神的ニ絞メ殺ス所ノ一種ノ包圍ニ陥ツタモノデアアル。

然シ吾々ハ之ニ就テ（縱令其形式ニ於テコソ異ナレ）戰爭ノ原則ノ永久不變ナルコトヲ認メルコトガ出來ル。

獨逸帝國ノ軍國主義ト侵略的政策トガ、世界大戰ヲ起コシタ原因デアルト云フ意見ガ、我が獨逸ノ一部ノ社會ニマデ行ハレテ居ルノハ、甚ダ遺憾ナコトデアツテ、之ハ全然誤ツタ説デアアル。之ヲ立證スルノハ別ニ難カシイ事デハナイ。

若シ論者ノ説ノ如ク、獨逸ガ眞ニ此ノ如キ隱謀ヲ企テ、居タモノトスレバ、何ヲ苦ンデ千九百十四年八月ノ如キ不利ナ時機ニ於テ、之ヲ開始シタノデアアルカ。必ズヤ更ニ有利ナ時機ヲ選ンダニ相違ナ

イ。現ニ千九百五年モロツコノ繁争ノ際ニハ、總テノ對外的狀態ガ、何時カ一度ハ必要ト思ハレタル佛國トノ決算勘定ヲ濟マセテ了フノニ、頗ル有利ノ如ク見エタ。當時露國ハ日本トノ戦争ニ敗レテ革命ガ起リ、外國ニ對シテ兵ヲ出スコトガ出來ズ、英國國民モトランスバールニ對スル戦争ヲ濟マセタバカリデ再ビ劍ヲ取ツテ立ツコトヲ好マナカツタノデアルカラ、佛國ハ獨力デ獨逸ト對抗セネバナラナカツタ。其場合ニ、我が邦ガ勝利ヲ得ベキコトハ、毫モ疑ヲ挿ム餘地ガ無カツタデアラウ。

然ルニウイヘルム二世ノ政府ハ、此ノ有利ナ場合ヲ利用スルコトヲ敢テシナカツタ。其後ニ於テモ、此ノ種ノ企ヲ避ケタノハ、一ニ世界ノ平和ノ維持ヲ以テ、其最高ノ使命ト心得タカラデアアル。即チ獨逸ハ過度ノ平和主義ノ爲ニ却ツテ没落ヲ招イタノデアアル。

獨逸政府ハ戦争ノ起ル可能性ガ少ナイト想フタレバコソ、獨逸國民ノ武裝ヲ其必要ノ程度以下、實行可能ノ程度以下ニ止メタノデアアル。

二十世紀ノ初ニ歐洲ニ於ケル多クノ國民間ニ行ハレタ武裝ノ競争ニ於テ、獨逸ハ佛國ニ數歩ヲ讓ツテ居タノデアアル。大戰開始ノ際ニ四千萬ノ人口ノ佛國ガ、六千七百萬ヲ算スル獨逸ト同等ノ常備軍ヲ持ツテ居タト云フ單簡ナ事實ダケデモ、何レガヨク大ナル軍國主義ヲ奉ジ、ヨリ計畫的ナ戦争準備ヲ整ヘテ居タカラ、十分ニ立證シテ居ルデハナイカ。

露國モ亦其兵員ノ増加ニ努メタコトハ、到底獨逸ノ比デハナク、千九百十四年ニハ其常備軍ガ、獨

逸ノ二倍以上ニ達シテ居タ。加之常ニ所謂試驗的動員ノ名ノ下ニ、完全ナ戰備ヲ整ヘル迄ノ時日ヲ著シク短縮シ得ル如キ狀態ニシテアツタ。

他ノ諸國モ亦、佛露ノ兩同盟國ノ例ニ倣ツタ。伊太利及白耳義ハ其國防令(徵兵令)ヲ整ヘ、巴爾幹諸國モ亦、頻リニ軍備ヲ整ヘ、爲ニ千九百十二年ノ土耳其ニ對スル戦争ノ時ニハ、驚クベキ多數ノ軍隊ヲ出スコトガ出來タ。其當時ブルガリアハ全人口ノ百分ノ十五、セルビアハ十三、ギリシヤハ十乃至十一ノ兵ヲ立タセタ。(普魯西ハ千八百十三年ニ國王ガ「國民ハ悉ク軍旗ノ下ニ集マレ」ト令シタ場合ニモ、僅カニ全人口ノ百分ノ六ヲ集メ得タニ過ギヌ)。

英國ハ單ニ其艦隊ヲ増設シテ、優勝ノ地位ヲ保持スルヲ以テ満足セズニ、大陸ノ戦争ニ於テ、英國ノ利益ヲ主張スルニ足ルベキ外征軍ノ増加ト改良トヲ怠ラズ、終ニ之ヲ七師團ヨリ成ル一軍ト爲スニ至ツタ。ロバート卿其他ノ人々ハ、更ニ進デ、徵兵令ノ採用ヲ激シク主張シタ。(之レガ戰時危急ノ際、遂ニ採用サレルコトニナツタノデアアル)。

歐洲以外ノ國デハ、第一ニ日本ガ、經費ト勢力トヲ惜マズニ、頻リニ海陸ノ兵備ヲ整ヘタガ、米國ハ最初ハ有力ナ艦隊ヲ建設スルニ止メタ。

其他尙ホ各國ヲ通ジテ、一種ノ運動ガ行バレ、青少年ニ體育ト軍人的教育ヲ施シテ、以テ將來軍隊ノ用ニ供スルコトヲ努メタ。

獨逸ト雖モ固ヨリ、軍備ノ改善ト擴張トヲ怠ラナカッタガ、其豫想敵國ニ比スレバ、遙ニ劣ツテ居タ。兵役ニ堪フル者ニハ悉ク軍隊教育ヲ施スト云フ原則カラハ、事實上益々遠ザカツテ行ツタ爲メニ開戦前ノ十年間ニハ、其國防力ガ寧ロ減退シ始メタ位デアアル。非常ニ早ク増加シテ行ク人口ト、常備軍ノ兵力トノ比例ハ、益々低下シ、爲メニ開戦ノ際ニハ強健ナル數十萬ノ男子ガ、未ダ軍隊教育ヲ受ケテナイ爲メニ兵員ニ加ハルコトガ出來ナカッタホドデアツタ。若シ此ノ如キ怠慢ナ事ガ無カツタナラバ、獨逸軍ハマルヌ河畔ニ更ニ若干軍團ノ兵ヲ立タセ得テ、確カニ勝利ヲ收メタデアラウ。從ツテ我が邦ノ状態モ亦今日ノ如クハナラナカッタデアラウ。

獨逸ガ同時ニ建設セル有力ナル艦隊ハ、一ツモ其ツクナヒヲ得ルコトガ出來ナカッタ。一番大切ナノハ陸上ノ勢力デアツテ、世界ニ獨逸ノ地位ヲ支持スルモノハ、佛、露兩國ニ對シ陸上勢力ノ優越ヲ占ムルニ在ツタ。之レガ怪シクナツテ來レバ、海軍ハ忽チニシテ其地位ヲ保テナクナルノデアアル。

埃國ハ戰闘員ヲ組織的ニ統一スルニ就テ、獨逸ヨリモ一層不利ノ狀況ニアツタ。内政上ノ不利ト救フベカラザル財政状態トガ、其ノ實行ヲ妨ゲタノデアアル。

先ニ述べタ計畫的陸上防備ニ於テモ、獨逸ハ其隣國ニ及バナカッタ。佛露ノ兩國ガ此ノ方面ニ多大ノ努力ヲ拂ヒ、又白耳義、瑞西及ルーマニアガ經費ヲ惜マズニ、要塞ノ建設ヲ爲シタノニ、獨逸デハ却ツテ要塞ノ數ヲ減ジタノデアアル。而シテ「除外サレタ土地(要塞設備ヲ施サヌ場所)ニ對シテハ、一

般的施設——少ナクトモ戰略的連絡ヲ設ゲル方ガ、野戰軍ヲシテ個々ノ要地(防禦設備ヲ施シタ場所)ヲ占領セシムルヨリモ、却ツテ有利デアアル」トノ意見ガ研究サレ、其實行ニモ着手シタノデアアルガ、夫レガ完成ニ至ラナカッタ。

右ノ如キ次第デ、獨逸軍統帥部ハ、世界大戰ニ際シ、自國ノ要塞ニ多クノ期待ヲ置クコトガ出來ナカッタノデアアル。

上述ノ事實ニ依ツテ見テモ、獨逸ハ決シテ攻勢的戰爭ヲ計畫シ、且ツ準備シタモノデハナク、寧ロ敵ノ侵入ニ對シテ是非共必要デアツタ所ノ處置サヘモ、閑却シタコトガ分ル。

國民皆兵論

第一章 現時ノ國軍

第一節 近代國民的軍隊ノ是認

人類ガ世界大戰ノ如キ恐ルベキ經驗ヲ爲シタ後ニ、「決シテ斯カル事ヲ二度ト繰リ返スマイ」ト熱烈ニ希望スルノハ、無理モ無イコトデアアル。實ハ從來モ大ナル戰禍ヲ被ムツタ後ニハ、何時^イモ、其様ノ考ヲ起シタノデアアル。殊ニ戰敗國ニ於テハ、「戰爭ナドハ決シテ二度トスルモノデナイ」ト云フ聲ガ、巷ニ起リ、又永久平和ノ思想ヲ傳播シ、敵愾心ノ再燃ヲ事毎ニ防壓セントスル協會ヤ政黨ナドガ出來ルモノデアアル。

此ノ努力ガ、縱令遠キ將來ニ於テデモ、果シテ實現サレル望ノアルモノカト云フコトニ就テハ、其昔カインガ怪鷲ヲ退治シタ以來ノ歴史ヲ一瞥スル者ハ、直チニ疑念ヲ懷ク所デアラウ。

兎ニ角何等カノ救濟策ヲ講ジテ、各國民間ノ關係ヲ處理シ、以テ或ル期間以上ニ亘ツテ、葛藤ノ發

生ヲ防止シ得タル政治家ヤ平和主義者ナドハ、今迄ニ一人モ出テ居ナイノデアル。縱令其時ノ全般ノ狀況及勢力ノ割合ニ適應シテ、各國間ノ關係ヲ整理シ得タ所デ、或ル歲月ヲ經レバ、必ズ夫レガ時勢ニ適合シナクナツテ了フ。元來國民ノ人口ハ、決シテ一定不變ノモノデナク、常ニ増減ガアルノデア。其増加スル場合ニハ、地球ノ貨物ニ對スル要求ガ増進シ、而カモ隣接ノ國民ノ方デハ、此ノ努力ヲ承認シナイ。而シテ人口ノ減少スル場合ニハ、何レノ國民ト雖モ、自己ノ權利ガ夫レニ連レテ減退シタコトヲ覺ラヌカラ、自己ノ過剩ノ分ヲ自ラ進デ放抛スルコトヲセマイ。ソコデ、地球上ニハ、總テノ者ニ満足ヲ與ヘルダケノ物ガ存在セズ、從ツテ貨物ニ對スル爭ガ地上ニ永久ニ絶エヌト云フコトニナルノデア。千九百十四年ニハ、我が獨逸國民ガ、往年農業ヲ主トセル約四千萬ノ人口ヲ養ツタ物ダケデハ、最早満足シ得ヌコトハ、明ラカデア。彼等ガ明ルイ所ヲ目指シテ突進シ、自己ノ生命ヲ支ルニ、必要ナ命ノ泉ヘノ進路ヲ、腕ヲ振ツテ開拓セネバナラナカツタノハ、誠ニ止ムヲ得ザル運命、天ノ約束事デアツタ。而シテ此ノ努力ノ爲ニ、自己ノ不利ヲ來スベキ國民ガ、起ツテ其進路ヲ沮ンダノモ、是レ亦運命デア。此ノ様ナ事ハ地球上ノ國民ノ間ニ、繁榮、衰退ノ現ハル、限リハ、今後モ亦絶エズ繰リ返ヘサル、コトデアラウ。

此ノ故ニ一ノ國民ノ文化、學術、藝術及富カガ高マルニ從ツテ、戰爭ハ場合ニ失フ所ハ益々増大スル。ソコデ必然ノ結果トシテ、戰爭ニ應ジ得ルダケノ武備ヲ整ヘテ、自己ノ財貨ヲ防衛セネバナラヌコトニナル。

此ノ點ニ就キ、米國ノ軍備ガ他ノ事項ノ發展ニ伴ハザル特殊ノ例ヲ引イテ、反駁ヲ試ミル者ガ、往往アルガ、夫レハ別問題デア。其理ハ第一ニ米國ノ特殊ノ地理的關係位置ヲ見テモ分ル。若シ加奈太及メキシコノ地位ニ、日本ヤ帝政時代ノ露西亞ナドガ在リ、英國ガ其大海軍ヲ以テ、ベルムダ島ノ所ニ在ツタトシタナラバ、米國モトホノ昔カラ全身ニ武裝ヲシテ居タ筈デア。サモナクバ、早ク既ニ滅亡シタデアラウ。最初カラ協商國ニ好意ヲ寄セテ居タ米國ガ、參戰ニ決シテカラ愈々兵ヲ出ス迄ニ、多クノ年月ヲ要シタノハ、大國ノ面目ヲ損ジタモノト言ハネバナラヌ。

此ノ特例ヲ除ケバ、總テ健全ナル大國民ハ、皆爲シ得ル限り完全ナル武裝ヲ整ヘタノデア。蓋シ此レ等ノ國民ハ、現代ニ於テハ、從來ヨリモ一層多ク、國民自ラ戰爭行爲ニ當ルベキモノデ、唯一人ノ名譽心ノ爲メニ戰爭ヲ起シ、若シクハ一部權力者ノ困憊ニ依ツテ戰爭ヲ止メルト云フヤウナ時代ハ既ニ過ギ去ツタト云フ信念ヲ以テ、之ヲ實行シタノデア。

將來ノ戰爭ハ全然國民ノ仕事トナルデア。而シテ苟モ名譽ヲ重ズル者ハ、縱令個人トシテハ、平素カラ戰爭ニ反對シテ居ル者デアツテモ、己レノ國ガ愈々他國ト輸贏ヲ決セネバナラヌ事ニ立テ至ツタ場合ニハ、自己ノ全力ヲ夫レニ捧グベキ責務ヲ、再ビ感得スルニ至ルデアラウ。

萬國社會主義者ハ頻リニ此ノ自然ノ關係ヲ破壞シ、此ノ國民的感情ヲ人類ノ生活ヨリ除クコトニ努

カシタガ、終ニ徒勞ニ歸シタ。而シテ各國ノ強固ナル主義者モ亦、千九百十四年ノ八月ニハ、萬國無産階級ノ連帶^{ソリダリティ}ノ教訓ヲスツカリ忘レテ了ツテ、銃ヲ肩ニシテ出征シ、他ノ主義ヲ奉ズル者ト全ク同様ニ自己ノ義務ヲ果シタ。世界平和ノ讚美ヲモ包含セル社會主義ノ理想ト雖モ、交戰中ニハ、羅馬法王ノ平和調停ニ向ツテ、毫モ聲援シナカツタ。而シテ戰ニ勝ツタ國家デハ、此ノ理想ガ少シモ働ヲ及ボシテ居ナイガ、民衆ガ戰爭ノ結末ニ對シテ疑惑ヲ起シ始メ、一日、一日ト苦シミガ増シ、且ツ戰爭ノ損害ガ到底忍ビ得ヌ程度ニ達シタ國々デハ——先ヅ露國ニ於テ、ブルガリア、埃匈國ニ於テ、終ニハ獨逸ニ於テ、社會主義ガ漸ク擡頭シテ來テ、國民ノ堅實ナル理想ヲ壓倒スルニ至ツタ。此ノ主義ガ敵ノ宣傳ト提携シテ、國內ノ一致ヲ亂シ、終ニハ出征軍及艦隊ヲモ犯スニ至ツタノハ、實ニ吾ガ國史ニ永久ノ汚點ヲ印スル、悲シムベキ事實デアアル。然シ卑シムベキ反逆ノ行爲ヲ敢テシテモ、尙ホ且ツ他カラハ何等ノ救助ヲ與ヘラレナカツタ。共和國トナツタ獨逸ニ對シテモ、依然帝政ヲ持續シタ場合ニ於テ許容サルベキモノト、全ク同一ノ平和條約ヲ許サレタニ過ギナカツタ。爾來獨逸ノ社會黨ハ、自國ノ國民中ノ他ノ社會ノ者ヨリモ、一層親シカルベキ筈ノ、佛、英、米ノ諸國ニ於ケル彼等ノ仲間ガ彼等ノ爲ニ一肌脫イデ呉レルコトヲ、頼リニ待ツテ居タノデアアルガ、其期待ハ全ク裏切ラレテ了ツタ。蓋シ、十一月革命ヲ生ダ政治上ノ「プログラム」トシテノ世界觀ノ如クニ、迅速ニ跡片ナク幻滅シテ了ツタモノハ、未ダ嘗ツテ無イノデアアル。

今ヤ戰爭ハ其本然ノ法則ニ從ツテ動キ、決シテ、新奇ナ、人類相愛論者ノ極端ナ說ナドニハ、毫モ服シハシナイ。利害ノ爭ハ戰爭ヲ起シ、國民ノ敵愾心ハ、其實施ノ猛烈ノ程度如何ニ關係ナシニ、勃興シテ來ル。故ニ世界大戰ヲ、對戰兩者ノ一方ガ自ラ敗レタコトヲ認ムル以前ニ於テ、外交上ノ手段ニ依ツテ之ヲ中止セシメヨウトシタ企ハ、悉ク皆其第一步ニ於テ屏息シテ了ツタ。今ノ時代ニ於テ、一度干戈ニ訴ヘタ以上ハ假令其目的ガ第二義的ノモノデアツテモ、敵ヲ完全ニ壓服スル迄、之ヲ遂行スベキデアアル。之レガ爲ニハ勢ヒ、此ノ目的ヲ達成スル爲メニ精神及物資ノ兩方面ニ亘ツテ、凡ラユル手段ヲ盡サネバナラヌコトニナル。

獨逸ガ其人道ノ見地カラ、毒瓦斯及爆撃機ヲ始メトシ、潜水艇ヲモ、此等ノ新兵器ノ特性ニ相應スル程度ニ、思フ存分使用スルコトヲ差シ控ヘタノハ、前述ノ戰爭實行上ノ原則ニ反シタモノデアツタ。

此ノ點ニ就テ、クラウゼウイツツハ興味ノアル說ヲ唱ヘテ居ル。今其一節ヲ左ニ紹介シヨウ。

人道ノ上カラ見ルト、動々モスレバ「多クノ死傷者ヲ出サズシテ巧ニ敵ノ武裝ヲ解キ、若シクハ之ヲ壓服スル方法ガ在レバ良イ。又夫レガ戰爭術ノ眞ノ傾向トナツテ欲シイモノデアアル」ト云フ考ガ起リ易イノデアアル。夫レハ如何ニモ尤モナ考ノヤウデハアルガ、此ノ謬見ハ是非共打破セネバナラヌ。何トナレバ戰爭ナルモノハ尤モ危險ナ仕事デアアルカラ、慈悲心カラ起ル誤謬ガ一番害

ヲ爲スノデアアル。物理的威力ノ効力ハ智能ノ協力ニ依ツテ、際限ナク發揮サレルカラ、流血ノ慘ヲ怖レズニ、此ノ威力ヲ斷乎トシテ利用スル者ガ、之ヲ能クセザル敵ニ對シテ、優越ノ地位ヲ占メ、敵ヲシテ我が意志ニ從ハシメルモノデアアル。ソコデ對抗兩者ハ、自己ノ內在的ノ反對勢力(恐怖心ナ
下ヲ指ス)以外ニハ何等ノ制肘ヲ受クルコトナシニ、互ニ其ノ威力ヲ最高度マデ發揚スルニ至ルノデアアル。

此ノ説明ニ依ツテ事理ハ自ラ判明スル。國民ガ其軍備ヲ整ヘル爲メニ多大ノ犠牲ヲ拂フコトハ、固ヨリ明ラカナ事實デアアルガ、夫レハ如何トモ致シ方ノ無イコトデアアル。唯ダ自己ノ獨立ヲ劍ヲ以テ守ルノ用意ヲ一日モ怠ラス國民ニシテ、始メテ安泰ナルヲ得ルノデアアル。

之ニ反シ、若シ大國民ガ、自己ノ主張ヲ武力ヲ以テ支持シ得ヌ場合ニハ、其勢力、威名ハ忽チニシテ失ハレテ了フ。四億ノ民ヲ有スル支那ヤ、自己ノ人口ガ外國ノ征服者ノ千倍ニモ達スル印度ナドニ何ニガ出來ルデアラウ。彼等ガ數ノ上ニ於テ優リ、智慧モヨク、高イ文化的價值ヲモ有スルニ拘ハラズ、國際上ノ棟梁タリ得ズシテ、平凡ナル建築材料タル所以ノモノハ其武的方面ガ數百年來全然衰退ニ歸セルガ爲ニ外ナラス。

最近マデ強大ナリシ我が獨逸モ亦、今ハ夫レト餘リ徑庭ガ無イ有様デアアル。武器ヲ棄テテ以來、小國ノ輕蔑ヲ受ケ、唯々諾々トシテ舊敵國ノ干涉ヲ受ケテ居ル。今迄ノ經驗ニ徴スルト、何時モ此レ等

ノ敵國間ニ起ル繫争ニハ、結局ハ我が獨逸ヲ苦メテ其埋合ヲスルコトニナルノデアアル。

今日列強中デ眞ニ武裝ヲ解イタモノハ、我が獨逸ノミデアアル。ヴェルサイユ條約ニ依ツテ、敵國モ亦獨逸ノ例ニ倣フ義務ガアル筈デアアルガ、彼等ハ少シモ左様ナ考ヲ持ツテ居ラス。彼等相互ノ間ノ猜疑心ガ強イ爲メニ、一人トシテ率先シテ不安心ナ第一歩ヲ踏ミ出ス者ガナイ。故ニ米國ガ千九百二十三年ニ華府ニ開イタ軍備撤廢ノ會議ノ如キモ、最初カラ失敗スベキモノト認メラレテ居タノデアアル。

然シ夫レハ別ニ驚クニハ足ラス。軍備撤廢ノ提議ナドハ、國民ノ人種的親密ノ關係ヲ基ニシ、現代ノ國民生活ノ判斷ヲ誤ツタモノデアアル。今日ノ健全ナル國民ノ中ニ勢力ヲ占メテ居ル國民共通ノ利害ガ、夫々各國民ノ間ニ主張サルルコトハ、恰カモ人ト人トガ相對スル場合ニ其各個人ガ如何ニ善意ヲ以テ臨ムモ、其自然ノ利己心カラ繫争ノ源ヲ作ルノト、全ク同様ノ關係ニ在ルノデアアル。吾々ノ考ヘル所ノ國民的自負心、國民的矜持ナルモノハ、國民的利己心ト引キ離スコトノ出來ヌモノデアツテ、此ノ心ノ存スルガ爲メ、若シ他ニ手段ナキ場合ニハ、干戈ニモ訴ヘルコトニナルノデアアル。其場合ニ平和ノ解決ヲ與フベキ裁判官ヲ何所ニ求ムルコトガ出來ルカ。世界ヲ支配スル國ガ無イ以上ハ、到底不可能ノ事デアアル。然シ世界ヲ支配スル國ハ、戰爭ニ依ツテ生ルベキモノデ、結局ハ戰爭ト密接不離ノ關係ニ立ツヲ如何センデアアル。

夫レデ、佛國ガ、經濟上考慮ヲ要スルニ拘ハラズ、今日ニ於テモ尙ホ千九百十四年以前ト殆ンド同

等ノ兵力ヲ保有スルコト、波蘭土ガ兵員ノ數多キ爲メニ、軍事費ノ多キニ苦シミツツアルコト他ノ諸國モ亦先ノ見エヌ議員ヤ、今尙ホ短見ナル輿論ノ壓迫ニ強イラレテ、僅カニ多少ノ軍備制限ヲ企テテ居ルト云フ事情ナドモ、良ク讀メルノデアル。

何レノ國デモ皆、技術上ノ兵備ヲ益々完成スルコトニ、頻リニ努力シツツアルコトハ、注目ニ値スル。獨逸デハ平和條約ニ依ツテ兵器ノ改善ニ手ヲ着ケルコトヲ禁ジラレテ居ルガ、各國ハ反對ニ、此ノ方面ニ大ニ努力シツツアル。而シテ千九百十四年マデハ列強中最モ非戰主義デアツタ所ノ米國ガ、明ラカニ其先驅ヲ爲シテ居ル。之ハ正シク、我が頑強ナル世界平和主義者ニ是非共一考ヲ煩ハスベキ事實デアアル。

然シナガラ又、軍備ノ爲ニ投ズベキ經費ニモ一定ノ限度ガアツテ、軍事費ノ爲メニ、全般ノ國家經濟ノ萎靡ヲ來サヌ程度ニ之ヲ制限シナケレバ、夫レガ再ビ國ノ軍事的能力ノ方ニモ影響ヲ及ボシテ來ル。國ノ軍事的活動ヲシテ、爲シ得ル限り國民生活ヲ妨害セシメヌヤウニシ、而カモ一方ニ於テハ、後者ノ有ラユル資源ヲ以テ、前者ノ中ニ顯現セシムル如ク、兩者ヲ巧妙完全ニ仕込ムコトガ、現代ノ國家的進展ニ取ツテノ難問題デアアル。徵兵ノ制度、即チ國民全般ニ兵役ノ義務ヲ課スルコトハ、之レガ解決ニ向ツテ、一大進歩ヲ與ヘタモノデアツテ、此ノ制度ヲ採用シテカラハ、軍隊ニ入ル者ハ、一時其職ヲ去ルノミデ、昔日ノ如ク長ク其生業ヲ離ルルコトナク、且ツ健全ナル壯丁ヲ悉ク軍事ノ用ニ

供シ得ルノデアル。

此ノ徵兵制度ニ依ツテ國民ノ拂フ犠牲ガ從來ハ到底不可能ノ事ト思ツタ程度ニマデ高メラレタ。然シ此ノ點ニ就テモ、正シイ觀察ヲ下ス必要ガアル。之ヲ舊時ノ制度ト比較スレバ實ハ其犠牲ハ寧ロ減ジテ居ルノデアル。即チ歐洲大陸ノ強國ノ一ガ、役ニ立ツホドノ軍隊ヲ、昔ノ如キ傭兵ヲ以テ作り上ゲタナラバ、之ヲ要スル經費ハ實ニ莫大ナモノニナルノデアル。

獨逸ガ平和條約ニ依ツテ許サレテ、傭兵デ作ツタ小軍隊ガ、千九百十四年ノ帝政時代ノ七倍ノ常備軍隊ヨリモ、多額ノ經費ヲ要スルノデアル。尙ホ後者ハ動員ノ際無數ノ、既教育兵ガ應召シテ、アノ世界ヲ驚嘆セシメタホド精銳ナ軍隊ノ根幹トナルコトガ出來タ。然カモ夫レハ、實施ノ不完全ナ制限附ノ「國民皆兵」デアツタノデアル。

吾々ハ屢々次ノ如キ訴ヲ聞ク。

科學ヤ技術ガ進歩スル度ニ、忽チ夫レヲ人間殺戮ノ惡ムベキ目的ニ利用シテ了フ。故ニ各國ノ國民ハ、此ガ爲ニ道德的向上ヲ來サズシテ、却ツテ益々粗暴トナリ、唯ダ互ニ殺シ合フコトヲ益々熱心ニ考ヘテ居ルヤウニ見エル。

然シ此ノ說ニ對シテハ、異議ガアル。實ハ技術上ノ進歩ヲ軍事ニ利用スルコトニ依ツテ、戰爭實行

上ノ人道主義ヲ高上スルコトモ、出來ルノデアアル。

此ノ事ハ千九百十四年ノ以前ノ總テノ戰爭ニ確實ニ當テ拊マル。即チ此レ等ノ戰爭ニ就テ見ルト、其會戰ハ兵器ノ進歩ト共ニ死傷ガ減退シテ居ル。個々ノ戰場ニ就テ之ヲ見レバ兵器ノ効力ガ増大スルニ從ツテ益々悲慘ノ光景ヲ呈シテ來ルガ、然シ夫レカラ受ケル印象ト、其精神上ノ効果トガ、益々強クナル。之ガ爲ニ、全體ノ經過ヲ通ズルト却ツテ損害ヲ減ジテ居ル。ツマリ敵ヲ殺ス爲ニ戰フノデアハ無クシテ、敵ヲ屈服サセル爲メニ戰フノデアルカラ、敵ノ意志ガ挫折サヘスレバ、夫レデ目的ヲ達スルノデアアル。而シテ此ノ目的ハ爆裂榴彈ヲ用フル大口徑砲、機關銃及飛行機爆彈ヲ用フル時ハ、昔ノ棍棒ヤ刀デ接戰ヲ行フ場合ヨリモ容易ニ之ヲ達シ得ルノデアアル。

更ニ進ンデ「世界大戰モ亦從來ノ經驗ヲ裏切ラヌモノカ否カ」ト云フ問題ニ就テハ、今日ニ至ルマデ尙ホ確カナ判斷ガ下サレテ無イ。固ヨリ兵器ガ、今迄ハ不可能ト考ヘタヤウナ効力ヲ發揮シタノデアアルガ、一面ニ於テハ個々ノ戰鬪行爲ニ參加シタ人員ト動員シタ總人員トノ比率ハ從來ヨリモ遙カニ少ナイト云フコトヲモ考ヘネバナナラス。元來各種多樣ノ戰用器材ノ整備ト、輸送トニハ、莫大ナル兵員ヲ要スル。此レ等ノ要員ハ稀ニ敵機ノ爆彈ニ見舞ハルル外ハ、殆ンド兵器ノ効力ニ無關係デアアル。尙ホ又陣地戰ノ特性上、部隊ヲ交互ニ戰線ニ立タセタノデアアル。此レ等ノ原因カラ、世界大戰ノ死傷者ト其動員總數トノ比率ハ、多クモ從來ノ戰爭ニ於ケル比率ヲ超エテ居ラス。兎ニ角參加總員ノ約半

數ノ死傷者ヲ出シタルボロヂーノロイシツシエヤ普國領アイラウノ戰ノ如キモノハ、今回ノ大戰中ニ一度モ見ルコトガ出來ナカツタ。

故ニ、總テノ新發明ガ、直チニ軍事ニ應用サレルト云フコトハ、別ニ心配スルニ當ラヌ。少ナクトモ、戰鬪ガ多大ノ損害ヲ生ズル見込ノ大ナルニ從ツテ、之ニ應戰スルノ決心ガ益々鈍ルコトニナルノハ確カデアアル。世界大戰ニ參加シタル國民中ニハ今日此ノ慘劇ノ復行ヲ要求スル者ハ、決シテ無イデアラウカラ、先ヅ次ノ代ニナツテカラ復タ干戈ニ訴ヘテ輸贏ヲ決スルモノト見ルベキデアラウ。尙ホ又將來ニ於テハ、人類ガ到底其前ニ身ヲ曝ラスコトヲ敢テセヌホドノ、恐ルベキ兵器ガ完成サレルコトハ無イ。

其時ニハ勿論大戰爭ハ起ラヌコトニナルデアラウガ、然シ其場合ニモ、強國ノ弱國ニ對スル侵略的遠征ハ、決シテ止ムマイ。

斯クテ、眞ノ世界平和ナルモノハ、地球上ノ總テノ國ガ此ノ如キ恐ルベキ武器ヲ皆平等ニ備ヘ、一ツトシテ敢テ他ヲ犯スコトガ出來スヤウニナツテ始メテ之ヲ實現シ得ル。然シ夫レハ不可能ノコトデアルカラ、結局ハ苟モ平和ヲ望ム國民ハ各々皆爲シ得ル限り武備ヲ整フルノ外ハ無イト云フコトニ歸着シテ了フ。

歐洲ノ中心ニ位スル強大ナル獨逸軍隊ハ克ク三十年ニ亘ツテ世界ノ平和ヲ維持シ得タ。之ヲ除キタ

ルガ爲メ、必ズヤ世界中不安ト戦亂ノ時代ヲ招來スルデアラウ。

第二節 戦争ノ實行法及徴兵令ト一般文化トノ

關係(史的考察)

世界大戰ハ大軍ヲ以テ、遮ニ無ニ推シ通シタモノデアアル。而シテ其際戦争ノ實行法ガ權威アル法規ニ抵觸スル場合ニモ、無難作ニ之ヲ犯シテ斷行シ、參加國中一ツトシテ其例外ヲ見スト云フ有様デアツタ。而カモ尙ホ、互ニ其態度ヲ非難シ合ツタノハ、全ク敵ヲシテ世界ノ同情ヲ失ハシメンガ爲ノ宣傳ニ外ナラヌノデアツタ。

獨逸軍ノ白耳義通過ハ、眞ニ必要止ムヲ得ズシテ之ヲ實行シタモノデ、從ツテ高所カラ見テ、之ヲ認容スベキモノタルコトハ、恰カモ敵對行爲ノ繼續スル限り、食糧封鎖ヲ行フコトヲ認容スルト、少シモ變ツタ所ハ無イ。

獨逸潜水艇ノ慘虐ノ叫ノ如キハ、不條理極マルモノデアアル。元來潜水艇ハ新シイ武器デアツテ、其使用ニ關シテハ當時適用スベキ國際及海戰ノ條規ガ無カツタノデアアル。現ニ其當時商船ノ撃沈ヲ一番ヤカマシク言フタ國民等ガ、今ハ潜水艇ノ建造ニ最モ熱中シテ居ルデハナイカ。彼等ガ將來ノ戦争ニ於テ、最初カラ傍若無人ニ之ヲ使用スベキハ、何人モ疑ハヌ所デアラウ。

飛行機及航空船ヨリノ爆藥投下ハ、國際法規ノ上デ禁止シテアツタノデ、鋼針ヲ投下スルニ止メタガ、間モナク兩軍共、此ノ如キ兒戲ニ類スル手段ヲ棄テテ爆彈ヲ使用スルコトニナリ、夫レガ終ニハ其量及効力ニ於テ、魚形水雷ト伯仲スルニ至ツタ。元來此ノ如キ有効ナル兵器ヲ、自ラ進ンデ放棄スルト云フコトハ敵ノ殲滅ヲ志ス所ノ戦争本來ノ性質ニ到底合致セヌノデアアル。

何人モ豫想セザリシ役目ヲ演ジタル遠距離射撃砲ノ射撃ノ如キモ、國際法ノ要求ニ從ツテ一般住民ニ對シテ遠慮スルコトハ、到底完全ニ出來ナカツタノデアアル。

總テ新ニ出來タ兵器ハ其法則ヲ自ラ作ルノデアアル。將來列強ノ間ニ戦争ガ起ツタ場合ニ、宣戰ト同時ニ深く敵國ノ領土内ニ侵入シテ自ラ保護ノ道ヲ講ズル暇ナキ住民ニ對シ、廣ク慘禍ヲ被ムラスコトヲ防止スルニハ、決シテナマヌルキ禁制手段ナドガ、用ヲ爲スモノデナク、是非共新シイ技術上ノ發明ニ待ツ外ハ無イ。今度ノ戦争ノ慣例ニ依ツテ、爆彈ヲ投下シ得ルコトニナツタ所ノ所謂「軍事的設備」ナルモノモ、之ヲ非戦員ノ爲メノ一般設備ト區別スルコトガ中々困難デアアル。例ヘバ鐵道ハ公共ノ交通ニ使用スルガ、然シ又最モ重要ナル戦用資材デアアル。

交戦法ニ關シテ、今日マデ漸次進展シテ來タ所ノ意見ハ、其當時歐洲ノ政治的及社會的情勢ヲ根柢カラ動搖サセタ所ノ事件、即チ千七百八十年ノ佛國革命ニ其基ヲ發シテ居ル。即チ其意見ハ十八世紀末ノ細事ニ拘泥シテ、ツマラヌ詮議立テスル弊風ヤ、憶斷ヤ術學的惡風ナドヲ全然一掃シテ了ツタ。

其當時マデハ國軍ハ國王ノ爲ニ傭兵ヲ以テ建設サレタモノデアアルガ、佛國革命ニ依ツテ始メテ眞ノ國民的軍隊ガ出來、從來契約ニ依ツテ軍務ニ服シタ(往々外國人ヲモ採用シタ)ノガ、國家ニ對スル各人ノ義務トシテ之ニ服スルコトニナツテ茲ニ國民的精神ガ覺醒サレテ來タ。此新軍ガ第一次共和國ニ如何ナル勢力ヲ賦與シタカハ周知ノ事實デアアル。

戰爭ノ爲ニ戰爭ヲスルト云フ考ヤ、砲聲ガ聞エ出セバ、必要ノ起リ次第、人民ノ權利ヲ停止スルト云フ考ヘハ、忽チ消滅シテ了ツタ。兵役ニ堪ヘル者ヲ悉ク徵集スルコトニ依ツテ戰爭ニ必要ナ兵員ヲ取ルコトガ出來タ。新ニ貿易ヤ商取引ノ制度ヲ設ケタ結果、今迄ノ小額ノ國家ノ財力ヤ國王ノ新財ナドノ代リニ、國家全體ノ「クレヂット」國家全體ノ財政上ノ信用ニ依ツテ戰爭ノ實行ヲ圓滑ニ進メル事ガ出來ルコトニナツタ。

斯クテ戰爭ノ實行ガ一層自由ニナツタ。將帥ハ糧食ヤ、金錢ノ心配ヲスル必要ガ無クナリ(但シ普魯西軍ハ時勢ノ進運ニ適應シテ此ノ改革ヲ行ハナカツタ爲メニ、千八百六年ニモ尙ホ此レ等ノ點ニ就テ惱マセラレテ居タ)糧ヲ其地ニ求ムルコトガ常則トナツタ。夫レガ爲メ、廣ク分散シテ、所在ノ糧食ヲ利用スル爲メニ、兵力ヲ分割スル必要ヲ生ジタガ、其各部分ハ、指揮運動及給養ニ於テ大ニ獨立性ヲ増シテ來タ。ソコデ密ニ集結シテ、一所ニ陣ヲ取り、橫隊戰術ヲ取ル方法ヲ棄テテ、分進合擊ヲ主旨トスル多クノ縱隊ヲ作ル運用法ヲ採用スルニ至ツタ。而シテ傭兵ノ軍隊デハ、——殊ニ戰鬥ノ不

利ナ場合及給養ノ豐富デ無イ時ニハ、逃亡者ナドガ生ジ易イガ、國民的精神ニ滿チタ國民的軍隊デハ最早其心配モ無イカラ、戰鬥間ニモ一兵卒ニ至ルマデ、一層多クノ自由ヲ與ヘ得ルヤウニナリ、之ニ依ツテ始メテ散開隊形ヲ以テスル戰鬥ガ出來ルコトニナツタ。之レガ那翁時代ノ最モ顯著ナル戰術上ノ革新デアツテ、夫レガ最近ニ至ルマデ總テノ戰ニ採用サレテ來タノデアアル。

彼ノ七年戰爭ノ時ノ如ク、分列式的行進法ヲ以テ敵ニ近迫シタル窮屈ナ橫隊ハ、必ズ開闊地ニ於テ戰鬥ヲ行フ必要ガアツタガ、散開戰鬥ヲ行フニ至ツテ、此ノ如キ制限ハ無用ニ歸シタ。兵卒ハ如何ナル地形ニモ踏ミ入り、且ツ其特性ニ應ジテ意ノママニ之ヲ利用シタ。

此ノ如クシテ戰爭ノ爲ニ、國民ノ凡ラユル勢力、戰場ノ總テノ資源ヲ思フ存分ニ利用シ得タノミナラズ、如何ナル所テモ、必要ヲ生ジタ場所デ、直チニ戰鬥ヲ行ヒ得ルコトニナツタ。舊式ノ戰術ハ人間一般ノ生活ト同様ニ、其時代ノ惡影響ヲ受ケテ、無智ト怯懦トカラ生ジタ誤ツタ方法ヲ取ツタノデアアルガ、佛蘭西革命ニ依ツテ茲ニ再ビ其本然ノ狀態ト單純性トヲ復活スルニ至ツタノデアアル。

フリードリツヒ大王ハ舊式ノ、限定サレタ手段ニ依ツテ、達成シ得ベキ最高限度ノ世人ニ知ラセ、新シキ時期ノ初期ニ現ハレタル那翁ハ、革新サレタ自由ナ方式ヲ以テスレバ、戰爭ヲ何所マデ進展サセ得ルモノカト云フコトヲ、吾々ニ教ヘテ吳レタモノト云フベキデアアル。其後ニ出タ人々ノ考モ大體ニ於テハ、那翁ノ原則ヲ基トシテ居ル。那翁ハ軍事界ニ向ツテ「既ニフリードリツヒ大王ガ、戰爭ニ

於テハ、總テ敵軍ノ勢力ヲ打チ破ルコトガ緊要デアアル。而シテ大會戰ニ依ツテ勝負ヲ決スベキモノナルコトヲ、教ヘタノデアアルガ、夫レヲ世人ガ忘レタノデアアルト云ツテ居ル。而シテ世界大戰ニ至ツテ、始メテ更ニ新シイ意見ガ之ニ添加サレルコトニナツタ。

當時ノ徵兵法ニ一步ヲ進メテ、國民全般ニ兵役義務ヲ負ハス制度ヲ取ツタノハ、普魯西デアツタ。從來ノ徵兵ハ必要ニ應ジテ其徵募ノ割合ヲ増減スルノデアアルガ、而カモ其選ニ當ル者ハ常ニ下層ノ國民ノミデアツタ。然ルニ普遍的徵兵法ハ、全國民ニ平等ニ兵役ヲ負擔サセルモノデアツテ、之ニ依ツテ國民ニ組織的ニ軍事訓練ヲ施スコトガ出來ルヤウニナツタ。

那翁時代ニモ無カツタ鐵道ガ造ラレテカラハ、大軍ヲ迅速ニ集メル事ガ出來、從來ノ如キ長時日ニ亘ル戰爭着手時期ガ不用ニナリ、其代リニ、戰爭組織ノ平時準備ト、夫レヘノ轉換、即チ動員トガ、從來ヨリモ非常ニ重要ナ仕事トナツテ來タ。

那翁ノ戰爭デ大ニ重用サレタル縱隊々形ハ、火器ノ効力ノ進歩ニ伴ヒ、戰場カラ影ヲ沒スルニ至ツタガ、然シ其運動性ヲ保續スル爲ニ、如何ナル地形ニモ順應シ得ル如ク、イ、ク、ツニモ區分シタ橫線ヲ採用シタ。而シテ又、新式ノ武器ハ、將卒ノ周密ナル教育ヲ必要トシ、夫レガ從來ニ比シ非常ニ困難ナ仕事トナツテ來タ。

以上ガ千九百十四年ニ於ケル如キ國軍ノ建設ニ到達スルマデノ經程デアツタ。若シ我が邦ガ其時迄

ニ普遍的兵役義務ノ制度、即チ國民皆兵ノ制度ヲ、一層完全ニ實行シテアツタナラバ、國民全體ノ力ヲ發揮スルコトガ出來タデアラウ。當時ハ勿論此ノ理想通りニハナツテ居ナカツタガ、然シ、平時ニ於テ相當ノ程度マデ戰爭ノ爲ノ教育ヲ施シ、武裝ヲモ整備シテアリ、且ツ又短時日ノ間ニ、平時狀態ヨリ戰時狀態ニ圓滑ニ移リ得ル如ク用意シテアツタ。國境ヘノ兵力ノ集中、即チ開進モ亦、周密ナル輸送準備ト軍事の見地ニ基ヅキテ建設セル鐵道ノ至大ノ効果トニ依ツテ、完全ニ之ヲ實行シ得タノデアアル。

世界大戰ニ現ハレタ諸ノ事相ハ、此ノ如キ軍隊ト、且ツ之ヲ戰爭ノ目的ニ遺憾ナク使用スベキ原則トノ存在ガ、其根源ヲ爲シテ居ルノデアアル。
將來ノ戰爭モ亦此ノ如キ狀態ヲ呈スルデアラウ。

此ノ點ガ現在ノ獨逸ニ取ツテ甚だ憂フベキコトデアアル。世界ノ大國民中所要ノ戰爭準備ヲ爲スコトガ出來ズ、且ツ自己ノ神聖ナ國土ヲ守ル爲メ、其內在的勢力ト、文明ノ國民トシテノ價值トニ、多少ナリトモ適應スルダケノ國軍ヲ、建設スルコトヲ禁止サレテ居ルノハ、我が獨逸ダケデアアル。

他ノ歐洲諸國ト雖モ亦、目下自己相應ノ軍備ヲ爲スニ就テ支障ヲ感ジテハ居ルガ、然シ此ノ支障ハ一時的ノモノデアアル。之ニ反シテ獨逸ハ舊敵國ノ意志ニ從ツテ永久ニ無力デアラネバナラヌ。

歐洲諸國ノ文化ハ、元カラ可成統一性ヲ持ツテ居タガ、夫レガ四年間ノ戰爭ト、其後ノ政治的繫争ノ爲メニ、全ク分裂シテ了ツタ。

歐洲ノ參戰諸國ノ中デ、大戰ノ爲メニ其政治的、經濟的及社會的ノ状態ニ、根本的變革ヲ見ナカッタノハ、僅カニ英、佛、伊ノ三國ダケデアアル。固ヨリアレ、ホドノ戰爭デアアルカラ、何レノ國ト雖モ、全然何等ノ影響ヲ留メヌト云フ譯ニハ行カヌ故、此レ等三國ト雖モ當然、相當ノ打撃ヲ受ケタノデアアルガ、千九百十四年ニ突然抛ツタ所ノ筆ヲ平和恢復後、再ビ手ニ執ルコトガ出來タノデアアル。

故ニ、日本及米國、其他世界戰ニ參加シナカッタ軍事上餘リ勢力ノ無イ諸國ヲ除ケバ、以上ノ三ヶ國ダケガ、其人口ニ相應スル兵力ヲ有シ、且ツ現在ノ學術及技術ニ叶ツタ武器及裝備ヲ整ヘテ居ル。目下此ノ方面ニ於テ進歩ヲ及シテ行ケルノハ獨リ此レ等ノ國ノミデアアル。

歐洲ハ勿論世界ニ於テ第一位ノ陸軍ヲ擁スルモノハ佛國デアツテ、恰カモ大戰前ノ獨逸ノ如ク、大ナル同盟軍以外ニハ世界中ニ一ツトシテ恐ルベキ敵ガ無イ。之ニ次グハ英國デ、伊太利ハ其レカラ大分隔リガアル。

然ルニ中歐及東歐ニ於ケル大軍備ハ、皆消滅シテ了ツタ。埃匈國軍隊ハ多數ノ小國ノ軍隊ニ分レ、其一部ハ互ニ敵視シ合ツテ居ル。曾テハ世界第一ノ完全ナル戰爭機關ヲ成形セシ獨逸ノ軍備ハ、極度ニ壓縮サレテ、僅カニ昔ノ面影ヲ殘スニ過ギヌ、而シテ帝政時代ノ露國陸軍モ亦、露國ノ全體ト同様

ニ、全ク崩潰シテ了ツタ。然シナガラ、總テノ徵候カラ判斷シタ所デハ、露國ノ軍備ハ再ビ擡頭シカケテ來タヤウニ思ハレル。兎ニ角露國ハ、現代的要求ニ叶フ所ノ軍備ノ再興ニ都合ノ良イ狀況ニナツテ居ル。惟フニ露國ノ強大ナル新軍ノ復活ヲ見ルノ日モ、決シテ遠キ將來ノコトデナイト信ズル。何レハ其威力ガ外交上ノ凡ラユル重要問題ニ對シテ、物ヲ言フコトニナルデアラウ。

若シ國家ナルモノヲ以テ、之ヲ構成スル各員ニ對シ、平等ノ保護ト利益トヲ與フルト共ニ、又其各員ニ對シテ、平等ノ負擔ヲ課スル所ノ團體ナリトスレバ、夫レガ現代の國家ニ對スル吾々ノ見解ト一致スル。而シテ此ノ原則ヲ、兵役義務ノ問題ニ適用シタモノガ即チ普遍的徵兵制度トナルノデアアル。又文明國ノ徵兵令ノ理想トスル所モ、全ク此所ニ存スルノデアアル。

歷史的經驗ガ此所ニ導イテ來タモノデアツテ夫レガ普遍的徵兵制度ヲ、雄辯ニ援護シテ居ル。然シ我ガ獨逸ノ諸邦ハ、必ズシモ常ニ此ノ制度ヲ採用シタノデハナカッタ。フリードリッヒ大王ハ七年戰爭ヲ行フニ當ツテ、此ノ制度ニモ依ラズ、而カモ頗ル巧妙ナ仕組ノ軍隊ヲ使用シタ。當時普魯西ガ「ハ一ブスブルグ」家ニ對抗シテ行クニハ、強大ナル陸軍ヲ維持スル必要ガアツタガ、斯カル大軍ヲ財政ノ貧シク、人口ノ少ナイ普國ニ於テ作ルトキハ、人手ノ不足カラ國ノ發達ガ止マルノミナラズ、忽チニ窮乏ニ陥ル虞ガアツタ。依テフリードリッヒ一世ハ備兵ト、適切ナル地方兵ノ制度トヲ、併用スル考案ノ下ニ、軍隊ヲ編成シタ。即チ軍ノ基幹ハ備兵ヲ以テ之ニ當テタ。此ノ備兵ハ凡ラユル國々（主

トシテ獨逸ノ諸邦)カラ募ツタモノデ、一生軍務ニ服シ、常ニ一所ニ纏ツテ位置シ、本來ノ常備軍ヲ成形シテ居タ。彼等ハ職業的ノ軍人デアリ、老巧ノ兵デアツテ、克ク地方ノ若イ新兵ノ爲ニ、教育指導ノ任ニ當ル事ガ出來タ、所謂「白イ」擲彈兵ノ如キハ特別ノ尊敬ヲ受ケタ。其ノ中テ軍務ニ堪ヘナクナツタ者ハ、地方ニ移住シテ其地ノ人口ヲ増加シタ。又軍務ニ服スル間ニモ、勤務ノ餘暇ヲ以テ、多クハ手工業ニ從事シタ。

此ノ如クシテ設ケラレタ基幹隊ハ、戰時ニハ「地方兵」ヲ以テ著シク増大サレタ。地方兵ハ平時ハ、唯ダ一年間、後ニハ僅カニ三ヶ月間ダケ初期ノ教育ヲ受ケ、其後ハ毎年教育ノ爲メ四乃至六週間、所屬隊ニ召集サレタ。各聯隊ハ一定ノ徵募區(カント州)ヲ有シ、其徵募ハ法律及命令ニ依ツテ實行サレタ。徵募ニ當ツタ者ハ、種々ノ特典ヲ有シ、其境遇ハ後世人ノ語ルガ如キ不良ノモノデハ決シテナカッタ。其服務年限ハ、二十年ニモ亘ツタガ、毎年少ナクトモ十一ヶ月ハ家ニ居ツテ、仕事ヲシタノデ、其實際ノ勤務期間ハ、全般役年ヲ通ジテ、九ヶ月ヲ越エナカッタ。故ニ彼等ハ一種ノ民兵ニ過ギナイガ、夫レデモ、老巧ノ兵ニ伍シテ、七年戰役ヲ爲シオホセタノデアアル。此ノ方法ニ依ツテ始メテ、克ク小國ノ普魯西ガ、十萬ヲ以テ數フル兵力ヲ保持シ、以テ強大ナル三國ト對抗スル事ガ出來夫レニ依ツテ大王ノ政策ヲモ實行シ得タノデアアル。

一面ニ於テハ、農夫ノ境遇ニ基キ、上ハ國王ノ高遠ナル政策ニマデ關連セル、此レ等ノ事情ノ連鎖

ハ良ク大王ノ時代ニ適合セル巧妙ナル兵役ノ制度ヲ生ミ出スコトニナツタノデアアルガ、其後斯卡ル事情ガ消滅シ、全然違ツタ要求ガ起ツテ來タ後ニ於テモ、尙ホ依然トシテ其形式ヲ改メナカッタコトハ、國家ノ不幸ト云ハネバナラヌ。

エーナ及アウエルステットノ戰場ニ於テハ、フリードリッヒ式ノ我が軍隊ハ、徵募兵ヨリ成ル佛軍ノ爲メニ破ラレタガ、此ノ佛軍モ亦、其後ニ普遍的(一般的)徵兵制度ヲ取レル我が普國軍隊ノ前ニ、屈服スルニ至ツタ。千八百十三年以降普國ニ於テハ兵役ハ國民ノ當然負擔スベキ名譽ノ責務ナリトノ意見ガ行ハルニ至ツタ。國家ニ對スル共通ノ愛國心ハ普國ニ於ケル(又後ニハ獨逸ニ於ケル)國民統一ノ力トナツタ。

獨逸近代ノ光輝アル歴史ハ、普遍的兵役制度ト、密接不離ノ關係ニアル。即チ先ヅ第一ニ那翁ノ羈絆ヲ脱シ、次ニ前後三回ノ戰爭ニ依ツテ、獨逸帝國ヲ建設スルニ至ツタ。而シテ又世界大戰ニ於テ克ク戰禍ヲ免レ、エルザスノ貓額大ノ地ト、東部普魯西ノ一部ヲ除クバ、終ニ敵兵ヲシテ國土ヲ犯ス能ハザラシメシモノモ亦、此ノ制度ノ賜デアアル。

世界大戰ノ際ノ我が敵國ニ在テモ亦、普遍的徵兵ガ立派ニ功ヲ奏シタ。佛國ハ我が邦ト異ナリ、戰前ニ於テ極度マデ之ヲ實行シタ。壯丁ノ數ガ少ナクテ平時兵數ノ減退ヲ來スベキヲ知ルヤ、多少ニテモ兵役ニ堪ヘル者ハ悉ク之ヲ徵集シ且ツ斷乎トシテ三年兵役ヲ復活シタ。而シテ其平時兵數ハ自國ノ

一倍半ノ人口ヲ有スル獨逸ノ夫レト同一ト爲シテアツタ。

此ノ處置ハ良ク佛國ノ狀況ニ適合シテ居タモノデアアル。即チ佛國ハ現ニ實行シタ如ク、戰爭ノ際ニハ、獨逸軍ノ最初ノ侵入ヲ支ヘルニアツタ。ソコデ露國ノ援助ガ有効ニナルマデ、獨軍ニ抵抗スルコトニ有ラユル手段ヲ盡クシタ。然シ夫レニハ對敵行爲ノ開始ト共ニ、兵數ト戰鬥能力トニ於テ、獨軍ニ劣ラザル軍ヲ戰場ニ送り出サナケレバ之ヲ達成シ得ル望ガ無カツタノデアアル。

露國ガ佛國ニ加擔シテ、獨逸ト戰端ヲ開イタ場合ニ、自己ノ役目ヲ果スニ就テ如何ニ長足ノ進歩ヲ爲シタカト云フ事ニ就テハ、先ニモ述ベテ置イタ。其兵役ニ堪フル人員ノ資源ノ無盡藏ナルト、巴里ニテ發行シタ軍備公債トハ、之ガ爲ニ多大ノ助力ヲ與ヘタ。

英國デハ千九百十四年ノ最初ノ戰ニ於テ、其備兵ヲ以テ建設シタ外征軍デハ、到底戰勝ヲ得ル見込ガ無イコトヲ認メタカラ昔カラノ傳統ニ頗ル悖ル所ハアツタガ、思ヒ切ツテ普遍的徵兵義務ヲ採用スルコトニ決心シタ。

米國モ亦其例ニ倣ツタ。未ダ普遍的兵役ヲ採用スルニハ至ラナカツタガ、一度其軍隊ヲ出シテ戰ニ參加シタ以上ハ、若シ戰爭ガ永續シタツタナラバ、終ニハ其兵備ヲ完全ニ組織シテ之ヲ歐洲ノ戰場ニ送ツタニ相違ナイ。

獨逸ノ方デモ東西兩面ニ於テ戰フベキ大危險ガアツタ以上ハ、佛國ノ例ニ倣ツテ、國民ノ力ヲ極度

ニ要求シタ方ガ良カツタデアラウ。若シ兩方ニ對スル最初ノ衝擊ニ際シ、數ニ於テ敵ニ優ルダケノ兵力ヲ出シタナラバ、多大ノ成功ヲ收メ得タノデアアル。其實行ノ可能性ハ、十分ニアツタノニ、夫レヲ敢行セズシテ、經濟上ノ見地カラ常ニ普遍的兵役義務ノ實カラ、遠ザカルコトガ少ナクナカツタノハ恐ラクハ帝國崩壞ノ最大ノ原因デアツタノデアラウ。

一般的兵役義務ノ反對者ハ、米國ノ實例ヲ引用シテ、何レニシテモ、普遍的兵役義務ヲ以テ、平戰兩時ヲ通ズル恒久ノ制度トスルニハ及バヌト主張スル。彼等ハ米國ガ其地理的位置ノ關係デ、平時ニハ極メテ少數ノ備兵隊ヲ以テ間ニ合ハスコトガ出來ルト云フ特殊ノ事情ヲモ、考慮セズシテ、「愈々危急ノ場合ニ至ツテ普遍的兵役義務ヲ採用スレバ足リル」ト考ヘ世界大戰ニ於ケル彼我ノ兩軍ハ終ニ民兵の性質ヲ帶ブルニ至ツタコトナドヲモ指摘スル。

彼我ノ兩軍ガ終ニ民兵の性質ヲ帶ブルニ至ツタコトガ、爭フベカラザル事實デアツタトシテモ、本問題ノ決定ハ大戰ノ末期ノ事情ニ就テ下スベキモノデナク、其初期ノ狀況ニ就テ其可否ヲ判斷スベキデアアル。即チ獨逸ガ若シ千九百十四年ノ八月ニ義勇兵隊ノ建設ニ着手シタナラバ、未ダ夫レガ完了セヌ内ニ、早クモ露佛兩國ノ兵ガ我ガ伯林ノ「ブランデンブルグ」ヲ濶步シタデアラウ。

之ニ依ツテ見レバ、普遍的兵役ニ依リ、且ツ十分ノ服務期間ヲ有スル軍隊ヲ置キ、危急ノ際ニハ、既ニ成規ノ服務年限ヲ經過シテ退營シアル多數ノ兵ヲ以テ之ヲ補足スルモノデナクバ、到底現代文明

國家ニ對シテノ所要ノ保護ヲ與ヘ得ヌコトハ、毫モ疑ヲ容ルベキ餘地ガ無イノデアアル。而シテ從來ノ作戰上ノ要求タル「開戦ノ際ニ成ルベク強大ナル兵力ヲ出ス必要ガ、將來ハ多少之ヲ閉却シテモ良クナル」ト云フヤウナ徵候ハ、少シモ現ハレテ居ラス。「獨逸ガ其徵兵令ヲ法規通リニ斷行シテ居タナラバ、マルヌノ會議ニ際シ、尙ホ六乃至八軍團ノ兵ヲモ決戦ニ參加セシメ得ベキデアツタ」ト云フ事實ハ、吾人ノ永久ニ箴トスベキ點デアアル。之ニ依ツテ、此ノ會戰ニ勝チ得タノミナラズ、恐ラクハ佛國ヲシテ平和ヲ急ガシメ、我が國ヲ一層有利ナ形勢ニ立タシメタデアラウ。

吾々ノ舊敵國ガ、獨逸ニ一般兵役制度ヲ禁止シタ眞意ハ、彼等ノ良ク心得テ居ル所デアツテ、彼等ハ承知ノ上デ、此ノ手段ヲ以テ、獨逸ノ強國タルノ地位、統一及對外的勢力ヲ打破ツタノデアアル。獨逸ハ國防ノ制度ニ於テハ、百餘年ノ昔即チ先ヅ千八百六年ノ普魯西ノ狀態ニ推シ戻サレテ了ツタ然シ防衛スベキ國土ニ比較スレバ、其當時ハ今日ヨリモ遙カニ多クノ兵數ヲ持ツテ居タ。當時チルデツトノ平和條約ニ從ツテ、普國ガ養フコトヲ許サレタル四萬ノ兵ト雖モ、今日ノ獨逸ガ僅カニ十萬ノ兵ヲ許サレ、而カモ、現代ノ軍事的技術ニ適應セル武器其ノ他ノ裝備ヲ禁止サレアルモノニ比スレバ尙ホ遙カニ有効ニ其國境ノ防禦ニ當ルコトガ出來タノデアアル。

第三節 國軍ノ要素

普遍的兵役義務ヲ基トスル徵兵制度ハ、國軍ノ編成要素ガ等質トナル利益ガアル。

即チ之ニ依ツテ、野戰軍ニ若イ兵員ヲ供給スルコトガ出來ル。初期ノ兵役年限ノ者ハ、兵營ニ集マツテ、本職ノ將校ノ下ニ、絶エズ教育ヲ受ケ、從ツテ大體軍事的技能ヲ修得シテ居リ、若イ年次ノ退營兵ヲ召集シテ之ヲ充足スルノデアアル。

此ノ施設ハ非常ニ賢明ナ方法デアアル。

總テ軍事的施設ニ就テハ、人間ノ特性ヲ顧慮スベキデアアル。元來最モ多ク損害ヲ受クル者ハ、野戰軍デアアル。其國家ノ爲メニ、命ヲ捧クベキ公算^{プロバビリチ}ハ、國軍中ノ他ノ部分ニ屬スル者ヨリモ遙カニ多イ。野戰軍ハ戰鬪ヲ實行シ、戰爭ノ悲惨ヲ如實ニ目撃シ、具ニ辛酸ヲ嘗メル。青年ハ壯年ノ者ニ比シテ、體力ノ鍛鍊ニ於テ缺クル所ハアルガ、反對ノ說ナドニ耳ヲ借スコトナク、上述ノ如キ總テノ苦難ヲ敢然トシテ甘受スル點ニ於テハ、遙カニ後者ニ勝ルモノデアアル。

生命ニ執着セズニ死スコトノ出來ルノハ、青年ニ限ル。尙ホ人世ノ煩ハシイ色々ノ羈絆^{キツナ}ナドニ束縛サレズ、未ダ浮世ノ塵ニモ染マズ、自ラ解決シヨウト熱望シテ居ル人生ノ凡ラユル謎ノ不可解ニ失望スルニ至ツテ居ラス。

只管ニ山ヲ昇ルコトヲ知ツテ其先ノ降り阪ノ長短ナドハ考ヘテ見ナイ。其旺盛ナル好奇心ハ彼等ヲシテ好戰的ナラシメル。老熟者ノ如ク、安逸、怡樂ヲ貪ルコトヲ好マズ。吞氣ニ、屈托ナク、勇躍シ

テ戰場ニ出ル。之レガ戰闘ノ如キ慘烈ナ仕事ニ取ツテ大ニ必要ノ事柄デアル。國民ノ強ミ、民族ノ元氣ハ實ニ此ノ青年ノ間ニ存スルノデアアル。

我が邦ノ舊徵兵令ハ、三十歳以下ノ者ヲ野戰軍ニ入レタ。昔ノ學者ハ十八歳ヨリ二十四歳マデヲ以テ最モ軍務ニ適セルモノトシタ。此ノ年齢ニ達スレバ身體モ強健ニナツテ、難苦ニ堪ヘル事が出來、且ツ兵員ハ自由ナ束縛ノ無イ境遇ニアル。元氣ナ青年ニ特有ナル快活ノ精神ハ、戰爭ノ成果ヲ揚ゲルノニ良イ刺戟劑トナルノデアアル。

若イ兵、而カモ一様ニ若イ兵力ヨリ成ル野戰軍ハ、他ノ總テノモノニ比シテ、格段ノ長所ヲ持ツテ居ル。昔ノ普魯西軍隊ノ如ク、十四歳ノ少年兵(候補生)ヤ、二十歳、三十歳ノ地方兵ヤ、六十歳、七十歳ノ白髮ノ外人兵ナドガ、列伍ノ中ニ相混交シテ居ルヤウデハ、到底團結ノ強固ナ軍隊ハ得ラレヌ。之レハ現ニ世界大戰ニ依ツテ十分ニ立證サレタ所デ、人員ノ補充ガ益々困難トナツテ、野戰隊ニモ老兵ヲ混入スルニ從ツテ、益々其戰闘能力ガ減退シタノデアアル。

特殊ノ場合ニ於テ、老兵ガ第一線ニ於テ好結果ヲ收メ得タコトモアルデアラウガ、夫レハ先ヅ自分ノ郷土ガ非常ニ危険ニナツテ來テ、自ラ防衛セザルヲ得ヌコトヲ或程度マデ感得シタ場合ナドデアラウ。

老兵ヲ不利トスル尙ホ一ツノ理由ハ、退營ヨリ開戦ノ際召集サル、マデニ、民間ノ仕事ニ從事シ、

軍人生活ノ習慣ヲ失ツテ了フ點ニアル。多クノ場合ニ於テハ、浮世ノ勞苦ニ、意氣銷沈シテ、到底當年ノ元氣が見ラレナクナリ、往々ニシテ惡風潮ニモ染マツテ居ル。之レハ決シテ國家ノ爲メニ生命ヲ捧ゲシメルノニ、有利ナ傾向デナイ。

「世界大戰ガ豫想外ニ長ク繼續シ、將來ノ戰爭ハ、十七世紀ヤ十八世紀ノ戰爭ノ如ク、長年月ニ亘ルベキヲ想ハシメルノデアアルカラ、復タ老練兵ノ價值ガ殊ニ現ハレテ來タ」ト考ヘル者ガ或ハアルカモ知レヌ。戰爭ノ初期ニ多數ノ老齡ノ植民地兵ヲ有セル英軍ニ就テハ此ノ觀察ガ或ハ當ツテ居ルデアラウ。此ノ老兵ハ、長ク市井ノ生活カラ隔絶シ、其中ニハ生レナガラノ軍人トモ云フベキ老巧ノ兵モアツテ、戰爭ノ經驗ナキ補充兵ノ指導者トシテ、大ニ役ニ立ツタデアラウ。又千九百十四年ノイールノ會戰ニ於テ、獨逸ノ若イ志願兵隊ノ、燃ユルガ如キ愛國心ヲ以テシテモ、尙ホ且ツ之ニ對シテ引ヲ取ツタノモ事實デアラウ。然シ之ハ全ク特例デアツテ其外ニハ、老兵ガ世界大戰ニ於テ、大キナ役割ヲ演シタコトハ一度モナイ。蓋シ兵器ノ偉大ナル効力ト、肉體及精神的ノ努力トニ依ツテ、人員ノ損耗ガ多大ナリシ爲ニ、最初ヨリ最後マデ、全戰役ヲ通ジテ、從軍シテ居タ者ハ少ナイノデアアル。

七年戰爭ニ於ケル冬營ノ如ク、數ヶ月ニ亘ル靜止ニ依ツテ、老兵ノ爲ニ一種ノ若返法トナツタ休養ノ期間ハ、世界大戰中ニハ終ニ一度モ與ヘラレナカッタ。世界大戰ハ何レニシテモ獨逸軍ニ取ツテハ四年餘ニ亘ル不斷ノ、而カモ極度ノ緊張デアツタノデアアル。

此ノ如キ要求ニ對シテハ、青年兵ノ方ガ老兵ヨリモ遙カニ役ニ立ツタ。殊ニ陰濕、寒冷デ、鼠ヤ毒蟲ノ匂ヒ廻ル暗イ掩蔽部内ニ於テ、長時日ノ生活ヨリ受クル精神の壓迫ニ對シテハ、縱令靜穩ナル時期ニ於テモ、到底老兵ノ克ク堪ヘ得ル所デナカツタ。之ガ爲ニ彼等ガ十分用ヲ爲サヌホドニ、遲鈍トナツク場合モ屢々起ツタ。又塹壕病タル勝加答兒ニモ壯兵ノ方ガ遙カニ抵抗力ヲ持ツテ居テ、病氣除隊者モ、三十五歳以上ノ兵ガ常ニ多數ヲ占メタ。此ノ如キ次第アルカラ、戰團部隊ニ屬スル老兵ハ其隊ガ第一線ニ使用サル、ヤ、忽チニシテ寧ロ隊ノ煩累トナルノミデアツタ。我ガ舊徵兵令ガ、老兵ヲ野戰軍ヨリ排除セルハ誠ニ理由ノアル事ト云ハネバナラス。

將校ニ就テモ亦、之ニ似タ經驗ヲ爲シタ。野戰軍ニ於ケル大尉及古參中尉ハ、長イ困難ナ戰線勤務ノ爲ニ、過度ニ其心身ヲ疲ラセテ了ツタ爲メニ、塹壕戰生活ヲ絶エズ元氣ニ實行スル事ガ出來ナクナツタ。同年輩ノ後備將校ニ至ツテハ既ニ長イ間自己ノ職業ニ從事シテ、生活ノ奮闘ニ疲レテ居ルノデ一層夫レガ甚ダシカツタ。之レガ爲メ、總テ此レ等ノ將校ハ、忽チニシテ中隊ノ指揮ヲ青年將校ニ委スルコトニナリ、既ニ千九百十五年ニハ、中隊ノ指揮ハ、概ネ現役若シクハ豫備役ノ、若イ中少尉(兩者ノ軍事的能力ノ差ハ間モナク消滅シタ)ノ手ニ歸シテ了ツタ。

佐官及將官ニ至リテハ、之ト趣ヲ異ニシタ。陣地戰ニ使用サレタ隊ノ大隊長デモ、尙ホ老齡ノ者ニモ堪ヘ得ルダケノ生活法ガ出來タ。故ニ最初ノ數週間ニ於テ、其職ニ堪ヘヌ者ヲ排除シテカラハ、將官及佐官ノ移動ハ甚ダ少ナク、小ハ戰地ニ於ケル適切ナル生活上ノ設備ノ細事ヨリ、大ハ彼我兩軍ノ戰法ニ到ルマデ、各種ノ經驗ヲ積ンデ居テ良ク之ヲ部下ノ參考ニ供シタ。故ニ老齡ノ將官及佐官モ大戰中野戰隊ニ於テモ克ク其地位ヲ保ツヲ得タ。

國家ガ兵卒ノ戰時勤務ニ堪ヘル最高年限ヲ大體何歳マデニ定メタガ良イカト云フコトハ、四圍ノ形勢自國ト競争ノ地位ニアル隣國ノ取ツタ處置、自己ノ感ズル危險ノ程度等ニ、關係ガアル。世界大戰前之ニ關スル文明國ノ法規ニハ、一般ニ、四十五歳ヲ越エナカツタ。

獨逸軍デハ、野戰隊ノ兵ニ一番近イ年次ノ兵ヲ以テ、豫備兵隊ヲ編成シタ。之ヲ師團及軍團ニ組織シテ、野戰隊ノ増援ニ當テタ。故ニ軍ノ國境ヘノ開進ニ際シテハ、後者ト提携シテ出陣シタ。而シテ軍ノ運用ニ際シテハ之ヲシテ比較的容易ナ任務ニ就カセル方針デアツタ。從ツテ其砲兵ノ技術隊及縱列ハ、第一線軍團(常備軍團)ヨリモ少ナカツタ。然シ其後ノ事態ハ此ノ兩者ノ間ノ區別ヲ悉ク撤廢セシムルニ至ツタ。蓋シ常ニ豫備兵隊ヲ微力ナル敵ノ居ルト思ハレル方ニノミ當ラシムルト云フコトハ到底不可能デアツタカラデアアル。通常ハ一ノ團隊ハ一度其第一線ニ到着シタ場所ニ留マリ、其所ニ生ズル戰闘任務ニ服シ以テ他ノ新銳部隊ト交代シテ後方ニ退キ得ルノ時ヲ待ツコトニナルデアラウ。側方ヘノ移動就中敵ノ射程内ニ於ケル移動ノ如キハ、甚ダ困難デ多クノ場合ニ於テ不可能デアツタ。將

帥ニ取ツテ一層大切ナノハ、同等ノ價值ヲ有スル諸單位ヲ持ツコトデアツタ。依ツテ間モナク豫備軍團ニモ人員ノ補充ヤ、武器其他ノ裝備ヲ第一線軍團ト同等ニ施行シタ。此ニ於テ其中ノ二三ノ如キハ頗ル優秀ナ戦闘部隊トナツタ。之レガ爲メ、敵地ニ侵入セル軍ノ後方ニ於ケル諸勤務ニ用ヒ得ルモノハ後備兵ノミトナツタ。其任務ハ主トシテ住民ノ反抗心ヲ未然ニ抑壓シ、且ツ兵站線及重要地點ヲ警戒スルニアツタ。

尙ホ海上ヨリノ攻撃ニ對スル海岸ノ防禦及中立國ニ對スル國境ノ監視モ亦彼等ノ任務ニ屬シタ。然ルニ敵ノ兵力ガ優勢ナリシ爲メ、此ノ滿二十七歳乃至三十九歳ノ兵ヲモ、多クハ旅團編制ニテ、而カモ砲兵ノ數モ少ナク、縱列ヤ野戰炊事具ヲモ有セザル團隊ヲ以テ、戰線ニ使用スルコトニナツタ。既ニ千九百十四年八月ニモ本來ノ北海——東海運河ノ監視ニ當テル筈ノ後備隊ヲモ、不意ニ東部普魯西ニ侵入セル露軍ニ向テ、急ニ之ヲ使用スルニ至ツタ。其ノ際、教育及裝備ノ點ニ於テ幾多缺陷アリシニ拘ハラズ、タンネンベルヒノ會戰ニ參加シテ終ニ能ク武名ヲ揚ゲル事ガ出來タ。西方戰場ニ於テモ後備隊ガ間モナク現役隊及豫備兵隊ト伍シテ、第一線ニ活動シタ。必要上此ノ部隊ハ自然ノ障礙物ヲ前ニ控ヘタ防禦ノ容易ナ地區ニ使用シタ。

此ノ外獨逸ニハ、他ノ列強ト同様、國民兵ヲ用意シテアツタ。之レニハ既ニ兵役ニ堪フルニ至ツタ滿十七歳乃至二十歳ノ者ト尙ホ使用ニ堪フベキ滿三十九歳乃至四十五歳ノ兵ヲ以テ之ニ當テタ。元々

民兵ハ國土防衛ノ爲メニ徵集スベキモノデアツタガ間モナク必要ニ迫ラレテ之ヲモ國外ニ使用シ種々ノ任務ニ服サセタ。即チ兵站部ニ屬シテ占領地ノ安寧秩序ノ維持ニ當テタ。若シ其ノ助力ヲ得ナカツタナラバ、強制給養ノ施設ノ如キハ、到底實行不可能デアツタラウ。彼等ハ輸送妨害ノ企圖ヤ、武装者ノ集合ヲ警戒若シクハ防壓シタ。警戒勤務ト巡邏トヲ併用シ、其間ニ戰鬥ヲモ惹起シ、其勞苦モ多大デアツテ唯ダ大衝突ガ無ク、從ツテ目立ツタ損害ガ無イト云フコトノ外ハ餘リ野戰軍ト變ハラナカツタホドデアル。住民地及軍事上ノ要點例ヘバ鐵道、橋梁、停車場、道路阻絶、集積場、倉庫病院等ヲモ絶エズ之ヲ守備セネバナラナカツタ。交戰軍ノ後方ニ於テ進展スル各種輸送ノ不斷ノ交通ニ對シ、廣範圍ノ護送勤務ニ服シタ。又警察勤務ニモ注意シ軍ノ利益ノ爲メニ行ヒ、若シクハ通商、交通ノ維持ノ爲ニ行フ所ノ、住民ノ種々ノ仕事ヲ監督シタ。要スルニ國民兵ハ、作戰上副次的任務ヲ左程戰鬥能力及策動的能力ヲ必要トセス所ニ用ヒタ。

此ノ外ニ、専門的技能ヲ有スル者ト陣中ノ勤務ニ堪ヘラレナクナツタ者トヲ以テ、所謂「産業隊」(實業隊)、ナルモノヲ組織シ、兵站部ニ屬シテ諸種ノ經濟的業務ニ服シタ。

尙ホ戰地ニ於ケル軍隊ノ外ニ國內ニモ軍隊ヲ必要トスル。

内地ニテモ要塞ニ全然、守備隊ヲ置カヌ譯ニハ行カズ、捕虜收容所、刑務所、鐵道、各種ノ軍事上ノ重要ナル設備等ニモ監視ヲ附スル必要ガアツタ。尙ホ其外ニ陸軍ノ行政部ヲ經營スル仕事モ澤山アツ

テ、其能率ノ如何ガ軍ノ戰闘準備ニ多大ノ關係ヲ持ツテ居タ。既ニ從來ノ戰爭中ニモ軍隊的ニ組織シタ大規模ノ作業ヤ、手工業ガ内地ニ設備サレテ、大ニ効果ヲ擧ゲタノデアアルガ千九百十四年ヨリ十八年ニ亘ル此レ等ノ事業ハ到底何人モ豫想セヌホドノ大規模ノモノデアツタ。戰地ニ於ケル彈藥、被服裝具、各種ノ戰用器材等ノ消費ハ、實ニ莫大ナモノデアツタ。現ニ獨逸軍ガ戰線ニ設置シタ鐵條網ハ裕ニ赤道ニ於テ地球ヲ數回取り巻キ得ルデアラウ。尙ホ兵器其他ノ器材製作ニ就テハ、發明ガ次カラ次々ト續々追ヒカケテ來タ。新シイ工業ガ雨後ノ筈ノ如ク簇出シタ。我が邦ニ缺ケタ窒素劑ヲ、空中ヨリ採取スルハーベル氏ノ發明ニ依ツテ、チューリッゲン地方ニ多クノ大工場ガ設置サレタ如キハ、其一例デアアル。又非常ナ發展ヲ見タル飛行機ヤ彈丸ノ製造ニ就テモ多大ノ設備ヲ爲シタ。國內ノ全工業ハ非常ナ速度ヲ以テ戰爭ノ要求ニ應ジタ。

此レ等ノ仕事ハ之ニ要スル勞働者ガ不十分デアツタナラバ、到底成シ遂ゲル譯ニ行カヌ。ソコデ多クハ女子ヲ以テ出征者ノ後ヲ補充シ、尙ホ平生ナラバ工場ニ使用セヌ少年ヲモ採用シ、又多クノ技術勞働者ノ軍隊服務ヲモ免ゼザルヲ得ナカツタ。

敵ノ食料封鎖ニ對スル獨逸ノ對抗力ハ全ク農業ノ成績ニ依ルノデアアルカラ、之レ亦軍事關係ノ工業ト同様ニ、之ヲ重視セネバナラナカツタ。尙ホ占領地ニ於テモ陸軍官憲ノ監視ノ下ニ、爲シ得ル限り農業ヲ督勵スル必要ガアツタ。

尙ホ輸送機關モ亦最高度ノ能率ヲ發揮スルヲ要シタ。東西兩戰場間ノ大兵團ノ神速ナル輸送ハ、獨逸作戰ノ重大ナル基礎ヲ爲シテ居タ。而シテ又總テノ補充ガ時ヲ違ヘズニ交戰軍隊 到達スルコトガ敵ノ攻撃ヲ有効ニ擊退スルニ就テ、絶對ノ必要條件デアツタ。此ノ兩者ハ能力ニ乏シキ鐵道ノ到底能クシ得ル所デナカツタ。

戰地及内地ニ於ケル衛生勤務ニモ亦、多數ノ補助員ヲ要シタ。

技術ガ作戰上重要ノ度ヲ加ヘ來リ、物資ノ問題ガ益々重視セラレ、之ト同時ニ獨逸ノ對外貿易ノ遮斷ガ愈々嚴重トナルニ及ビ、内地及占領地ニ在ル資源ノ徵發ヲ督勵スルコトガ、益々必要トナツテ來タ。而シテ之レガ爲ニモ亦、多數ノ戰時經濟機關ノ外ニ、特別ノ部隊及陸軍官憲ヲシテ、原料（就中彈藥及被服用ノ）ノ收集、及集積品ノ管理ニ當ラセタ。

然シ此レ等ノ事業ヲ爲スニ當ツテハ、總テ野戰軍カラ割ク兵力ヲ、爲シ得ル限り少ナクスルト云フ大原則ヲ守ツタ。

以上ノ理由ニ基キ、軍事勤務ニ取ル人員ハ、從來ノ法規ノ制限ヲ甚ダシク超越スルコトニナツタ。即チ從來ノ如ク年齢ニ依ツテ配屬隊ノ種類ヲ決定スルコトナク、唯ダ戰地ノ勤務ニ堪ヘルカ若シクハ衛戍地ニノミ使用シ得ルカニ依ツテ之ヲ決定シタ。年齢ノ超過シタ爲ニ國民兵役ニ編入サント者デモ強健ナ者ハ之ニ依ツテ野戰軍ニ組ミ入レタ。一部隊内デモ、勤務ニ多クノ差等ヲ設ケタノデ、此ノ處

置ヲモ實行スルコトガ出來、時ニハ又夫レガ有効デモアツタ(但シ老兵ノ數ガ一定ノ比率ヲ越エヌ場合ニ限ル)戰場デ十分ノ働ヲ爲スダケノ體ガ無クナツタ者デモ炊事勤務、大小行李ノ馭者又ハ馬卒ナドニ用ヒルコトガ出來、之ニ依ツテ完全ニ戰鬪ノ役ニ立ツ者ヲ、戰鬪以外ニ使用スルノ不利ヲ除クコトガ出來タ。

戰爭ガ益々長引キ、且ツ死傷ガ豫想外ニ増加シテ來テ、人員ノ補充ガ益々困難トナツタカラ、國民ノ力ノ全部ヲ、餘ス所ナク、何等カノ方法ヲ以テ、國防ノ爲ニ利用スルコトニ就テ、研究ヲ始メタ。此ノ努力ノ結果トシテ長イ間ノ議會ノ論争ノ後ニ、「軍事補助勤務ノ法律」ガ成立シタ。之ニ依ツテ獨逸國民中滿十七歳ヨリ滿六十歳ニ至ル男子ハ軍隊ニ召集セラレザル限リ、總テ國家ノ補助勤務ニ服スベキ義務ヲ有スルコトニナリ、普通ノ手段デハ、軍事官憲ニ於テ、使用シ得ヌ所ノ多數者ヲモ、其手ニ收ムルニ至ツタ。此ニ於テ軍事官憲ハ必要ニ應シ、此レ等ノ者ヲ、軍隊及官衙ノ事務室及作業場、戰時工場、農業及林業、傷病者ノ看護、其他總テ作戰若シクハ國民給養ノ目的ニ、直接或ハ間接ニ必要ナル各種ノ事務若シクハ作業等ニ使用スルコトガ出來タ。

此ノ法律ハ一面ニ於テハ、此ノ如キ多クノ利益モアツタガ、然シ又他ノ一面ニ於テハ、「此ニ基イテ行ハル、仕事ノ成果ヲ、一種ノ自由ノ労働者ノ成果ト見解シテ、其報酬ヲ與フベキ」規定ノ爲メニ甚大ナル禍ヲ招クコトニナツタ。之レガ爲メ滿十七歳ノ補助勤務ノ義務者ハ、今迄ハ生活上

ニ毫モ役ヲ爲サナカッタ者モ、其以後ハ何所カノ筆生ナドニ使用サレテ開戦以來戰爭ニ參加シテ毎日命ヲ的ニ戰ツテ居ル二倍以上ノ年齢ノ家長ヨリモ、遙カニ多類ノ手當ヲ受ケルト云フ、矛盾ヲ生ズルニ至ツタ。蓋シ補助勤務ノ法律ノ實際ニ際シテ、現ハレタル此ノ種ノ幾多ノ缺陷ハ、戰線ニアル士卒ノ志氣ヲ甚ダシク損シ、遂ニ革命ノ素地ヲ作ルニ至ツタモノデアアル。世人ハ全般ノ福祉ヲ思ハズシテ一局部ノ黨派ノ利益ヲ主トシタル國會ノ愚ヲ笑フテハナラヌ。實ハ此ノ規定ニ依ツテ、内地ノ労働者ヲ自己ノ味方ニ引キ入レ且ツ野戰軍ノ列伍ノ間ニ不滿ノ心ヲ生ゼシメヨウト云フ明瞭ノ目的ヲ以テ故ラニ此ノ規定ヲ強制シタノハ、左黨ノ仕業デアアル。政府ハ此ノ策略ヲ洞察スベキ先見ノ明ガ無カッタノカ、然ラズバ、之ヲ阻止スルダケノ力ニ乏シカッタノデアアル。

之レト同様ノ不結果ヲ見タル尙ホ一ツノ施設ハ開戦ノ際ニ於ケル戰時志願兵ヲ以テ、若干ノ聯隊ヲ編成シタコトデアアル。元來戰時志願兵ハ、規定ノ年齢ニ達セズ若シクハ既ニ之ヲ超過シタ爲ニ、召集ヲ受ケル義務ノ無イ者カ、然ラザレバ、何等カノ缺陷ガアル爲メニ、兵役ヲ免ゼラレタル者デ、而カモ同胞ガ國家ノ安危ニ關スル戰ニ從軍シテ居ル際ニ、獨リ晏如トシテ家ニ留マルニ忍ビズト爲ス人々デアアル。此ノ人々ハ多クハ教育ノアル者、從ツテ又將校ノ補充ニ適スル者デアツタ。此氣慨モアリ、教育モ高イ貴重ナ國民ノ一部ヲ、特殊ノ部隊ニ纏メテ了ツテ戰場ニ送ツタト云フコトハ、非常ナ失策ト云ハネバナラス。其殷鑑ハ、近ク其前年即チ千九百十三年ノブルガリアニ在ツタノデアアル。同國デ

ハ土耳其トノ戰爭ニ際シ、高等ノ學校ノ學生ヲ以テ數大隊ヲ編成シタガ、夫レガチヤタルヂヤノ戰線ニ於テ、殆ンド潰滅ニ歸シテ了ツタ。然ルニモ拘ハラズ、獨逸モ亦戰時志願兵聯隊ヲ右ト同様ノ方法ヲ以テ使用シ、其結果モ亦同様ニ終ツタノデアアル。イーベルン(イーブル)河ノ英軍戰線ノ前デノ獨逸青年中ノ花ノ一部ハ、惜シクモ泥土ニ委シ而カモ其成果ハ其使用法ヲ十分ニ是認セシムルニ足りナカツタ。其後ニ生ジタル將校補充ノ困難モ若シ戰時志願兵ヲ適切ニ使用シサヘシタラバ、アレホドマデニ甚シクハナラナカツタデアラウ。即チ先ヅ根本的ニ之ヲ教育シ、然ル後ニ、全軍ニ配布スベキデアツタ。

要スルニ、獨逸ガ國民ノ力ヲ國家防衛ノ爲ニ整備シタ處置ハ、其間ニ多少ノ過失モ無イデハナイガ克ク卓越セル成果ヲ收メ得タコトハ、十分之ヲ認メネバナラス。此ノ組織的事業ニ從事シタル官衙就中陸軍省ハ克ク至難ノ任務ニ堪ヘ、而シテ國民モ亦、十分ニ其責務ヲ果シタモノデアアル。彼ノ千九百十四年八月ノ敵愾心ハ、決シテ一時的ノ興奮デハナク、内地ニ於テモ數年ニ亘リ、戰線ニ於テハ最後ノ日マデ、生氣ノアルモノデアツタ。獨逸國民ノ捧ゲタル犠牲ハ、實ニ人間ノ能クシ得ル最大限度ノモノト言ヒ得ルデアラウ。世界大戰ニ於テ獨逸國民ノ置カレタルガ如キ形勢ノ下ニ於テ類例ノ無イ優勢ナル敵ト、彼レノ如ク長ク對峙シ得ベキ國ハ決シテ世界中ニ無イト斷定シテモ、毫モ誇張ノ言デハアルマイ。此ノ事實ト、最後ノ無思慮ノ覆滅トノ二ツハ、共ニ吾々獨逸人ノ永久ニ記憶スベキモノ

デアアル。吾々ハ我が國民ガ行ナツタ所ニ對シテ、自ラ誇リヲ感ズルト共ニ、其崩潰ト不幸ナル結果トヨリ推究シテ、茲ニ其國民性ヲ鉗鎚スルノ方途ヲ見出スベキデアアル。即チ我が國民ハ之ニ依ツテ苟モ確乎タル國民的觀念ノ無イヤウナ國民ハ、他ノ國民ノ間ニ伍シテ、自己ノ主張ヲ貫徹スルヲ得ザルコトヲ、深く肝銘セネバナラス。

尙ホ交戰中ノ軍隊ニ是非共必要ナ補充隊ニ就テ、一言シタイ。補充隊ハ動員ノ際、出征部隊カラ分離シテ衛戍地ニ設ケラレ將卒ノ補充員ノ教育ニ任ズルモノデアアル。其働ガ野戰軍ノ戰鬥力維持ニ、至大ノ關係ヲ持ツテ居ル。之ニ當ツタ官衙及軍隊ハ、我が獨逸デハ、大戰中、最後ニ國ノ内部ノ敵ニ依ツテ、破壊サル、マデハ克ク其任務ヲ果シタ。普佛戰ニ於テ野戰軍ニ補充シタル數ハ略ボ將校二千人下士二十二萬デアツタガ、今回ノ大戰中補充隊ヨリ戰地ニ送ツタ兵員ハ約五十倍ニ達シテ居ル。

病氣若シクハ勤務上止ムヲ得ザル理由ノアツタ少數者ノ外ハ、現役將校ノ全部ヲ野戰軍ニ配屬シタコトハ、大ニ考慮ヲ要スル事デアアル。從來ノ前例ト同様ニ、初期ノ戰鬥ニ於テ、火器ノ効力ガ意外ニ發揮セラレ、野戰軍ハ多大ノ損害ヲ被ツタ。數週ヲ出デズシテ、歩兵ノ下級將校ノ大部分ハ戰死若シクハ負傷シ、(現役下士モ同様デアツタ)之レガ爲メ野戰軍ニハ、忽チ下級幹部ノ缺乏ヲ來シ、補充隊デハ教育ノ不足ヲ生ジタ。ソコデ止ムヲ得ズ、未ダ十分其任ニ堪ヘヌ者ヲ以テ其缺ヲ補フコトニナツ

タ。若シ、最初カラ現在ノ人員ニ就テ節約ヲ守リ、現役ノ將校及下士ノ半數ヲ補充隊ニ殘シテ逐次ニ之ヲ補充シタナラバ、此ノ如キ結果ニ陥ラズニ濟ンダデアラウ。而シテ其代リニ豫備役ノ將校ヲ野戰聯隊ニ使用シテ、少シモ差支無カッタノデアアル。此レ等ノ將校ト雖モ、教育ノ完全ナ兵ヲ指揮スルニ大抵差支ナク、然ラザルマデモ間モナク其不足ヲ自ラ恢復シ得タデアラウ。之ニ反シ彼等ヲシテ補充隊ニ於テ實戰ノ用ニ堪ヘ得ル如ク部隊ヲ教育スル爲ニハ、其經驗ト知識トニ缺ケテ居タノデアアル。

一般ニ人員ノ貯蓄^{ダクヘ}ヲ置キ、殊ニ幹部ノ貯蓄ヲ置ク必要ニ應ズル爲メニ、其後ハ所謂「幹部豫備」ナルモノヲ設ケタ。即チ多大ノ損害ヲ生ズベキ見込ノ戰鬪ヲ開始スルニ當ツテハ、先ヅ、聯隊長以下ノ將校及下士ノ一部ヲ、戰線ヨリ抜キテ之ヲ後方ニ送り、危險ヲ避ケシメ、後ニ損害ニ依ツテ生ジタ空位ヲ補充シ以テ會戰ノ曉ニ指揮官ノ無イ部隊ヲ生ズルノ弊ヲ豫防シタ。此ノ豫防手段ト共ニ戰地ニ於テハ平時ノ爲ニ定メタ將校ノ補充ニ關スル規定ヲ固守セズニ、最初カラ適任ノ下士ヲ將校ニ進級サセタ方ガ良カツタデアラウ。

第四節 國軍ノ區分

國軍ヲ適切ニ區分スルハ極メテ大切ナコトアル。

徵兵令ハ社會生活ノ凡ラユル方面ニ關係スル。ソコデ陸軍ノ官衙ト、行政官廳トガ、絶エズ共同シ

テ仕事ヲ爲シテ行カネバナラス。故ニ國軍ノ區分ハ行政區域ト一致スルノガ一番良イノデアアル。

千九百十四年ニハ獨逸國軍ヲ初メトシ、其他ノ列強ノ大部分モ、亦其様ナ仕組ニナツテ居タ。即チ獨逸ニ於テハ、各軍團ニ、夫々所管ノ州ヨリ人馬ヲ供給シタ。其工場、兵器庫、倉庫等ハ皆其州ニ在ツタ。軍團長ト最高行政官廳トハ、既ニ平時ニ於テモ、一定ノ範圍ノ軍事ニ關スル事項ヲ（夫レガ人民ノ生活ニ關係ヲ持ツ場合ニハ）兩者ガ共同シテ、且ツ中央部ノ指揮ヲ待タズニ、處理シ得ベキ職權ヲ與ヘラレテアツタ。

戰時ニハ軍團長ノ出征シタ後ニ、留守軍團長（軍管區司令官）ヲ置イタ。其權限ハ著シク擴張サレ、所管ノ州内ノ人員及資材ヲ出征軍團ニ供給スルニ必要ナル、凡ラユル處置ヲ命令シタ。

此ノ如キ施設ガ好結果ヲ收ムベキコトハ、大戰ノ經驗ニ依ツテ良ク立證サレタ。國軍ノ各部分（軍團）ガ其管理ニ就テハ獨立の權能ヲ有スルコト益々大トナリ、其業務ノ遂行ガ益々簡易トナルニ從ツテ其內的威力ガ愈々増大スルモノデアツテ、絶エズ革新サレテ行ク所ノ國軍ノ全機關ハ即チ之ニ依ツテ其運動性ト能力トヲ増進シ得ルノデアアル。

州ニ相應サセテ、獨立ノ軍隊單位ヲ設ケルノガ非常ニ有利ナコトハ、早クカラ着目サレタ所デアアル。佛國デハ千八百七十年以前マデハ全ク試ミラレナカツタガ、普魯西デハ千七百九十五年ニ初メテ之ヲ提議シ、東普軍團、西普軍團、シユレチア軍團及豫備軍團ノ四軍團建設ヲ提案シタ。

勿論當時ハ此ノ有効ナル施設ノ實行ヲ見ルニ至ラナカッタガ、此ノ考ハ千八百十三年ニナツテ採用サレタ。此ノ方法ハ各管區ノ地方住民ガ、各々獨立ノ軍隊ヲ設ケタ昔ノ世ヲ、或程度マデ復活スルモノデアアル（但シ唯ダ今日重キヲ置クホドニ、各地ノ兵力ヲ均等ニシナカッタ）此種ノ區分法ハ、大ナル國家ニ於テハ全ク當然ノ施設ト云フベキデアアル。然シ此ノ方法ヲ取ルニ就テハ國家ガ健全デアリ、政府ノ威令ガ全國ノ各部ニ良ク行ハル、コトガ必要ナ條件デアアル。若シ其威力ガ確實ニ行ハレヌ所、暴動分離ノ虞アル所デハ、此ノ方法ガ軍事上如何ニ有利デアツテモ、軍ノ各部ヲ獨立の組織シテ、之ヲ其郷土ニ置クコトガ出來ヌ。夫レハ、徒ラ 危急ノ際ニ、自國ノ用ヲ爲サズ、却ツテ己レニ反抗スルノ具トナツテ了フ恐レガアル。露國ガ波蘭土ニ其國民的團體ヲ設クコトヲ許シタ爲メニ、終ニ千八百三十一年ノ慘憺タル戰爭ガ起ツテ了ツタ。其後露國政府ハ大ニ警戒ヲ加ヘ、波蘭土及高加索ニハ以前ノヤウニ其地ノ子弟ヨリ成ル軍隊ヲ置キ、夫レニ工場、諸倉庫、兵器庫等ヲ備ヘ之ガ爲メニ何時デモ本國ニ反抗スル機會ヲ與ヘルヤウナ不適當ナ編制ハ全ク廢シタ、又英國モ亦普遍的兵役義務ヲ採用セル際ニ、愛蘭土人ノミヨリ成ル軍團ヲ設ケル考案ナドヲ立テナカッタ。

國家ノ内部ノ完全ナル統一、安寧及秩序ガ保タレテ始メテ國軍ノ統一、整一及秩序ガ期セラレルノデアアル。國家ノ結合ノ弛緩ガ、國軍ノ統一等ニ如何ニ惡影響ヲ及ボスモノカハ、大戰中ノ埃匈國軍ニ就テ隨所ニ之ヲ認ムルコトガ出來タ。

尙ホ最近ノ經驗ニ徴シ一般行政區劃ニ相應シテ、國軍ヲ區分スルノ原則ハ、益々深ク且ツ廣ク實行スルノ必要ヲ認メル。今日ハ本來ノ軍事動員ノ外ニ、經濟動員、工業動員及財政動員ヲモ行フノデアアル。之ニ依ツテ處置スベキ任務ノ範圍ハ、頗ル廣汎トナリ而シテ其負擔ノ分配ハ自ら適切公平トナルノデアアル。

佛國ガ千九百二十三年ニ出シタ法律ハ、此ノ目的ニ適ナツタモノデアアル。即チ此ノ法律ニ依ツテ全國ノ各軍管區ノ司令官ハ、軍ノ出征後ハ、補充隊及軍事施設ノミナラズ、軍需品工場及其職工ヲモ悉ク統轄シ、水道及電氣ノ設備、貿易、銀行、農業、森林業、鑛山業等ニ對シテモ多大ノ權限ヲ與ヘラレ、尙ホ新聞、雜誌及興業物ナドニ就テモ同様デアアル。敵ノ空中攻撃及間諜豫防ニ對スル處置ノ統轄ニ任ズベキハ勿論ノコトデアアル。司令官ニハ司令部ノ幕僚ノ外ニ此レ等ノ事項ニ精通セル專門家ヤ顧問ヲ隸屬スル。蓋シ其職務ヲ果スニハ廣イ一般的知識ト、大ナル經驗トヲ要スルノデアアルカラ此ノ如キ施設ヲ必要トスルノデアアル。

要スルニ今ヤ佛國軍隊ハ、世界ノ陸軍ノ第一位ヲ占メラ居ルノデアアルカラ、其施設ハ他ノ列強ノ大ニ參考ト爲スベキモノデアアル。

其一 國軍、集團軍及軍

一國ノ全兵力ヲ以テ國軍ヲ組織シ之ヲ分ツテ野戰軍及内地軍(留守軍)トスル。野戰軍ハ軍ニ分チ、再ビ其二箇以上ヲ纏メテ軍集團ト爲ス。

千九百十四年ニハ獨逸ノ西方軍ハ、本來七箇ノ軍ト二箇ノ騎兵軍團ヨリ成リ、東方戰場ニハ國境守備隊ヲ附屬シタル第八軍ト、シレヂア後備軍團トヲ立タセタ。

敵國側ニ於テモ、之ニ似タ區分法ヲ取ツタ。蓋シ通信連絡ノ進歩シタル今日ニ於テモ、大軍ヲ一ツノ司令部デ指揮スルコトハ、到底出來ナイノデアアル。

其後ノ經驗ニ依ツテ、獨逸ノ西方軍デハ、益々多數ノ司令部ガ大本營ニ直屬シタ爲メニ、其區分法ガ不適當ニナツタコトヲ知ツタ。當時和蘭ノ國境ヨリストラーヌブルヒニ亘ル戰線ガ、一度活動ヲ始メ各所ニ於テ激烈ナル戰鬪ノ起ツタ場合ニハ命令ヲ正確ニ徹底セシムル爲メ、各直屬司令部ト確實ニ連絡ヲ保ツコトガ出來ナクナツタ。殊ニ右翼デハ、マルヌ會戰中ノ危機ニ於テ、命令ガ來ズ、大本營デハ、其方面ノ戰況ガ全ク分ラナクツタノデ此ノ缺點ヲ特ニ痛切ニ感ジタ。若シ數個ノ軍集團ヲ編成シテ、大本營直屬ノ司令部ノ數ヲ減ジテアツタナラバ、右ノ如キ缺陷ヲモ救フコトガ出來タデアラウ即チ軍集團ノ司令官ハ、當時ノ大本營ノ如ク、其指揮スベキ正面モ廣クナリ、又各方面カラ殺到スル諸報ヤ任務ニ煩ハサル、コトモ少ナイカラ、麾下ノ各軍ヲ一層確實ニ掌握シ得タデアラウ。ソコデ若シ此ノ時ニ右翼ニ有爲ナ軍集團司令官ガ居ツタナラバ、第二軍ガ自己ノ狀況ヲ過度ニ悲觀シ、且ツ他

ノ諸軍ノ戰況ヲモ知ラズニ、ヴェスル河ノ後方ニ退却シ、以テ全戰役ノ轉機ヲ招來セルガ如キコトモ恐ラク避ケ得タデアラウ。遲播ナガラ此ノ缺陷ヲ矯正シタ。蓋シ戰線ハ益々延長シ、戰場ハ益々擴大スルニ至ツテ、軍集團ノ設置ガ是非共必要トナツテ來タノデアアル。獨軍ガ千九百十八年ニ佛國ニ於テ攻撃ヲ行ツタ際ニハ、四個ノ軍集團ヲ有シ、其下ニ十二ノ軍ト二箇ノ兵團トガ屬シテ居タ。

扱テ一ツノ軍ハ幾何ノ單位ヲ以テ作ルカト云フコトハ、狀況ヤ任務ニ關係シ、尙ホ又司令官其人ノ階級、聲名及性格ナドニ依ツテ左右サル、コトモ稀デハナイ。又其人ノ身分ニ就テモ、大分顧慮サレタガ、然シ之レハ有利デ無イ場合モ往々アツタ。即チ本來ハ僅カニ一軍團位ニ過ギナイ兵力ヲモ、其指揮官タル人ノ身分ガ高イ爲ニ、之ヲ「軍」ト稱シタコトナドモ間々アツタ。

獨逸軍ガ西方戰場ニ向ツテ開進ヲ行ツタ際ニハ、皆四乃至六軍團(又ハ豫備軍團)ヲ以テ、一軍ヲ編成シ、其人員ハ十七萬乃至二十萬ヲ算シタ。此ノ軍ハ(尙ホ騎兵一師團ヲモ附屬シタガ)餘リ甚ダシイ困難モナク統一シテ指揮シ得ベキ一團デアツタ。陣地戰ニ於テハ勿論——殊ニ軍ガ開ケタ土地ニ位置シテ大兵團ノ運動及宿營ニ應ズル所要ノ設備ヲ爲シ得且ツ兵站ノ施設ヲモ十分ニ行ツテアル場合ニハ——之ヨリモ遙カニ多クノ兵力ト爲シテモ、別ニ不利ヲ來スコトハ無カツタ。

兵站ノ設備ハ、從來ニ比シ、大ニ緊要ノ度ヲ増シテ來タ。元來備兵軍隊ノ時代ニハ、兵站ニハ頗ル困難ヲ感ジタモノデアアルガ、其困難ガ除レテ以來ハ、國軍ガ小トナリ、武裝ヤ裝備ガ單純トナツタノ

テ作戰ガ輸送ノ爲ニ制肘サル、程度ガ愈々少ナクナツタノデアツタ。昔ノ名將ノ中デ一番輸送ノ爲メニ煩ハサレナカツタノハ、那翁ノ初期ノ征戰デアラウ。夫レハ千八百十一年ノ外征ノ大規模ノ準備行爲ニモ現ハレテ居ル如ク、良ク組織サレタ後方連絡線ノ賜物デアラウ。

千九百十四年以前ニ於テ、獨逸國軍ガ自ラ實際ノ經驗ヲ爲シ得タ最近ノ戰役、即チ普佛戰爭（千八百一十七年）ノ時ニハ、未ダ輸送ニ甚ダシキ困難ヲ感ジナカツタ。然シ其後國軍ガ増大シ、且ツ全般ノ戰闘機關ガ著シク複雑トナツテ來タノデ、再ビ其事情ガ大ニ變ツテ來タ。軍ノ運用ノ成功ニ、良ク活動シ得ル兵站ヲ必要トスル程度ハ、到底昔日ノ比デハナイカラ、軍ノ指揮ニ當ツテハ、戰闘部隊ト同様ノ注意ト配慮ヲ之ニ拂ハネバナラナクナツタ。

總司令部ハ、野戰軍ノ全兵力ヲ使用スルモノデ集團軍ニ向ツテ命令ヲ下ス。集團軍ハ若干ノ軍ヨリ成リ尙ホ場合ニ依リ、騎兵軍團若シクハ騎兵師團ヲモ配屬サレル。

軍ハ若干ノ軍團（若シクハ之レナキ場合ニハ若干ノ獨立師團）並ニ軍ノ直屬ノ部隊ヲ以テ編成シ尙ホ之ニ特別ノ機關及兵站勤務ノ組織ヲモ隸屬スル。

軍團ハ二若シクハ二以上ノ師團ト軍團ノ直屬部隊トヨリ成ル。然シ軍團ニハ兵站部ヲ附ケテナイ。總司令部ハ多クハ總豫備ヲ取ル。夫レハ若干ノ軍團若シクハ師團ト飛行機、砲兵、工兵及戰車ノ若干部隊ヨリ成ル。

現在ノ獨逸國軍ノ戰闘單位ハ師團及騎兵師團デアアル。此ノ兩者ハ獨立シテ戰闘ヲ遂行シ得ンガ爲ニ總テノ機關ヲ有ツテ居ル。特別ノ場合ニハ其兵力ノ増加ヲ指定スル。其場合ニハ配屬サレタ部隊ハ、師團ノ隸下ニ入ル。

空中ニ於ケル作戰ニハ、更ニ有力ナ飛行機隊ヲ編組スル必要ガアル。

戰闘序列ハ戰地ニ於ケル正規ノ命令關係及行政ノ關係ヲ確定スルモノデアアル。

軍隊區分ハ一時的ノ目的ニ應ズベキ軍隊ノ編合ヲ示スモノデアアル。

其二 軍團、師團

世界大戰ノ初ニハ、獨逸國軍ノ戰術單位ハ四萬餘ノ戰闘員ヲ有スル軍團デアツタ。其兵力ハ當時ノ普通ノ條件ニ適應シタモノデアツタ。

普魯西デハ千七百九十五年ニ、軍團編制ノ試驗ヲ爲シ而カモ夫レヲ採用スルニ至ラナカツタガ、佛國デハ其二、三年前ニ既ニ採用シテ居タ。即チ千七百九十二年第一次同盟戰ガ起ツタ時ニハ、種々ノ獨立ノ小軍ガ作ラレタ。此レ等ハ概ネ、後ノ軍團ト同一ノ兵力ヲ持ツテ居タ。即チ北軍ハ三萬五千人中央軍ハ二萬八千人、ライン軍ハ一萬七千五百人、南軍ハ四萬人デアツタ。其後更ニ、略ボ之ニ似タ兵力ヲ有スル所ノサムブル軍、アルデンネン軍及モーゼル軍ガ出來タ。其統率ハ政府ガ保有シ、之ヲ

統一スル總指揮官ハ無カッタ。其第一執政官(後ノ皇帝)ガ、總指揮官トナルニ及び、各軍ハ一段其位置ヲ下セラレタノデ、此所ニ初メテ軍團ナルモノガ出來タ。蓋シ當時トシテハ大軍デアッタカラ、之ヲ以テ皇帝ガ戰爭ヲ行フノニハ、此ノ如キ軍團ヲ設ケテ置クノガ、便利デアッタノデアアル。然シ千八百五年マデハ、佛國以外デハ、佛國ノ將官及元帥ノ率キル兵團ヲ多クハ尙ホ軍ト稱ヘテ居タ。

爾來諸列強國ノ國軍デハ戰時ニ軍團編制ヲ、一般ニ、用フルコトニナツタ。那翁ハ若シ實行ガ出來且ツ自己ノ考ヘ通りニナツテ居タナラバ、必ズヤ既ニ平時ニ於テモ軍團ヲ設ケタノデアラウ。

然シ實際ニハ唯ダ戰時ニノミ之ヲ設ケ、且ツ其時々ノ目的ニ應シタ編組ヲ取ツタ。普魯西ノ方デハ獨立戰爭ノ經驗ニ基ツキテ、軍團單位ヲ平時編制ニ採用シタ。

軍團ノ戰時編制ヲ定ムルニハ、軍ガ全部開進スルニ當リ、各部隊ヲモ、又各道路ヲモ、悉ク十分ニ利用シ得ルコトヲ標準トスベキデアアル。若シ各行軍路上ニ、其日ノ内ニ先頭ニ向ツテ開進シ得ル兵力以上ノモノガ存在シナケレバ、其關係ハ適切デアツタト云ヘル。世界大戰ノ際ノ裝備ヲ以テスレバ前述ノ限界ハ三萬乃至四萬人デアツタ。而シテ其際ノ行軍法ハ、歩兵及騎兵ハ四列(騎兵ハ道路ガ狭イカ若シクハ十分ニ開放サレテ無イ場合ニハ二列)、砲及車輛ハ一列ヲ以テ行ツタ。又廣イ完全ナ道路デハ、二倍ノ行軍縱隊ヲ用ヒ、歩兵ハ八列砲、及車輛ハ二列ヲ行進シタ。但シ此ノ方法ハ行軍ノ途中デ規定ノ行軍縱隊ノ正面幅ヲ狭バメ、爲ニ得方部隊ガ停止セネバナラナクナツテハ廣正面ノ行軍縱隊ヲ用

フル利益ヲ再ビ失ツテ了フ恐レノ無イ場合デナクバ採用スルコトガ出來ス。

普通ノ行軍縱隊ニ在テハ、軍團ノ後尾ノ部隊ハ、先頭ヨリ普通ノ一日行程分ダケ隔タツテ居タ。故ニ若シ前方デ戰闘ガ始マツタ場合ニハ、此ノ部隊ハ尙ホ大體一日行程ニ相當スル距離ヲ前進セネバ戰場ニ到着シ得ヌコトニナツテ居タ。軍團ノ直後ニ尙ホ他ノ隊ガ續行スル場合ニハ、此ノ隊ガ夜ニ入ル前ニ戰闘ニ参加スル爲ニハ、多大ノ行程ヲ前進スル必要ガアツタ。之レハ道路ガ完全デ、日ガ長ク且ツ最初ノ衝突時刻ガ早イ場合デナケレバ、先ヅ不可能デアツタ。通常道ガ惡クテ日ノ短イ冬ニハ、一般ニ之ヲ實行シ得ナカッタ。然シ何レノ季節デモ、一軍團ノ兵力ヲ使用シ得ルヤウニナツテ居ルベキデアアルカラ、軍團ノ人員ガ四萬以上ヲ越エルコトハ誤リデアルト云フコトニ歸スル。

千九百十四年リユツチツヒ(リエーデ)陥落後、獨逸西方軍ガ前進シタ際ハ、通常敵方ニ通ズル大道路ニハ、皆一軍團宛ヲ急速ニ前進セシメタ。其行軍ニハ普通ノ行軍縱隊ヲ用ヒ、戰闘展開各縱隊相互ノ援助行軍間ノ給養等ハ、總テ平時ニ豫定シタ通りヲ實行シタ。唯其行程ハ豫想外ニ大デアツタ。獨逸ノ歩兵ハ此ノ記念スベキ期間ニ、其行軍力ニ於テ恐嘆スベキ持久性ヲ示シ、一日ノ行程ガ五十軒若シクハ夫レ以上ニ上ルコトハ珍ラシクナカッタ。

此レ等ノ經驗ニ基ツキ、戰後ニ出タ我ガ邦戰闘教令ニ於テモ、依然從來ノ行軍法ヲ守ルコトニナツタ。唯ダ騎兵ハ二列ヲ行軍スルヲ本則トスルコトニナツタ。

然シ飛行機及遠距離砲ノ發達セル今日ニ於テハ、大兵團ノ行軍法ヲ根本的ニ改ムル必要ガアリハセヌカ。之レハ尙ホ問題デアルガ、此所デハ從來ハ如何ナル考慮ヨリシテ我ガ最大戰團單位ノ兵力ガ決定サレタカラ講究シ、夫レニ依ツテ現在ニ對スル歸結ヲ求ムルノガ目的デアルカラ、右ノ問題ノ研究ハ之ヲ後ノ章ニ讓ルコトニスル。

軍團ニ彈藥、糧食、衛生材料等ヲ補給スベキ車輛縱列ニ就テモ一言セネバナラス。

千九百十四年ニハ、所謂小行李ナルモノガ、各部隊ト共ニ前進シタ。之レニハ戰團間ニ手許ニ持ツテ居ルベキ總テノモノヲ包含シテアツタ。其後方約一、二軒ヲ隔テ、大行李ガ續行シタ。夫レニハ宿營間ニ將卒ノ必要トシタ總テノ物品ヲ持ツテ居タ。其次ニ彈藥縱列及輜重ガ二梯團トナツテ續行シタ。此レ等ハ纏マツタ一縱列トナツテ、行進シテ居ルコトハ無ク其一部ハ常ニ倉庫及交附所（往々行軍路ノ側方ニアツタ）ト、軍隊ノ間ヲ、往復シテ居タ。而シテ彈藥縱列及輜重ハ常ニ極メテ大ナル區域ニ延亘シ、爲メニ他ノ部隊ガ運動シ得ヌホドデアツタ。其最後ノ車輛ハ、先ヅ戰團部隊ノ前端ヨリ六十軒餘ノ後方ニ位置スルモノト豫期セネバナラナカツタ。

道路ノ不足ノ爲メニ、二ツノ軍團ヲ一ツノ行軍路上ニ置キ、且ツ先頭ノ軍團ニ其縱列ヲモ續行セシメタ場合ニハ、敵ト戰鬪ヲ交ヘタ場合ニ、後方ノ軍團ノ増援ハ、三日目ノ朝トナル始末デアツタ。然ルニ若シ此ノ期間ヲ短縮セント欲シテ、兩軍團ノ戰鬪部隊ヲ前方ニ並べ、兩者ノ縱列及輜重ヲ其順序

ヲ以テ續行セシムル時ハ、前方ノ軍團ノ先頭部隊ハ、自己ノ縱列ヨリ二日行程ヲ隔テ居ル爲メニ長イ滞在ガ無クバ、其來着ヲ期待シ得ラレヌコトニナツタ。故ニ若シ鐵道若シクハ自動車縱列（夜間ニ空^{アイ}道路ヲ前進セシメル）ヲ以テ緊急ノ必需品ヲ補給シ得ヌ場合ニハ非常ナ困厄ニ陥ツタ。

要スルニ獨逸ノ軍團ノ兵力ハ、良ク本來ノ要求ニ適合シテ居タコトガ分ル。此ノ軍團ハ理論上、如何ニ優勢ナル敵ニテモ、夫レガ一條ノ道路ヲ前進シ來ル場合ニハ、二十四時間ハ之ニ對抗シ得ル譯デアル。但シ前進路ガ二條以上アル場合ニハ、優勢ナル敵ハ其長所ヲ發揮スル爲メニ、之ヲ利用スルカラ、右ノ件ハ實際上ニハ左程意義ヲ爲サヌノデアアル。

獨逸ノ軍團ノ編制及裝備ハ獨立シテ戰鬪ヲ爲シ得ルコトヲ條件トシテ定メタノデアツタ。之レガ爲メ、畜ニ各兵種ノミナラズ、軍隊ノ戰鬪能力ヲ維持スルニ必要ナル——換言スレバ、適切ノ時機ニ彈藥、糧食、被服其他ノ裝具ヲ補給スルニ必要ナル——機關及施設ヲモ備ヘテ居タ。尙ホ軍團長ハ内地ニ用意シアル補充用ノ人馬ヲモ自ラ獨立的ニ使用シタ。

軍團ハ通常左ノ如ク編成シタ。

軍團司令部

軍團長ノ幕僚ト管理部、衛生部、法官部及軍團附獸醫

步兵師團

二個

重榴彈砲大隊

一個

軍團電信大隊

一個

彈藥縱列輜重

若干

(糧食縱列一、車輛縱列一、自動車縱列一、野戰製麵匏縱列二、野戰病院一二、馬廠二)
以上ノ外軍團長ニ直屬スル若干部隊。

(重砲兵中隊、飛行機隊、氣球隊、自動車隊等)

二個ノ師團及直屬ノ部隊ガ軍團ノ戰鬥部隊デアル。其他ノモノハ經驗カラ割り出シテ設ケタノデア
ル。彈藥縱列ハ數日ノ會戰ニ要スル彈藥ヲ持ツテ居リ、糧食縱列及車輛縱列ハ五日間分ノ人馬ノ糧秣
ヲ持ツテ居タ。病院ハ大體一日ノ激烈ナ戰鬥ニ生ズル負傷者ヲ收容シ得ルダケノ設備ヲ備ヘタ。製麵
匏縱列ハ(殊ニ開ケタ地方デハ其土地ノ設備ヲモ利用シ得ルカラ)、所要ノ麵匏ヲ悉ク整ヘルコトガ出
來タ。架橋縱列ハ中等ノ河幅(例ヘバマイセン附近ノライン河)ニ架橋シ得ルダケノ材料ヲ準備シテ
アツタ。又馬廠ニハ各部隊ノ要求ニ應ズル爲メニ、交換馬ヲ用意シ、最初出征 際ニハ二百頭ノ馬ヲ
持ツテ居タ。

以上ノ編制ハ大戰中ニ甚ダシク變更サレタ。夫レハ各部隊ノ武器ガ著シク増加サレタカラデア
ル。即チ歩兵ハ最初極メテ少數ノ機關銃ヲ持ツニ過ギナカッタガ、間モナク大ニ増加スルノ必要ヲ生ジ終

ニハ各大隊ニ重機關銃一中隊宛ノ外尙ホ各步兵中隊ニモ、輕機關銃六挺宛ヲ備フルニ至ツタ。更ニ多
數ノ機關銃狙撃大隊(重機關銃デ三中隊編制)ヲ設ケ夫レヲ總司令部カラ戰線中敵ノ突破ヲ受クル危
險ノ尤モ大ナル師團ニ、時々配屬サレタ。陣地戰ニ於テ迫撃砲ヲ採用シテカラハ、步兵各大隊ニ、輕
迫撃砲ヲ一小隊宛隷屬シ、尙ホ一部ノ步兵隊ニハ、砲兵一中隊ヲ配屬シタ。此ノ中隊ハ何所ニデモ、
歩兵ニ隨伴シ得、且ツ野砲ト同一ノ彈丸ヲ使用スル所ノ、一種ノ山砲ヲ用ヒタ。(但シ其射程ハ野砲ニ
及バス)。又步兵大隊以上ニハ通信隊ヲ設ケ、夫レニハ電話線、火光信號器、輕便無線電信機及地中線
利用ノ電話ヲ有シ、尙ホ師團ニハ鳩通信車一輛ヲモ附シタ。

總テ此レ等ノ改良ニ伴ヒ、車輛モ著シク増加シテ來タノデ、歩兵ノ行軍長徑ガ益々増大シタ。

砲兵ハ歩兵ヨリモ一層多クノ變化ト増加トヲ見タ。師團ガ最初カラ持ツテ居タ砲兵旅團(十二中隊
七十二門)ハ夫レデ十分デ他ノ部隊ノ均衡モ適當ナコトガ分ツタガ、直チニ重砲ノ不足ヲ感ジタカラ
今迄ノ野戰軍ノ有スル重砲ノ規定數量ヲ増加スル必要ヲ生ジタ。又從來、野戰ニハ到底參加シ得ヌモ
ノト思ツテ居タ砲種ヲモ、馬若シクハ機械ノ力デ運搬シ得ルヤウニシタ。四十二浬砲及塙國自動車重
砲ノ如キハ最初カラ使用サレ、白耳義及北部佛蘭西ノ要塞ノ攻圍ニ多大ノ貢獻ヲ爲シタモノデア
ルガ
間モナク其他ノ重砲ヲモ、悉ク使用スルコトニナツタ。鐵道線路ノ上デ使用シタ海軍砲ヤ、千九百十
八年ニ百二十浬ノ距離カラ巴里ヲ砲撃シタ遠距離射擊砲ナドハ其一例デア
ル。又攻略シタ要塞ノ砲ヲ

モ取ツテ、中隊ヲ編成シ、之ヲ野戰軍ニ與ヘタ。尙ホ新式ノ射法ヲ採用シタ結果トシテ、目標ノ精確ナル測定ヲ行フベキ必要ヲ生ジタノデ、所謂火光測定班、音響測定班ナドノ施設ヲモ見ルニ至ツタ。大戦中長足ノ進歩ヲ爲シタノハ、飛行機デアル。飛行機及繫留氣球ヲ以テ野戰航空大隊ヲ編成サレ其器材及消耗品ノ爲ニ、行李ノ増加ト鐵道及道路ノ負擔トヲ増大シタ。之ニ反シテ飛行船ハ陸戰ニ於ケル軍事上ノ用途ガ極メテ狭イノデ之ヲ用ヒスコトニナツタ。空中攻撃ニ對スル防衛ニハ、特別ノ處置ヲ必要トスルコトニナリ、此ノ特殊ノ用途ニ當ツベキ各種口徑ノ多數ノ加農中隊ヲ設ケタ。獨逸モ敵ニ倣フテ、戰役ノ末期ニ、戰車(「タンク」)ヲ造ツタ。此ノ兵器ハ、總テ新式軍隊ノ裝備ニハ必ず設クベキモノデアル。

豫想外ニ大規模ノ防禦工事が實行サレタノデ、工兵モ亦大ニ増加サレタ。殊ニ陣地戰ニ使用スル莫大ナル材料ノ調達、輸送、加工及管理ニ任ズベキ多數ノ機關ヲ設置スルヲ要シタ。

瓦斯戰デ放散法ヲ用ヒルニハ、特ニ之ニ所要ノ練習ヲサセタ部隊ヲ必要トシ、又瓦斯射撃ニハ砲兵ヲ以テ之ニ當ラセタ。瓦斯彈ノ輸送及保管ニハ、特ニ困難ヲ感ジタ。通信隊及自動車隊モ亦大ニ増設サレタ。

右ノ如キ次第デ、單ニ從來ノ部隊ヲ改造シテ行軍ノ際ニハ長徑ヲ増シ、戰鬪ノ際ニハ正面ヲ増加シタノミナラズ、更ニ多數ノ新部隊ヲモ増設シタノデアル。而シテ此レ等ノ新設隊ハ、一部ヲ師團ニ屬

シ一部ヲ軍團長ニ與ヘ、其殘部ハ軍司令官ノ許ニ置キ以テ戰線中特ニ危險ヲ感ズル部分、若シクハ自ラ決戰ヲ求ムル場所ニ増援シ得ルヤウニシタ。而シテ後者ト雖モ亦、其使用期間中ハ、其地ノ全般ノ指揮ニ任ズル司令部ノ指揮ニ屬シタノデアル。之レガ爲メ軍團ハ以前ニ適當トシタ範圍ヨリモ増大スルコトニナツタ。即チ戰鬪間ニハ所屬部隊ノ複雜ナル爲メニ監視ガ困難トナリ、又行軍間ニハ其ノ日ノ中ニ先頭ノ方ニ展開スルコトガ出來難クナツテ來タ。

ソコデ獨逸軍デハ戰爭中ニ、師團ヲ以テ最大ノ戰術單位トスルニ至ツタ。陣地戰ニ於テハ軍團司令部ハ、所謂「群ノ司令部」(數地區ノ司令官)トシテ、戰線中ニ一定地區ヲ長時間ニ亘ツテ擔當シ、之ニ所謂「地區固定部隊」(即チ重砲兵、飛行機及縱列ヲ直屬セシメ、陣地其物ニハ、戰況ニ依ツテ、適宜一乃至二以上ノ師團ヲ着カシムルコトニシタ。蓋シ此ノ種ノ區分法ハ、全ク陣地戰ノ要求ニ適合シタモノデアツテ、師團ハ最前線ニ於テ戰鬪ヲ擔任スルカラ自然(殊ニ歩兵ニ於テ)其疲勞ガ甚ダシキニ反シ軍團司令部ハ、假令終日責任ノ重イ激務ニ忙殺サルトハ云ヘ、約一日行程モ後方ニ居ルノデアアルカラ、直接ニ戰鬪ノ壓迫ヲ受ケテ神經ヲ痛メルコトガ少ナイ。從ツテ戰鬪ノ激シイ戰線ニ於テモ數ヶ月ニ亘ツテ其職務ヲ執リ得タノデアル。ソコデ「群ノ司令部」ハ、良ク經驗ヲ積ミ、地形ニ通ジテ居ルコトヲ以テ、軍隊ヲ利益スルコトガ出來、又一方ニ於テ、戰鬪ノ爲ニ疲憊シタル師團ヲ、何時デモ新銳ナ師團ト交代サセルコトモ出來タノデアル。

戰爭カラ得タ此ノ經驗ハ、一般ニ平時ニモ應用サレ、今ハ各國共、師團ヲ以テ最大ノ戰術單位ト爲シ軍團司令部ヲ純然タル命令ノ地位ニ置キ、之ニ隸屬スベキ師團ノ數ヲ、狀況ニ依ツテ増減スルコトニナツタ。

又昔カラノ二分法ヲモ改ムルニ至ツタ。初メ千九百十四年ニ於ケル獨逸ノ師團ハ、歩兵二旅團（旅團ハ二聯隊、全師團デ十二大隊）騎兵三中隊、砲兵一旅團（旅團ハ二聯隊、十二中隊デ其内三ハ榴彈砲中隊）工兵一中隊（架橋縦列ヲ附ス）及衛生隊一中隊ヨリ成ツテ居タ。

クラウゼウイツツモ既ニ概括的ニ二分法ノ不適當ナルコトヲ述ベテ居ル。即チ、僅カニ二ツニ區分サレテアル軍デハ、軍司令官ハ殆ンド傍觀ノ地位ニ立タネバナラヌト云フテ居ルガ、之レハ二師團ヨリ成ル所ノ軍團ニ就テモ亦當然適用サレルノデアアル。實際軍團長ハ、自己ノ豫備ヲ取ル爲ニ師團ノ建制ヲ割クカ然ラザレバ、多少共傍觀ノ地位ニ立ツノ外ナカツタ。既ニ有力ナ著述家ガ此ノ理由ニ基キテ、軍團ヲ三師團編制ト爲シ、尙ホ師團ヲモ、三聯隊編制（現ニ獨逸ガ戰役ノ後半ニ於テ實行シタ所デアアル。）ト爲スベキヲ屢々主張シタノデアアル。

然シ我が邦デ此ノ意見ヲ採用シ得ナカツタノハ、今迄軍隊ノ區分法ガ、歴史的ニ發達ヲ遂ゲテ來タモノデアリ、又夫レガ國軍ノ平時ノ組織ト密接不離ノ關係ニ在ツテ之ヲ破ラズシテ、區分法ヲ改メルト云フコトガ到底出來ナイ事情ニナツテ居タ爲メデアアル。故ニ舊國防令ノ存シタ間ハ遂ニ二師團編制

ノ軍團ヲ維持セネバナラナカツタノデアアル。然シ獨逸ノ軍令ガ置カレテアンタ所ノ基礎ガ悉ク消滅シテ了ツタノデ、此ノ意見ガ又々主張サレテ來タ。

故ニ今日ニ於テハ師團ヲ指揮ニ都合ノ良イヤウニ、三分法ニ改メルコトゾ出來ルノデアアル。然シ之レガ爲メニ、全般ノ戰鬥力ヲ少シデモ減少スル事ニナツテハナラヌ。新シイ主義ニ基イテ建設シタ師團ハ大體次ノヤウニナルデアラウ。

師團長

讀者ノ知ラルル如キ組織ノ幕僚ヲ附ス。

步兵隊長 左記ノモノヲ其指揮ニ屬ス。

步兵聯隊（三大隊編制） 三

迫撃砲中隊 一

通信中隊 一

步兵砲中隊 一

步兵大隊ハ歩兵三中隊及機關銃一中隊（重機關銃十二挺）ヨリ成ル。

步兵中隊ニハ更ニ輕機關銃十二ヲ備フ。

搔索（偵察）大隊

騎兵中隊

若干。

自轉車中隊

一 (多數ノ輕機關銃ヲ與フ)

裝甲自動車隊

一

騎兵通信隊

一

砲兵隊長 左記ノモノヲ其指揮ニ屬ス。

砲兵聯隊

二 (聯隊ハ三大隊
大隊ハ三中隊)

觀測隊

一

飛行機射擊砲隊

一 (各種各口径ノ
自動車砲ヲ與フ)

一ツノ聯隊ハ野砲(内三分ノ一ハ榴彈砲)デ、馬ヲ繫駕ス。

他ノ聯隊ハ總テ自動車砲トシ、内一大隊ハ野戰輕榴彈砲、他ノ二大隊ハ重砲六中隊(十五榴

榴彈砲、二十一榴白砲、十榴半及十三榴(長)加農)ヨリ成ル。

師團ノ全砲兵ハ輕砲四十八門、重砲二十門、飛行機射擊砲十六門ヨリ成ル。

工兵大隊

一

工兵中隊

三

工兵縱列(土工具ト手投彈地雷等ノ近職用兵器トナ有ス)

一

架橋縱列

一

照明燈小隊

一

師團通信大隊

一

通信中隊

三

器材縱列

一

衛生隊

一

衛生中隊

一

衛生部自動車小隊

一

野戰病院

二

自動車隊

一

戰車

十五乃至二〇 (固有ノ作業車及
燃料車ヲ有ス)

師團ノ用ニ供スベキ自動車縱列若干モ此ノ隊ニ合ス。

自動二輪車隊 一モ同様ノコト。

梯團本部 左記ノモノヲ之ニ屬ス。

車輛縱列

六乃至一〇

屠殺班

馬廠

病馬廠

車輛縱列ニハ各隊ノ携行彈藥ヲモ合スレバ、二日分ダケノ彈藥ヲ供給シ得ル。

車輛縱列ハ右ノ外ニ尙ホ一日分ノ糧食ヲモ携行スルコトガ出來ル。

構築大隊 構築用縱列ヲ有シ、道路宿營及陣地ノ構築ニ任ズル。

此ノ如キ編制ノ師團ハ、人員二萬餘、馬八〇〇〇餘ニ達シ其戰鬥部隊（搜索大隊、自動車隊及飛行機隊ヲ除キ）ハ、戰鬥行李（小行李）ヲ付シ且ツ普通ノ警戒部隊間ノ距離ヲモ算入シテ、約二十軒ニ達シ、尙ホ輸送ニ任ズル諸縱列ヲモ通算スレバ、從來ノ軍團ト略ボ同様ノ長徑ニ相等スルデアラウ。兵力ガ少ナイノニ、長徑ガ舊軍團ト同様ニナルノハ、兵器其他ノ器材ノ増加ニ因ルノデアアル。

師團ノ成立ニモ亦其歴史的ノ由來ガアル。初メブラウンシュワイヒノフェルデナンド大公ハ七年戰役ノ際ニ、英兵ブラウンシュワイヒ兵、ヘッセン兵及ハンノーベル兵ヨリ成ル小軍ニ、師團ヲ設ケタ。蓋シ太公ハ總テ三兵種ヨリ成ル此レ等ノ相異ナル徵募兵ヲ、夫々一隊ニ纏メテ置キ以テ引キ續キ同一ノ指揮官ノ下ニ屬サセルノガ適當ト考ヘタ。之ニ依ツテ部隊相互ノ間ノ信賴、各指揮官ノ間ノ理解、大ナル運動性及獨立性が得ラレタ。

之ト戰ツタ佛軍ハ、共和政府ノ軍ニモ此ノ編制ヲ採用シタ。其軍ハ最初軍團ニ編成スルホドノ兵力ガナカッタノデ、師團ト爲シタノデアアル。此ノ師團ハ通常歩兵九大隊、騎兵六乃至八中隊砲兵六中隊ヨリ成リ、獨立ノ指揮官、固有ノ參謀、副官、監督部（經理部）、技術部等ヲ有シ、恰カモ小サナ一個ノ軍ノ如キ組織ヲ持ツテ居タ。其人員ハ一萬二千ヲ算シタガ、又稀ニハ一萬五千乃至一萬八千ニモ達シタ。千八百五年及千八百六年ニハ（勿論我邦ニ取ツテ有利ナ時デハ無カッタガ）普魯西軍モ之ニ似タ施設ヲ爲シタ。斯クシテ師團ガ今日マデ繼續サレテ來タノデアアル。但シ我が獨立戰爭ノ時ダケハ、普魯西ノ軍團ハ旅團ヨリ成ツテ居タ。

其三 騎兵師團

新式兵器ノ効力及中歐ニ於ケル土地ノ發展ハ、大騎兵團ノ使用ヲ甚ダ不適當ナラシメタニモ拘ハラズ、世界大戰ニ參加セル各國ノ軍ハ、何レモ皆騎兵師團ヲ出シ獨逸ノ如キハ、二人ノ騎兵司令官ノ下ニ、騎兵軍團ヲモ編成シタ。

然シ此レ等騎兵ノ大單位ハ、其期待ニ沿フホドノ役割ヲ演ジナカッタ。彼我兩軍ノ前方ニ於テ起ル騎兵主力ノ衝突ニ依リ、勝者ハ敵軍ノ運動ノ前面ヲ掩フ幕ヲ切り落スヲ得、之ニ反シ敗者ハ敵ノ爲ニ其幕ヲ益々密ニサルル故、此ノ衝突ノ結果ハ軍ノ爾後ノ策動ニ多大ノ影響ガアルト、一般ニ豫想シ

多ノデアアルガ、終ニ斯カル大衝突ヲ見ルコトガ出來ズニ了ツタ。

此ノ如キ結果ヲ生ジタノハ、佛軍ハ最初ヨリ空中ニ於テ優勢ヲ占メテ居タノデ、斯カル強行手段ニ依ツテ敵ノ動靜ヲ窺フノ必要ヲ感ジナカツタノデアアル。現ニ其騎兵師團ハ、獨逸ノ騎兵トノ衝突ヲ避ケタニモ拘ラズ、白耳義及北部佛蘭西ヲ通過スル獨軍ノ運動ニ就テハ、我が軍ガ彼ニ就テ知ルヨリモ一層良ク承知シテ居タヤウデアアル。我が軍ニ於テモ、八月ノ末及九月ノ初ニ佛軍ガロートリンゲンノ正面カラ有力ナル部隊ヲ兩方ニ撤退サセルコト、及夫レニ依ツテ獨軍右翼ヲ包圍セントスルコトヲ獨逸ノ軍司令部ニ報告シタノハ、悉ク皆多クモ無イ我が飛行機カラ提供サレタモノデアアル。

即チ騎兵本來ノ戰鬥行為即チ襲撃ヲ行フノ機會ハ、終ニ大騎兵團ニ與ヘラレナカツタノデアアル。反對ニ、住民ノ多イ土地ヲ通ズル鋪裝道上ヲ進ム騎兵ノ長大ナ行軍縱隊ガ、白耳義ノ義勇兵ノ爲ニ、地隙地下室ノ窓、樹叢等ヨリ射撃ヲ受ケタ時ニハ、往々非常ニ困難ナ状態ニ陥ツタノデアアル。

然シ我が獨逸ノ騎兵ハ、最大ノ危機ニ際シテ克ク偉勳ヲ奏スルコトガ出來タ。即チマルスノ會戰中我が騎兵團ハ第一第二兩軍ノ間ニ生ゼル空隙ヲ、英軍ニ對シテ長イ間掩蔽シ次デ、敵ノ追迫ヲ有効ニ阻止スルコトガ出來タ。彼我ノ兩軍ガ相競フテ海岸ノ方ヘ翼ヲ延長シタ際即チ獨軍ノ退却中ニ其右翼ヲ包圍セントシテ、聯合軍ガ必死ノ努力ヲ爲セル際ニハ、我が騎兵ハ常ニ克ク時機ヲ逸セズ敵ニ先手ヲ打チ且ツ其陣地ヲ他隊ノ來着マデ勇敢ニ維持シ得タノデアアル。故ニ敵軍ヲシテ終ニ其企圖ヲ遂行シ

得シメナカツタノハ、主トシテ獨軍騎兵ノ功績ト云ハネバナラス。

而カモ我が騎兵ガ此ノ偉勳ヲ奏シタノハ、馬上デ行ツタノデハナク、徒歩デ行ツタノデアアル。此所ニ現代ノ騎兵ノ教育及裝備ニ就テ完成スベキ確實ナ指針ガ存スルノデアアル。フリードリッヒガ屢々會戰ノ勝敗ヲ決セル如キ、華々シキ襲撃ヲ行フベキ時代ハ、既ニ已ニ過ギ去ツタノデアアル。甚ダシク動搖セル歩兵ト雖モ、二、三ノ機關銃ヲ使用シ得ル限リハ、騎兵ノ襲撃ノ如キハ毫モ恐レルコトハナイノデアアル。

此ニ於テ騎兵軍團ト騎兵師團ノ多數トハ、忽チ解散サレ其馬ハ縱列ニ與ヘ、下士卒ハ歩兵トシテノ教育ヲ施シテ之ヲ使用シ、其青年將校ノ一部ハ將校ノ不足ヲ生ゼル歩兵隊ニ早ク移サレテ了ツタ。其騎兵聯隊トシテ殘存セルモノト雖モ、西方戰場デハ主トシテ戰線後方ノ警邏隊トシテ使用サレタ。之ニ反シテ東方戰場ニ於テハ、地域ガ廣大デ、守兵ガ稀薄デアツタカラ騎兵ノ活動ノ餘地ガ前者ヨリモ多カッタ。ルーマニアノ征戰ニ於テハ、短期間騎兵ノ活動ガ行ハレタ。

世界大戰ノ經驗ニ依ツテ本體ノ戰鬥ノ伴侶トシテノ馬ノ價値ノ判斷ガ大體付イテ了ツタ。今日ノ火器ノ効力ハ、戰場ニ於ケル總テノ大ナル目標ヲ排除スル。然ラザレバ、少ナクトモ、戰車ノ如ク之ニ裝甲スルコトヲ要求スル。殊ニ飛行機ハ馬ノ集團隊ニ對シテ（夫レガ騎兵隊タルト將タ又タ繫駕ノ縱列タルトヲ問ハズ）非常ニ危険デアツテ、馬ハ人ノ如ク掩蔽物ヲ求メ得ヌカラ、一、二ノ輕量ノ投下

爆彈ニ依ツテ、甚大ナル災厄ヲ惹キ起ス。而カモ諸強國ノ軍ニハ、戦後ニモ依然トシテ騎兵師團ヲ置キ且ツ之ヲ現下ノ方針ニ合スル如ク編成シタ。

此ノ種ノ騎兵師團ハ概ネ次ノ如キ組織トナルデアラウ。

師團長 (幕僚ヲ附ス)

騎兵旅團

三

旅團ハ聯隊二ヨリ成リ、聯隊ハ騎兵中隊四、機關銃中隊一、騎砲兵小隊(二門)一及通信小隊ヨリ成ル。

裝甲自動車隊

一

裝甲自動車四乃至六ト、燃料車及作業自動車若干トヨリ成ル。

機關銃中隊

(十二挺宛)若干

自轉車大隊

一

多數ノ機關銃及迫撃砲ヲ自動車ニテ運搬ス。

歩兵大隊 (自動車ニ載ス)

一

砲兵聯隊

一

聯隊ハ二大隊ヨリ成リ、大隊ハ三中隊ヨリ成ル。但シ其内ニ野戰輕榴砲彈若干ト平射重砲ノ中

隊一トヲ含ム。

騎兵用工兵大隊

一

偵察隊飛行

一

衛生隊

一

車輛縱列及自動車縱列

若干

野戰製麵粉車、馬廠及病馬廠

此ノ如キ編制ノ騎兵師團ハ、人員一萬二千乃至一萬五千、馬一萬乃至一萬二千トナリ、其行軍長徑ハ、糧食行李及荷物行李ヲ除キ、二十二軒ニ達スル、此ノ師團ハ有効ナ遠距離搜索ニ必要ナ補助機關ハ先ヅ不足ナク備ヘテ居リ、敵ノ騎兵團ヲモ(稀デハアルガ)戰場カラ驅逐スルニ足ルデアラウ。即チ若シ敵ガ、我が乘馬ノ搜索部隊ノ前進ヲ阻止スル場合ニハ、師團ノ砲兵ノ火力ト歩兵ノ攻撃トヲ以テ其抵抗ヲ擊破シテ、進路ヲ開拓スルコトモ出來ルデアラウシ、又飛行機ハ敵ノ地上ニ於ケル處置ニ煩ハサレズニ、遠ク其戰線ノ後方ヲ搜索スルコトガ出來ルデアラウ。而シテ騎兵師團ノ知り得タ所ヲ報告スルニハ、十分ノ設備ヲ有スル騎兵通信隊ヲ使用スルコトガ出來、又飛行機射撃砲ヲ十分ニ持ツテ居ルカラ、敵ノ空中攻撃ヲモ有効ニ制止スルコトガ出來ルデアラウ。

加之此ノ如キ騎兵師團ハ、多大ノ射撃力ヲ有スル故、戰鬪部隊トシテモ、侮ルベカラザル勢力ヲ持

ツテ居ル。統帥部ハ歩兵師團ノ全戦闘力ヲ必要トハセズガ、相當ノ兵ヲ速ニ使用シタイト、云フヤウナ場所ニ好シク之ヲ向ケルデアラウ。或程度マデ迂回運動ヲ行ツテ、敵ノ側面及背面ヲ攻撃スル場合吾ト同じク敵モ亦占領セント希望スル地點デ、而カモ歩兵デハ、敵ニ先ンジテ到着シ得ヌ所ニ使用スル場合、敵ノ後方連絡線ニ對スル策動ナドハ、總テ皆、現代的編成ヲ有スル騎兵師團ノ典型的任務デアラウ。

其四 軍團ノ直屬部隊及軍ノ直屬部隊

元ノ軍團編制デハ、其重砲大隊ハ軍團長ガ自己ノ意志ヲ戦闘經過ニ及ボスベキ有効ナ手段デアツタ。從來ハ尙ホ軍ニモ、砲兵豫備ヲ必要ト考ヘタ。然シ之ヲ使用スルコトハ、稀デアツテ、現ニ普佛戰爭ノ例ニ就テ見テモ、全戰役ヲ通ジ、僅カニ數日位ノモノデアツテ、斯カル大キナ、厄介ナ荷物ヲ軍ノ後カラ引摺ツテ行クホドノ效能ハ無イト云フコトガ分ツタ。尙ホ其上ニ、將帥ハ自己ノ考デ、數軍團ノ軍團砲兵カラ一大砲兵團ヲ作ルコトモアツタ。此ノ種ノ大砲兵ガ最後ノ一撃ヲ加フル爲メノ後援トシテ戰線ノ後方ニ位置シタトシテモ、其軍團砲ヲ此ノ如キ方法ヲ以テ使用シ得ルノニハ、砲ノ爲メニ尙ホ十分ナ彈藥ガアル場合ニ限ツタノデアアル。

將來ト雖モ指揮官ハ皆自己ノ意志ヲ單ニ命令ノミニ依ツテ、實行スルニ止メズシテ、更ニ希望ノ地

點ニ直接ニ兵力ヲ増加スルコトニ依ツテ、實現スルコトヲ欲スルデアラウ。

依ツテ、數師團ヲ有スル軍團長モ、又軍司令官以上ノ者モ師團ノ編制ニ屬セザル部隊ヤ機關ヲ持つベキデアアル。之ヲ必要ニ應ジテ——殊ニ自ラ重點ヲ置カントスル場所、若シクハ危急ヲ救フベキ場所ニ——使用スルデアラウ。夫レニハ全師團、若シクハ師團ノ一部ヲモ、之ニ當テ得ルガ、尙ホ殊ニ戰車、砲兵、飛行機、工兵、通信隊及機關銃等ガ主要ノ位置ヲ占メル。此レ等ノ隊ハ、其使用期間中ハ戰術上ノ指揮ニ任ズル所ノ師團ノ下ニ屬セシメ、戦闘終了後ハ再ビ之ヲ取り戻スノデアアル。

右ノ外ニ尙ホ、戦闘ニ干與スル手段ハ、彈藥ノ補給デアツテ、而カモ之レガ恐ラクハ最有效ノ手段デアラウ。現今ノ火器ノ特性上、動々モスレバ彈藥ガ甚ダシク浪費サレ易イ。一ノ部隊ガ彈藥ヲ多量ニ持つテ居ルコトヲ承知シタ場合ニハ、勢ヒ其節約ヲ怠リ勝チニスル。而シテ彈藥ヲ豊富ニ使用シテ自然ニ過度ニ激烈ナ射撃ヲ行ヒ大事ナ決勝點ニハ彈藥ノ不足ヲ生ズルヤウナ危険ヲ豫防スルニハ、決シテ餘分ノ彈藥ヲ與ヘテハナラヌ。故ニ最高司令部ノ方デ、良ク熟考シテ彈藥ノ分配ヲ爲スコトガ極メテ必要デアアル。而シテ作戰地域及内地ニ於ケル鐵道分歧點ニ用意シタ彈藥列車ヲ、各軍ニ適切ニ分配シ、更ニ其積載彈藥ヲ狀況ニ應ジテ各軍團ニ適切ニ分配スルコトハ最モ大切ナ基礎デアアル。本國ニ於ケル所要彈藥ノ調達ニ就テモ、亦之ト同様デアツテ良ク時期ヲ誤ラズ且ツ適切ナ計算ノ下ニ之モ實行セネバナラヌ。

尙ホ彈 補充ニ就キテハ、一定ノ部隊ニ屬セヌ所ノ縦列ノ分配ノコトモ關係ヲ持ツテ居ル。之ニ依ツテ彈藥及糧食ノ豫備ヲ一定ノ計畫ノ下ニ使用スルノミナラズ、戰鬪線へ交付スベキ場所ニ迅速ニ且ツ確實ニ搬送シ得ル如ク、此ノ縦列ヲ適當ノ地域ニ置クベキデアル。

更ニ戰鬪ニ使用セル軍團及師團ノ活動地域以外ノ任務ヲモ考フベキデアル。其一、二ノ例ヲ舉グレバ、敵ノ増援隊ノ輸送ノ妨害、敵ノ主要ナ軍需品工場及彈藥其他ノ軍需品ノ集積場ノ破壞等デアル。總テ此レ等ノ仕事ハ重砲及最大重砲(就中其平射砲)並ニ爆撃飛行機ノ任務デアル。故ニ總司令部若シクハ軍司令部ハ、此レ等ノ部隊ニ、直接ニ命令ヲ下スベキデアル。尙ホ又此レ等ノ部隊ハ、決勝ヲ求ムル場所ノ大ナル共同目標ニ對シテ戰鬪部隊ニ協力シ、全力ヲ集メテ猛烈ナル威力ヲ發揮セシメネバナラス。

其五 最小ノ單位部隊

最小ノ單位部隊ニ就テノ妥當ナ標準ヲ求メルコトモ亦一興デアラウ。以前ハ步兵ニ就テハ、總テノ場合ニ、人ノ數ヲモ入レテ之ヲ定メルノガ適當ナコトト考ヘタ。ソコデ千人ノ大隊ヲ以テ最小單位トシタノデアアル。而シテ中隊ハ戰鬪ノ爲ノ獨立體デハナク、軍ニ教育及細部ノ管理事項ニ就テノ獨立體ダト考ヘタ。

然シ今日ハ夫レガ變化シテ了ツテ居ル。

疎散ノ隊形ヲ取ル爲メニ戰鬪線ノ延長ヲ來シ、各部隊間ノ地域ヲモ擴大シタ爲メニ、大隊ヲ號令ニ依ツテ動カスコトガ出來ナクナツタノミナラズ、中隊ト雖モ、散開隊形ニ移レバ、夫レガ不可能トナツタ。又一方ニ於テハ、新シイ武器殊ニ機關銃ヲ與ヘタ結果、最小ノ分隊ト雖モ、或ル程度マデノ獨立性ヲ有スルニ至ツタノデアアル。

從來ハ「通常如何ナル部隊ガ、密集ノ隊形ヲ戰場ニ用ヒ得、敵火ヲ受ケテモ直チニ分散隊形ヲ取ルヤウナコトヲセズニ濟ムカ」ト云フコトヲ非常ニ重要視シタモノデアアル。而シテ世界大戰ノ初期ノ戰鬪マデハ夫レガ中隊デアルト考ヘタ。即チ間隔ヲ擴大シタ中隊縦隊ノ側面隊形ヲ以テスレバ、遠距離(大ナル交戰距離)ニ於テハ、戰場ニ於テ運動シ得ルモノト思ツタ。然ルニ實際ハ敵ノ砲兵及機關銃ノ射程内デハ、全ク密集隊形ヲ用フルコトガ出來ズ、苟モ敵火ノ効力ヲ豫期スベキ場所ニハ、散開隊形ヲ取ラネバナラナカッタ。將帥ガ戰線ノ後方ニ、三軒ノ丘上ニ將旗ヲ樹テ、脚下ニ進開スル戰ヲ一眸ノ中ニ收メ得タ時代ハ、既ニ過ギ去ツタノデアアル。

火器ノ進歩ニ伴ヒ戰場ノ深サノ増大ト共ニ戰鬪正面幅モ亦擴大サレタ。今迄ノ戰爭デハ一中隊ノ正面幅ヲ百乃至百二十呎トシタガ、輕機關銃ヲ交付シタ結果、廣大ナ正面ヲ取ルコトガ出來ルヤウニナツタ。防禦ニ於テハ若干ノ中隊ハ、八百乃至千呎若シクハ夫レ以上ノ地區ヲ有効ニ維持シ得タコトモ

アル。而シテ此ノ如キ正面ヲ取ル場合ニハ、火戰ノ指揮ハ全然小隊長及分隊長ノ手ニ歸シ時ニ兵卒各自ガ自ラ處置セネバナラナカッタノデアアル。

此ノ如キ状態ニ於テハ「今日ハ既ニ大隊ヲ以テ歩兵ノ最小ノ戰術單位ト見ルヲ得ズシテ三小隊ヨリ成ル中隊ガ代ツテ其地位ヲ占ムベキデハナイカ」ト云フ疑念ヲ起ス者モ或ハアルデアラウ。然シ斯クスレバ聯隊長ガ命令ヲ與フベキ單位ノ數ガ多過ギルト云フ不利ガアル。即チ目下ノ我が獨逸ノ聯隊デサヘモ、歩兵中隊九、機關銃中隊三、迫撃砲中隊一トナリ、尙ホ眞ニ現代ノ要求ニ適ナツテ編成シタ聯隊デハ命令ヲ與フベキ地位ハ、更ニ一層増加スルデアラウ。サウナルト、(別シテ戰闘間時間ノ餘裕ノ無イ時ナドニハ)、此レ等ノ地位ノ一部ニ對シテ命令スルコトヲ、忘レタリ、必要ナ時期ニ命令ガ間ニ合ハナカツタリスルコトガ起ル。此ノ如キ實際上ノ理由ダケデモ、大隊ヲ以テ依然最小ノ戰術單位ト爲シ大隊ノ範圍内ノ戰闘ノ統一ヲ期スルコトニ努力スベキデアアル。小部隊ノ戰闘力ヲ添加サレタ爲メニ生ジタ困難モ、元々ハ利益ナノデアルカラ、其反面ノ不利ハ之ヲ除クコトニ力ヲ用ヒネバナラス。故ニ中隊ヲ訓練シテ、如何ニ戰闘ガ變化ストモ、大隊トノ連繫ヲ怠ラズ全般ノ關係ヲ亂サヌ如ク自己ノ位置ヲ決定サセネバナラス。依ツテ各中隊長ハ、大隊ノ戰闘スル際ハ、單ニ敵ニ注目スルノミデナク、他中隊ニ對スル自己ノ中隊ノ關係ニ注意ヲ用ヒ最初ニ定メラレタ關係ヲ維持スルコトニ努メネバナラス。

騎兵^{コウ}ニ在テハ、經驗上約百五十騎ノ中隊ヲ以テ最小單位トスル。百五十ノ人馬ハ一人ノ指揮官ヲ以テ細部ノ事マデモ監視シ得ルノデアアル。

砲兵ニ在テハ、元ハ六門乃至八門ヲ以テ一中隊トシ、尙ホ其以前例ヘバ七年戰爭ノ時ナドニハ、必要ニ應ジ砲廠ヨリ砲ヲ取ツテ中隊ヲ編成シタモノデアアル、其後終ニ六門ヲ以テ一中隊トスルニ至ツタ。然ルニ速射砲ノ發見サルルニ及ビ、中隊ノ砲ヲ四門ニ減少スルコトガ出來タ。彈藥サヘアレバ必要ノ場合ニハ射撃速度ヲ増加シテ、砲數ノ減少ヲ埋メ合ハスコトガ出來ルカラ、實際ニハ之レガ爲メニ中隊ノ射撃力ハ減退シナイ。而シテ一方ニ於テハ四門中隊ハ六門ノモノニ比シ、多大ノ利益ガアル。即チ行軍長徑ハ短縮シ、人馬ノ數ハ減ジ、其給養(殊ニ馬ニ於テ)ハ容易トナリ、就中其射撃指揮ガ簡易トナツテ中隊ノ露^{アツ}ハス目標ガ小サクナル。四門ノ砲ト其彈藥車トハ、六門ノモノヨリモ、地形ノ利用ガ容易デ、飛行機ニ對シテモ遮蔽シ易イノデアアル。

然ルニ經驗ニ依ルト、敵火ノ爲ニ一部ノ砲ガ用ヲ爲サナクナツタ場合ノ苦痛ガ、甚大デアルカラ第五及第六ノ砲ヲ豫備兵器トシテ火線ノ直後ニ準備シテ置ク必要ガアルデアラウ。普佛戰役ニ於テハ彼我ノ砲兵ハ多クノ損害ヲ被ラナカッタ。其射程ガ短カカツタ爲メニ、歩兵ノ戰闘線ノ後方ニ、三百呎ノ所マデ砲列ガ其彈藥ト一所ニ到着シ得ルホドデアツタ。從ツテ敵ノ榴彈ノ爲メニ、一門ノ砲デモ用ヲ爲サナクナルコトハ、極メテ稀デアツタ。然シ大戰中ニ、戰線ノ直後ニ設ケタル修理工場ニ、山積

セル破損砲ヲ目撃シタ者ハ、其事態ノ著シク變ツテ來タコトニ氣着イタデアラウ。用ヲ爲サナクナツタ砲ヲ速カニ補充シ、且ツ豊富ニ彈藥ヲ支給スルコトヲ保證スル方ガ、火線ノ中隊ノ砲數ヲ増加スルヨリモ更ニ一層緊要ナノデアアル。

重砲兵中隊ハ、大抵野砲兵ヨリモ砲數ガ少ナカツタ。即チ後者カ尙ホ六門ヲ有シタ時代ニモ、重榴彈砲ノ中隊ハ四門、二十一糎臼砲中隊ハ僅カニ二門デアツタ。而カモ此ノ砲數デサヘモ、彈藥ノ運搬ニ多大ノ車輛ヲ要シ、夫レ以上ヲ増スト不適當ナル恐レガアツタホドデアアル。極メテ大ナル砲、例ヘバ大戰ノ際吾軍ガ使用シタ三十八糎口徑ノ艦載砲(軌道ノ上ニテ使用)ノ如キハ、終ニ一門宛トナルデアラウ。此ノ種ノ砲ハ一列車ヲ屬シテ、夫レニ彈藥ヲ塔載シ、又砲手ヲモ宿泊サセル。尙ホ之ニ一小隊ノ飛行機射撃砲ヲ附屬スレバ、一層有利デアアル。

其六 特殊部隊

古クカラ知ラレタ前述ノ砲兵隊ノ外ニ、大戰中ニ新設サレタモノガ多數アル。今其主ナルモノヲ左ニ紹介スル。

先ヅ第一ニ飛行機ヲ擧ゲネバナラヌ。

千九百十四年ニ獨逸軍ノ持ツテ居タ飛行機ハ極メテ少數デアツテ、單ニ遠距離搜索ノ補助機關ト見

做シ餘リ重キヲ置カレナカツタ。然ルニ大戰ノ四年間ニ、獨逸軍ノ航空界ハ長足ノ進歩ヲ見、佛軍ニ對シテ一日ノ長ヲ持ツテ居タノミナラズ、米國ノ參戰ト共ニ、空中ニ於ケル敵ノ數ノ優勢ガ顯著トナツタニモ拘ハラズ、猶ホ克ク之ニ抵抗シ得タノデアアル。

現今ニ於テハ飛行機ニ對シ、音ニ搜索及通信連絡ノミナラズ、更ニ直接戰鬪ニ參加シ、砲兵ノ射撃ヲ觀測シ、且ツ敵ノ後方ノ土地ニ於ケル破壞任務ニ服スル事ヲモ要求スルニ至ツタ。

總テ此レ等ノ任務ヲ總テ一様ニ果シ得ル飛行機ハ無イ。即チ戰鬪飛行機ハ、小形デ輕快且ツ迅速デ操縦モ自在デ無クテハナラヌ。爆撃飛行機ハ飛行距離及負擔力ノ大ナルヲ要シ、偵察飛行機ハ無線電信機ヲ備ヘナケレバ十分ノ用ヲ爲サヌ。而シテ交戰隊ヘ屬スルモノハ、爆彈ノ投下ト低空ヨリ猛烈ナル機關銃射撃ヲ行ヒ得ル必要ガアリ從ツテ其主要部ニ装甲セネバナラヌ。總テ飛行機ハ夫々其特性ニ應ジテ之ヲ使用セネバ、成功ヲ收メラレヌ。

二ツノ強國ノ間ニ戰爭ガ起ツタ場合ニハ、兩者共ニ、最初ヨリ制空權ヲ自己ノ掌中ニ收ムルコトヲ努ムルデアラウ。夫レニハ大部隊ノ戰鬪飛行機ヲ使用スル。大戰中獨逸軍デハ、之ヲ驅逐隊ト稱シテ味方ノ軍隊ノ前方ニ於テ敵ヲ求メテ攻勢的ニ戰鬪ヲ行ツタ。

此ノ驅逐隊ガ敵機ヲ空中ヨリ驅逐スルコト多キニ從ツテ、我が偵察機ノ任務ノ遂行ガ、益々自由ニナルノデアアル。空中ノ戰鬪ニハ敵ノ上ニ居ルノガ有利デアアルカラ、戰鬪機ハ非常ノ高空ニ昇ルコトヲ

努メルガ、偵察機ハ、明瞭ニ觀察シ且ツ寫眞ヲ撮ル爲メニ、地上ニ近ヅカネバナラス。又偵察機ハ多クハ二、三機ツツノ編隊デ出動スル。之レハ單獨デハ敵ノ單獨ノ戰鬥機ニ對シテ敗ケルカラデアアル。而シテ敵ノ偵察機ハ、機關銃ヲ以テ之ヲ遠ザケルコトガ出來ル。砲兵用飛行機及步兵飛行機モ亦此ノ部ノ部類ニ屬スル。前者ハ砲兵ノ彈着ヲ觀測シ且ツ新ニ出現セル目標ヲ直チニ報告シ得ル故、砲兵ノ射撃指揮ニ極メテ緊要ノモノデアアル。後者ハ主トシテ高級指揮官ニ、第一線（他ノ手段ヲ以テハ之ト連絡ヲ保チ得ヌコトガ屢々アル）ノ戰鬥ノ狀況ヲ知ラセ、又機關銃射撃及爆彈投下ニ依ツテ、歩兵ヲ有効ニ援助スル。其出現ハ常ニ敵味方ニ多大ノ精神的効力ヲ及ボスモノデアアル。

戰鬥機隊ハ機關銃及輕爆彈ヲ以テ、行軍間及休憩間ノ部隊、飛行機格納所及露營地ヲ攻撃シ、殊ニ戰鬥行爲其物ニ直接參與スルニ用フル。夫レニハ纏マツタ有力ナ活動ヲ以テ、豫備隊、砲兵ノ群、支撐點其他之ニ類スル有利ナ目標ヲ征服シ、尙ホ敵ノ輸送ヲ妨害スベキデアアル。我ガ歩兵ガ突撃前進ヲ爲ス際ニハ、攻撃ノ重點ニ向ツテ之ヲ使用スレバ、大ニ歩兵ノ爲ニ援助トナリ、又防禦ノ場合ニハ、攻者ノ歩兵ヲ其攻撃準備位置ニ於テ、擊破スルコトガ出來レバ、敵ノ突撃ヲ抑制シ得ル。

爆撃機ハ戰鬥隊ノ補足ニ用ヒル。其主ナル効力ハ、抵抗力ノ大ナル目標ノ破壊ニアル。從ツテ敵ノ卸下停車場、宿營地、彈藥廠並ニ堅固ナル建築物例ヘバ鐵道ノ諸設備、主ナル軍需品工場等ヲ其目的トスル。而シテ會戰中ニハ、鐵道及自動車縱列ヲ以テスル敵ノ兵力移動ノ妨害ガ、其主要ナ任務デア

ル。又司令部ノ宿營地及飛行機格納所ヲモ攻撃スル。陣地戰ニ於テ適切ニ攻撃ヲ實行シ、敵ノ主要ナル防禦設備ヲ破壊シテ、大ニ歩兵ヲ援助スル。尙ホ敵ノ攻撃準備ニ對シテハ、敵ノ作業ヲ後カラ、爆破シテ其進捗ヲ妨ゲル。

遠大ノ距離ニ大量ノ重荷ヲ運搬スベキ大型ノ、重イ爆撃機ハ自然ニ速度ガ遅ク運動ガ緩慢デ昇騰ガ少ナイカラ、夜間ノ外使用シ得ナイ。晝間ニ用フル爆撃隊ハ輕クテ、速度ノ非常ニ大キナモノヲ以テ編成スル。此ノ種ノモノモ亦、單獨デハ敵ノ驅逐機ノ犠牲ニナリ易イカラ。成ルベク纏マツテ居テ、敵ノ攻撃ニ對シテハ多數ノ機關銃ヲ差シ向ケ得ル如クスル。

次ニ飛行機隊ノ軍隊配屬ノ事ニ就テ述ベル。現代ニ國軍ノ戰鬥單位タル師團ニハ、總テ皆飛行機ノ有力ナル一隊ヲ附シ。以テ遠距離搜索近距離搜索、及戰鬥搜索並ニ通信連絡勤務ニ任ジ、尙ホ砲兵ノ要求ニモ應ジ得ネバナラス。此ノ種ノ飛行機隊ハ、約二十四機トシ、内偵察機梯隊十二、砲兵機梯隊十二トスベキデアアル。其外ニ燃料、修理用具、飛行場ノ設備及照明ニ要スル器材、寫眞撮影及復寫用具等ヲ、自動車ニ積載シテ携行セネバナラス。其編制ハ將校六十乃至七十人、下士卒五百乃至六百人自動車約七十五トナルデアラウ。

飛行機ノ戰鬥部隊即チ驅逐隊、戰鬥隊、及爆撃隊ハ上級ノ司令部デ無ケレバ、之ヲ適切ニ使用スルニ必要ナダケニ、全般ノ狀況ニ通ジ得ナイカラ、其方ニ附ケテ置クノガ適當デアアル。會戰ノ勝敗ニ重

キヲ爲ス所ノ此レ等ノ有力ナ部隊ヲ以ツテ、纏マツタ偉大ナル威力ヲ發揮スルコトヲ努ムベキデアル。大戦前ニ獨逸ニ於テハ、飛行船ニ多大ノ望ヲカケタガ、忽チ夫レガ敵ノ砲兵及飛行機ノ爲メニ有利ナ攻撃目標トナルノデ陸戰ニ於テハ用ヒナイコトガ分ツタ。將來飛行船ガ尙ホ海戰ニ一部ノ用ヲ爲スカ否カハ、主トシテ飛行機ノ發達如何ニ係ルノデアル、飛行船ガ海上ニ於テ常ニ敵ノ飛行機及飛行機射撃砲(現代ノ海軍ハ夫レ等ヲ十分ニ備ヘテ居ル)ノ攻撃ニ曝ラサレテ居ルモノトスレバ、其用途ハ(今日ニ於テモ既ニ夜間ニノミ限定サレテアル)此ノ方面ニ於テモ亦終リテ告グルデアラウ。

繫留氣球ハ之ト全ク趣ヲ異ニシ、今回ノ戰爭ニ於テ、戰術的偵察、射撃觀測及連絡勤務ノ補助機關トシテ、有利ナ働ヲ爲シタ。將來ニ於テモ亦、此ノ領域ニ於テ必要缺クベカラザルモノデアロウ。其強敵ハ飛行機デアル。飛行機ハ燒夷彈ヲ以テ氣球ノ征服ヲ企テル。故ニ氣球ガ指揮官殊ニ砲兵ノ爲メニ貢獻シ得ル程度ハ、主トシテ空中戰鬪一般ノ形勢ニ依ル。敵ノ飛行機ガ制空權ヲ握ツテ居ル場合ニハ、繫留氣球モ亦昇騰シ得ヌノデアル。新式ノ裝備ヲ爲セル師團ニハ皆、氣球小隊ヲ附ケテアツテ、觀測隊ノ一部ヲ爲シテ居ル。但シ之モヴェルサイユ條約ニ依ツテ獨逸軍隊ニ禁止サレテアル。

航空界ノ發展ニ伴ヒ、之ガ防禦法モ亦、發達シテ來タ。此ノ目的ノ爲ニハ、新式ノ裝備ヲ有スル陸軍ハ、飛行機防禦隊ヲ設ケテアル。夫レニハ空中目標ノ征服ニ適シタ特定ノ砲、又ハ機關銃ヲ用ヒ、尙ホ空中監視ノ施設ニ要スル人員及器材ヲモ持ツテ居テ、敵ノ飛行機ヲ早ク發見シテ、危險ナ隊ニ警

告スルノ用ヲ爲ス。

飛行機征服ニ特ニ困難ヲ感ズルノハ、同一ノ砲ヲ以テ、總テノ距離及高度ニ於テ、飛行機ヲ征服シ得ヌ點デアル。之レガ爲メ、各種ノ飛行機射撃砲ガ生マレ出テ來タ。其最大ナル砲ハ六糎ノ高度ニ在ル飛行機ヲ七糎ノ距離ニ於テモ撃チ落ス事ガ出來タ、然ルニ此ノ砲デハ低空ヲ飛ビ、既ニ近距離ニ迫ツタモノハ射撃シ得ヌ。夫レニハ曳光彈ヲ發射スル速射(旋回式)加農ガ適スル。然シ此ノ加農ハ千五百糎以上ノ高サニハ用ヒ得ナイ。而シテ其中間ノ距離及高度ニハ尙ホ第三ノ砲種ヲ必要トスル。

故ニ新式ノ編制ノ師團ニ必ズ其一ツヲ備ヘアル飛行機防衛大隊ハ、前述ノ三種ノ一ツ宛ヲ作レル中隊三個ヲ設ケネバナラヌ。尙ホ此ノ大隊ニハ前ニモ述べタ通り、空中監視ノ機關ト、若干ノ照明燈小隊(夜間ノ飛行機征服ニ用フ)ヲ置ク必要ガアル。

機關銃モ特別ノ照準裝置ト曳光彈トヲ以テスレバ、約千五百沢マデノ飛行機ノ征服ニ適スル。又之ヲ纏メテ飛行機防衛隊ヲ編成スルコトモ出來ル。尙ホ總テノ機關銃隊ニモ此ノ種ノ機關銃二、三ヲ備ヘ、其際ニ用フル射法ヲ特別ニ教育シテ置クベキデアル。

飛行機防衛隊ハ其一部ヲ各隊ニ隨伴セシメ、(自動車ニ載セテ砲ガ運動戰ニハ殊ニ有効デアル)、又一部ヲ停車場、司令部宿營地、彈藥廠等ノ固定的設備ノ保護ノ爲メニ、据エ着クル。大戦中ニモ敵ノ飛行機攻撃ヲ豫期スベキ範圍ニ亘リ、遠ク内地ニ至ルマデ、此ノ種ノ施設ヲ爲スノ必要ヲ認メタ。

大戰中ニ新ニ出タモノニ戰車ガアル。戰車ハ初メ聯合軍側デ造ツタモノデ、最初ハ失敗ニ歸シタガ終ニ大功ヲ奏スルニ至ツタ。戰車ハ無限軌道ヲ用ヒタ車デ、輕砲若シクハ機關銃ヲ備ヘ、且ツ装甲ヲ施シタモノデ、通路外ノ運動ニ適シ、且ツ障礙物ノ破壊及超越ニ於テ、卓越シタ能力ヲ持ツテ居ル。主トシテ攻撃的ニ用フルノデアアルカラ、其出現ハ明ラカニ敵ノ攻撃ノ近ク行ハルベキコトヲ示ス。而シテ編隊ヲ以テ縦長ノ區分ヲ爲シ、不意ニ出現シテ、多大ノ効果ヲ收メ得ル。千九百十七年十一月二十日ノカムペレーノ戰ノ如キハ、其一例デアアル。獨逸軍側デモ、千九百十八年ニ至ツテ始メテ少數ノ戰車ヲ使用シタ。

戰車ハ將來ノ戰爭ニ於テハ、大ニ役ニ立ツデアラウ。從來ノ經驗ニ依ツテ、輕戰車及重戰車ノ二種ヲ設ケル。兩者共軍隊ノ行軍縱隊中ニ編入スルニ適シナイガ、輕戰車ハ特製ノ自動車ニ載セテ運搬シ得、重戰車ハ鐵道ノ特別ノ車輛ニ載セルコトガ出來ル。故ニ重戰車ノ方ハ、陣地戰ニ用ヒルノデアアルガ、輕戰車ハ運動戰ニモ用ヒ得ル。

戰車ノ戰術的用途ニ就テ注意スベキ點ハ、單獨戰車ノ使用ガ無意味ナコトデアアル。夫レハ徒ラニ敵ノ防衛射撃ヲ悉ク引キ着ケ、自己ノ所屬部隊ノ爲メニ利益ヲ與ヘズニ、却ツテ多クノ損害ヲ被ムラスコトニナル。之ニ反シテ多數ノ戰車ヲ同時ニ使用スルトキハ(爲シ得レバ煙幕ヲ設ケテ)、常ニ敵ヲ脅威スルニ足リル。從ツテ戰車ヲ用フル國軍ハ、之ヲ有力ナル部隊ニ編合スルコトヲ企テ、居ル。

輕戰車ノ中隊ハ通常小隊三(各小隊ハ戰車五)、指揮官戰車一、無線電信戰車一、並ニ輸送車若干ヨリ成ル。大隊ハ三中隊、聯隊ハ二以上ノ大隊ヨリ成ル、戰車ノ約三分ノ二ハ輕砲ヲ、殘餘ハ機關銃及燒夷彈發射機ヲ備ヘル。而シテ運動戰ニ用フベキ各戰車隊ニハ、總テ、破損戰車ノ牽引(救出)及修理ニ用フル戰車ト、固イ道路上ノ長距離ノ行進ニ用フベキ輸送設備トヲ備ヘ、尙ホ燃料ヲ之ニ適スル車輛ニ積載シテ携行スル。

右ノ外ニ單ニ彈藥ノ運搬ニ用フルモノ若シクハ報告傳達ノ用ニ供スルモノ等ノ特殊戰車ガアル。後者ハ傳書鳩、無線電信機及無線電話等ヲ備ヘル。近頃後者ニ依ツテ、大ナル戰車隊ヲ指揮官戰車ヨリ統一シテ指揮シ得ル方法ガ案出サレタヤウデアアル。

重戰車ハ重量三十噸デ、重機關銃及輕砲ヲ備ヘ少ナクトモ將校一、下士卒七ノ乘員ヲ要スル。其戰闘單位ハ中隊デ二小隊(小隊ハ戰車二)ニヨリ成ル。大隊ハ中隊三及段列一ヲ有シ、聯隊ハ大隊三及輸送隊一ヨリ成ル。

戰車ノ短所ハ狹小ナル視孔ノ爲メニ視界ノ制限サル、コト、及運轉中ノ動搖ニ依ツテ射撃ノ不確實トナルコトノ二點デアアル。故ニ戰車ハ全クノ近戰用兵器デアアル。

此ノ點ニ鑑ミテ戰車ガ至近距離ニ迫ラヌ内ニ之ヲ擊破スルコトヲ努ムベキデアアル。其最良手段ハ單獨ノ野砲ヲ前方ニ出シテ、成ルベク隱匿シテ備ヘ付ケ、之ヲシテ直接射撃ヲ行ハシ

メルカ、若シクハ歩兵ノ輕迫撃砲ヲシテ、破甲彈ヲ以テ平射ヲ行ハシムルノデアアル。尙ホ裝甲部ヲ貫徹シ得ル戰車射撃銃モ有効ニ戰車ヲ征服シ得ル（但シ獨逸軍隊ハ此レヲモ使用スルコトヲ禁止シサレテアル）。而シテ歩兵ハ一所ニ集マツテ來テ自ラ戰車ニ有利ナ目標ヲ與ヘルコトヲ戒ムベキデアアル。而シテ其注意ト射撃トヲ戰車其物ニ注ガズシテ、敵ノ歩兵ニ向ケネバナラス。而カモ遂ニ止ムナク戰車ニ向ケネバナラスコトニ立チ至ツタ場合ニハ、規規孔ニ向ツテ沈着シタ射撃ヲ行ヒ、且ツ多數ノ手投彈ヲ結合シタモノヲ、無限軌道ノ前方又ハ車體ノ屋根ニ投ゲ着ケルノガ一番有効デアアル。

陣地戰ニ於テハ戰車攻撃ノ防衛ニ、地雷ノ阻絶及戰車陷穽等ヲ用ヒル。後者ハ廣ク且ツ深イ孔ノ上ニ、輕イ覆ヲ設ケ戰車ヲ其中ニ陥ラセル考案デアアル。此レ等ノ設備ヲ適切ニ行フニハ、先ヅ圖上及現地ニ就キ詳細ナル研究ヲ遂ゲネバナラス。尙ホ一層重要ナモノハ、夫レガ、深キ縱長ヲ有シ且ツ之ヲ市松形ニ配列シ、尙ホ實際ノ用ヲ爲ス迄、敵ニ破壊サレヌ如クスルコトデアアル。戰車ノ集團攻撃ヲ受ケタ場合ニハ、砲兵ノ大半ハ一時其本來ノ目標ヲ棄テ、戰車ニ向フベキデアアル。

前述ノ戰車ノ外ニ、尙ホ裝甲自動車ガアル。之ハ機關銃又ハ輕砲ヲ備ヘ、固イ道路上デ大速力ヲ出シ、三乃至六人ノ乗員ヲ有スル。其儘デ後方ニモ自由ニ行進シ得、師團ノ搜索大隊、前衛若シクハ後衛等ニ用ヒテ、殊ニ有効デアリ、尙ホ離レテ前進スル前縱隊間ノ連絡ノ維持ニ適スル。

裝甲列車モ亦大戰ニ使用サレタ。之ハ將來ニハ少數ノ兵力ヲ以テ大ナル線路ヲ保護スベキ時、作戰ガ

主トシテ鐵道沿線ニ限ラル、場合等ニ用ヲ爲スノデアアル。

大戰中ニ適切ナル通信組織ノ極メテ重要ナルコトヲ經驗シ、又之ニ用フベキ技術上ノ補助器材ガ、多岐ニ亘レル結果トシテ各強國ハ皆早クヨリ通信勤務ニ服スベキ特別ノ部隊ノ建設ニ着手シタ。而シテ一師團ノ通信部隊ノ兵力ヲ如何ニ決スベキカノ問題ヲ研究スルニ當ツテハ、先ヅ、實戰ニ於テ、師團ガ通常ノ場合ニ設クベキ連絡線ノ數ヲ標準トセネバナラス。但シ夫レヲ定ムルニハ、新式ノ師團ノ編成ヲ基トスベキデアアル。ソコデ師團ノ通信大隊ガ師團ニ隸屬スル各本部、聯隊及聯隊ノ編制外ノ部隊、並ニ右方ノ隣接師團トノ連絡ヲ設クル責任ガアルトスレバ其連絡ニハ三中隊ヲ置ク必要ガアルト思ハレル。

通信隊ノ中隊ニハ、戰場ニ於テ通信ノ事ニ關スル有ラユル要求ニ應ジ得ル如キ編成ト裝備トヲ與ヘネバナラス。之レガ爲ニハ、其一小隊ハ特ニ導線ノ新設ニ任ゼシメ、一小隊ハ文明國ニ存在スル電信線及電話線ヲ軍事上ノ目的ニ利用セシメ、而シテ残りノ小隊ハ無線ノ電信及電話ノ勤務ニ當ラセルノガ適當デアラウ。

而シテ大隊ノ三中隊ニハ、更ニ器材縱列一及鳩車一ヲ附スルガ良イ。サスレバ大隊ハ將校以下八百人、馬五百五十頭、車百乃至百二十輛、自動車三十乃至四十輛ヲ算シ、其行軍長徑ハ糧食及荷物ノ兩行李ヲ除キテ約千呎ニ達スルデアラウ。

歩兵聯隊ノ通信中隊ハ、當然前者ヨリモ非常ニ小サナモノトナルガ、然シ夫レデモ尙ホ普通ノ歩兵中隊ノ二倍ノ人員ニ達シ、馬及車ノ數ハ甚ダシク増大スル。中隊ハ若干ノ無線電信班及有線電話班ニ分ツ(之ヲ必要ニ應ジテ各大隊ニ分配スル)。其器材ハ三百斤ノ野戰被覆線、電話線、配電盤、輕便無線電信機、火光通信機、及傳令犬若干ヲ携行スル。此ノ種ノ中隊ハ、將校以下三百人、車三十五乃至四十輛(各二頭ヲ繫駕)ニ達シ其行軍長徑ハ糧食及荷物ノ兩行李(糧食車、馬糧車、及荷物車各二、三ヨリ成ル)ヲ除キテ、約三百五十級デアアル。騎兵聯隊ノ通信小隊ハ乘馬編成デ歩兵ノ通信中隊ノ概ネ三分ノ一ノ人員及器材ヲ有スル。

從來近距離及遠距離搜索ニ任ジタル騎兵ハ、最早之ニ堪ヘスコトニナツタカラ、新式ノ編制ノ軍ハ之レガ爲メニ混成ノ大隊ヲ編組スルデアラウ。此ノ種ノ大隊ハ、騎兵ノミノ場合ニヨリテモ多クノ火力ヲ有セネバナラス。而シテ徒歩ノ部隊ヲ附屬シテ、此ノ部隊ヲ運動性ヲ減ジテハナラス。ソコデ此ノ大隊ニハ騎兵中隊二(大隊ノ基幹ヲ成ス)ヲ始メトシ、自轉車中隊一、裝甲自動車二、三輛、及通信小隊一ヲ出スコトニナルデアラウ。此ノ如キ編組ノ大隊アラバ、先ヅ師團ノ目的ニ合スルデアラウ。

其七、將校團

國軍全體ノ將校又ハ將校社會ナドノ意ナリ

「普魯西軍隊ノ精神ハ其將校團ノ中ニ宿ル」トハ、フォン、リュツヘル將軍(千八百六年戰役ノ時ノ

普魯西軍ノ立派ナ代表的軍人デアツテエーナノ戰ニ忠烈ナル死ヲ遂ゲタ人)ノ道破シタ所デアアル。其言ハ奇矯デアアルガ、其意ハ眞ヲ貫ツテ居ル。

何レノ時代、何レノ國民ニ在テモ、將校社會ノ狀態ハ、其率キル國軍ノ狀態ヲ窺フベキ準據トナルモノデアツテ、其關係ハ恰カモ國民ノ政治的生活ニ就テ見ル所ト同様デアアル。即チ教養アル指導階級ガ勢力ノアル間ハ、國民モ亦有爲ニシテ且ツ強ク、之ニ反シテ勢力ヲ占ムル社會ガ腐敗スレバ國民モ亦之ニ從ツテ墮落スル。而シテ其後社會的變革ガ起リ、且ツ夫ニ依ツテ勢力ヲ占ムルニ至ツタ社會ガ國民トシテノ事業ヲ立派ニ指導シ得ルノ實ヲ直チニ示シ得タ場合ニ限り、前述ノ事態ガ若干改善サレテ來ル。此ノ意味ニ於テ、獨逸ノ十一月革命モ亦、今尙ホ其實現ノ意義ヲ立證スルノ責ヲ負フテ居ルモノト云ハネバナラス。

昔ノ獨逸軍隊ハ普魯西ノ傳統ヲ受ケ、將校ハ門地高く、日常ノ生活ニ於テモ、庶民ヲ感化シ得ル所ノ地位ニ居タ者カラ取ルヲ立前トシタ。普魯西將校團ノ建設者タルフリードリッヒ大王ハ、其後繼者ヲ總テ世襲ノ貴族カラ採用シタ。是レハ當時其社會的地位、教育傳統等ガ將校ノ適任者ヲ供給シ得ル唯一ノ階級デアツタカラデアアル。其後此ノ事情ガ變ツテ來テカラハ、將校團ノ内部ニモ變化ヲ來シタ即チ從來ト同様、國民中ノ門地ノ高い者ヨリ取ツタノデアアルガ、夫レガ生粹ノ貴族ノミデハナク、政治上ニモ、社會生活ノ上ニモ、指導ノ位置ニ立ツタ所ノ教養アル者ノ全體カラ、之ヲ採用シタノデ

アル。

將校ノ候補者ヲ選定スル際ニ、一般的教養ニ特ニ重キヲ置イタモノハ尤モノ事デアツテ、其所ニ高尚ナ徳性ノ根源ガ窺ハレルノデアル。但シ其教養ト云フノハ單ニ學術的ノ教育ノミデナク、心性ノ陶冶ト云フコトヲモ顧慮シタノデアル。

將校ニハ其職務ノ爲メニ、利得、快樂及財産ヲ願ミヌコトヲ要求シタ。故ニ國民中自己ノ職分ヲ通シテ己レ一個ノ利益ヨリモ、寧ロ公ノ大事業ノ爲メニ盡クス事ヲ以テ自ラ任ズル者ガ、將校團ノ後繼者トシテ最モ適當ダト考ヘラレタ。總テノ將校及官吏ノ家庭デハ、其子弟ニ父兄自ラ義務ニ對スル模範ヲ示シテ之ヲ教育シタ。

將校團ノ向上ニ最モ害ノアルノハ、自我ノ精神、個人主義的精神デアアル。總テ此ノ心ヲ促進シ勝チナル行爲ハ將校團ニ許シ難キモノデアアル。故ニ將校團ノ各員ハ、他ノ者ニ對シテハ、社會的地位ヲ同等ト見做シテ、將校全體ヲ以テ一ツノ地位、一ツノ社會的階級ヲ爲スガ如キ性質ヲ帶ビサセタコトハ、極メテ適當ノ處置ト云フベキデアアル。將校ノ利害及義務ハ將將全體ノ共同負擔デアツタ。全體ハ各員ニ對シテ責任ヲ負ヒ、各員ハ全體ニ對シテ其責ニ任ジタ。此ニ於テ將校團ハ昔ノ武士ノ結社ノ盛時ヲ髣髴タラシメ、純乎タル騎士ノ面影ヲ見ルノ感ガアツタ。

將校團ニ一貫シタ理想ガナクバ、自己ノ任務——大戰ニ於テ其最高點ニ達シタル其任務——ヲ到底

果シ得ル筈ガナイノデアアルガ、獨逸ノ將校ハ前代未聞ノ難戰苦闘ニ際シ、克ク忠誠勇武、常ニ部下ニ範ヲ示シ得タコトハ、吾人ノ斷言シテ憚ラザル所デアツテ、現ニ我が將校ハ、皆生命ヲ惜マズ、寧ロ戰況ガ必要トスル以上ニ身ヲ危險ニ曝シテ、敢テ顧ミナカッタノデアアル。獨逸軍隊ノ勇猛世界ニ冠絶スト稱セラル、モノ、誠ニ故ナキニアラズト云フベキデアアル。此ノ如キ上官ノ活模範ガ自ラ部下ノ志氣ヲ鼓舞シ、以テ前古未曾有ノ偉勳ヲ奏スルニ至ツタノデアアル。

世界大戰ニ於テ、帝國軍及護境隊ニ屬セル現役將校ノ戰死セル者實ニ一萬二千六百十三人ヲ算シ、恰カモ現役將校團ノ二四・八%ニ達シ、負傷者ニ至ツテハ、其ノ二倍ヲ越ユルニ至ツタ。此ノ一事ヲ以テモ、克ク其全般ヲ推スニ足リルノデアアル。此レ等忠勇ノ士ハ眞ニ我が舊現役將校團ノ芳名ヲ不朽ナラシメタモノデアツテ、吾々國民ノ永久ニ記憶スベキ所デアアル。

獨逸將校團ガ此ノ如キ功績ヲ擧ゲ得タル所以ノモノハ、全ク其特殊ノ氣風ニ基クモノデアツテ、此ノ氣風ハ又將校相互間ノ切磋琢磨ノ賜物デアアル。青年ノ時代ヨリ、常ニ卓越セル先輩ニ接スルノ機會ヲ與ヘラレタ。此レハ全將校ガ一體トナツテ、其地位面目ヲ保ツト云フ高イ精神カラ出テ居ルノデアツタ。

將校ハ兵卒ヲ教育指導スルニ當ツテ、自己ノ卓越セル精神及性格ヲ以テ良ク之ヲ感化シ、殊ニ兵卒ノ幸福ヲ謀ル爲メニハ大ニ意ヲ用ヒタモノデアアル。將校ガ一兵卒ノ爲ニ心ヲ勞セズ、單ニ命令ヲ以テ

動かサントスルニ至ツテカラハ、將校團及將校ノ感化力モ亦忽チニシテ衰退スルモノデアリ、上官ノ指揮監督ガ噪マシク目立ツヤウニナツテハ、既ニ其根柢ニ弱イ所ガ出来テ居ルノデアツテ、軍隊ノ訓練ノ不良ヲホド、夫レニ用ヒル手段ガ強制的トナルモノデアアルト云フ考ヲ以テ事ニ當ツタ。從ツテ懲罰ノ規定ノ如キモ頗ル寛大ノモノデアツテ、之ガ適用モ濫イ心ヲ以テ行ハレタ。懲罰ヲ以テ教育ニ貢献スル——夫レガ最高ノ原則デアツタ。

平時ノ軍隊ニ於ケル將校ト兵卒トノ間柄ハ、總テ良好デアツタ。夫レガ其儘野戰軍ニ移サレ、最後マデ變ル所ガ無カツタ。休戰後千九百十八年十一月ニ於ケル、西方戰線數百萬ノ軍ノ整然シタル退却ガ、良ク之ヲ立證シテ居ル。當時遙カニ優勢ナ敵カラ激シク追迫セラレ、兵站線及内地ニ於ケル革命ノ脅威ヲ受ケ、疲勞ハ其極ニ達シ、給養ハ惡ルク、數年ニ亘ル奮闘ノ悲シムベキ結末ニ意氣阻喪スルト云フ始末デ、獨逸ノ全軍ハ實ニ至難ノ形勢ニ置カレタノデアツタ。而カモ至嚴ノ軍紀ヲ以テセザレバ實行ノ出来ヌヤウナ運動ヲ要求サレタ。故ニ指揮官ガ確實ニ軍隊ヲ掌握スルノデナクバ、到底之ヲ實行シ得ベキモノデナカツタ。此ノ如キ不利ナル情勢ニ於テ尙ホ克ク之ヲ敢行シ得タル所以ノモノハ長キ歲月ノ間ニ上下ノ心ニ浸ミ込シテ相互ノ信頼ガ、縱令革命ガ起ツテ後モ、悉ク破壊サレルニ至ラナカツタガ爲メデアアル。

舊獨逸ニ於テ將校團ガ、國家ノ優遇ヲ受ケタノニハ理由ガアル。元來將校ハ戰爭ノ時ニハ、其生命ヲ顧ミズ率先シテ敵陣ニ突入セネバナラス。平時ニ於テ何か特別ノ取扱ヲ受ケテ居レバ、自己モ亦何か特別ノ働キヲ爲シテ之ニ報ヒントスル心ヲ容易ニ起スモノデアアルガ、平生社會カラモ認めラレズニ常ニ壓ヘ付ケラレテ居ル者ハ、中々斯カル心ヲ起スモノデハ無イ。奴隸ハ何時デモ臆病デアアル。生活ノ窮迫ヨリ來ル卑屈ノ心ハ、何物ニモ増シテ其元氣ヲ銷磨サセ人間ノ自尊心ハ之レガ爲メニ失ハレル自尊心ハ平時ノ將校ニ缺クベカラザルモノデアアル。

我が邦ガ將校ノ社會上ノ地位ヲ高クシテ置イタコトハ、非常ニ有効ニ投下サレタ資本デアツタ。青年將校ガ他ノ同年輩ノ者ヨリモ多クノ名譽ヲ與ヘラレタ爲メニ、其一部ノ者ハ多少ノ増長スル氣味モアツタノデハアルガ、夫レデサヘモ尙ホ、國家トシテハ、戰場ニ於テ十分ノ利子ヲ回收シ得タノデアアル。命令シ、統率スル地位ニ立ツ者ハ、皆自己ノ地位ニツキ或程度マデ自負心ヲ持つベキデアアル。假令自己ノ威嚴ト價值トニ就キ多少ノ過信ヲ持つタトシテモ、實際ニハ夫レガ毫モ害ヲ及ボサヌ。將校ニ忌ムベキハ唯町人の根性デアアル。

尙ホ將校ハ財産ヲ作ルコト、否ナ自己ノ家族ノ將來ノ爲メニ一定ノ家郷ヲ作ルコトサヘモ出來ヌ。此ノ點ハ他ノ職務トハ自ラ趣ヲ異ニスルノデアアルカラ、之ニ對シテ外形上ノ待遇ヲ別ニスルノハ當然デアアル。然ルニ近眼デ、心ノ狭イ者ハ、夫レニマデ猜忌ノ眼ヲ向ケタノデアアル。

將校團ノ國家ニ於ケル關係ニ就テ、昔ノ或ル論者ノ述べタ左ノ一項ハ、今日ト雖モ、吾々ノ傾聽ニ

價スルモノト思フ。

「利己主義が個人カラ漸次各階級、全社會、ニ彌漫シテ了ツタ。一ツノ社會(地位)ノ者ガ、他ノ社會ニ就テ、價值判斷ヲ下スニハ、唯ダ夫レカラ得ル利益ノミヲ見ル。元來君主國ノ主權者ハ、貴族ヲ尊重スル。之ハ貴族カラ一番近ク援助ヲ受ケ得ルカラデアアル。商業國デハ主ニ紳商ガ尊敬ヲ受ケ、而シテ商人ハ自己ノ職業ニ次デハ航海ガ一番名譽ナ職業ダト考ヘ、其職業ト地位ノ決定トニ就テ、價值判斷ヲ下スニ當ツテモ、唯ダ種々ノ必要カラ生ズル利益ダケヲ、其標準ト爲スノデアアル。

「學者ハ戰爭ノ混亂中ニ學藝ガ衰退スルト云フノデ戰爭ヲ嫌フ。政治家ハ軍費ヲ積算シテ、其多額ナルニ驚ク。文官ハ軍人ニ職權ノ一部ヲ渡スコトヲ猜ンデ、往々軍人ヲ他國ノ人ノ如ク取扱フ。道德家ハ將校ガ立派ナ軍服ヲ身ニ着ケ、劔ヲ帶ビテ、愉快ナ生活法ヲシテ居ルノヲ惡ミ、農家ハ將校ガ其子弟及作男ヲ徵集スルノヲ不快ニ思フテ居ル」。

「長イ平和ガ續イテ、軍人ノ昔ノ功績モ忘レラレ、戰爭ノ起ル見込モ無クナルト、人民ガ軍隊ノ維持ニ要スル經費ノ負擔ヲ益々氣ニシ出シテ、色々ト尤モラシイ理窟ヲ並ベテ、軍備ノ無用ヲ立證シヨウト、試ミルニ至ルモノデアアル」。

獨逸帝國建設後ノ最初ノ十餘年間ハ、此ノ點ニ於テ將校團ノ爲メニ有利デアツタ。前後三回ノ征戰

ニ於テ將校ノ聲譽ヲ高メ、他ノ社會ノ嫉視モ緩和サレケノデ、其特色ヲ十分ニ發展セシムルコトガ出來タ。一般人民モ、將校ガ社會上ニ占ムル有利ノ地位ヲ以テ、先ヅ當然ノコトト考フルニ至ツタ。ケーニヒグレッツツ及セダン、兩會戰ヲ回想シ、一旦緩急アル場合ハ大ニ將校ニ期待スベキヲ思ヒ、將校ニ許ス所ガ多カッタ。

社會ノ各階級ガ示シタ好意ハ陛下ヨリ賜ハレル軍服ヲ身ニ着ケタ一兵卒ニマデ及ボサレ、好ンデ兵役ヲ負擔スルニ至ツタ。農民ハ機動演習ニ於テ宿舍ニ當テラレ、又蝗イナゴノ大群ノ如ク田野ヲ荒サレテモ喜ンデ其最後ノ一粒ヲモ提供シタホデアツタ。

然ルニ平和ガ永續スルニ從ツテ、將校團及軍隊ガ獨逸國家ノ統一ノ爲ニ盡クシ、從ツテ又其ノ興隆ニ貢獻セル所ハ、漸ク世人カラ忘レラレ、尙ホ其上ニ、社會民主黨ガ國際平和主義ノ立場カラ將校團ヲ以テ帝國主義的國家觀ノ最強ノ代表者ト考ヘテハ益々其破壞的魔手ヲ振ツタ。一般ノ人民モ亦將校ニ對シテ好意ヲ表シナクナツタ。少ナクトモ、將校ガ他ノ者ト異ナツタ特權ヲ持ツコトヲ好マナカッタ。軟弱ナル政策ニ依ツテ國民ノ間ニ發達シタル輿論ハ、將校ガ勇猛果敢ナル軍人トナルニ適スル境遇ニ置カレテ居ルコトヲモ考ヘズニ、將校ニ先ヅ勤務、溫良ニシテ且有德ナル市民トナルコトヲ要望シ、利得ヲ收メ得ヌ一ノ階級ガ、何等社會上ノ特權ヲ與ヘラレナケレバ、必然的ニ忽チ社會カラ其地位ヲ認メラレナクナルト云フコトヲ、全ク忘レテ了ツタノデアアル。元來一般社會デハ主ニ財産ニ依ツ

テ上下ノ別ヲ立テルノデアアルガ、獨逸ノ將校ハ從來モ今日モ(幸ニシテ)其大多數ハ無住寺ノ鼠ノ如ク貧乏デアアル。故ニ若シ之ニ特殊ノ待遇ヲ與ヘナケレバ、何ニ依ツテ社會上ノ地位ヲ保ツテ行ケルノデアアルカ。

我が國民ハ世界大戰ガ起ル、獨逸軍ガ連戰連勝スルニ及ビ、將校ハ再ビ國民ノ尊敬ノ的トナツタ。然ルニ間モナク、豫期ニ反シテ終局ノ大成功ガ得ラレナイヲ見テ、其態度ガ變リ、次デ國民ガ事實ヲ甚ダシク隱蔽サレテ居タ事ヲ知ルニ及ビ、曩ノ愛好ハ忽チ憎惡ト變ジテ了ツタ。

之ハ固ヨリ大變革ノ度ニ毎回認メラル、一種ノ現象ニ過ギナイ。即チ其場合ノ民衆ノ怒ハ、何時モ彼等ガ打破セント欲スル狀態ノ主張者、代表者ト認ムル所ノ既存ノ階級ニ向フモノデアアル。ソレデアルカラ、彼ノ佛國第一次革命ノ時ノ過激共產黨ハ、皇帝及貴族ヲ絞殺臺上ニ乗セ、露國ノ過激派ハ文化ト財產トヲ荒ラシ、中世紀ノ獨逸大革命(農民戰爭)ハ騎士ト羅馬法ノ裁判官トヲ追放シタノデアアル。而シテ獨逸ノ社會黨ノ教唆ガ成功シテ、人民ヲシテ、將校ガ戰爭ノ張本人デアリ、遷延者デアルト思ハセタ爲ニ、今迄國民全體ノ爲ニ一生ノ勸勞ヲ惜マナカツタ白髮ノ老將軍ニ迫ツテ、其肩章ヲ剝ギ取ツタリ、時ニハ將校ヲ殺ロシタリ、凌辱ヲ加ヘタリシタノデアアル。(此ノ如キ事ハ獨逸軍隊ニハ到底有リ得ベカラサルモノト今日迄思ハレテ居タノデアアル)勿論此レ等ハ多クハ、所謂「内地ノ戰士」「遠距離勇士」ノ仕業デアツテ、戰地ノ從軍兵ハ、通常依然トシテ其將校ヲ尊敬シ、敬意ヲ表シタノデアアル。

惡意ヲ持ツ人々ノ中ニハ、將校團ガ斯カル運命ニ陥ツタノハ、當然ノ報デアルト云フテ、色々ト其證據ヲ擧ゲル者モ往々アル。四年以上ニモ亘ル戰爭間ニ、而カモ多數ノ將校ノ事デアアルカラ、多少ハ面白クナイ事ノ起ツタノモ、勢ヒ免レ難イ所デアアルノニ、故ラニ其事實ヲ捕ヘ來ツテ、之ヲ一般的事實ナリト誣ヒ、以テ將校團全般ヲ非難スルノデアアル。成ルホド其一、二ノ場合ハ事實デアラウガ、斷ジテ將校ノ通有的惡弊デハナイ。ソハ兎モ角、現役將校ノ大部分ハ、革命ノ當時ニハ、既ニ合同墓地ニ葬ラレテ了ツタカ、サモナクハ病院ニ居タノデアアルカラ、既ニ此ノ點カラシテモ、右ノ非難ハ現役將校團ニハ當ラヌ。若シ夫レニ代ツタ者(戰爭中ニ十五萬人ノ將校ガ新ニ任命サレタ)ヲ對手トスルナラバ、夫レハ從來ノ將校社會ヲ非難スルノデハナク、取リモノホサズ、全獨逸國民ヲ侮辱スルコトニナル。何トナレバ、此レ等ノ新任將校ハ學者及藝術家ヨリ農家ノ子弟ニ至ルマデノ凡ラユル社會、凡ラユル職業ヨリ採用サレタカラデアアル。

今後ハ獨逸ノ全體ト同様ニ、其陸海軍、就中將校團ハ新ニ其基礎カラ造リ上ゲルコトニナツタ。而シテ其際ニ、昔カラノ最善ノ傳統ヲ繼承シ、且ツ革命ノ動搖モ暫時ニシテ治マツタカラ、國民モ亦將校ニ對スル自己ノ元ノ態度ヲ漸ク反省シテ來タ。之レハ甚ダ欣ブベキ傾向デアアル。何トナレバ將校ノ能力及元氣ノ如何ハ、他ノ地位ノモノ、夫レトハ、其影響スル所ガ一層多イカラデアアル。故ニ將校ハ其行爲ヲ慎ミ、國民ノ敬愛ト信頼トニ應ヘルコトガ必要デアアル。

將校團が其團體精神ヲ涵養スルコトハ、毫モ之レガ妨ゲトハナラス。固ヨリ此ノ精神ガ獨リ自ラ高ク止マツテ、他ノ階級、他ノ社會ト隔絶スルコトニナラナイデ、友誼、廉耻及義務ニ就テノ將校ノ共通の意見トナツテ現ハレネバナラス。此ノ如クシテ始メテ、將校ガ國民ノ教育者タルノ高尚ナル責務ヲ果シ得ルノデアアル。

將校トシテノ地位ノ經濟的方面モ亦、極メテ重要ナ事柄デアアル。之ヲ心配ノ無イ、間ニ合フダケノ經濟狀態(夫レ以上ヲ望マズ)ニ置クコトガ、國家ノ爲メニ必要デアアル。

將校ハ相當ノ年齢ニ達スル迄モ、若クシイ元氣ヲ保ツコトガ必要デアアル。將校ハ戰爭ニ於テハ勝敗ヲ運ニ任カセ、生死ヲ賭シテ事ヲ敢行スベキ職分ヲ持ツテ居ル。之レガ爲ニハ、軍人的特性ト共ニ、餘リ物事ニ屈托シナイ快活ナ精神ガ必要デアアル。生活ノ大部分ヲ勞苦ト心配トノ内ニ過ゴシテ、意氣既ニ銷磨セル者ニハ、斯カル精神ヲ保ツコトハ困難デアラウ。一家ノ經濟ニノミ握促シ、何所カノ隅ニ引込ンデ少額ノ恩給ヲ餘生ヲ送り得ルロヲ待ツテ居ルヤウナ將校ハ、軍隊ノ爲ニモ國家ノ爲ニモ到底用ヲ爲サヌ。此ノ如キ輩ニ指揮官タルニ必要ナ元氣ナドガ何所カラ出テ來ルデアラウ。

體力ノ維持モ亦考慮ヲ要スルコトハ、大戰ノ立證セル所デアアル。滿四十五歳乃至五十歳ノ者(戰役ノ後半ニ於テハ、丁度歩兵ノ聯隊長及旅團長ノ年輩ニ相當スル)ガ、其麾下ノ隊ノ攻撃ニ加ツテ開墾地、穀物畑、濕地ナドヲ前進シ、彈雨ノ下ヲ、砲彈ノ爲メニ掘り返サレク土地デ、逐次漏斗孔ヲ利用

シツ、駈步デ通過シ、若シタハ數週ニ亘ツテ陣地内ニ穴居生活ヲ爲サネバナラナカツタ。試ミニ、良ク肥ツタ商人ヤ、吞氣ナ生活ヲシテ居ル大地主、工業家、資産家中ノ同年輩ノ者ヲ、右ノ地位ニ置イタナラバ、年ニ似合ハヌ馬鹿ゲタ仕事ダト云フテ、之ヲ拒マヌ者ハ稀デアラウ。

將校ハ横溢セル青年ノ元氣ノ一部ヲ、終生維持スベキデアアル。夫レニハ或程度マデ日常生活ノ苦勞ヲ免ズルコトガ必要デアアル。其ノ生涯ヲ貫イテ一種ノ高踏的、脱俗的ノ色彩ヲ帶ビタ所ガアルベキデアアル。

將校ノ職務ハ從來ヨリモ一層多方面トナリ、從ツテ復タ困難トナツテ來タ。兵器及戰鬥法ガ多種多樣ニナリ、其進歩ハ駈々トシテ止マル所ヲ知ラス有様ナノデ、將校ガ自己ノ職責ヲ果ス爲メニ必要ナ知識ヲ修得スルニハ、熱心ナル研究ト適切ナル指導トガ必要デアアル。

現役將校團ト共ニ、豫備役將校團モ亦、世界大戰ニ於テ良ク國民ノ期待ニ沿フコトガ出來タ。世界ヲ驚嘆セシメタル獨逸軍ノ武名モ、此レ等ノ將校ニ負フ所ガ少ナクナイ。

列強ハ皆常備軍ノ將校ノ補足ノ爲メニ、吾ガ邦ニ於ケルト略ボ同様ノ施設ヲ爲シテアル。蓋シ之ニ依ラナケレバ、動員セル國軍ノ要求ニ應ズルダケノ將校ヲ、平時カラ準備スル事ガ出來ナイカラデアアル。

本來ノ野戰軍ダケデモ、本職ノ將校ヲ以テ其要員ヲ充タスノハ、(其内ノ多數ヲ豫備兵隊、後備兵隊

國民兵隊、補充隊其他ノ新設ノ各司令部等ニモ出サネバナラヌカラ、到底實行ガ出來ナイ。其缺ヲ補フ爲メニ豫備役將校ヲ採用スル。實際我が陸軍ガ、實行シタヨリモ、少數ノ現役將校ヲ戰地ニ送り豫備役將校ヲ以テ其缺ヲ補ツタ方ガ利益デアッタラウト云フ意見ハ、既ニ前ニモ述べタ所デアアル。野戰軍ニ屬シナイ部隊ニ於テハ、總テ豫備役將校ノ方ガ多カッタ。

戰爭ガ永ビキ、損害ガ増大スルニ從ツテ、豫備役將校ガ益々大切ニナツテ來タ。既ニ千九百十五年以降ハ、各兵種ノ多數ノ中隊ノ指揮ガ豫備役ノ若イ中少尉ノ手ニ歸シ、後ニハ歩兵及砲兵ノ大隊ト雖モ、豫備役將校ノ指揮ヲ受クルニ至ツタ。稀ニハ一時、聯隊ノ指揮ヲ取ツタ者サヘアル。

獨逸ハ敵ノ兵力ノ優勢ト、戰地ノ増加トニ餘儀ナクサレテ、多數ノ師團ヲ新設シタノデアアルガ、若シ一般國民中ニ、相當ノ教育ヲ施セバ、下級ノ隊附將校ノ地位ヲ塞ギ得ベキ適當ノ人物ガ十分ニ無カツタナラバ、到底夫レヲ實行シ得ナカッタデアラウ。既ニ露國ナドガ、唯ダ多數ノ人間バカリ狩リ出シ得ルニ過ギナカッタ時期ニ至ツテモ、我が獨逸ニ於テハ、尙ホ依然トシテ、眞ノ軍隊ヲ戰場ニ立たセルコトガ出來タノハ之レガ爲デアアル。

從來獨逸デハ、苟モ其境遇ノ許ス身分ノ者ハ、皆豫備將校トナルコトヲ希望シタ。夫レハタダニ名譽ノ爲ノミデハナク、良ク其必要ヲ認メ、且ツ自己ノ理想ニモ合致シタノデアアル。而シテ尙武的ナ我が獨逸國民ハ假令本職ノ將校トナル希望ヤ資質ヲ持タヌ者マデモ、悉ク皆兵卒トナルコトヲ希望シ

タ時期ガアツタ。地主、工場主、裁判官、藝術家若シクハ官公吏等ノ、異ツタ方面ノ人々デモ、少ナクトモ豫備若シクハ後備役ノ資格デ、昔ノ若イ時分ノ希望ヲ滿タスコトヲ試ミ、時々軍務ヲ演練シタ夫レガ國家ノ爲メニ非常ニ役ニ立ツタノデアアル。即チ之レガ爲メニ國家ハ、國民ノ死活ニ關スル至難ノ戰ニ於テ、有爲ナ野戰隊ノ將校ヲ得ルノニ、少シモ困マラナカッタノデアアル。

下士卒ニモ、將校ト同様ノ給養及特典ヲ與ヘヌノハ、一見不當ノヤウデアアルガ、少クトモ一般兵役ヲ基トスル國民的軍隊デハ彼等ガ唯ダ一時兵役ニ服スルト云フコトガ著シイ相違トナツテ居ルノデアアル。即チ軍人ヲ以テ終始スル將校トハ、其事情ヲ異ニスルモノデアアル。又未ダ世ノ中ノ苦勞ヲ感ジナイ、若イ時ニ、勤務ニ服スルノデアツテ、短イ勤務年限ヲ濟マセテカラ世ノ中ニ出テ財產ヲ作り出世ヲ爲スベキ將來ノ希望ヲ持ツテ居ル。而シテ下士ノ如キモ、其服務ヲ終ツタ後ニハ、普通ノ方法デハ得ラレヌ地位ニ進ミ得ル望ガアル。兵卒ト雖モ、固ヨリ十分ノ給養ヲ爲ス必要ガアル。之ニ不自由ヲ與ヘタリ、一般國民中ノ他ノ仲間ト比較シテ、不足ヲ感ジサセテハナラヌ。不平ハ軍隊ノ精神的能カヲ損スルコトガ少ナク無イ。勞力及給養ヲ適當ニ行ハネバ、其能力ヲ發揚セシムルコトガ出來ヌ。飽食暖衣ノ怠惰生活ト、過度ノ勞力及貧弱ナル給養トハ、其ニ同一ノ惡結果ニ陥ル。兵卒ノ地位ニ對スル誇ト、勤務ニ對スル趣味トハ其取扱法ノ如何ニ依ツテ自ラ湧キ出テ來ルノデアアル。

備兵ノ軍隊デハ、尙ホ特ニ考慮ヲ要スル點ガアル。兵卒ハ長年月ノ間在營スベキ義務ヲ負フテ居ツ

テ、普通人ガ社會生活ノ上ニ一ツノ地位ヲ占メ、多クハ結婚スル時期ニ至ツテモ、尙ホ兵營ニ留マルノデアルカラ、此ノ點ヲ顧慮シテ兵卒ノ取扱ニ當ルベキデアル。其起居ハ短期在營ノ軍隊ニ於テ普通ニ行ハル、ガ如キスバルタ流ノ單純ナモノトセズニ、恰カモ我が家庭ニ在ルガ如キ感じヲ起サセルモノデナケレバナラス。而シテ當局者ハ彼等ノ爲メニ、其長キ服務ヲ無事ニ終ヘタ後ニ、地方ノ生活ニ移ルコトヲ容易ニシテ遣ルコトニ努ムルノガ、極メテ緊要デアル。在營中ニモ軍務ニ差支ナキ限リハ一般的教育ヲ進メ、且ツ専門ノ技能ノ獎勵、指導ヲ爲セバ、此ノ點ニ於テ利スル所ガ少ナク無イノデアラウ。退營兵ヲ政府ニテ雇傭シ、又一般ニモ一定數ヲ採用サセルコトヲ努ムベキデアル。

國民的軍隊ニ於テハ、下士及兵卒ハ短期間ニ交替シ、獨リ將校ノミ永續的要素ヲ爲ス。毎年古參兵ハ將校ノ手ヲ經テ行ク。斯クシテ全國民ガ將校ノ感化ヲ受ケル。大精神、大時代ガ軍隊内ニ進展セシメ得タ所ヲ、次代ノ國民ニ傳ヘ得ルノハ、只ダ將校ノミデアル。傭兵軍隊ニ於テハ、此ノ點ニ關シテハ、將校ノ効力範圍ガ限定サレテ居ル。其代リニ下士卒ハ其熏陶ノ下ニ一層長ク留マルヲ以テ、將校ガ國民ニ對シテ果タスベキ教育上ノ任務ヲ深刻ニ進ムルコトノ出來ル機會ヲ與ヘラレテアル譯デアル兵卒ガ將校ヨリ學ベル所ヲ、自己ヲ通ジテ其周圍ニ傳播スベキデアル。

此ニ於テ前ニ掲ゲタリユツヘル將軍ノ言ハ、其當時ヨリモ寧ロ今日ニ於テ、一層其眞諦ニ觸ル、モノト云フベキデアル。將校團ヲ貫ク精神ハ、國軍ノ精神デアツテ、又更ニ軍隊ヲ經テ廣ク國民ノ精神

タルベキデアル。

第二章 統帥ニ就テ

第一節 將 帥

歴史ハ、名將ガ戰爭ニ於テ、至大ノ意義ヲ有スルコトヲ吾々ニ教ヘル。アレキサンダーノ指揮ヲ受ケタアケドニア兵ハ、克ク十倍ノ敵ヲ擊破シ得タガ、若シ其兵ガ、アレキサンダー以外ノ大將ノ麾下デ戰ニ敗レタトシテモ、吾々ハ毫モ不思議ノ事トハ思ハヌデアラウ。ハンニバルハ一時カルターゴノ兵ヲシテ、世界第一ノ尙武ノ國民ニ對シテ勝者タルヲ得サセタ。アレミア、フアルサルス及アレキサンドリアノ勝利モ、一ニシーザーノ天才ヲ俟ツテ之ヲ收メ得タノデアアル。フリードリツヒ大王ハ出陣當初ノ精銳ナル軍隊ノ大半ヲ失ツタ後ニモ、尙ホ克ク歐洲諸國ノ兵ヲ相手トシテ戰ヒ、終ニ武名ヲ墜サナカッタ。ロースバツハニ敗レタ佛蘭西兵モ、那翁ノ指揮ノ下ニ立ツニ及ンデ、忽チ歐洲ヲ蹂躪スルニ至ツタ。壓服サレタル國民、或ハ衰退シツ、アル民族ノ軍隊ガ、名將ノ力ニ依ツテ、再ビ勇名ヲ轟カスコトハ、アリストメネヌ、ベリサール、ナルセス、エテウス等ノ實例ニ依ツテモ明ラカデア。既ニ勢力ヲ失ヘルベルシヤ民族モ、ナデル、シャールガ主權ヲ握ルニ及ビ、十八世紀ノ中葉ニ、猛烈ナル侵略戰ヲ行フテ、デルヒニ迫ルヲ得タ。而シテ名將ガ死スルカ、若シタハ隱退スルト共ニ、

其國民ノ武名ノ衰ヘシ事例モ亦、吾人ノ往々目撃スル所デアアル。アルキビアデスガアテンノ兵ノ指揮ヲ執ラザルニ至ツテ、其軍隊ハ遂ニ擊滅サレ、ハンニバルノ助力ヲ許サザルニ及ビ、カルターゴノ運命モ亦忽チニシテ終焉ヲ告グルニ至ツタ。世界ヲ震愕セシメタル蒙古軍ノ如キモ、成吉思汗、巴都、鐵木真等ノ死後ハ、容易ニ之ヲ驅逐スルコトガ出來、土耳其ノ恐怖モ亦、有力ナル「スルタン」等ノ死ト共ニ消滅シタ。佛將チユレンヌガ有利ナ戰爭ヲ行ツテ居ル最中ニ死ンデカラハ、其後繼者ハ多クハ大敗北ヲ續ケ、曩日ノ常勝軍モ、終ニ退イテライン河ヲ守ルニ至ツタノデアアル。フリードリツヒ大王ハ當時ノ歴史記録ヲ認メル際ニ、世人ハカール四世ガ其初ニ非常ニ勢ガ良カツタノガ終ニ至ツテ甚ダシク衰ヘタノヲ、意外ノ事ト思ツテ居ル。然シ其原因ハオイゲン親王ヲ喪ツタ爲メデアツテ、此ノ大人物ノ死後復タ之ニ代ハルベキ者ガ無カツタノデアアルト述ベテ居ラレル。更ニ吾々ノ注意ヲ引クノハ、千八百十三年及其翌年ニ於テ、佛兵ガ那翁ノ居ラス場合ニハ、殆ンド常ニ敗北シ、皇帝ガ陣頭ニ立テバ大抵勝利ヲ得タコトデアアル。

以上ノ事實ニ依ツテ之ヲ見レバ、軍隊ノ精否ヨリモ、寧ロ其將帥ノ稟賦ニ關係スル所ガ多イコトヲ確認シ得ルデアラウ。

然シ此ノ結論ハ、現代ニ悉ク正シク當テ筈マルトハ云ヘヌ。天才的人物ノ勢力ハ、今日ニ於テモ依然トシテ其働ヲ及ボスノデハアルガ、從來トハ其趣ガ變ツテ來テ居ル。

現代ニ於テハ指揮官トシテノ卓越シタ天才ヲ、漸ク實際ニ發揮シ初メテ、世ノ中カラ認めラレルダケノ階級ニ進級スルニハ、特別ノ性格ヲ必要トスル。而シテ「其性格ガ、ヤガテ將帥タラシムルノデアル」ト云フノモ、尤モナ主張デアラウ。然シ非凡ナ性格ハ平時ニ於テ其進級ヲ助ケルヨリモ、寧ロ其妨ゲヲ爲スヤウナ方向ニ發露サル、ノガ常デアアル。佛國ノ革命ガ起ラナカツタナラバ、那翁ヤカルノ將軍ナドハ、確カニ高々中佐カ大佐位デ終ツタデアラウシ、フリードリッヒ大王ノ如キニ至ツテハ、若シ王家ニ生レナカツタナラバ、先ヅ少尉カ中尉位ノ中ニ罷メラレテ了ツタニ相違ナイ。

國軍ガ尙ホ多少共、國民ノ自由ノ應募、任意ノ奉公カラ成立シ、世ノ中ノ事ガ未ダ若干單純デアアル間ハ、偉大ナル將帥モ、周圍ノ事情ナドニ拘束サレズニ、頭角ヲ現ハスコトガ出來ル。斯カル環境ニ於テハ、大ニ其手腕ヲ振ヒ、個人的感化ヲ發揮シ得ル。然ルニ世ノ中ノ秩序ガ整頓シ、從ツテ文化ガ進ムト共ニ、名將ガ其姿ヲ沒シテ了フ。山賊ノ頭目カラ身ヲ起シタル、彼ノナヂール、シヤールノ如キハ、今日ノ獨逸デハ、先ヅ刑務所ノ厄介ニナツテ居ルデアラウ。

今日ハ軍隊ノ精銳ト、其幹部ノ有能トガ、互ニ密接ナ關係ヲ持ツテ居ルコトハ、昔日ノ比デナイ。國軍ノ内部ガ健全デアツテ始メテ、立派ナ將官達ガ其上ニ立ツコトニナル。一度偏愛不公平ノ政治ガ行ハレ、黨閥ノ精神ガ擡頭シ、率直、操守ノ人ヨリモ、柔和ニシテ御シ易キ者ヲ重ンズルノ風ガ起レバ、有爲ナ將官ノ進路ハ忽チ塞ガレテ了フ。

主ナ指揮官等ガ無能デアツタバカリニ、勇敢ナ軍隊ガ敗レタト云フ例ハ、古今ヲ通シテ非常ニ多イ、マヅイ將官ガ上ニ立ツテ、如何シテ優秀ナ軍隊ヲ教育シ得ルカ。又平時ニ於テ眞ニ能ク精銳ナル軍隊ヲ練成シ、裝備シ得タル者ガ、戰時ニ用ヲ爲サヌ筈ガナイデハナイカ。

固ヨリ天才ハ、凡人カラハ到底役ニ立タヌト思ハレルヤウナ物ヲ使用シテモ、尙ホ克ク大業ヲ成就シ得ルノデアアルガ、然シ一般ニハ、優秀ナ軍隊ト優秀ナ將帥トハ、或程度マデ、密接不離ノ關係ニ立ツト見ルコトガ出來ルデアラウ。

將帥タル者ハ危急ノ際ニ、大軍ヲ自己ノ意志ノ如ク動かスヲ要スルノデアアルカラ、人ニ好カル、ヨリモ寧ロ之ヲ統御シ之ヲ支配スル方ノ性格ニ富マネバナラス。生粹ノ支配者タルノ天性ハ、復タ強イ闘士デアアル。故ニ偉大ナル將帥ハ、此ノ種ノ人物ノ中ニ之ヲ求ムベキハ、當然デアアル。

他人ニ對スル支配ハ第一ニ意志ヲ基トスル。斷乎タル要求ハ、反抗ヲ受ケルコトガ却ツテ稀デアアル。斯カル要求ハ若干強制的性質ヲ帶ブルモノデアアルカラ、之ニ從フベキ衆人ハ、其強制ヲ感受シ、夫レニ依ツテ自己ノ身ヲ任せ、自己ノ安全ヲ求メ、爲メニ勇氣ト勵トヲ促進サレル。

強烈ナル意志ハ、自信力ガ無クテハ起ツテ來ルモノデナイ。此ノ自信力ハ復タ、多少ノ單純性（偏見的）ヲ豫件トシテ出テ來ル。夫レガ闘士ニ用ヲナスノデアアル。性來頭ノ良イ者ハ、動々モスレバ其

奮闘中ニ挫折シテ了フ。而シテ陣中生活ト云フ狭イ範圍ノ内デハ、夫レガ爲ニ成功ヲ妨ゲラレル。餘リ早ク事物ノ眞ヲ洞見スル者ハ、夫レカラ起ル心配ヤ、危険ナドヲ感ズルコトモ亦他人ヨリモ敏感デア
ル、夫レニハ疑念——自信力ノ破壊者、成功ノ大敵——ガ伴生スル。千八百六年十月五日ノ普國大本營
ニ開カレタル軍事大會議ニ於テ、シヤルンホルスト將軍ガ、「戦争デハ方法ノ好拙ト云フコトヨリモ、
相當ノ統一トカトヲ以テ實行スルコトガ、一層大事デアル」ト主張サレタノハ、吾々ノ大ニ味フベキ
言デアルト思フ。當時將軍ノ言ガ顧ミラレズ、其席ニハ頭腦明晰ナル士ガ居ツタニモ拘ラズ、遂ニ其
大策ヲ採用スルニ至ラナカッタ。性來明敏ノ人ハ通常最善ノ策ヲ得ントシテ餘リ多クノ時間ヲ費ヤシ
「時機ヲ逸セズニ適當ナ手當ヲ探ルノガ一番大切」ダト云フ訓戒ヲ忘レル。平時ニ於テ最モ尊重サレル
理智モ、戰時ニハ意志ニ對シテ其價值ヲ失フコトハ、殆ンド總テノ軍事會議ノ結果ノ示ス所デア
ル。元來軍事會議ニハ、經驗ヲ積ンダ、識見ノアル人々ガ會合シテ、衆智ヲ一堂ニ集メルコトニア
ルノハ疑フベカラザル事實デア
ル。然ルニモ拘ハラズ、フリドリツヒ大王ハ、其將官達ガ軍事會議
ヲ開クコトヲ嚴ニ禁ジラレタ。惟フニ之レハ、世ノ中ノ事ヲ良ク知り盡セル賢明ナ大王ハ、何時
ノ軍事會議モ結局ハ「臆病派」ガ勝ヲ占メルコトニナルノヲ承知シテ居ラレタカラデア
ラウ。通常
軍事會議ニ持チ寄ル所ノ經驗ナルモノハ、徒ラニ凡ラユル弱點ヲ探シ出シ、其處置ガ戰場ニ於テ
如何ニ危険デア
ルカヲ説明スル外ニ、何等ノ効能ノ無イモノデ、之ニ依ツテ將帥ノ意志ヲ不安、

389788

薄弱ナラシムルニ過ギナイ。夫レデア
ルカラ、「軍事會議」ナル名稱ハ、通常休戰若シクハ敗北ヲ
連想サセル所ノ、面白クナイ言葉ト成ツテ了ツタノデア
ル。此ノ會議ハ常ニ危険切迫ノ豫感ト、
責任ヲ他人ニ分タントスル最高指揮官ノ希望トカラ、開カレタモノデア
ル。

之ヲ要スルニ頭腦ノ人ヨリモ意志ノ人、自信力ノ強イ人ガ、必要ナノデア
ル。

強イ意志ハ傲剛ノ性ヲ帶ビ、決シテ人ニ好感ヲ與ヘルモノデハナイ。而シテ多クハ其持主ヲシテ異
常ノ責任觀念ヲ懷カセルモノデア
ル。

自ラ責ニ任ズルノ勇氣、喜ンデ責任ヲ負フコトハ、將帥ニ缺クベカラザル資質デア
ルガ、夫レガ中
中稀ナノデア
ル。大概ノ人ハ外人ガ責任ヲ負フベキ場合ニハ、何等熟考スル所ナク、至大ノ危険ヲモ
冒スノデア
ルガ、サテ自分ガ其責任ヲ負フベキ場合トナルト、兎角逡巡スルコトニナル。責任ヲ負ハ
サレ、ト云フ言葉ハ、通常不幸ノ場合ヲ意味スルコトニナル。責任ヲ負フコトヲ不幸ナ結果ヨリモ
恐レルノハ、人間ノ不思議ナ天性デア
ル。故ニ自ラ責ニ任ズルノ勇氣ヲ有スルト云フコトハ、要職ニ
在ル將軍ヲシテ、之ニ依ツテ大事ヲ成シ遂ゲサセル所ノ天ヨリノ貴イ贈リ物デア
ル。縦令經驗ト明敏
トニ於テ、多少缺クル所ガアツテモ、夫レヲ補フ所ノ補佐官ノ如キハ、必シモ之ヲ得ルニ難シトセ
ヌ。

責ニ任ズルノ勇氣ハ、高潔ナル精神カラ湧キ出テ來ル。將帥ハ此ノ精神ヲ有シ、之ニ依ツテ其一生

ヲ美化シ、卓然トシテ衆庶ノ上ニ立チ、萬人ノ敬仰スル所トナルベキデアル。此ノ精神ハ天資ヨリ出ツルモノモアルガ、又一生ノ修養ニ依ツテ、之ヲ助長スルコトガ出來ル。萬苦ヲ嘗メ來ツテ天稟ノ美德ハ益々其光ヲ放チ、終ニ人世ノ禍福ニ心ヲ動カサズ、成敗ヲ眼中ニ置カズ、毀譽褒稟ヲ意トセズ、權勢ニ屈セザルノ域ニ達スルノデアアル。

而シテ該博深刻ナル知識モ亦其品性ヲ高ムル所以デアアル。元來人智ノ及ブ範圍ハ決シテ廣イモノデハナイガ、然シ戰爭ハ不可解ナ迷ヲ提供スルモノデモナイ。否ナ普通ノ理智ヲ以テ、單純ニ應用スレバ足リルモノデ、作戰ニハ魔術ヲ以テ窺ハネバナラヌヤウナ暗イ隅ハ無イノデアアル。智ハ自信ヲ高メ無智ハ道德的弛廢ノ初トナル。自己ノ仕事ニ通曉スルコト少ナクトモ、其失敗ヲ防止シ得ルトノ覺悟ハ、其自信ヲ高メル。高潔ナル精神ハ、其人ノ天資ニ出ヅルト、將又修養及運命ノ試練ノ賜物タルトヲ問ハズ、兵卒ガ自己ノ將帥ノ爲メニ、最モ貴シトスル所デアアル。又此ノ精神ハ、國民ノ信賴ヲ繋ギ以テ危險ト災厄トヨリ來ル不良ノ影響ニ堪ヘシメ、又將帥ヲシテ狂瀾怒濤ノ中ニ於テモ克ク泰然タルヲ得シメ、夫レガ電流ノ如ク全軍ノ士卒ノ心ニ傳ハルノデアアル。

『強イ情操トハ徒ラニ強イ興奮、激情ヲ起スノ意デハナク、強イ激情ノ際ニ、心ノ平衡ヲ失ハヌノヲ云フノデアアル。即チ胸中ノ激シイ暴風ノ際ニモ、明察ト、確信トヲ保ツコト、恰カモ激浪ニ弄バレル船ノ羅針ガ、正確ニ方向ヲ示スガ如クデナケレバナラス。』

クラウゼウイツツノ説イタ此ノ「強イ情操」ナルモノハ、余ガ此ニ云フ「高潔ナル精神」ト多少合致スル所ガアリ、克ク全軍ノ將卒ヲシテ信賴ヲ起サシムルニ足ルモノデアアル。

責ニ任ズルノ勇氣ト高潔ナル思想トガ、今日ノ將帥ニ必要ナルコトハ、到底昔日ノ比デハナイ。此レハ國軍ノ兵力ノ増加ト、戰爭行爲ノ範圍ノ擴大トニ基ヅクノデアアル。

試ミニ世界大戰ニ於ケル總司令官ノ心眼ノ視野ガ、如何ニ宏大ナルモノデアツタカ。又如何ニ無數ノ印象ガ日々刻々ニ其中ニ生ジタカラ想像シテ見レバ、思半バニ過グルデアラウ。獨逸ノ東西兩戰場ノ戰線ハ數百軒ニ亘リ、其各所ニハ絶エズ激戰ガ起リ、何時直接ノ干與ヲ必要トスルヤモ知レズ、其上ニ、伊太利、ルーマニア、マケドニア高架索、メリボタミア及シリア等ノ戰場モアリ、又海上及植民地ニ於ケル作戰ニモ心ヲ配バラネバナラナカツタ。故ニ軍集團ヤ方面軍ノ司令官ニハ相互ノ距離ノ甚ダシク遠隔シアル爲メニ、全般ニ關スル狀況ヲ正シク判斷スルコトガ到底出來ナカツタノデ、假令自己ノ方面ノ狀況ニ全然適合スル處置ヲ取ツテモ、動々モスレバ全般ノ情勢ニ適應セヌ場合ガ起リ易カツタ。此ノ如キ結果ニ立チ至ラシメヌコトハ、總司令部ノ責任デアツタ。勿論總司令部ハ現代ノ通信機關ヲ以テ、從來トハ全ク違ツタ方法デ麾下ノ司令官ト、意志ヲ通ズルコトガ出來タ。總司令部ガ自己ノ意志ヲ行ハシメ自ラ干與スルコトガ出來ナカツタ事柄ニ對シテ、責任ヲ負ハネバナラナカツタコトハ、實際ニ絶無デアツタラウ。即チ非常ニ遠隔シ

タ土地ニ於ケル事柄ニ對シテ干與シ得ル可能性モ亦、從來ノ戰爭ニ比シテ遙カニ多ク、從ツテ之ヲ利用シテ、確實ニ指導スルヲ要シタ。之レガ爲ニ、其責任モ亦非常ニ増大シタノデアアル。

純軍事の事項ノ外ニ、更ニ他ノ領域ニ屬スル事柄ガアル。現今ノ戰爭ハ國民ノ政治的、社會的及經濟的活動ノ上ニ深く立チ入ルモノデアアル。其所ニ解決ヲ要スル新問題ガ絶エズ湧キ出テ來ル。而シテ其窮極ニ於テハ(總テガ如何ニシテ戰勝ヲ收ムベキカト云フコトヲ主眼トスルカラ)夫レ等ノ問題ガ作戦ニ如何ナル影響ヲ及ボスカト云フコトニ歸着スル。政府ガ強固デ、作戰ノ要求ニ對シ、理解アル態度ヲ取ルニ從ツテ、將帥ノ仕事ガ容易ニナル、之ニ反シテ政府ガ弱ク、且ツ理解ノ無イ場合ニハ、將帥ノ煩ガ益々多クナル。而シテ議員——自己ノ勢力ヲ張ルコトヲ以テ主眼ト爲シ、而カモ其自負心ニ反シテ、大問題ヲ解決スルノ能力ニ乏シイ議員——迄ガ干渉スルコト、恰カモ大戰ノ後半期ニ於ケル獨逸ノヤウニナルト、將帥ニ對シ、全ク越エルコトノ出來ヌ障礙物ヲ積ミ重ネルヤウノモノデアアル。ルーデンドルフ將軍ノ回想録ヲ讀ンデ、將軍ガ此ノ點ニ就キ如何ニ多大ノ奮闘ヲ爲シタカラ知ツテ、心カラ感動セヌ者ハ恐ラク無イデアラウ。之レガ爲ニ將軍ノ大切ナ勢力ガ、其本來ノ任務カラ割カレタコトハ、少ナクナカツタノデアアル。將軍ノ意志ガ極メテ強固デアツタレバコソ、終ニ克ク斯カル環境ヲモ切り抜ケルコトガ出來タノデアアル。

意志ヲ扶助、促進スルノニ、最モ與ツテ力アルモノハ、名譽心デアアル。旺盛ナ名譽心ハ、將帥ニ缺

クベカラザルモノデアアル。強イ意志ト偉大ナル特性トヲ有スル人ガ、第一人者ニナラウト云フ考ハ他人ノ上ニ卓越シタイト云フ考ノ無イ爲ニ、遂ニ世ニ知ラレズニ終ルコトガ往々アル。フリードリッヒ大王モ「當然ノ榮譽ヲ得ントスルノ願望ハ、人ヲシテ克ク偉大ナル働ヲ爲サシメ、其名ヲ不朽ナラシムル所ノ大事業ヲ爲サシムベキ、最モ強イ衝動デアリ心ノ發條デアリ、不斷ノ泉デアアル」ト言フテ居ル固ヨリ偶然ニ、或ハ殆ンド強制セラレテ、其天賦ノ才能ヲ發揮シタ人モナイデハナイ。クロムウエルワシントンノ如キハ其一例デアアル。元來名譽心ニ就テハ、往々誤ツタ判斷ヲ下ス者モアルガ、夫レハ徒ラニ外面的ノ利益ヲ貪ル慾望ト混同スルカラデアアル。之ニ反シテ眞ノ名譽心ハ、自己ノ存在ヲ死後マデ延長セントスル——永久ニ生キント欲スル自然ノ欲望ノ現ニ外ナラス。意志ハ此ノ有力ナル督勵者ガ無クバ縱令最初ニ夫レガ強烈ニ現ハレテモ、危險ニ遭遇シテ次第ニ鎮磨スル。天資ノ豊カナ人ガ、其初メノ華々シカツタノニ似ズ、何時ノ間ニカ世ニ知ラレナクナルハ、必ズシモ其才能ノ衰ヘテ了ツタモノト斷ジ去ル、譯ニ行カヌ。或ハ哲學ノ影響ヲ受ケテ時ノ人氣ヤ評判ナドヲ無意味ノモノト思ヒ、或ハ仲間ノ嫉視ニ氣ヲ腐ラシ、或ハ又最初ニ容易ニ得タ成功ヲツマラナク感ジテ次ノ成功ニ對スル興味ヲ起サスト云フ場合モアルノデアラウ。之ヲ防止スルモノハ一ニ名譽心デアアル、之レハ恰カモ器械ニ對スル發動機ノ如クニ、絶エズ意志ノ發動ヲ促ガスノデアアル。

人氣ヲ重ンズルト云フコトハ、名譽心ニ縁ノ近イモノデ、之ハ自己ノ名ガ世ノ中カラ忘レラレヌ

コトヲ望ムモノデア。此ノ心ガフリードリッヒ大王ノシレジア征討ヲ起ス刺戟トナリ、夫レニ依ツテ普國發展ノ進路ヲ開拓スルニ至ツタノデア。

形勢ノ非ナル場合ハ、將帥ガ至大ノ試鍊ニ遭フ時デア。ソコデ將帥ハ凡ラユル失望、悲運ニ堪ヘ克ツベキ、特殊ノ資質ヲ備ヘネバナラス。然シ失敗シタ時ニ、平靜思慮及忍耐ヲ失フ傾向ノ強イ性質ヲ持ツテ居ル人ガアル。眞ニ偉大ナル精神ハ、決シテ此ノ如キ弊ニ陥ラス、之ハ吾々ノ理想トスル將帥ニ備フベキモノ、一ツデア。

以上述べた所ニ依ツテ、人トシテノ偉大ナル性格ハ、復タ軍人トシテノ偉大ナル性格タルニ適スルコトガ知レル。

將帥ニ必要ナ其他ノ性格ニ就テハ、其特殊ナモノダケヲ説明スルコトニスル。思慮、勇氣、企圖心注意、明察、忍耐等ノ美質ノ如キハ、何レノ軍人ニモ要求サレルカラ特ニ取り立テ、述べル必要ヲ認めナイ。

將帥ハ人性ノ機微ニ通ズルコトガ極メテ必要デア。抑々軍隊ナルモノハ、眞ニ敏感ナル集團デアツテ、敵ガ屈服スルマデ、豫定ノ計劃ニ從ツテ、右ダノ左ダノニ、無雜作ニ動カシテ居レバ濟ムト云フヤウナ、單簡ナ器械、單純ナ棋子デハ決シテ無イ。無數ノ心的影響ヲ受ケ、其時々ノ氣分ニ依ツテ價値ガ非常ニ變化スルモノデア。失敗ニ遭フテ志氣ガ挫ケ、確信ヲ得テ勇氣ガ増ス。敵ニ對シ多少

ニテモ何等カノ長所ヲ見出セバ、希望ニ輝キ、元氣旺盛トナル。同一ノ軍隊デモ、時ヲ異ニスレバ、同ジ働ヲ見ルコトガ出來ヌ。嘗テ軍隊ニ多大ノ影響ヲ及ボシタル事モ、後ニハ何等ノ影響ヲモ與ヘヌコトガアル。命令ノ内容ノ如何ト云フコトヨリモ、如何ナル方法デ、何人ガ下スカト云フコトガ、一層重大ナ關係ヲ持ツ。而シ之ニ關スル一定ノ妙則ガアル譯デハ無イ。將帥タルモノハ、今軍隊ニ對シテ如何ナルコトヲ要求シ得ルカト云フコトヲ、常ニ判斷シ得ル爲メニ、部下ノ心ヲ洞察スルノ道ヲ解セネバナラス。即チ人ヲ見ルノ明、人間ヲ理解スルノ智ガ無ケレバナラス。既ニシヤルンホルストモ戰爭ノ心理的方面ノ學術的研究ガ、十分一行キ届イテ居ナイノヲ嘆ジ、且ツ「人間ノ心ト云フモノヲ知ルノハ、誠ニ困難デハアルガ、然シ大切ナ事デ、之ハ歴史ノ主ナ効能デア。蓋シ周到ナル大計畫ガ、殆ンド全ク失敗ニ終ツタ事柄ニ就テ、研究シテ行クヨリ外ニ、之ヲ知ルベキ道ガ無イ」ト云フテ居ル。故ニ戰史ノ如キモ屢々見ル如キ古風ナ、乾燥無味ナ事實ノ序述法ヲ爲シ夫レヲ基ニシテ批評的判斷ヲ作り上ゲルト云フ遣リ方デナク、良ク心的方面ニモ觀察ヲ及ボシ、其展開サレタ繪畫ノ素色ガ何デアツタカヲモ説明スベキデア。

卓越シタ軍人モ、往々此ノ點ニ就テ、過ヲ犯シ、或ハ自己ノ元氣ニ任カセテ軍隊ニ過度ノ要求ヲ爲シ、或ハ自己ノ軍隊ニ及シ得ル勢力ヲ輕視シテ過小ノ要求ヲ爲スニ至ルノデア。

何レノ國民、何レノ國軍モ、夫々其特性、氣質ニ應ジテ之ヲ使用シ、統御スルコトガ必要デアルカ

ラ其將帥タル者ニ就テモ、亦夫々特殊ノ資質ニ重キヲ置クコトニナル譯デアル。即チ將帥ノ備フベキ徳性ハ大體共通ノモノデハアルガ、甲ノ國デハ或性質ヲ發達サセ、乙ノ國デハ他ノ性質ヲ發達サセル必要ガアルノデアル。南國ノ兵ガ事ニ當ツテ示ス所ノ熱烈ナル態度ハ、北國ノ軍人ニハ如何ニモ不可解デアリ、又後者ノ長所トスル沈着堅實ハ、恐ラクハ前者ノ冷視スル所デアラウ。自國ノ國民及國軍ニ對スル理解ハ、將帥ヲシテ適切ナル方途ヲ發見セシメ、又人ヲ知ルノ明ニ依ツテ、夫々ノ任務ニ應ジテ、適切ナル人物ヲ選定スルヲ得サセルデアラウ。之ガ既ニ事ノ成就ニ多大ノ貢獻ヲ爲シタモノト云ヘル。即チ巧妙ナル補佐官ヲ得レバ、將帥ノ性格ノ不十分ナ所モ補ハレ、其長所ハ益々之ヲ發揮サセルコトガ出來ル。

想像力ハ餘リ世人カラ注意サレズ、而カモ將帥ニ取ツテ、缺クベカラザルモノデアル。之レハ我が邦ノ教育法デハ繼兒扱ヲ受ケテ居ルガ、少年ヲシテ光榮ト偉大トヲ憧憬シテ偉人ノ後ヲ追ハシメルモノ此ノ心デアアル。但シ夫レガ第一ノ効能ト云フノデハナイ。過度ノ想像力ハ時ニ自己ノ力ヲ過信シテ誤ツタ判斷ヲ下サセルコトニモナルガ、指揮官ニハ此ノ想像力ヲ是非必要トスル方面ガアル。即チ指揮官ハ錯雜セル前進ヤ企圖ヲ行フニ際シ、彼我ノ部隊ガ目下如何ナル状態ニアルカラ常ニ良ク想起シ得、尙ホ二日モ三日モ先ノ狀況ヲ豫想シ得ネバナラス。ジヨミニハ那翁ノ此ノ特性ニ就テ、口ヲ極メテ稱賛シ、之レアルガ爲ニ、那翁ノ總テノ區處ガ容易ニ且ツ神速ニ行ハル、ノデアルト、説明シテ居

ル。那翁ハ麾下ノ軍團、師團、旅團ナドノ位置ヲ常ニ頭ノ中ニ浮ベテ居タカラ、自己ノ目的ニ利スル手段ヲ看過シタリ、忘レタリスルコトガ無ク、餘人ナラバ到底氣ガ着クマイト思フヤウナ事ヲモ案出シ、人ヲシテ奇想天外ヨリ來ルノ感ヲ爲サシメタ。而シテ其大部分ハ實ニ想像力ノ產物デアアル。此ノ力ハ復タ戰史ノ研究ニモ用ヲ爲スモノデ、夫ニ依ツテ斷片的事實ヨリ、一般ヲ窺ハシメ、序述ノ中ニハ僅カニ其表面ニ觸レアル事柄ヨリ、貴重ナ教訓ヲ探シ出スコトガ出來ルノデアアル。

戰史ヲ周到ニ研究セズニ、妄リニ想像ヲ逞シクシテ、徒ラニ危險ヲ想起スルノハ固ヨリ害ガアル。然シ心配性ノ者ニハ想像力ガ足ラヌ爲メニ、却ツテ心配ヲ起スコトガ往々アルモノデ、誤ツタ處置ヲ導キ出ス所ノ千百ノ疑念モ、其源ヲ詮セバ想像力ノ不足カラ來ルノデアアル。即チ敵ノ最近ノ位置及其後ノ經過時間ヲ考ヘレバ、到底來ル筈ノ無イ所ニマデ、敵ガ居リハセヌカト疑ヒ、又搜索ノ必要アラバ他ノ部隊ガ當然既ニ實行シテ居ルベキ筈ノ所ニマデ、無用ナ警戒ノ處置ヲ施スコトニナル。兵力分散ノ弊ハ實ニ想像力ノ缺乏ニ胚胎スル。想像力ハ上カラノ命令及訓令ノ理解ヲ助ケ、又現地ノ位置ヲ知ルニ當ツテモ、地圖ニ就テ良ク想像ヲ浮ベ、夫レニ依ツテ現場トノ比較ヲ速カナラシメル。想像力ハ總テ理論ヲ實際ニ適用スルニ當ツテ、世人ノ信ジテ居ル以上ニ助トナルモノデアアル。

戰爭ニ於テ何時モデ檢算ヲ一々行ツテ居ル時間ガ有ルモノナラバ、或ハ想像ノ必要ガ起ラヌカモ知レヌガ、大抵其様ノ時間ガ無イカラ、爾後ノ行動ノ基トナルベキモノヲ得ル爲メニ、想像力ノ必要ガ

生ズルノデアル。而カモ一刻ノ猶餘ヲ許サヌカラ、指揮官タルモノハ、常ニ想像力ヲ高メ、且ツ之ヲ働カスコトヲ努メネバナラス。

大軍ノ指揮官ノ爲メニ、記憶力ノ必要ヲ輕視スルコトガ多イ。

那翁モ、立派ナ精神ヲ持つテ居ナガラ記憶力ノ無イ人ヲ「家具ノ備ハラヌ立派ナ家屋、守兵ノ居ラヌ要害ノ地」ニ例ヘタコトガアル。元來戰爭ナルモノハ敵ガ吾ニ與ヘ、若シクハ與ヘントスル當惑、混亂ニ對スル不斷ノ鬪爭デアル。故ニ夫レヲ上手ニ免レルコトガ必要デアル。其際過去ノ似寄ツタ經驗 縱令戰史中ノ先例ニテモ）ヲ想ヒ起スコトガ、非常ナ助トナル。假令明晰ナ頭腦ノ人デアツテモ記憶力ノ援助ヲ受ケナケレバ、役ニ立タヌ。經驗ハ記憶力ヲ俟ツテ始メテ用ヲ爲スノデアル。戰爭デハ本來目立タヌ事デ、而カモ軍隊ノ休戚ニ影響スルヤウナ、多數ノ小事ニ對シ、深甚ノ注意ヲ拂フ必要ガアル。故ニ軍ニ長タル者ハ、其優レタ記憶力ヲ働カセネバナラス。而シテ主ニ人名、人物、事實數ナドニ記憶力ヲ働カセルノデアル。地理及戰史ニ次イデハ人物ノ記憶ガ、將帥ノ爲メニ最モ用ヲ爲スデアラウ。之レガ適材ヲ適所ニ用フル助トナルノデアル。

將帥ニ最モ必要ナル資質ノ一ツハ創造的精神デアル（之ヲ發明的天才ト云フテハ少シク語弊ガアルデアラウ）。ベン、アキバガ「總テガ既ニ此ノ世ニ存在シテ居タノダ」ト云フタコトハ、思考ノ世界ニモ、現象ノ世界ニモ適合スル。人ハ祖先カラ傳ヘラレタモノ、又ハ前ニ得タモノヲ以テ、間ニ合ハ

セテ居ル。戰爭デハ一見相似タ狀況ガ繰リ返ヘサレテ居ルヤウデアルガ、然シ全然同一ノ狀況ト云フモノハ、決シテ再ビ起ル筈ガナイ。夫レヲ動カス原因ト力トガ非常ニ多イノデ、到底夫レ等ガ悉ク一致シ得ベキモノデナイ。故ニ將帥ハ既ニ用ヒラレタモノト、少シモ變ラヌ方法ヲ再ビ實施スベキデナイ。少ナクトモ其應用法ヲバ、全然改メテ行カネバナラス。即チ自己ノ發明、自己ノ考案ヲ加ヘル必要ガアル。夫レニハ創造的精神ト興味トガ用ヲ爲ス。之ニ依ツテ不斷ノ創造ヲ實現シテ行クベキデア

ル。此ノ力ニ促サレテ、自然ニ活動スルニ至ルノデアル。此ノ如キ將帥ハ此ノ點ダケデモ、之ヲ有セザル敵ニ對シテ、既ニ多大ノ優越ヲ占ムルコトニナル。

此ノ創造力ニ、意志、名譽心、功名心ナドガ加ハレバ、此所ニ企圖心——實行ノ熱——ガ湧イテ來ル。同等ノ能力ヲ有スル所ノ將軍ガ相對抗スル場合ニハ、企圖心ニ富ム者ノ方ガ優勝ノ地位ヲ占メルコトハ、當然デアル。此ノ企圖心ガアレキサンダーヲシテ、大ヲ爲サシメタノデアル。或ル史家ガ大王ヲ以テ「相手ガ欲シクテ堪ラズニ、世界ヲ遍歴シテ歩ルク武者修學者」ニ譬ヘタノハ、適評ト云フベキデアル。

尙企圖心ハ自己ノ精神及肉體上ノ力ニ對シテ、多大ノ要求ヲ爲スモノデアル。ソコデ身體ノ強健ガ將帥ニ取ツテ、非常ニ大切ナ事ニナル。病身デアリナガラ、偉勳ヲ奏シテ大ニ名ヲ成シタ將軍モ無イ

デハナイガ、夫レハ其人ノ意志ガ異常ニ強固ナ事ヲ立證スルモノデアツテ、若シ意志ノ力ノ一部ガ肉體上ノ缺陷ニ依ツテ壓迫サレナカツタナラバ、更ニ大ナル仕事ヲ成シ遂ゲタニ相違ナイ。トルステン
ト^ンハ擔架ノ上カラ軍隊ヲ指揮シ、華々シイ征戰ヲ企テタガ、終ニ病ニハ勝テズ、僅カニ四十歳ヲ越
エタバカリデ、其莊園ニ隱退シテ、麾下ノ軍隊ト勝利トヲ放抛スルノ止ムヲ得ザルニ立チ至ツタ。實
ニ關節炎ハ瑞典カラ此ノ名將ト光輝アル征戰トヲ奪ツタノデアル。

人ハ自然ノ法則ニ勝ツコトガ出來ヌ。病身ノ人ガ、絶エズ生氣ニ充チ且ツ明透デアリ得ル筈ガ無
イ、斯カル人ハ兎角自己ノ一身ニ心ヲ煩ハサレテ、心身ヲ打チ込ムベキ大事業ニ専ラナスヲ得ヌノデ
アル。

現今ノ軍隊ニ於ケル指揮官ハ、年ヲ取ツテカラ、始メテ高イ地位ニ進ムノデアルカラ、其健康ガ一
層必要トナツテ來タ。獨逸ノ軍隊ニ於ケル勤務ハ以前カラ骨ガ折レ、餘程強健ナ者デ無クバ、中々最
高ノ階級ニ進ムマデ、職務ノ勤マルダケノ元氣ヲ維持スベキ見込ガ無カツタ。

經濟狀態ノ豊カナ事ハ、軍隊指揮官ニ取ツテ有利デコソアレ、決シテ害ニハナラス。夫レガ自信ト
不羈ノ心トヲ起コサセル。之ヲ善用スレバ、肉體上ノ元氣勢力ヲ維持スル助トモナル。富ハ凡庸ノ人
間ニノミ危険トナル。

勇氣ハ何レノ軍人ニモ勿論必要デアルガ、之ニ就テモ猶ホ一言セネバナラス、將帥ニハ特殊ノ勇氣

ヲ必要トスル。

古代ノ神々英雄ハ、自分ヨリ強イ者ニ對シテ逃ゲルコトヲ何トモ思ツテ居ナカツタ。故ニオリ
ムピアノ神話ニモ其例ガ澤山ニ出テ居ル。今日吾々が勇氣ト云フコトニ就テ持ツテ居ル所ノ信念、即
チ闘士タルモノハ自分ガ敗レルト信ズル所ノ危険ニ對シテモ、尙ホ夫レニ反抗スベキデアルトノ考ハ
深ク基教ノ倫理ニ根柢ヲ持ツテ居ルノデアル。其倫理ハ即チ「義務ノ爲ニハ自己ノ生命ヲ毫モ顧テハ
ナラス」ト吾々ニ教ヘテ居ル。ソコデ小膽ナ者デモ、自己ノ周圍ノ者ノ勇敢ナ手本ニ促サレテ、止ム
ヲ得ズ前進スルニ至ルモノデ、戰友カラ臆病者ト罵ラル、コトハ、結局死ヨリモ恐ロシイノデアル。
然シ此ノ教育ニ依ツテ養ハレタル勇氣ハ、將帥ノ爲ニ用ヲ爲ス所ノ勇氣デハナイ。將帥ニ必要ナノ
ハ、極メテ稀ナ特性タル、生レナガラノ、生粹^{ナツク}ノ勇氣デアル。此ノ勇氣ハ其人ガ自ラ意識スル内ニ自
ラ用ヲ爲シテ居ルノデアル。

大部分ノ者ハ、危険ニ當面シタ場合ニ、廉恥心ト自尊心ノ力デ、自己ノ態度ヲ亂サヌヤウニ努メ
ル。此ノ種ノ勇氣ト、異常ニ強イ大キナ心カラ出タ勇氣トノ間ニハ、外形上ハ殆ンド差別ガ分ラヌノ
デアル。然シ前者ハ潛カニ心ノ中デ自己ノ面目ヲ保チ、自己ノ勇氣ヲ維持シ、態度ヲ亂サヌコトニ頻
リニ努力シテ居ルノデアツテ、其精神上ノ勢力ノ大部分ハ、自己一身ノ事ノ爲ニ費ヤサレ、平生ヨリ
ハ其理智ノ働ガ鈍ブル。心ノ光ハ深イ霧ノ爲ニ遮ギラレ、自分デモ驚クホドニ任務ニ堪ヘナクナル。

生レナガラノ勇氣、生粹^{キツク}ノ勇氣ハ、何等ノ技工、何等ノ注射ヲ必要トセヌ。死ヲ恐レヌコトハ全ク日常ノ茶飯事ニ屬シ、他ノ精神ヤ道德ノ働ハ、之レガ爲ニ少シモ鈍ラヌ。否ナ其働ガ却ツテ高マル。是レハ其時ノ興奮ガ内方ニ壓迫ヲ加ヘ、力ノ緊張ヲ來スカラデアル。危險ノ絶頂ニ達シタ瞬間ニ於テ他ノ者ハ總テ働ガ鈍ブル場合ニ、卓越シタ軍人ノ資質ヲ備ヘタ者ガ、其頭腦ノ益々明晰トナリ、工夫力ニ富ンデ來ル有様ヲ見テハ、何時モナガラ驚嘆ヲ禁ジ得ヌ所デアル。

他人ガ勇氣ヲ持タヌノヲ不思議ト感ズルホドノ勇者ニシテ、始メテ其戰友中ニ卓然トシテ頭角ヲ現ハスノデアル。印チシエークスビーアガシーザーニ許シタ所ノ勇ガ夫レデアル。

シーザー「自分ガ今迄ニ聞イタコトノ内デ一番驚イタノハ、人間ガ總テノ者ノ免レヌ運命タル死ヲ恐レルコトデアル。何時デモ來タイト思フ時ニ來サセルガ良イ。」

面倒ナ條件ガ多數ニアル點カラ考ヘテモ、完全ナ將帥ノ資質ハ、中々得ラレヌコトガ分ル。フリードリッヒハ完全ナ將帥ノ得難キコトヲ「黄金ノ山ブラト」ノ理想國、練金ノ術」ナドニ譬ヘテ居ル。木耳^{クニ}ノ遺書ニハ、名門ノ出、精神ノ高尚、叡智、機略、敢爲、膽力、決斷、先見、堅忍、深慮等ヲ以テ將帥ノ資格トシテアル。オノサンデルハ首將ノ資格ヲ、寡欲、質素、儉約、勤勉、明智、高尚、中年、家長(成ルベクハ名門ノ出)ト爲シタガ、之デハ平凡ノ將デ、到底、アレキサンダー、シーザー

フリードリッヒ、那翁ナドヲ標準トシタモノデハナイ。

種々ノ特性、——而カモ其中ニハ往々相反スル特性——ガ、適度ノ均衡ヲ得ルト云フコトハ、極メテ少ナイモノデ、天ガ稀ニ此ノ世ニ下ス所ノ贈物デアル。

此ノ如キ多クノ特色ヲ一身ニ併セ備ヘタル名將ハ、同時ニ又、吾々ノ心ヲ直チニ捕ヘテ了フヤウナ立派ナ人物デアアルベキ筈ノヤウニ思ハレル。然シフリードリッヒ大王ヤ、那翁ナドニ接シタ人々ハ、何レモ皆之ヲ肯定シテ居ラス。

明^{アキラ}ルイ所ホド影ガアルト云フ諺ハ、此ノ場合ニモ適合スル。詳シク考察スルニ從ツテ、將帥、殊ニ今日ノ將帥タルベキ者ニハ、人トシテ美ハシクモ無イ性質ヤ、特殊ノ性格——苟モ缺點ガアレバ假令如何ナル長所ガアツテモ、其人ヲ許スコトノ出來ナイ尋常人ナドカラハ、到底承認サレヌヤウナ特殊ノ性格——ヲ必要トスル。

意志ノ力ハ頑強ナ所ガナケレバ實現サレナイ。現今ノ戰爭デハ、決戰ノ直前及直後ニ非常ナ人數ヲ集メ、之ニ依ツテ無數ノ災厄ト不幸トヲ生ズルノデアル。數十萬ノ兵ガ戰ツタ戰場ハ、唯ダ人類ノ凡ラユル悲嘆ヲ包ム一大墳墓デアアル。「其様ナ事ガ是非共必要ナ手段デアツテ、他ニ方法ガ無いノダ」ト云フコトヲ、理論的ニ立派ニ證明シテ、吾々ニ對スル世人ノ憎惡ノ念ヲ除クコトハ、到底出來ルモノデハナイ。此ノ如キ場合ニ臨ンデハ、平生如何ニモ強硬ナ態度ヲ示シ(心ノ中ハ弱イノデアアルガ)、且ツ

口舌ノ上デハ、屍山血河ヲ物トモセヌウナ人々ガ、却ツテ一番心ガ弱クナル事ガ、屢々アル。此ノ弊ヲ救フニモ亦、特別ノ性質ヲ必要トスル。夫レハ將帥ニ必要ナル崇高ノ感情ニ近イモノト想ハル、所ノ不動心——心ノ強固デアアル。

吾々ハ往々名將ハ人間ヲ輕視スルモノダト言フガ、夫レニハ説明ヲ加ヘル必要ガアル。即チ夫レ一個人ノ運命ヲ輕視スルト云フ意味デ、而カモ夫レガ大目的ノ爲ニ行動スル場合ニ限ルノデアアル。現ニフリードリツヒヤ那翁ト雖モ、其日常生活ニ於テハ優シイ一面ガアツタノデアアル。

然シ大目的ハ、民衆ニ良ク分ラヌ時ガアル。目前ノ状態ニ心ヲ奪ハレルト、大目的ガ見えナクナル。其場合ニハ將帥ノ至當ノ強硬ナ態度ヲモ、冷酷ナ心ト誤解シテ吾々ニ反對スルニ至ルノデアアル。大軍ニ將タル者ガ、情愛ノ心ニ動カサレ、傷者ヲ慰問シ、戰死者ノ墓ヲ吊フノハ、確カニ貴重ナ時間ヲ費ヤス恐レガアルデアアルガ、然シ、夫レデモ尙ホ吾々ハ、僅カニ生殘ツタ、疲レ果テ各大隊ニ對シ未ダ何ニカノ役ニ立タヌカト、平然ト見廻ハスヤウナ冷ヤカナ人ニハ、恐ヲ爲スノデアアル。

一見惡ムベキ無感覺ナルガ如キ冷靜ハ、戰爭ニ於テ大事ヲ成就スベキ者ニ必要ナ性質デアアル。唯ダ將帥ニ許スベカラザルコトハ——歴史ノ永久ニ認容セヌ所ノモノハ——敵ニ負ケルコトデアアル。強固ナル性格ノ人、剛毅ノ人ハ絶エズ之ヲ念トシテ居ル。其身邊ノ者ノ不興ナドニハ少シモ心ヲ動カサレヌ爲メニ、益々強剛ニ見エルノデアアル。

名將ハ人トシテ缺陷ガアルノミデナク、精神上ニモ若干不完全ナ所ガアルヤウニ見エル。シエクスピアノ作ニ依ツテ見レバ、シーザーガ死ヲ恐レヌ言葉ノ中ニモ、宿命論的ノ傾向ガ現ハレテ居ル。運命ヲ信ズル傾向ハ大抵ノ英雄ニアツタモノデ、偏シタ精神ヲ持ツテ居ルコトヲ表明スルモノ、ヤウデアアルガ、然シ其事情ハ十分諒察スルニ難クナイ。蓋シ英雄ハ自己ノ體驗カラ、或ル力ガ種々ノ原因——豫想ノ出來ナイ、少サナ、而カモ人力ヲ以テ左右シ得ラレヌ種々ノ原因——ト相俟ツテ、働ラ爲スコトヲ知ツテ居ル。從ツテ其時々ノ勝敗ヲ決スル運命ナルモノヲ信ズルニ至ルノデアアル。此ノ事柄ト、アレキサンダーヨリ那翁ニ至ルマデ、總テノ英雄ガ、自己ノ天ヨリ受ケタ使命ヲ信ジテ、如何ナル大難ニ遭遇シテモ、毫モ屈セズニ、確信ヲ以テ斷行シタ事實トハ、一見相反スル如ク思ハレル。然シ其根本ニ遡ツテ考ヘレバ、幸運ハ有爲ノ者ノ許ニノミ長ク留マルノデ、フリードリツヒ大王ノ所謂「僥倖ノ神」ハ、結局吾々ニ禍福ヲ等分ニ與ヘルトノ確信カラ出テ居ル。即チ徒ラニ天運ヲ信ズルノデアナク、自己ノ有爲ニ信賴スルノデアツテ、夫レガ名將ニハ自分ガ天ノ使命ヲ受ケタモノダト云フ信仰トナツテ現ハレルノデアアル。

以上述べタ所ニ依ツテ、外見上ハ精神ノ缺陷トモ思ハル、所ノ心ノ頑強ト云フヤウナ事ニ對シテモ吾々ハ、違ツタ見方ヲ爲シ、且ツ之ヲ許容スベキモノデアアルコトガ分ル。次ニ述ベル事柄モ亦、英雄ノ特征ニ伴ツテ生ズルモノデ、外見上ハ更ニ一層惡イモノ、ヤウニ見エルガ、之レトモ實ハ、現代

ニ於テ其必要ヲ感ズルコト、毫モ從來ニ讓ラヌノデアル。

アレキサンダーヤシーザーノ如キ人物デモ、今日ノ軍隊ニ入レバ、其將帥タルノ天資ヲ十分ニ發揮スル爲ニ、先ヅ少尉カラ歷階シテ將官ノ地位ニ進マネバナラス。此ノ長キ道程ノ中ニハ、一般ノ生活ヤ、公務上ノ交際ニ起ル所ノ幾多ノ暗礁ヲ乗り越サネバナラス。其場合ニ、放膽デ、大度ナ天性ノ人ヤ、極メテ失敗ヲ招キ易イ。金ガ無クテ、氣前ノ良イ、交際ニ努メル者ガ、今迄ニ屢々不幸ナ境遇ニ陥ツテ居ル。正直デ情誼ニ厚イ者ガ、上官ヤ同僚ノ運命ニ卷キ込マレタ者モ往々アル。卓越シタ將校ガ、不當ノ取扱ヲ受ケタ部下ヲ見捨テルニ忍ビズト爲シ、其部下ト共ニ身ヲ退イテ、多望ナ前途ヲ抛ツタ者モアル。

此ノ危険ヲ免ル、爲ニハ故ラニ、控ヘ目ニシ、獨全主義ヲ取ツテ同僚ノ大部トハ交際ヲ避ケル外他ニ良法ガ無イコトニナル。ソコデ將校團ノ爲ニハ最モ有害ナリトシテ排斥スベキ利己心ガ擡頭シテ來ル。然シ此ノ弊ハ免レ難イモノデアル。實際何人ト雖モ、全ク此ノ心ヲ棄テ、人ノ世ニ大事ヲ爲シ遂ゲタ者ガ無イ。然シ此ノ點ニ就テモ凡庸ノ者ト、天ヨリ大事ヲ爲スベキ使命ヲ受ケタ不出世ノ資質ノ者トノ間ニハ、重大ナ區別ノ存ズルコトヲ知ラネバナラス。前者ニハ自我ノ偏愛ノ外何物モナイノデアル。之ニ反シテ後者ハ自ラ意識シテ、世界ノ最善ノ爲ニ盡スベキ將來マデ、暫ラク自己ノ力ヲ保存セントスルモノデ、小事ノ爲ニ之ヲ消散スル事ヲ許サヌ。ソコデ總テ日常ノ瑣事ナドニ對シテ、

或程度マデ超然タル態度ヲ取ツテ居ル事ガ、多クハ大人物ヲシテ過早ニ其勢力ヲ消耗セシメタコトニナル。然シ此ノ特性ハ決シテ人ニ好レルモノデハナイ。故ニ大英雄ハ（少ナクトモ今日ニ於テハ）青年時代ニ僚友カラ愛サレタコトハ稀デアツテ、多クハ冷淡デ打算的ダトノ非難ヲ受ケタノデアル。

冷淡ナ獨全主義ハ夫レヲ意識シテ行フニセヨ、將タ又性ニ出ヅルニセヨ、年月ヲ經ルニ從ツテ總テノ方面ニ於テ、只管自己ノ利益ノミヲ謀ル弊ニ陥ルノハ、欺クベカラザル事實デアル。故ニ立派ナ將軍ヤ政治家ナドニ、財産ヤ利得ノ事デ、餘リ感心スルコトノ出來ナイ傾向ヲ示ス者ヲ、隨分見受ケルノデアル。而シテ衆人ガ天下シタ此ノ大人物ニ對シテ、其偉大ナル資質ヤ總テノ善良ナ性格ヲ嘆美スル際ニ、老熟ノ人ハ、此ノ見易キ、差シテ害ノ無イ事ニ就テ、其人ノ爲ニ惜ンデ、潜カニ眉ヲ嘸メルノデアル。然シ根本ニ遡レバ、其大ヲ爲サシメタルモノト、全ク同一ノ性格ガ、此ノ場合ニモ働イテ居ルノデアル。全ク無慾ノ性質ノ者ハ、將帥ノ地位ニ達スル迄ノ長イ道程中ニ、必ズ何等カノ不幸ヲ招クデアラウ。前ニモ述べタ如ク、吾々トシテハ友誼上、此ノ如キ者ノ榮達ヲ切ニ望ムノデアルガ其最高ノ地位ニ昇ルノハ極メテ寥々タルモノデアル。

立派ナ人デ、何時モ金ヲ惜マズニ出シ、夫レヲ最後マデ止メナカッタト云フ特例モアルガ、夫レハ大人物ノ中デモ、極メテ稀ニ見ル所デアル。

一流ノ將軍ニ在テハ、其歴史的ノ大目的ト、自己ノ聲名ニ就テノ慾望トガ融合シテ、不可分ノモノ

トナツテ居ル。夫レガ既ニ利己ノ一ツノ閃光トモ見ルコトガ出來ル。現ニフリードリッヒ大王ハ大臣ノボーデウイルスニ宛テ、ホーヘンフリーデベルグノ決勝戦ノ前ニ、左ノ如キ書簡ヲ送ツテ之ヲ大膽ニ告白シテ居ル。

「余ノ名譽慾ハ、余ノ家ヲ大ナラシムコトニ就テ何人ヨリモ多クノ仕事ヲ爲シタコト、及ビ歐洲諸國ノ帝王ノ中デ、一カドノ割役ヲ演ジテ來タコトデアアル。之ヲ維持スルコトハ同時ニ又、余ガ自己ノ運命ト生命トヲ賭シテ果タサント欲スル所ノ個人的義務デモアル。余ハ此ノ外ニハ、何等ノ望ヲ持タヌ。余ハ自己ノ勢力ヲ主張スルノデアラウ。然ラザレバ、其勢力ハ失墜シ、且ツ普國ノ名ハ余ト共ニ葬ラル、カモ知レヌ」

「フリードリッヒノ大ヲ爲サズシテ、何ンゾ普國ノ大ヲ見ルヲ得ン」ト云フノガ、大王ノ抱負デアッタ。余ハ茲ニ大王ガ右ノ書ヲ認メタ時ノ精神ニ敬意ヲ拂ヒ、總テノ英雄ニ對シテ、其高尚ナル利己ノ心ヲ赦シテ置ク。

上述ノ如キ歴史の考察ニ依ツテ、今迄ニ軍人トシテ名ヲ爲シタ人々ガ、必ズシモ世人カラ好マレル所ノ人間トシテノ美ハシイ性格ノミニ依ツテ著名トナツタノデハナク、普通ノ生活デハ却ツテ差支ヲ生ズルヤウナ、必然ノ伴生的性格ヲモ持ツテ居タト云フコトガ分ツタ以上ハ、若イ天資ノ豊カナ人々ノ軍隊ニ於ケル榮達ニ對シテ、此ノ伴生的性格ヲヤカマシク云フテハナラヌコトニナル。

何人ヲモ再任セズ、又優良ノ分子ガ去ツテモ、軍隊ハ依然トシテ存続スルヤウナ組織ニナツテ居ルコトハ、誠ニ結構デハアルガ、夫レガ爲ニ、唯ダ好マシクナイ性格ヲ持ツト云フ理由ダケデ、有爲ノ人物ヲ除イテハナラス。人ニ好カレルヤウナ氣風ヲ獎勵スル事ハ、容易ニ傳播スルモノデアアル。故ニ其能力ヲ發揮スルノ關係ノ無イ性質ニ對シテ寛大ノ取扱ヲ爲スコトハ、指揮ノ向上ヲ望ム所ノ軍隊ニ取ツテ必要デアアル。上官カラ見テ取扱惡イ部下ヤ、同僚カラ見テ仲間交際ノ良ク無イ人物ノ中カラ、後日卓越シタ將軍ガ出ルコトガ往々アル。

固ヨリ將校團ノ社會的地位ノ上カラ見テ、是非共必要ナル、人トシテノ徳性ガアル。然シ其働ニ依ツテ個性ノ缺陷ヲ購ヒ得ル有爲ノ者ニ對シテハ、爲シ得ル限リハ寛大ニ見ルガ良イ。吾々ガ大事業ヲ期待スル所ノ天才の人物ヲシテ、軍隊ノ秩序ヲ亂サズニ低イ位置カラ速カニ進級セシムベキ道ハ、上述ノ方法ニ依ルノ外、他ニ手段ガ無イ。將帥ヲ故ラニ求メント欲シタ結果ハ、遂ニマツクスヤマツセシムバツハノ輩ヲ選定スルニ至ツタノデアアル。リュヘルノ如キ者ヲ得タノハ、僥倖デアアル。夫レヨリモ寧ロ強硬ナル性格ノ者ノ爲ニ、進路ヲ開イテ其驥足ヲ十分ニ伸バスタケノ自由ヲ與ヘル方ガ、却ツテ安全デアアル。

第二節 司令部ト其職員

普國參謀本部ノ戰史部ノ編纂ニ係ル「千八百五十八年伊太利戰役」中ニ左ノ一節ガアル。
「一軍ノ司令部ノ編組ハ大切ナモノデアアルガ、今迄ハ往々ニシテ夫レガ、十分ニ認メラレテ居ナカ
ツタ。將帥中ニハ何等ノ助言ヲ要セズ、自ラ考ヘ自ラ決定スル人ガアル。其幕僚ハ唯々實行サヘ
スレバ良イノデアアル。然シ此ノ如キ百年不出ノ名將デアアル。」

普通ノ場合ニハ、一軍ノ首將ニハ、是非共助言ヲ必要トスル。而シテ此ノ助言ハ多クハ、學識及
經驗ニ富ミ、適切ナル判斷ヲ下スニ足ル所ノ少數者、若シクハ稍々多數ノ者ノ評議ノ結果ヲ以テ
スルデアラウ。然シ此レ等ノ人々ノ間ニ於テモ、唯一ツノ意見ダケヲ採用スル。此ノ場合ニモ軍
秩ヲ顧慮スル司令官ノ許ニハ、此ノ一ツノ案ノミヲ提出シテ、其査閲ヲ受ケル。而シテ此ノ提案ノ
任ニハ適任者ヲシテ之ニ當ラシメル。司令官ハ、此ノ任ニ當ルベキ者ヲ必ズシモ古參ノ順序ニ依
ラズニ、自己ノ信任ニ從ツテ適宜ニ選定スル。其提出シタ案ガ假令毎回最善ノモノデナクトモ、
唯ダ合理的ノモノ、合理的ノ方向ヲ取ツテ居ルナラバ、尙ホ夫レカラ適當ノ進展ヲ導キ出スコト
ガ出來ルデアラウ。其際司令官ハ、其實行ニ就テノ責任ヲ自ラ負フト云フ重大ナ役目ヲ、提案者
ノ前デ引キ受ケルノデアアル。

若シ首將ノ周圍ニ、互ニ關係ナキ若干ノ人ヲ置クトキハ（其人員ガ増シ、其地位ガ高ク、其頭腦
ガ明敏ナルニ從ツテ、益々不結果ニナル）、首將ハ甲ノ意見ヲ聞キ、又タ乙カラモ意見ヲ聞ク。ソコ

デ相當ニ適切ナル處置ヲ或程度マデ實行シテカラ、更ニ方針ヲ異ニスルヨリ適當ナル處置ヲ實行
スルコトニナリ、次デ丙カラ、如何ニモ尤ト思ハル、非難ヲ聞キ、丁ガ更ニ其救濟策ヲ提案スル
ト云フヤウナ譯デ、多數ノ者ガ一事ニ向ツテ競争スルコトニナリ、如何ニ理窟ニ合フ處置ヲ取ツ
テモ、結局ハ戰爭ニ敗ケテ了フノデアアル。

何レノ軍司令部ニモ、一ツノ企圖ガ提案サル、毎ニ、非常ナ明敏サヲ以テ、夫レニ對スル凡ラユ
ル難點ヲ列舉スル輩ガ必ズ幾人カ居ル。而シテ此ノ輩ハ、事ガ少シク紛糾シ始メルト、自己ノ前
言ヲ擧ゲテ、自分ガ皆夫レヲ豫見シタ通リダト、主張スル。此ノ輩ハ何時デモ理窟ニ勝ツ。夫レ
ハ多少デモ積極的性質ヲ有スル事ナドハ、容易ニ自ラ提案モセズ、實行モセヌカラ其結果ノ爲ニ
自分ガ閉口スルコトガ決シテ無イカラデアアル。此ノ種ノ消極的人物ハ首將ノ爲ニ有害無益デア
ル。

最モ不利ナルハ、首將ガ更ニ上カラノ監督ヲ受ケ、其所ニ自己ノ考案、計畫及意圖ニ關スル告報
書ヲ、一々提出スルヲ要スル場合デアアル。獨斷專行、神速ナル決心、果敢斷行ハ戰爭實行ノ爲メ
是非共必要デアアルガ、司令部ニ最高權威者ノ代表者ガ居タリ、後方カラ電報デ指圖サレタリシテ
ハ、夫レ等ノ事ガ到底實現サレナイ。

此ノ警告ハ千八百五十九年ノ奧國軍司令部ニ關スルモノデアアルガ、然シ司令部ノ組織ノ不良ナリシ

實例ハ必ズシモ外國ノ戰史ニ求ムルニ及バヌ。我が邦ニモ遺憾ナガラ、其實例ガ澤山アル。千八百六年ノ役ノ總司令部へ、到底十分ナ指揮ガ出來ナイヤウナ組織ニナツテ居タ。クラウゼツイツハ戲ニ之ヲ評シテ、「軍ヲ指揮スル爲ニ招集サレタ一種ノ會議ノヤウナモノダ」ト云ツタガ、實際モ殆ンド夫レニ近イモノデアツタ。當時ブラウンシュワイヒ太公ガ本來全軍ヲ指揮スルコトニハナツテ居タガ、太公ニハ其兵力ノ一部タル所謂本軍（ハフツトケル）ガ隸屬シ、他ノ大部分ノ指揮ニ任ゼルホーヘンローへ侯ハ、半ハ太公ニ屬シ、半ハ對等ノ地位ニ置カレタ。其武將トシテノ聲名モ、略ボ太公ト同等デアツテ、車中デハ、寧ロ太公ヨリモ評判ガ良カツタ。侯自身モ亦自分ノ國ノ爲ニ、獨立的ニ行動シ、十分自分ノ意見ヲ通ホスベキモノト考ヘテ居タ。參謀長ノマツセンバツハガ夫レヲ援助シタ。リユツヘルモ亦、之ニ似タ關係ノ地位ニ居ツタ。ソコデ此ノ兩者ノ要求ニ應ズル爲ニ、二ツノ軍ヲ編成シタノデアアル。然ルニ太公ノ本軍ニハ國王（フリードリッヒ三世）モ居ツタ。王ハ唯ダ自分ノ出陣ニ依ツテ、總テノ處置ノ威力ト進捗トヲ助成スル目的デ來タノデアアルガ、會議ノ席ニハ國王モ臨ミ、太公ハ其重要ナ事柄ニハ國王ノ意見ヲモ聞イタ。國王ニハブルト云フ參謀本部ノ最高級ノ將校ガ隨行シタ。參謀總長ノゴイザウハ陸軍大臣ノ行政事項ニ没頭シテ居タノデ、ブルガ事實上ノ參謀總長デアツタ。尙ホメルレンドル元帥モ國王ニ隨行シタ。元帥ハ其前年マデ、豫備軍團ヲ率キタ人デ、既ニ滿八十二歳ノ高齢ニ達シテ居タカラ、到底陣頭ニ立ツコトハ出來ナカツタガ、多年ノ經驗ガ又何ニカノ役ニ立ツデアラウト

云フ考ガ國王ノ心ノ中ニアツタノデアアル。更ニ國王ガ以前カラ信任シタザストロウヲモ、其本營ニ招致シタ。執奏役タル待從武官フオン、クライスル大佐モ其地位ノ重要ナリシ關係上、是レ又同様ノ勢力ヲ振ツタ。尙ホ又本軍ノ豫備隊ノ指揮ニ任ジ、且ツ常ニ國王及太公ノ近側ニ居ツタカルクロイトモワキ役ヲ演ジタ。外交官等モ亦會議ニ出席シ、議決ニ加ハツタ。會議ノ際ニ太公ノ味方ハ、其參謀長タルシャルンホルストダケデ、而カモ夫レガブルヨリモ停年ガ下デアリ、尙ホ又無能デ、近頃軍隊ニ入ツテ、勢力ヲ張ツタ、マツセンバツハナドヨリモ下デアツタ。故ニ本來ノ總司令官ノ味方ハ、既ニ其數ノ上カラ云フテモ、餘リ勢力ガ無カツタ。實際ニ勢力ヲ振ツタノハ、國王ノ身邊ノ人達デアツタ、ソコデ自ラ指揮スベキ太公ガ、却ツテ他人ノ爲ニ指揮ヲ受ケルヤウナ始末ニナツタ。（クラウゼイツツノ説デハ太公ハ夫ヲ嫌ヒハシナカツタトノコトデアアル。）

此司令部ニハ明敏ナ頭腦ノ人ヤ、學識ノアル立派ナ軍人ガ居リ、其中ニハシャルンホルスト、クライトノ如キ（ブルナドモ其中ニ數ヘ得ルデアラウ）歴史ニ名ヲ殘シタ人モアツタノデアアル。然ルニ夫レガ集マツテ仕上ゲタ結果ハ全ク無用ノ長物デアツテ、徒ラニ紛糾ト不決斷ヲ齎ラシタニ過ギナカツタ。

而シテ軍ノ統率上ニ害ヲ與ヘタ原因ハ、殆ンド皆關係人物ニ對スル顧慮カラ來タモノデ、其人々ノ氣ニ入ル如ク軍ヲ區分シ、且ツ職員ヲ決定シタカラデアアル。此ノ如キ顧慮ハ大切ナ事柄ニマデモ（夫

レガ第一ノ原因トハナラヌトモ、影響ヲ及ボシタ。當時クラウゼウイツハ參謀大尉デ、アウグスト親王ノ副官トシテ滿二十六歳デ此ノ役ニ加ハリ、年齢モ若ク、地位モ低クカッタガ、此ノ間ノ事情ヲ鋭ク觀察シ、九月二十九日ニ伯爵夫人ノマリエ、ブリュールニ宛テタ手紙ノ中ニ、左ノ如ク述ベテアル。

「シャルンホルストガ如何ニ困難ナ境遇ニアルカハ、此ノ軍ニハ首將及參謀ガ一人宛居ルベキ所ニ三人ノ首將ト二人ノ參謀長トガ居ルコトヲ考ヘタダケデモ分ルト思フ。私ハ今迄、シャルンホルストノ如キ、斯カル難局ニ處シ得ル人ヲ見タコトガ無イ。然シ、若シ斯クマデ多クノ御都合主義ノ障礙ガ邪魔ヲセズ、外部カラノ容喙ガ絶エズ干涉シテ來ナカッタナラバ、其才能ヲ何所マデ發揮シ得ルデアラウカト思フト、如何ニモ殘念デナラヌ。萬一我が軍ガ不幸ヲ招クトシタナラバ、夫レハ全ク此ノ瑣細ナ御都合主義ノ結果ニ相違アルマイ。何故カト云フニ、目下之レ以外ノ點デハ、實ニ普魯西國王ノ爲ニ、極メテ好都合ノ状態ニナツテ居ルカラデアル。」

司令部ノ研究ヲ進メルニハ先ツ出征軍全體ヲ統率スル總司令部ト軍集團ノ司令部及單獨軍ノ司令部（勤務上デハ後ノ二ツヲ軍司令部ト總稱シテ居ル）トノ區別ヲ立テル必要ガアル。

然シ其本質ニ於テハ總テ相似タモノデ、一方ニ就テ述ベルコトハ、多クハ他ノ方ニモ當テ掛マールカラ、今後ノ説明ニモ、特ニ其區別ヲ立テル必要ヲ感ズル部分ノ外ハ、根本的ノ差別ヲ立テヌコ

トニスル。

司令部ノ編合ヲ巧妙ニスレバ、殊ニ司令部ト其參謀長トノ調和ガ取レレバ、天資ノ豊カナ首將ノ缺陷（之レハ前ニモ述ベテ置イタ所デアル）ヲ補フノニ、大ニ効果ガアル。但シ夫レニ就テノ一定ノ規則ノ如キモノハ固ヨリアル譯ノモノデ無イ。

協力が良ク成立ツヤウニスルニハ、第一ニ人物ノ銓衡ガ必要デアル。之レガ良ク行カナケレバ、如何ナル名論モ用ヲ爲サナクナル。異ナツタ性格ヲ互ニ相補ツテ行クベキデアアルガ、而カモ其間ニ同一ノ基調ガ在ツテ、色々違ツタモノヲ一ツノ考案ノ内ニ入レ込マネバナラス。

參謀長ノ司令部ニ對スル地位ハ、司令官ノ司令部ニ對スル關係トハ、趣ヲ異ニスル。參謀長ハ若干ノ將校ノ中カラ、自己ノ目的ニ適ナツタ者又同時ニ個人的關係ノ都合ノ良イ者ヲ、自由ニ選定スルコトガ出來ル。之ニ反シテ司令官ハ必ず參謀長一人ヲ相手トスベキモノデ、紛糾ヲ來スコトヲ覺悟ノ上デナクバ、之ヲ差シ置イテ事ヲ爲スコトガ出來ヌ。故ニ其選定ガ最モ大切デアル。兩者ノ關係ガ惡ルカッタナラバ、全軍ニ甚大ノ惡影響ヲ來タス。此ノ點ニ就テノ事實ガ公然世ノ中ニ知レルコトハ稀デアルカラ、世人ハ兎角失敗ノ原因ヲ見當違ノ所ニ求メルコトニナル。唯ダ大失敗ヲ來タシタ場合ニ於テ、通常兩者ノ論争ノ書ヤ、戰史的研究ノ上ニ、内輪ノ關係ノ一端ヲ露ハスニ過ギヌノデアル。

今日ハ首將ガ一人デ、何モカモ行フコトハ、到底出來ヌ。如何ニ天才ノ人ト雖モ、學識ノアル者ニ

夫々專任サセル必要ガアル。況シテ一流ノ名將ニアラザル者ハ、一層其補弼ト援助ヲ要スル。蓋シ一軍ノ指揮ノ事務ガ、一人デハ到底負擔シ切レヌホドニ増加シ、尙ホ技術上ノ事モ亦、専門的知識ヲ必要トスルニ至タツノデアアル。

心理上ノ理由カラモ、首將、參謀長間ノ親密ナ關係ヲ必要トスルコトガ少ナクナイ。元來首將ハ責任感カラ多少心ノ働キガ狭クナリ、判斷ノ自由ヲ拘束サレル傾ガアル。故ニ斯カル精神の壓迫ノ圈外ニ立チ、適切且ツ自由ニ觀察ヲ下シ得ル地位ニ居ル所ノ次級者ヲ持ツコトガ必要デアアル。兩者ノ間ニハ甲ガ熱シタ時ニ乙ハ冷靜デアルト云フヤウニ、情調ノ變化ガ互ニ相殺平均サレ、從ツテ決心ヲ定ムルニ當ツテモ、全ク其人ノ眞ノ感^{カン}ガ現ハレテ來ルコトニナル。然シ兩者ノ親交ハ心カラノ信賴カラ出タモノデナケレバナラス。

故ニ司令官ハ（縦令總帥デナクトモ）、常ニ自ラ參謀長ヲ選定スルコトヲ許サレネバナラス。

自己ノ生涯中ノ最モ大切ナ時期ヲ、餘リ自分ニ氣ニ入ラス者ナドト、係リ合ツテ居ル譯ニ行カヌ。其能力ヨリモ、寧ロ之ニ對スル自己ノ氣分ガ重キヲ爲スノデアアル。而シテ其氣受ハ復タ自己ガ重大ナ問題ヲ毎日共同シテ處理スベキ人ニ對スル、己レノ態度、待遇法ノ如何ニ依ツテ左右サル、所ガ多イノデアアル。

戰時ノ參謀長ノ固有ノ任務ハ、何等ノ法則ニ依ツテ定メラレズ、又決シテ此ノ如キモノニ依ツテ拘

束サレナイ。總テ其人物、能力及性向（性質）ニ依ツテ、萬事ガ決セラレル。フリードリツヒヤ那翁ハ大體ニ於テ自ラ參謀長ヲ兼ネテ居タ。然シ前者ハウインテルフェルドデ、後者ハベルチールデ、參謀長ガ居ラス爲ニ、失敗ヲ招イタ。

千八百七十年 普佛戰爭 ニハ、國王ウイールヘルムハ軍隊ノ取ルベキ行動ヲ自ラ口授シ、參謀長モルトケヲシテ其實行ニ關スル命令ヲ勝手ニ各軍團ニ下サセタ。其署名ハ參謀長デアツタガ、勅命トシテノ効力ヲ持ツテ居タ。

現時ノ文明國家ノ立憲君主ガ、猶ホ將帥ノ職ヲ擔任シ得ベキカハ疑問デアアル。特別ノ場合（後ニ説明スル）ニ限り、之ヲ實行スルノガ良イデアラウ。然シ其時ニハ君主ハ必ズ自己ノ參謀長（參謀總長）ヲシテ、帝位ニ即イタ將軍トモ云フベキ那翁（其政府ハ嚴密ニ云ヘバ軍事執政官デアツタ）ナドヨリモ、一層ノ獨立性ヲ與フベキデアアル。

然シ別ニ二人ノ將官ヲ選ビ、之ヲ總司令官ノ地位ト參謀長ノ位置トニ就カシメタ時ハ、其關係ハ違ツテ來ネバナラス。此ノ場合ニハ兩者ハ何等ノ制肘ヲ受ケズニ、其力ヲ統帥ノ上ニ注ギ得ナケレバナラス。但シ參謀長ノ役目ガ若干縮小サル、コトハ當然デアラウ。

何レノ場合ニ於テモ、將帥タル者ハ其力ヲ、主トシテ重大ナル決心、免レ難キ疑惑ノ抑壓、及確乎タル信念ノ扶植ニ注グベキデアアル。自ラ實行上ノ事ニ心ヲ勞スルガ如キハ、良シク無イ。小心ノ者ハ

内心ノ不安ヲ紛ギラセントシテ、此ノ如キ弊ニ陥リ易イ。何か仕事ヲシテ居ルコトガ、一種ノ精神ノ鎮靜劑トナルニハ相違ナイガ、斯クテハ丁度駝鳥ノヤウニ、仕事ニ頭ヲ突キ込ンデ居テ、身ニ迫ル危険ヲ忘レテ居ルモノデアル。將帥タル者ハ決シテ斯カル手段ニ出テ、ハナラス。サモナイト小事ニ眼ヲ奪ハレテ、大事ヲ看過スル恐ガアル。若シ參謀長ト相談シ、自己ノ意志ヲ確信ヲ以テ示シ、實施上ノ大綱ニ就キ、參謀長トノ間ニ、意見ノ一致ヲ見タ上ハ、他ノ總テノ事項即チ、命令ノ實行、必要ナ細部ノ事項ノ決定及補足等ハ、悉ク皆參謀長ノ手ニ委ネルノガ、最良ノ手段デアル。自ラ命令ヲ作ラント欲スル首將ハ、故ラニ自己ノ心ニ思索ノ餘裕ヲ與ヘヌコトニナル。首將タル者ハ筆ヲ手ニスルヨリモ、頭ヲ使フベキモノデアル。

強大ナル軍ニ在テハ、參謀長ト雖モ亦、指揮ニ關スル文筆ノ仕事ニ没頭スルコトヲ避ケネバナラス。參謀長ハ司令官ヨリ相談ヲ受クル場合ニ、何時デモ夫レニ應ジ得ナケレバナラス。着手シタ筆ノ仕事ヲ中絶セズニ進捗セシメル必要カラ云フテモ、最初カラ夫レヲ、召致サレヌ者ニ、任カスガ良イノデアル。若シ通常ニ用ヒラル、意味デ、參謀長ハ非常ナ精力家デアルト云フナラバ、其贊辭ニハ疑ヲ狹ムベキデアルガ、夫レハ自分デ仕事ヲスルヨリモ、寧ロ其力ヲ指導ノ方ニ注ガネバナラス。各個ノ訓令、特ニ重要ナル書類、重大ナル運動、若シクハ戰鬪ニ關スル命令ハ、自ラ之ヲ認メネバナラス。大本營及總參謀長等ヘノ機密ノ信書モ亦、之ニ屬スル。然シ日常ノ仕事ニハ爲シ得ル限り、煩ハ

サレヌヤウニスベキデアル。

參謀長ノ地位ハ二重ノ性質ヲ帶ビ、此ノ點ダケデモ、多大ノ心勞ヲ要スル。即チ上ニ對シテハ司令官ノ相談相手トモナリ、僚友トモナリ、信任者トモナリ、又下ニ對シテハ多數ノ（往々ニシテ各種ノ分子ヨリ成ル所ノ）幕僚ノ組織者デアリ、又指導者デアル。

司令官ノ行爲ガ其氣分ニ左右サル、場合ニハ、夫レガ幕僚全體ニ影響ヲ及ボスコトガ少ナクナイ。ソコデ參謀長ガ自己ノ態度ニ依ツテ之ニ善處スレバ、各方面ノ満足ト、友情ニ富ム協力トヲ來シ、其命令機關ガ益々確實、迅速且ツ巧妙ニ活動スルコトニナル。此ノ如ク種々雜多ノ分子ヲ糾合セル一群ハ、若シ不適當ノ者ガ其上ニ立テバ、兎角不和、葛藤ヲ起シ易イモノデアルガ、萬一其様ナ事ガ多少デモアレバ、如何ニ俊敏ナ人達ガ居ツテモ、總テガ不結果ヲ來スコトニナル。元來軍ノ司令部ニハ、當然軍中ノ最良ノ人物ヲ集メテアルノデアルカラ、他ノ何レノ職ヨリモ、好ンデ最善ノ力ヲ致ス筈デアル。故ニ勤務上ニ就テ、決シテ彼是ヤカマシク小言ナドヲ云フベキ理由ハナク、又タ云フテモ効能ガ無イノデアル。總テノ交渉應對ガ靜穩ニ行ハル、ニ從ツテ、萬事ガ益々好都合ニ進捗シ、而カモ内ヨリ發スル光明ハ、外ニ發シテ絶エズ、全軍ヲ光被スルノデアル。最高司令部ノ樂悲ハ廣ク各隊ニ傳ハリ、全軍ノ能力ニ反映スル。

參謀長ノ地位ガ二重ノ性質ヲ持ツテ居ル點カラ考ヘレバ、此ノ場合ニ於テモ亦、他人ヲ動カス所ノ

人格ノ力ニ依ツテ、多大ノ積極的効果ヲモ舉グルコトが出来ルト云フコトハ、更メテ説明スル迄モナイ。誠ニ親ミノアル遣リ方デ、總テノ部下ヲシテ最大ノ能率ヲ發揮セシメ得ル人物ニ乏シクナイガ、此ノ種ノ人ハ參謀長タルニ有利ナ資質ヲ備ヘタモノト云フベキデアル。

軍ニ於ケル參謀長ノ地位ニ就テ、何等ノ規定ノ無イト同様ニ、幕僚ノ各人ノ職責ニ就テモ亦、別ニ規定ガ無イ。之ニ依ツテ生ズル自由ガ、彼等ノ爲ニ非常ナ利便トナル。平時カラ、軍司令部ヲ設ケテ無イノデアアルカラ、司令部ヲ新ニ設ケネバナラス。ソコデ參謀ヤ副官ガ、各地カラ集マリ、往々ニシテ其部員相互ノ間ノ面識ガ無ク、參謀長モ良ク部員ノ人物ヲ識ラヌヤウナ事ガアル。豫メ階級ト業務ノ關係ニ從ツテ、各人ノ分擔スベキ仕事ヲ定メテ置イタナラバ、最初ノ時期ニハ全般ノ施設ヲ容易ナラシメル利益ハ勿論アルガ、此ノ利益ハ小サナモノデ、一面ニハ正當ノ人ガ規定ノ地位ニ着キ得ヌ場合ニ、實行ガ出來ナクナルト云フ、大ナル不利ガアル。最初ノ若干日間、事務ノ領域ヲ自由ニシテ置ケバ、互ニ慣レテ來テ、各人ガ自己ニ適シタ地位ヲ發見スル。其際ハ新古ノ關係ナドハ餘リ顧慮セズニ、融和一致ト云フコトニ重ヲ置クベキデアル。

參謀長ヲシテ、軍ノ日常ノ活動ニ伴フテ生ズル事務ヤ、細カナ多數ノ配慮カラ免レシムルコトガ、必要デアアル。固ヨリ此レ等ノ事ニ關シテモ、參謀長ガ司令部ノ基調ヲ與フベキモノデハアルガ、然シ五十人乃至百人モアル將校、相當官、其他ノ官吏ノ共同生活ヨリ起ル多數ノ事柄ヲ、一々裁決シテ居

ル譯ニ行カヌ。ソコデ疑問ヤ面倒ナコトヲ一々自己ノ所マデ持ツテ來ズトモ濟ムヤウナ、一人ノ代行者ヲ必要トスル。

此ノ點ダケデモ、既ニ司令部ニ參謀長ノ代行者ノ必要ガアル。夫レガ參謀次長若シクハ參謀副長デア

アル。全軍ノ總司令部ノ參謀次長及各軍ノ參謀副長ハ、戰地ニ於テハ廣イ權限ヲ持ツテ居ル。是レハ其個個ノ仕事ガ直チニ軍ノ運命ニ關セズトモ、夫レガ積モレバ軍ノ興廢ニモ多大ノ影響ヲ及ボス所ノ事柄ガ絶エズ起ルカラデアアル。將校及下士卒ノ利害休戚ニ關スル内務上ノ無數ノ問題ガ起リ、而カモ司令官ヤ參謀長ガ夫レヲ一々裁決スルコトが出来ヌ。此レ等ノ問題ガ參謀副長ノ机上ニ呈出サレルノデア

ル。參謀副長ハ、要スレバ、司令官ニ一定ノ範圍内ニ於テ助言ヲ爲シ、參謀長ニ有効ナル助力ヲ爲スコトガ種々アルデアラウ。思慮ノ周密ナル者ガ二人居レバ、一人ノ場合ヨリモ仕事モ早ク進捗シ、又結局ハ疲勞モ少クナル譯デアアル。然シ此ノ兩者ガ心ヲ合ハセテ事ニ當ルベキハ、勿論デアアル。サモナイト命令ノ錯誤ヤ、阻害ガ必ズ起ル。

各戰役ニ於テ、普魯西及獨逸ガ、軍ノ司令部ヲ編成スルニ際シテハ一方デハ、千八百六年ノ苦イ經驗ニ鑑ミ、又一面デハ千八百十三年ノ有利ナ經驗ヲ參考トシタ。而シテ司令部ノ模範的組織ヲ求メルコ

トヲセズニ、其歴史、沿革ヲ基トシテノ發達ノマ、ニ任カセテ置イタ。夫レガ他ノ一般ノ事項ト同様ニ、自ラ有利ナ發達ヲ遂ゲサス元ニナツタノデアアル。千八百十三年ノシレデアノ軍ノ司令部ガ範例トサレタ。此ノ司令部ハ其主腦ノ地位ヲ占メタ人々ノ、個人的ノ關係カラ成立シタモノデアアル。當時フリユツヘル、シャルンホルスト及グナイゼナウ等ハ國歩ノ艱難ニ當面シテ、其志ヲ同ジクシテ居タノデ、互ニ長イ間夢ニ見テ居タ普國獨立ノ時期ガ愈到來シタトキハ、只管和衷協力シテ軍國ノ爲ニ盡クスヲ念トシタノデアアル。應テシャルンホルストガ陣没シテカテモ、依然トシテ相協力シ、グナイゼナウガ其後ヲ襲フテ參謀長トナリ、ミュツフリングガ參謀副長トナツタ。千八百六十四年、千八百六十六年、及千八百七十年等ノ役ニモ、軍司令官、參謀長、參謀副長ノ三位制ヲ襲套シタ。此ノ場合ニモ既ニ平時カラ關係ノアツタ人々ヲ組合ハセタノデ、戰爭ノ始ニモ、相互ノ協和ニ就テハ少シモ心配ガナカツタ。而カモ尙ホ意見ノ相違ヲ來タシタコトノアツタノハ、爭ハレヌ事實デハアルガ、然シ個人ノ事ヨリモ君國ヲ思フ所ノ、意氣旺盛ナル人々ガ、共同ノ仕事ニ就イタノデアアルカラ夫レヲ絶對ニ避ケルト云フコトハ固ヨリ出來ナカツタノデアアル。

世界大戰ニ於ケル獨逸ノ軍集團ヤ、軍ノ司令部ト建設及組合ニ就テモ、主トシテ前例ヲ踏襲シタモノデアアル。四年餘ニ亘ル歲月ノ間ニ、司令部ノ數モ非常ニ増加シタガ皆良ク其任ニ堪ヘタ。之ニ反シテ千九百十四年ニ於ケル戰爭ノ初期ニハ、大本營(總司令部)ハ用ヲ爲サナカツタ。之レニ

ハ世人ノ想像以上ニ組織上ノ缺陷ガ因ヲ爲シテ居ル。此所ニモ亦將帥、參謀長及參謀次長ノ編組ヲ取ツタガ、此ノ關係ヲ全ク外形ダケ作り上ゲタニ過ギナカツタ。

役割カラ云ヘバ、總參謀長ノモルトケ大將ガ所要ノ案ヲ立テ、意見ヲ上申シタモノニ就キ、總帥ノ位置ニ立ツタ皇帝ガ、全軍ノ指揮ノ基礎トナル所ノ決心ヲ下サルベキデアツタ。

然シ斯クスレバ、皇帝ハ今ノ時代ニハ到底果タスコトノ出來ヌ任務ヲ擔當サレルコトニナル。固ヨリフリードリッヒヤ那翁ハ、主權者ノ責任ト將帥ノ責任トヲ一人デ果シテ、而カモ兩者ノ何レヲモ害セズニ濟ンダノデアアルガ、之レハ歷史的偉人ヲ俟ツテ始メテ能クシ得ルモノデ、到底他ノ人ニ適用シ得ルコトデハ無イ。加之此レ等ノ偉人ト雖モ、今日ノ如キ事情ノ下ニ於テ、尙ホ同様ノ働ヲ爲シ得ベキカ否カモ、頗ル疑問ナノデアアル。

試ニ皇帝ガ戰爭中ニ如何ナル任務ヲ負擔サレタカラ一瞥シヨウ。皇帝ハ第一ニ大元帥デアツテ最高ノ統帥權ヲ握ツテ居ラレタ。之レニハ絶エズ決裁ヲ與フベキ幾多ノ事柄ガ伴ツテ居ル。皇帝ニハ各軍ノ司令官、ブリユツセル(ブラッセル)總督(後ニハワルシヤウ總督モ、)普魯西陸軍大臣、野戰軍ノ總參謀長、海軍ノ諸長官、將校ノ人事ヲ取扱フ軍事内局等ガ直屬シタ。此レ等ノ地位ニ在ル者ガ皇帝ノ前ニ出テ自己ノ職域内ノ狀況ヲ説明シ、且ツ重要ナ問題ノ決裁ヲ乞フタ。但シ軍司令官等ダケハ、此ノ如キ機會ガ少ナカツタ。

皇帝ハ戰地ニ在ル時デモ、依然トシテ憲法ニ依ツテ規定サレタル七千萬ニ近イ國民ノ主權者デアツタ。外交ノ事ニハ殊ニ心ヲ煩ハサレ、内治モ戰爭ノ長ビクニ從ツテ、益々緊要トナツテ來タ。之レガ爲メ大本營(同時ニ君主トシテノ行在所)デハ、其統治上ノ仕事ガ大分實行サレ、總理大臣、各省ノ大臣及國會議員ノ代表者等ガ、主權者ニ謁スル爲メニ、屢々大本營ニ來タ。此ノ如キ仕事ハ、平生ノ場合デサヘ、强健ナ人デモ、十分心身ヲ勞スルニ足ルノデアルカラ、戰時非常ノ場合ニ於テハ、夫レガ一層ノ苦痛デアツタ。絶エズ重大ナル事項ニ就テ決裁シ、而カモ夫レガ國民ノ休戚、榮辱ニ關スルコト到底平生ノ比デナイト云フ意識ガ、一層皇帝ノ心ヲ惱マスノデアツタ。

尙ホ其上ニ同盟諸國ノ君主トノ修交ガアツタ。此レ等ノ君主ヲシテ、作戰ヤ政治上ノ大問題ニ就テ獨逸ノ政府及統帥部ガ考ヘテ居ル所ト同一ノ意見ヲ維持サセテ置クコトガ、一致ノ行動ヲ取ル爲メニ極メテ必要デアツテ、サモナク、到底十分ノ働ハ出來ナカツタノデアル。尙ホ同盟ノ盟主トシテ、他ノ諸外國ニ對シ、同盟諸國ヲ代表スベキ責務ヲモ等閑ニ附スルコトガ出來ナカツタ。

要スルニ、ウイヘルム二世ハ本來統帥ニハ何等關係ナキ、而カモ自ラ決裁スル必要ナル事項ノ爲ニ、終日終夜忙殺サレテ居ラレルト云フ有様デアツタ。此ノ如キ狀態ニ於テ、將帥ノ職責ヲ果スニ必要缺クベカラザル時間ト、心ノ平安トガ、何所ニ求メ得ラレタデアラウカ。

故ニ皇帝ハ最初カラ之ヲ斷念サレルカ、然ラザレバ戰爭中攝政ヲ置カレタ方ガ、得策デアツタラウ

第一ノ案ニ從ヘバ、皇帝ハ依然大元帥デハアルガ、戰時ノ總テノ將帥ガ負擔スルガ如キ莫大ナ責務カラ免レルコトガ出來タデアラウ。而シテ將帥ニハ固ヨリ他ノ人物(有能ニシテ且ツ天才的ノ將軍)ヲ以テ己ニ代ハラシムベキデアル。サスレバ此ノ將軍ハ皇帝ノ如ク他ノ責務ニ妨ゲラル、コトナク、專心獻身のニ自己ノ重任ニ當リ得ルノデアル。

第二ノ案ニ依レバ、皇帝ハ、神ト歴史ト獨逸國民トニ對シテ、責任ヲ負フベキ、事實上ノ作戰指導者トナリ、其統治上ノ事ハ眞ニ根本的ノ重大問題ノミヲ見ラレルコトニナル。實際ニ千九百十四年ニハ此ノ策ヲ取ルコトモ出來タデアラウ。

然ルニ此ノ兩策ノ何レヲモ採用セズシテ、千八百七十年ノ前例ヲ廣ク(其名稱ニ至ルマデ)採用シテ大本營ヲ組織シ、此ノ長年月ノ間ニ事物ニ多大ノ變化ヲ來シタ事ヲモ勘定ニ入レズ、又モルトケガ果シテ伯父ノ大モルトケノ如キ資質ヲ備ヘテ居ルカ否カヲモ確カメラレナカツタノデアル。其結果トシテ最高司令部ニハ首將タルノ職務ヲ實際ニ行ハル、コトノ出來ヌ者ガ、其上ニ立ツニ至ツタ。之レガ爲メ、其機關ニハ機動輪ガナク、到底正シイ運轉ガ出來ナカツタ。故ニモルトケハ一身ニ、首將ト參謀長トヲ兼スル外ナク而カモ所要ノ獨立的權能ヲ持タナカツタ。從ツテモルトケハ作戰ノ基礎トナル大策ヲ自分ノ頭ノ中デ案出シ、且ツ其實行ノ案ヲモ熟考スルノミナラズ、最後ノ決定ト其結果トニ對スル全責任ヲモ、自ラ負ハネバナラナクナツタ。

此ノ如キ事情デアツタノニ、從來ノ戰爭ノ時ノ如ク、參謀長ノ右手トナルモノト期待サレタ參謀次長ガ、全軍ノ管理ニ關シタ任務ノ爲ニ、全ク忙殺サレテ了ツタト云フコトハ、甚大ナル打撃デアツタ此ノ事態モ亦從來トハ根本的ニ變ツテ居ルノデアアル。普佛戰爭ノ時マデハ、未ダ參謀次長ハ此ノ種ノ業務ヲ云ハ、副任務ニ置キ、自己ノ意見ト手腕トヲ以テ、主トシテ參謀長ノ補佐ノ方ニ力ヲ致スコトガ出來タ。然ルニ千九百十四年ニハ糧食及各種ノ軍需品ヲ幾百萬ノ大軍ニ補給シ、且ツ開戦直後ニ占領セル敵地ヲ管理スル爲ニ、參謀副長ヲ煩ハスコトガ多大デアツタカラ、戰略上ノ問題ノ解決ニ參與スルコトナドハ、到底不可能トナツタノデアアル。

此ノ如クシテモルトケハ、自己ト共ニ事ヲ見、且ツ責任ヲ負フベキ將帥ガ居ラヌ爲ニ、上ノ方ニ對シテ後援シテ呉レルモノガ無イ、又主トシテ統帥上ノ問題ニ就テ相談スベキ能力ト準備トヲ有スル將校ノ補助ヲモ、得ラレナカツタノデアアル。

モルトケハ此ノ如キ難局ニ到底堪ヘ得ナカツタ。殊ニ出征當時ニハ健康モ衰ヘテ居タラシカツタ。忽チニシテ全軍ヲ統轄スル能力ヲ失ヒ、一番大切ナ時期即チ一ニ確乎タル最高ノ統帥ノ力ニ待ツベキマルヌ河畔ヘノ進軍及マルヌ會戰中ニ、手綱ヲ緩メテ了ツタ。然ルニモルトケガ心身ノ困憊ニ陥ツタ事實ハ、不幸ニシテ既ニ收拾ノ出來ヌヤウナ事態ニナツテカラ、始メテ知レ渡ツタノデアアル。

フアルケンハイン大將ハ不利ナ遺産ヲ相續スルコトニナツタ。大將ハ國軍ト國家ノ爲ニ大功ヲ立テ

タガ、然シ大將ノ下ニ在ツテモ、尙ホ大本營ノ組織ニ必要ナ根本的改革ヲ施スニ至ラナカツタ。

ヒンデンブルヒ及ルーデンドルフガ最高統帥部ニ入ルニ及ビ、始メテ夫レガ實現サレタ(不幸ニシテ夫レガ二年遅カツタ)。此ノ時カラハ從來首腦部ニ存在シタ缺陷ガ漸ク除カレタ。但シ猶ホ外面ニ於テハ最後ノ決定ヲ下スコトヲ避ケ、新任者ガ事實上ニ占メタ地位ニ相當スル名稱ヲ、之ニ與ヘルコトヲ憚カツタ。即チルーデンドルフハ自ラ乞フテ、「最高參謀副長」ノ稱呼ヲ受ケ、又ヒンデンブルヒハ總參謀長ニ補セラレタガ、事實上ハ總司令官デアツタ。

即チ、皇帝ハ依然トシテ最高統帥部ノ首班ニ立タレタガ、實際ニハ大元帥トシテノ職域外ニハ、從來ホドニ手ヲ出サレヌコトニナツタ。

尙ホ又總參謀長ハ獨立シテ作戰ヲ指導スルコトニ確實ニ規定サレ、唯ダ極メテ重要ナ決定ノミ、皇帝ノ同意ヲ要スルコトニナツタ。

之ニ依ツテ全ク明快ナ解決ヲ見タ譯デハナイガ先ヅ當時ノ獨逸軍中デ、一番優レタ兩將軍ヲ最モ樞要ナ地位ニ立タセルコトガ出來タノデアアル。此ノ兩者ハ既ニ東方戰場ニ於テ軍司令官及參謀長トシテ不朽ノ名聲ヲ博シ、名將ノ器タルノ實ヲ示シタ。此ノ度ノ新タナ地位ニ就イテカラモ、ルーデンドルフノ言ノ如ク、「全ク一心同體ノ如ク相協力シタ」。其職務ノ分擔モ亦從來ト同様デ、ルーデンドルフハ總司令部ニ於ケル實際ノ參謀長ノ職ヲ取り、ヒンデンブルヒハ總司令官ノ職ヲ取ツタ。兩者ノ戰術

及戰略上ノ意見ヤ、獨逸帝國ノ興廢ニ關スル戰爭ノ真相ニ就テノ所見ナドハ、全ク合致シ、爲ニ衷心ノ信賴ヨリ發スル圓滿ナル協力ガ、自ら實現サレテ行ツタ。往々ヒンデンブルヒトルーデンドルフヲ以テ、ブリユツヘルトグナイゼナウニ比較スル者ガアルガ、誠ニ至當ノ見方ダト思フ。後ノ兩者ガベルリアンスノ勝利ヲ其最高調トスル所ノ幾多ノ大事業ニ、果シテ幾何ノ貢獻ヲ爲シタカヲ斷定スルノハ、中々困難デアアルノト同様ニ、最近ノ我ガ陸軍ニ現ハレタル此ノ二ツノ將星ノ功績モ亦、後ノ史家ノ研究ニ待タネバナナルマイ。要スルニ此ノ兩將軍ハ、共ニ曾テ普魯西及獨逸ヲシテ大ヲ爲サシメタル精神ニ象徵、具現シタルモノデアツタ。我ガ國民タル者ハ、苟モ現下ノ苦境ヨリ脱センコトヲ希ハ、是非共此ノ精神ニ立チ歸ラネバナラヌノデアアル。

此ノ兩將軍ハ最後ノ勝利ヲ收メ得ナカツタトハ云ヘ、右ノ事實ハ嚴トシテ誣ユルコトガ出來ス。其總司令部ニ召サレタ際ハ、時既ニ遅ク、個人ノ力ヲ以テシテハ、到底狂瀾ヲ支ヘルコトガ出來ナカツタノデアアル。

世界大戰ノ事情ガ總テノ點ニ於テ豫想外ノ状態ヲ呈シタト同様ニ、軍司令部ニ在テモ亦、其所屬人員及取扱フベキ業務ノ範圍ガ、從來ノ戰爭ニ於テ等シク軍司令部ト稱セシモノニ比スレバ、遙カニ龐大ナモノトナツタ。

今其一例トシテ西方戰線中ノ或軍司令部ニ就キ、其組織ト、大戰闘（大戰闘ナレ語モ亦陣地戰中ニ特殊ノ意味ヲ以テ生レタモノデアアル）中ニ攻撃ヲ受ケタ場合ノ業務トヲ左ニ紹介シヨウ。

軍司令部ニ屬セル正面ハ三十軒乃至五十軒ヲ有シ、所屬師團ノ數ハ十五乃至三十ノ間ヲ上下シ、其内ノ一部ガ第一線ニ於テ戰闘ニ從事シタ。第一線ノ直後ニハ、若干ノ増（アインゲライフ・テイワイゼン）加師團ガ控ヘテ、敵ガ我ガ正面ノ何レカラ突破シサウニナツタ場合ニ、直チニ突進スル用意ヲ備ヘテ居タ。殘餘ノ師團ハ豫備トナツテ、更ニ其後方ニ位置シタ。第一線ニ立ツ諸師團ノ戰闘指揮ハ、前ニモ述べタ所ノ「群」（グレン）司令部（マンデ）ヲシテ之ニ當ラシメ、其數ハ一軍内ニ四乃至六位デアツタ。各「群」司令部ニハ五乃至十軒ノ一地區宛ヲ擔當セシメ、三乃至六師團ヲ與ヘ、其師團ハ屢々交代シタ。而シテ此ノ如キ軍ノ總人員ハ極メテ區々デアツタ。獨逸側デ最モ強大ナ軍ハ、千九百十七年ノフランダールノ會戰間ノ第四軍デアアルガ、其人員八十萬、馬二十萬頭、砲二千門ヲ算シ、二十乃至三十ノ列車ト多數ノ曳船ヲ以テ、糧秣、彈藥及建築材料ノ日々ノ所要量ヲ運搬シテ、戰闘線ノ後方ニ設ケタ集積所及補給所マデ送ツタ。

軍司令部ハ戰線ノ後方ニアル一乃至數箇所ノ住民地ニ位置シタ。落チ着イテ仕事ヲ爲シ得ンガ爲メ普通ノ重砲ノ有効射程外、即チ自己ノ最前線ヨリ十五乃至二十軒ノ所ニ置ク必要ガアツタ。其所ハ特別ニ射程ノ大ナル砲ト、飛行機攻撃トノ外ハ、安全デアツタ。司令部ノ人員ハ將校百乃至百五十人、下士以下約一千人（書記、圖工、通信兵、憲兵、從卒、馬卒、傳令、自動車及自動二輪車ノ運轉手、司

司令部衛兵等)ニ達シタ。多數ノ家屋内ニ、事務室ノ設備ヲ施シタ。而シテ地方ノ住民ガ村落ニ入ルヲ許シタ。之レガ爲メニ間牒ノ入込ム危険ハ多クナツタガ、又敵ノ爆彈投下ニ對シテ、或程度ノ防護トナツタ。

電信及電話ノ線ガ、軍司令部ノ位置ヨリ戰線ノ凡ラユル部分、及後方ノ集團軍及兵站監ノ方ヘ濃密ニ張り渡サレタ。

軍司令部ハ毎日參謀長ノ説明ヲ聞キ、且ツ其提案ニ基ヅイテ、自己ノ決心ヲ示シタ。其外ノ主ナ仕事ハ、麾下ノ各司令部及軍隊ト直接ノ連絡ヲ爲スニアツタ。即チ師團長以上ノ各指揮官ト親シク接シ各部隊ヲ視察シ、其志氣ヲ觀察シ、處置ヲ協議スル等、要スルニ司令部ト軍隊トノ生キタ連絡ヲ正シク維持スル目的ヲ以テ、多クハ自動車上ニ在ツタ。尙ホ其際ハ殊ニ交戰中ノ最前部隊ヲモ巡視シタ。兵卒ヲシテ折々直接ニ軍司令部ノ顔ヲ見サセルコトガ、非常ニ大切デアツタ。此ノ如クシテ軍司令部ガ、絶エズ戰線ノ實況ニ通ズルヲ得レバ、軍ガ軍隊ノ能力ニ不相當ナ命令ヲ發スル弊ヲモ、豫防スルコトガ出來ルノデアアル。

軍ノ參謀長モ亦出來ルダケ多ク戰線ニ行ツタ。然シ參謀長ハ其司令部ニ居ルベキ必要ガ、軍司令部ヨリモ遙カニ多カツタ。是レハ何時報告ガ來テ、速カニ夫レニ應ズル命令ヲ出スベキ必要ガ起ルカモ知レナカツタカラデアアル。

參謀長ハ主トシテ參謀部ト共ニ仕事ヲシタ。參謀部ハ行軍宿營及戰闘ニ關スル區處、即チ策動及戰闘ニ關スル軍命令中ニ收ムベキ各種ノ區處ノ完成ニ任ジタ。其際高級參謀ガ、統帥上ノ凡ラユル問題ニ就テ參謀長ノ第一ノ輔佐役トモナリ、又代理者トモナツタ。此ノ地位ニハ頭腦、言語共ニ明晰デ、且ツ身體強健學識豐富、精力絶倫等ノ長所ヲ併セ備ヘル、極メテ有爲ノ人物デ無クバ到底其任ニ堪ヘナカツタ。其職務ハ非常ニムヅカシク、又責任ノ重イモノデアツタカラ、一般ニ其特殊ノ地位タルヲ認メ、儕輩中ニ重キヲ爲セル者ヲ以テ之ニ任ジタ。

參謀部ニハ右ニ述べタ高級參謀ノ外、尙ホ五乃至七人ノ參謀ガ居タ。更ニ其補助官トシテ多クノ青年將校ヲ附シタ。此ノ青年將校ハ參謀ノ候補者ノ中ヨリ選定シ、且ツ此服務ニ依ツテ有益ナ參謀業務ノ教育ヲ受ケルコトガ出來タ。

參謀部ノ行フベキ仕事ハ、實ニ莫大ナモノデアツテ、晝夜ノ別ナク、業務ニ服シタ。報告ヲ點檢シ且ツ精査シ、命令ヲ作製シ且ツ交付シ、又軍集團ヘノ報告ヲ調製シタ。澤山ノ書籍ヤ地圖ガ續々ト交付サレタ。長イ戰爭中ニハ、時々敵ノ新シイ兵器ヤ戰法ニ依ツテ驚カサレタ。此ノ方面ニ於ケル凡ラユル新シイ現象ヲ周密ニ監察スルコト、其對策ヲ發見シ、且ツ戰闘カラ得タ其他ノ經驗ヲ利用スルコト、戰闘技術ノ新シイ状態ニ應ズル教育法ヲ提案スルコト、等ノ爲メニ、特ニ適任ノ一參謀ヲシテ、之ニ全力ヲ傾注セシムル必要ガアツタ。陣地ノ構築モ亦同様デアツテ、之レハ單ニ工兵技術ノ立場カ

ラ實行スルバカリデナク、尙ホ一定ノ戰術的見地カラ、實行スル必要ガアツタ。戰闘日誌ノ作製モ亦等閑ニスル譯ニ行カナカツタ。又敵ノ狀況ヲ探知スル爲メノ處置モ殊ニ大切デアツテ、之レハ特ニ一人ノ參謀ヲ擔任サセタ。此將校ハ敵ノ地理、言語及軍事の施設ニ通ジ、尙ホ或程度ノ鑑識眼(之ハ一寸云ヒ現ハシ惡イモノデアルガ)ヲ持タネバナラス。而シテ勤勉ト注意ノ周到トハ特ニ此ノ勤務ニ必要デアアル。其他ニモ命令及口頭ノ通報ノ受領、避ケ難キ誤解ノ闡明、示シタ區處ノ實行ノ監督等參謀部ノ擔當スベキ職責ハ到底列舉ニ遑ナイホドデアアル。

軍ノ砲兵部長ハ參謀部ト密接ノ連繫ヲ保ツテ仕事ヲシタ。砲兵ガ戰淨中ニ益々重要ノ度ヲ加ヘ來ツタ爲ニ、砲兵部長ノ地位モ亦益々重視サル、ニ至ツタ。何方(ドツテ)ヘ向ケテ撃ツカハ一種ノ術ニ相違アルマイガ當ルカ、當ラヌカハ其時ノ運サレト云フヤウナ笑談モ、開戰後ハ聞カレナクナツタ。我が砲兵ハ克ク敵ノ優勢ニ拮抗センガ爲ニハ、絶エズ改善ヲ加ヘル所ノ最新式ノ補助手段ヲ十分ニ利用シテ、其戰闘法ヲ間斷ナク改メ、且ツ完成セネナバラヌト云フコトヲ覺悟シテ居タ。軍ニ屬セル多數ノ砲ノ使用法ニ就テハ砲兵部長ノ意見ガ大ニ重キヲ爲シタ。而シテ其適用ハ砲兵中隊ヲ戰闘線ニ分配シ且ツ其目標ヲ決定スルコトノミニ止マラズ、更ニ多ク彈藥ノ配當ノ上ニ現ハレタ。蓋シ時機ヲ失ハズ彈藥ヲ請求スルコトガ最モ緊要デアツタノデアアル。

此レ等ノ仕事ノ爲メニ、砲兵部長ノ下ニ特別ノ部員ヲ置キ、砲兵ノ技術ニ秀デタル者ヲ以テ之ニ當テタ。氣象ノ命中精度ニ及ボス影響ノ重大ナルコトヲ認メテカラハ、氣象觀測ノ爲メ、特別ノ機關ヲ砲兵部ニ屬シ、以テ射撃中ノ諸中隊ニ向ヒ、氣象ノ影響ニ就テ顧慮スベキ事項ヲ通報シタ。又砲兵部長ハ砲兵飛行機ノ適切ナル用法ニ就イテ配慮シ、尙ホ瓦斯彈射撃ニ就テモ意ヲ用ヒタ。瓦斯彈射撃ハ専門ノ知識ヲ要スルノデ、特ニ教育ヲ受ケタ一部員ヲシテ之レガ指導ニ當ラセタ。更ニ其下ニ一人ノ補助官ヲ附ケタ。之ハ司令部ノ編成ニ一異彩ヲ與ヘタモノ、一ツデアツテ、其ノ白髮ノ學者ヲシテ頭ガ軍事的環境ニ適ハシクナク、第一様子カラシテ、軍隊ニ居タコトノアル人トハ思ハレナカツタ。之レハ實ハ靜カナ書齋カラ騒々シイ陣地生活ニ移サレタ化學者デ、其服務上ノ秩序ヲ立テルタメニ俄カニ軍人ノ階級ヲ與ヘタモノデアアル。

此所デ「最大平射々撃ノ主任佐官」ノ事ニ就テモ一言シテ置キタイ。此ノ佐官ハ、遠ク戰線ノ後方ニアル鐵道線路上ノ軌道上ノ(以外ニハ動カスコトノ出來ヌ)砲一、二門ヲ有シ、其巨大ナ榴彈ノ大威力ヲ有利ニ發揮スベキ場所ヲ探知スル目的ヲ以テ軍司令ノ許ニ居リ、自己ノ隊トノ間ニハ、特設ノ電話ヲ持ツテアツタ。

砲兵部長ノ作業ノ成果ハ、特別ノ砲兵命令トシテ作戰命令ニ添ヘテ軍隊ニ交付シタ。之ニ依ツテ軍ノ砲兵ノ力ヲ統一的ニ、又司令官ノ意圖通りニ使用シ得ルノデアアル。

軍ノ工兵部長モ亦、砲兵部長ニ似タ地位ニ在ツタ。之ハ運動戰デハ、勿論左程重要ノ役ヲ勤メナイ

ガ、陣地戦が始マツテカラハ、大ニ活動ノ領域ガ増シテ來タ。即チ軍ノ區域内ノ陣地ノ構築ヲ、最近ノ經驗ニ從ヒ、一貫シタ方針ヲ實施シ、且ツ一定ノ戰術上及技術上ノ見地ヲ以テ、立テ陣地ノ體系ガ出來上ガルヤウニ意ヲ用ヒタ。又軍直屬ノ工兵ノ使用ニ關シテモ意見ヲ上申シ、掩蔽部用及障礙物ノ材料ヤ爆藥ノ用意ニ就イテモ配慮シタ。之レガ爲ニハ總司令部カラ一定ノ方針ガ示サレテアツタ。飛行機隊ノ使用ニ關シ、參謀長ノ相談相手トナル爲ニ、特ニ軍ノ飛行機指揮官ヲ置イタ。此ノ將校ハ又麾下ノ部隊ノ技術及軍事的能力ノ保持及器材補充ノ任務ヲモ負フテ居タ。軍ノ飛行船指揮官ノ地位モ亦之ニ似タモノデアツタ。此ノ兩者ハ特別ノ部員ヲ有シ、而シテ空中偵察ノ結果ヲ役ニ立ツヨウニ作り上ゲ且ツ夫レヲ各隊ガ利用シ得ル如キ形式ヲ與ヘテ發表スルコトナドガ、其業務ノ一部デアツタ。之レガ爲メニ漸次、司令部所在地ニ技術所ヲ設ケテ、晝夜ノ別ナク、映像、製圖、複製等ノ仕事ニ從事スルニ至ツタ。

尙ホ軍ノ自動車隊指揮官ト機關銃及毒瓦斯防衛ニ關スル技術上ノ問題ヲ取扱フ特別ノ將校ナドガアツタ。此レ等モ亦、參謀長ノ仕事ノ補助ヲ爲シ、且ツ自己ノ擔任方面ノ器材ノ補給ニ就テ配慮シタ。其仕事ガ如何ニ廣範圍ノモノデアツタカハ、軍ノ自動車隊指揮官ガ絶エズ四千乃至五千輛ノ自動車ニ要スル運轉手、燃料其他ノ補充用品ヲ取扱ツテ居タ一事デモ大方想像ガ付クデアラウ。

右ノ外ニ尙ホ鐵道係將校鐵道隊指揮官、總司令部ノ通報將校等ガ居ツタ。此レ等ハ固有ノ編制内ニ屬スルモノデハ無ク、總司令部カラ繼續的ニ配屬サレタノデアアルガ、何レモ皆軍司令部ガ作戰ニ關スル任務ヲ果スニ緊要ナモノデアツタ。

大戰中鐵道ハ全然大本營ノ鐵道部長ノ所管ニ屬シ、何レノ司令部又ハ軍隊ト雖モ、其ノ運営ニ容喙スルコトヲ許サナカツタ。然シ各軍ノ希望ヤ必要ヲ爲シ得ル限り早ク滿タヌ爲ニ、各軍司令部及兵站監部ニハ、必ズ大本營ノ鐵道部ノ係員ヲ配置シテアツテ、此ノ者ガ鐵道部長ノ指示ニ基キ、自己ノ擔任區域内ニ於ケル各隊ノ輸送ト軍隊ノ補給ニ充當シタ列車ノ運行トヲ處理シタ。

軍ノ領域内ニ使用サレタ鐵道ノ建設隊及運行隊モ亦、軍司令部カラ直接ノ指揮ヲ受ケズニ、鐵道部長ノ派遣セル鐵道指揮官ノ指揮ニ屬シタ。而シテ此ノ指揮官ガ軍司令部ニ居ツタノハ、其業務ノ進捗ヲ容易ナラシムル爲メデアツテ、鐵道線ノ連絡ノ改善及増設ニ關スル軍隊ノ要求ハ何時モ絶エルコトガ無カツタノデアアル。

總司令部ノ通報將校ハ、總司令部ノ中央牒報部ニ於テ敵情及一般ノ形勢ニ就キテ知り得タ事項中ノ有用ナモノヲ、悉ク軍ニ通報シタ。而シテ又此ノ通報將校ハ其擔任區域ニ於テ、軍隊ノ搜索ニハ用ヒヌ所ノ手段ヲ以テ、敵ニ關スル情報ヲ獲得スル爲ニ、獨立シテ働イタ。尙ホ間諜ノ防衛ニモ任ジ、之レガ爲ニ戰地ノ密偵(刑事係)ノ一隊ヲモ使用シタ。

以上ハ概シテ軍司令部ガ本來ノ統帥ノ爲ニ使用スベキ補助機關デアアルガ、其圓滿ナル協力ガ行ハル

ルト否トハ、參謀長ノ採ツタ手段及其行動ニ關シ、參謀長ガ與ヘタル一般の指示ノ如何ニ依ルモノデアル。

軍ニ屬スル各部及軍隊ノ内務ハ軍ノ副官部ガ掌ツタ。進級補職、派遣、叙勳、人員及死傷表、人馬ノ補充、兵器ノ検査等多クノ重要ナ仕事ガアツタ。

軍司令部ニハ尙ホ二、三ノ傳令將校ガ居ツタ。之レハ以前ニハ特ニ筆記ノ命令及報告ノ傳送ニ任ジタモノデアツテ、不測ノ障礙ヲ排除シテ任務ヲ果ス爲ニ、才能持久力、正確等ノ長所ヲ必要トシタノデ、從來大ニ重要視サレタモノデアリ、單騎ヲ遠ク敵地ヲ橫斷スル場合ノ如キハ、勇氣、決斷、進路選定ノ能力、馬術ノ熟練、良馬ナドヲ必要トシタモノデアルガ、大戰ノ際ハ發達シタ技術ヲ以テ、之ニ代ヘルコトニナツタ。從ツテ傳令將校ハ馬ハ厩ニ繋ギ置キ、何等カノ原因デ電信電話ニ故障ヲ生ジタ場合ニモ、馬ノ代リニ、自動車、自動二輪車、及飛行機ヲ使用シタ。之レガ爲メ傳令將校ハ電話ノ書取書類ノ迅速且ツ確實ナル發送若シクハ受理、地圖ノ記入等ノ仕事ニ從事シタ。然シ迅速ナル騎行ガ最良且ツ安全ナル手段タル場合モアリ、夫レガ運動戰ニ於テハ陣地戰ヨリモ屢々起ツタカラ、高等司令部ニハ何レモ一、二人ノ騎兵科青年將校ヲ置イタ。

更ニ又司令部ノ衛兵司令及糧食係將校ガアツタ。此ノ兩者ノ職務ハ、日常ノ生活ノ範圍ヲ出デヌモノデアルガ、業務ノ圓滑ナル進捗ト、司令部ノ氣分ヲ爽快ナラシムル上ニ、重大ナル關係ヲ有スルモ

ノデアル。

衛兵司令ノ任務ハ、軍司令部ノ將校、下士卒、馬匹及車輛ヨリ成ル所ノ可成大ナル一隊ノ、風紀ト秩序トニ就テ意ヲ用ヒルニアツタ。軍司令部ノ如キ種々雜多ノ者ノ集合體ノ軍ヲ維持スルコトハ、中容易ナ仕事デハナカツタ。他隊ノ如ク階級ノ秩序ニ乏シカツタ。一寸考ヘルト自動車ガ正確ニ前進シヨウガ、宿營地變更ノ際行李ノ前進法ガ多少違フガ、大ナル差支ハ無ササウニ思ハレルガ、實際ハ一度不秩序ヲ生ズルト、重大ナ結果ヲ惹起スルコトニナルデアアル。

參謀、副官等ハ、戰時ニハ自己ノ身邊ニ心ヲ用フル隙ガ少ナク、自己及馬匹、從卒ノ宿舍、行李ノ保管、執務ヤ入浴ノ機會ヲ得ルコトナドハ、戰爭中ニ取扱フ諸ノ問題ニ比ベタナラバ、總テ皆瑣細ノ事柄デアツテ、之レガ爲ニ他ニ影響ヲ及ボスベキ筈ハナイデアアルガ、然シ軍人モ亦人間デアリ、戰地ニ出テモ神様ニハナレヌ戰爭ノ初期ニハ何人モ良ク其輕重ヲ辨ヘテ居ルガ、戰爭ガ長引クト、次第ニ其考ガ薄クナリ、ソコデ日常ノ瑣末ナ行違ガ、益々重大ナ影響ヲ來スコトニナル。

故ニ軍ノ衛兵司令ハ、司令部ノ者ヲ満足サセ、愉快ナ氣分ヲ保ツニ必要ナル凡ラユル事柄ニ就テ、心ヲ配ルノデアアル。而シテ軍衛兵ヲ其下ニ屬スル。此ノ衛兵ハ少數ノ兵ヨリ成ル分遣隊デ、何レノ高等司令部ニモ之ヲ置キ、其直接ノ警戒勤務及傳令勤務ニ服スルモノデアアル。

給養係將校ハ食物通デアツテ、少ナイ材料ヲ以テ、甘い食事ヲ供スルコトガ出來ネバナラス。餓渴

ハ如何ニ元氣ナ軍人デモ、之ヲ忍ブコトガ出來ヌ。然ルニ重要ナル地位ノ人々ハ到底一身ノ利便ナドヲ自ラ心配スル餘裕ガナイカラ、夫レデ其慰安ヲ謀ルコトガ必要デアル。

戰時ノ高等司令部ガ、軍隊ニ比シ餘リ贅澤ナ生活ヲ爲シタト云フ非難ハ、革命時代ニ屢々聞カサレタ所デアルガ夫レハ一、二特別ノ不都合ナ事實ヲ捕ヘテ、全般ヲ誣ヒタモノデアル。而シテ又軍司令部等デ見ル如キ非常ナ奮勵努力ヲ爲ス場合ニハ、給養ヲ豊ニセネバ十分ナ元氣ト能率ガ擧ガラヌコトヲモ考ヘナイ說デアル。右ノ様ナ次第デアルカラ、實際軍司令部デハ、贅澤ト云フホドデハ無イガ、十分ナ給養ヲ受ケテ居タ。若シ夫レヲ實行シナカッタナラバ、必ズ其影響ガ現ハレテ、軍隊ノ爲ニ不利ヲ來シタニ相違ナイ。

更ニ參謀副長ノ業務ニ就テ一瞥シヨウ。

參謀副長ハ軍ノ管理、補給ヲ擔任シタ。一面ニ於テハ總司令部ノ參謀次長ヨリ受クル指示ニ基キ、又一面ニ於テハ軍參謀長ノ指示ニ基キ、獨立的責任ヲ負フテ事ニ當ツタ。參謀副長ハ恒例ノ業務ニ就テハ參謀長ノ代行ヲシタノデアアル。尙ホ軍司令部ニ於ケル全般ノ事務上ノ往復交渉ヲモ監督シタ。之レガ又非常ナ仕事デアツテ、第四軍ノ千九百十七年ノ發給番號ガ、三十萬ヲ越エタ一事ニ依ツテモ其一班ヲ窺フコトガ出來ルデアラウ。嘗テ露國ノ或將官ハ、「血ガ流れ出セバ「インキ」壺ノ蓋ヲスベキモ

ノダレト云フタガ、今回ノ大戰ニ於テハ、實ニ驚クベキホドノ書類ガ、往復サレタ。之レガ爲ニ、本來第一ニ軍ノ生活ニ關スル事ニ頭ヲ使フベキ地位ノ人ガ、文書ノ中ニ没頭シテ了フ恐レガアツタ。ソコデ働ノアル參謀副長ハ、總テ重大ナ意義ヲ有セヌ事柄ハ、軍司令部官ヤ參謀長ヲ煩ハサヌコトニシ、輕易ノ事ハ總テ軍司令部官ニ代ツテ自ラ裁決ヲ下シタ。

補給ニ關スル參謀副長ノ働ハ、固ヨリ緊要ノモノデアツタ。軍ノ兵力ト内地ノ資源ニ至ル連絡線ノ能力トガ、仕事ノ標準トナツタ。人馬、銃砲、糧秣、被服、裝具、車輛、建築材料、石炭、「ペンデン」等、軍隊ニ必要ナル凡百ノ物資ハ、戰線ニ近ク設置セル配給所ニ、何時デモ用意シテ置ク必要ガアツタ。而シテ外部ノ者ニハ其準備ニ要スル困難ヲ良ク知レヌカラ、夫レガ良ク行ハレテ居ツタ場合ニモ當然ノ事ト見做サレ、之ニ反シテ萬一不足ヲ生ジタ場合ニハ、假令鐵道ノ能率ヲ高メルコトヤ、集積場、材料廠、配給所等ニ對スル飛行機ノ攻撃ヲ防禦スルコトナドガ、參謀副長ノ權限外デアツテモ、尙ホ且ツ其不足ノ責任ヲ負ハサレタ。其様ナ次第デ、參謀副長ハ軍ノ中デ、一番割ノ惡イ役デアツタカラ、徒ラニ名譽ヲ貪ル者ナドニハ、到底満足ノ出來ヌ地位デアツタ。

參謀副長ノ下ニハ、二、三ノ若イ參謀ノ外ニ、經濟及技術ノ専門家ノ全員ガ屬セラレタ。

此レ等ノ援助ノ下ニ、參謀副長ハ内地ヨリノ補充ノ外ニ、占領地ノ補助材料ヲ利用スルヲ要シタ。利用シ得ル限リノ物資ヲ作戰地域及兵站地域ヨリ補給スルコト多キニ從ツテ敵ノ封鎖ノ效力ニ益々長

ク、對抗スルコトガ出來タノデアルカラ、敵火ノ有効射界ノ直後マデ、糧秣倉庫、各種軍需品ノ材料廠、屠殺場、病馬廠、斃レタ牛馬ヲ利用スル工場、製材所、砲及車輛ノ修理工場、炭燒場、農作物ヲ處理スル場所酪農工場、養魚場等ヲ設ケタ。又軍隊ノ監視ノ下ニ住民ヲ督勵シテ、穀物及野菜ノ耕作ヲ行ハシメタ。尙道路ノ建設及兵營式ノ宿泊ニ適セル住居ノ建築ナドヲモ等閑ニスルコトヲ許サナカツタ。

參謀副長ノ職域ニハ尙ホ、占領地ノ民政部トノ交渉、旅行券ニ關スル事項、兵卒ノ精神的慰安ニ就テノ配慮等ガアツタ。演劇及活動寫真ナドモ、休養廠舍ニ於テ催サレ、文庫モ移動式トシテ各隊ニ直接ニ附設シ得ルヤウニシタ。

參謀副長ハ軍ノ管理ニ任ズル各部就中監督部長、軍ノ軍醫部長、獸醫部長、殊ニ砲兵部長ノ下ニア
ル彈藥班、縱列ノ擔任將校等ト、絶エズ電話ヲ交換シ、又兵站監トノ電話モ殆ンド止ム時ガナカツタ。
其實行ノ手段トシテ、特別訓令及日々命令ヲ出ス(作戰命令ニ附加サレル)。前者ハ彈藥ノ補充、給
養、衛生事項、縱列ノ行動等、總テ軍隊ノ戰鬪行爲ト關連シタ事項ニ就テノ命令ヲ掲ゲ、後者ハ内務
ヲ處理スルモノデアアル。大ナル軍デハ夫レガ廣汎ナモノトナリ、爲メニ、印刷シタ軍公報ヲ一週間ニ
二回以上出スホドデアツタ。

戰地ニ在ル各軍ニハ、兵站監部ヲ一ツ宛與ヘラレタ。兵站監部ハ内地ト戰線トノ中繼所トナリ、兵
種軍需品ノ貯水池トナリ、又交戰部隊ノ背後ニ於ケル安寧及秩序ヲ維持スル所トナツタ。其擔任地域
ヲ若干ノ管理區域ニ分チ、其長トシテ各一人ノ兵站司令官ヲ置イタ。其取ルベキ處置ニ就テハ、軍ノ
參謀副長ヨリ兵站監ニ指示シタ。而シテ其要領ハ參謀副長ノ職域ニ就テ述べタ所ニ似テ居ル。兵站ノ
適切ナル活動ハ、軍ノ作戰ニ取ツテ非常ニ大切デアツタ。

然シ獨逸軍デハ、將來原則トシテ各軍ノ後方ニ必ズ一ツ宛ノ兵站監部ヲ設クルコトヲ止メ、其代リ
ニ、總司令部直屬ノ後方機關ヲ必要ニ應ジテ使用スルコトニナルデアラウ。之ニ就テノ詳細ハ輸送ニ
關スル章下ニ述ベル。

更ニ全般ニ亘ツテ二、三ノ注意ヲ述べテ置ク必要ヲ認メル。

各事務官ニハ一人ノ庶務係ヲ定メテ置ク必要ガアル。命令ノ正確ニシテ迅速ナル傳達ハ、命令ノ巧
妙ナル作製ト、其價值ニ於テ殆ンド差違ナキ場合ガ少ナクナイ。其傳達法ノ不良ヤ元々輕微ナ錯誤ナ
ドカラ、甚大ナル災厄、困難ヲ惹起スルコトガアル。宛名ノ正シクナイ爲ニ、一方デハ疑ヲ起シ、他
ノ一方デハ錯誤ヲ生ズルコトモアル。斯クノ如キ過失(多クハ下級ノ屬僚ニ關係シタモノデアル)ヲ、
屢々犯ストキハ、軍ノ全般ノ指揮ニ對シ、軍隊ノ信頼ヲ損スルコトニナル。此ノ庶務係ノ仕事ハ適任

デナイ者又ハ興味ヲ持タヌ者ニ、之ヲ強ヒル譯ニ行カヌ。故ニ、此ノ場合ニモ亦、階級ノ關係ヲ顧慮セズニ、自由ニ適任者ヲ選定スベキデアアル。性來事務ニ適シタ性質ノ者、即チ文書ノ往復ヲ凡帳面ニ處理スルコトヲ好ミ、山積シタ文書ヲ巧ニ整理シテ、恰カモ首將ガ戰ニ勝利ヲ得タ時ノヤウナ喜悅ヲ感ズル所ノ者モ決シテ乏シクナイノデアアル。唯ダ此ノ種ノ事務ハ、多少共外部トノ關係ヲ持チ色々交渉ナドモセネバナラヌ性質ノモノデアアルカラ、故ラニ勿體振ル者、威張リタガル者——自分ノ威光ヲ示ス爲ニ、輕微ナ事ヲ無用ノ威嚴ヲ以テ取扱ヒ、細カイ事ニ噪ギ立テ、重要ナ事ヲ等閑ニ附シ、ツマラヌ事ニ激昂シテ、大事ノ滯滞ヲ來スガ如キ者——ヲ決シテ採用シテハナラヌ。靜カニ着々ト事ヲ取リ運ビ、寡言ニシラ注意ノ周密ナルコトガ、最モ必要ナノデアアル。

此ノ機會ヲ利用シテ所謂勿體振リ、威張リタガル者ニ就テ一般的ニ警告セネバナラヌ。此ノ種ノ人物ノ癖トシテ、自ラ面倒ヲ引キ起シ、而カモ最初カラ夫レヲ自分ノ手デ治メテ、其機會ニ自己ノ智慧ヲ示スト云フ目的ノ下ニ之ヲ行フノデアアル。

若シ其所行ヲ根本ニ遡ツテ調べテ見レバ、外部カラ見タトハ反對ニ、其事柄ハ何デモ無イ事デ、總テハ當人ノ責任デアリ、彼等ノ考ハ實際ハ、自己一身ノ爲メデアツテ、己レノ責任ヲ果ス爲メニ行ツテ居ルノデ無イコトガ分ルデアラウ。統御方法ガ要諦ニ良シキヲ得ズシテ、不確實ニナレバ此ノ種ノ輩ガ勢力ヲ占メ始メテ、善良ナ者ガ疎外サレ、忽チ腐敗シテ了フ。戰爭ニ於テ軍司令

部ヤ全軍ガ彼等ノ爲メニ不幸ヲ招イタコトモ往々アツタ。

司令部ニ在ル各人ノ能力ヲ十分ニ發揮セシメテ、其所ニ潤達自由ノ空氣ガ漲ツテ居ラネバナラヌ。然ラバ彼等モ亦他ニ劣ラヌ功績ヲ舉グルデアラウ。

管理ニ任ズル機關、即チ軍監督部、軍ノ軍醫部長、野戰憲兵隊長、軍郵便班長及兵站ノ全機關等ハ、其權限ガ一層確實ニ定マツテ居ル。尙ホ此レ等ノ爲ニ方針及規定ヲモ示ス。但シ監督部長ニハ極メテ寬ニシテ、多クノ自由ヲ與ヘ、郵便班長ニハ嚴密且ツ詳細ナルベキハ、勿論デアアル。參謀ハ豫期シ得ヌ不意ノ出來事ニ毎日遭遇スルガ、前記ノ各職員ノ仕事ハ、一定ノ軌道ノ上ニ行ハル、ノデアアルカラ規定ヲ設ケテモ參謀ノ場合ノ如キ害ヲ來タサヌ。然シ多少選定ノ自由ヲ與フルコトハ、司令部附屬ノ各部ノ爲メニモ必要デアアル。蓋シ戰爭デハ、何人ト雖モ、必ズ何時カ一度ハ、豫期セヌ場合ニ遭遇スルモノデアアル。

軍團司令部、師團司令部ノ如キ下級ノ司令部ハ、多クハ平時ヨリ存立シテ居テ、其各將校及相當官等ノ業務ハ、長イ習慣ニ依ツテ定マツテ居ル。其各部ノ區分ハ大體ニ於テ、軍司令部ト同様デアアル。而シテ下級ノ司令部ニ於テハ、其各部ノ擔任區域ガ益々廣クナル。師團ハ戰時僅々二人ノ參謀ヲ有スルノミデアアルカラ、軍司令部ヤ總司令部ニ居ル同階級ノ者ヨリモ其勤務ガ多方面デ、且ツ活動ノ範圍ガ大デアアル。

聯隊長ハ從來ハ副官一人及傳令將校一人ヲ伴ツテ出征シタモノデアルガ、今回ノ大戰ニ於テハ、兵器ノ技術ガ絶エズ進歩シ、又野戰築城ノ價值ガ大ニ増大シタ爲メニ、右ノ人員デハ間ニ合ハナクナツタ。ソコデ更ニ機關銃、迫撃砲、及通信勤務ノ事ニ特ニ精通セル將校若干ヲ置キ、尙ホ一人ノ判士(將校)一人及給養係將校一人(後者ハ往々行李ノ指揮官ヲ兼ネタ)ヲモ置イタ。但シ多クハ一人ノ將校デ此レ等ノ職務ニツ以上ヲ兼ネタ。

司令部ノ組織ガ完全立且ツ之ニ當ツベキ人物ノ選定適切ナルコトハ、全軍及各隊ノ指揮ヲ良好ナラシムベキ基礎デアアル。

第三節 命令

○○○○命令ヲ下スコトハ容易ノコトデハナイ。

命令ノ内容及其回数ヨリモ、其命令ノ仕方ガ大切デアルト云フコトハ、何人モ平生承知シテ居ルコトデアアル。此ノ點ニ就テハ親ガ子ニ就テ一番良ク經驗スル所デアツテ、子ガ服従スルト否トハ、命令ノ下サル、外形態度ノ決然タルト否トニ、關係スル所ガ少ナク無イコトヲ認メルノデアアル。往々其調子ノ内ニ、既ニ効力ニ對スル疑ガ插マレテ居ルコトガアルガ、其様ナ場合ニハ、如何ニ荒イ言葉ヲ使ヒ、如何ニ語氣ヲ激シクシテモ、決シテ服従スルモノデハナイ。周圍ノ事情ニ制セラレテ終ニハ犯ス

コトニナルデアラウト豫想サル、場合ニハ、決シテ禁止スルナトハ、教育ノ法則ノ教フル所デアアル。而シテ命令ハ先ヅ第一ニ明白デ其趣旨ガ受令者ニ精確ニ分ルヤウデ無ケレバナラス。

命令ニ就テハ、此ノ周知ノ規則ノ外、戰爭ノ指揮ノ方面ニ於テモ、別ニ妙案ガアル譯デハナイ。

此ノ規則ハ如何ニモ簡單デアアルガ、戰爭ニハ種々ノ面倒ナ條件ガ加ハツテ來ルカラ、其適用ガ容易デナイノデアアル。

戰爭デハ總テノ命令ニ、必ズ大ナル責任ガ伴ツテ居リ、又命令ノ中ニ一ツデモ過失ガアレバ、多クハ立所ニ其罰ヲ受ケル。此レガ命令者ニ取ツテ言フニ云ハレヌ心配ノ種トナル。從ツテ良イ命令ノ仕事ハ、其ノ人ノ理智ヨリモ其性格ニ基ク所ガ多イト云フコトハ見易イ道デアアル。

尙ホ右ノ事情カラ、實戰ノ場合ニハ、命令ノ數ガ寧ロ少ナクナルト云フ結果ヲ生ズル。萬一命令ガ多過ギルコトガアレバ、其命令ハ消極的ノ内容ヲ持ツタモノデアアル。禍ガ起ルコトガ明瞭ナ場合ニハ、其形勢ヲ挽回スル効ハ無クトモ、己レガ其禍ヲ豫メ承知シテ居ツタノダト云フ證據ヲ與ヘル目的ノ命令ガ下サレ易イ。更ニ甚ダシイノニナルト、狡猾ノ徒ガ「トランプ」デ愈々勝負ノ決スル間際ニ、自分ノ不利ナ札ヲ、潜カニ隣ノ者ノ方ニ推シ遣ツテ、得々トシテ居ルノト同ジヤウニ、責任ヲ自分ガ負ハズニ、アハヨクバ夫レヲ他人ニ轉嫁シタイモノダト云フ卑望ガ含マレテ居ルモノモ往々アル。

要スルニ戰時ノ命令ハ、總テ不確實ナ基礎ノ上ニ立テラレルモノデアアル。即チ敵情ヲ基トシテ命令

ヲ下スガ、サテ其敵情ナルモノガ決シテ完全デハナイ。ソコデ「不可能ノ事ヲ決シテ命令スルナ」ト云フ原則ヲ守ルコトガ困難ニナル。

若シ各人ガ皆良ク此ノ理ヲ體シテ、自ラ全責任ヲ負フ覺悟ノアル事ノミヲ命令シ、決シテ單ニ禁止、否定ニ止マル所ノ命令ナドヲ下サズ、其時ニ現在承知シテ居ル所ニ依ツテ確カト思フコトノ外ハ、命令セスコトニナレバ、夫レガ大ニ國軍ニ利スルコトニナル。

次ニ命令ニハ如何ナル程度マデ其細部ニ亘ツテ指示スベキモノカヲ研究シヤウ。

之ニ就テハ色々考慮スベキ事柄ガアル。先ヅ軍隊ノ全般ノ状態ヲ顧慮セネバナラス。獨逸人ハ普佛戰爭ニ於テ佛國ノ將官（就中九月革命デ將校トナツタ人々）ガ其軍ニ下シタイニストラフシヨ教令（訓令）ヲ手ニ入レテヨク笑ツタモノデアアル。夫レニハ先ヅ過去ノ經過ヲ喋々ト述べ、次ニ三、四頁ニ亘ツテ區處ヲ示シ、左程必要ノ無イ微細ノ事マデモ、詳細ニ記述シテアツタ。

此ノ様ナコトハ到底我が獨逸ノ將校ニハ如何ニモ不思議ニ思ハレルガ、實ハ其處置ガ當時ノ佛軍ノ將校ノ状態ニ全ク適應シタモノデアツタ。即チ吾ガ軍デハ夫レガ當リ前ノ事分リ切ツタコトト思ツタコトモ、佛軍デハ夫レガナカツタカラ、一々命令スル必要ヲ認メタノデアアル。

當時ノ將官ヤ士官ノ一部ハ、新ニ其職ニ就イタモノデアアル。急ニ狩リ集メタ軍隊ノ、重立ツタ人々ハ多クハ國家ノ危急ヲ救フ爲メニ、始メテ陣頭ニ立ツタノデアアル。其所ニハ獨斷專行、經驗、思慮ノ

周密ナドガ求メラレナカツタ。首將ハ簡單ニ命令スル譯ニハ行カズ、命令シ且ツ教ヘテ行カネバナラヌノデ、其指示ガ如何ニ冗長ニナツテモ、各人ノ爲スベキ事ヲ、成ルベク詳細ニ説明シテ遺ル必要ガアツタ。

吾々モ亦今回ノ大戰ニ於テ之ニ似タ經驗ヲ持ツテ居ル。最初ニハ殆ンド金石文ノ如ク簡潔デ、一字モ不用ノ文字ヲ見出シ得ナカツタガ、戰爭ノ末期ニハ全ク其趣ガ變化シテ前述ノ「教令」ニ似テ來タノデアアル。

其ニハ原因ガ無イデハナイ。歲月ヲ經ルニ從ツテ、軍隊ガ變ツタト同様ニ、其各司司令部モ亦變ツテ了ツタ。無數ノ部隊ノ新設ニ伴ヒ、軍隊ハ一種ノ民兵隊（義勇隊）ニ變ジ、司令部ニハ參謀勤務ニ熟達シタ將校ノ不足ヲ生ジタ。軍司令部ニハ最後マデ立派ナ人物ヲ置クコトガ出來タガ、軍團及師團ニハ其不足ガ著シク目立ツテ來タソコデ軍司令部トシテハ、其事情ヲ顧慮シテ、間々從來當然ト見做サレタ事マデモ止ムヲ得ズ命令中ニ示スニ至ツタノデアアル。

實施部隊ニ行ク命令ハ、勢ヒ益々其分量ガ増シ、且ツ詳細トナツタ。夫レニハ從來ハ無用トサレタ教示ヤ指圖ガ含マレタ。之ハ命令ノ術ニハ反シテ居タガ、發令者ノ意圖ガ受令者ニ理解サレル利益ハアツタ。若シ此ノ時期ニ於テモ尙ホ元ノ形式ヲ其儘固守シタナラバ、多クノ禍ヲ生ジタニ相違ナイ。

夫ニハ尙ホ他ノ事情モ加ツテ居ル。戰地ヲ異ニスルニ從ツテ、其戰鬪法ガ非常ニ相違シテ居タ。英

佛ノ兵ニ對スルト、露國及ルーマニアノ兵ト戰フノハ、大ニ趣ヲ異ニシタ。西方戰場デハ、東方戰場ヨリモ、技術上ノ事ガ重キヲ爲シテ居タ。ソコデ長イ間露軍ト戰ツテ居タ、師團ガ、戰況ノ急迫シタ爲メニ、而カモ一應西方戰場ノ戰鬪状態ニ慣ラスベキ最初ノ計劃ヲモ變更シテ、突然之ヲソナム河畔ヤ、彈痕デ一杯ニナツテ居ルヴェルダンノ前面ナドニ投ゲ入レタノデアアルカラ、此レ等ノ師團ハ、今迄一度モ經驗シタコトノ無イ火器ノ威力ヤ、戰鬪法ニ當面スルコトニナツタノデアアル。依ツテ軍隊ニ對シテ、セメテ其理窟ダケデモ教ヘテ置ク必要ヲ感ジ、ソコデ命令モ自ラ教訓的ニナツテ來タノデアアル。猶ホ又新兵器ノ採用ヲシタ爲メ或ハ敵ノ戰鬪法ニ適應スル爲ニモ、命令ガ複雑トナル傾ヲ生ジタ。而シテ之レハ當然ノコトデモアリ、又其結果モ良カッタノデアアル。

以上ノ事實ニ依リ、命令ノ作り方ハ、其場合ノ狀況ニ應ジテ變遷シテ行クベキモノデ、國軍ノ特性、教育ノ程度、慣習等ヲ顧慮スベキモノデアアルト云フコトガ分ツタナラバ、命令ノ作成法ニ就テノ原則ハ自ラ出テ來ル筈デアアル。而シテ其原則ハ今回ノ大戰ニ依ツテ證明サレ、其將來ニ向ツテモ依然トシテ其價值ヲ維持スベキモノデアアル。

其原則ノ一トシテ擧ゲ得ベキモノハ、「上官ハ部下ニ對シ、部下ノ方ガ其現場デモ己ヨリモ一層良ク知ル事ニ就テ、決シテ遠方カラ指圖ヲスベキデナイ」ト云フコトデアアル。之ニ依ツテ命令ハ單純トナリ、且ツ受令者ヲシテ其思慮ニ待ツベキ相當ノ自由ヲ得サセルコトニナル。又特ニ命令セズトモ、夫

ヲ放抛シテ置ク筈ガ無イト確信スルコトニ就テ、區處スベキモノデナイ。斯カル事ヲ命令スル習慣ヲ着ケルコトハ甚ダ危險デアアル。軍隊指揮官ハ自己ノ忘レルコトノ出來ヌ心配ノ事ヲ、事後ニ検査スルノハ良イガ、自己ノ命令中ニ其事ヲ警告スルコトニ依ツテ、己レノ不安ヲ和ゲントスルハ宜シクナイ。若シ細カイ事マデ上官カラ命令スルヨウナ慣習ヲ軍隊ニ着ケルト、命令セスコトハ、一切實行セヌ習慣ニナツテ了フ。

命令ノ下シ方ニ最モ卓越シタ者ハ、大モルトケデアアル。獨逸ノ參謀ハモルトケヲ手本トシテ教育サレ、モルトケノ命令ハ、大戰中マデ手本トナツタ。依ツテ其中デ特ニ有名ナモノニ、三ヲ茲ニ紹介スルコトハ、必ズシモ無益デハアルマイ。

モルトケノ命令ハ短カク且ツ單純デアツタ。千八百六十六年六月二十二日ニ、第一及第二軍ノ爲ニ、ゲルリツツ及ナイセニ與ヘタ左ノ電報ノ如キハ其一例デアアル。

「陛下ハ、兩軍ガベームンニ進入シ、ギツチンノ方向ニ於テ合スルコトヲ命令セララル」

其後七月二日ニ至リ、塙軍ガヒストリツツ河ノ後方ニ在ルコトガ知レ、且ツフリードリツヒ、カール親王ノ率キル普魯西第一軍トノ決戰ガ、七月三日ニ同所ニ豫期サレタ時ニ、皇太子ノ率キル第二軍ヲ左ノ如キ簡明ナ言葉ヲ以テ招致シタ。

「殿下ハ、第一軍ヲ援助スル爲メ、敵ノ前進スル場合ニ、全力ヲ擧ゲテ其右側ニ向ツテ前進シ得ベ

キ準備ヲ直チニ整ヘ置キ、且ツ其場合ニハ爲シ得ル限り早ク戦闘ニ參加セラレタシ。』
獨逸帝國建設ノ基礎ヲ與ヘタルケーニヒグレッツツノ勝利ハ、實ニ其源ヲ此ノ訓令ニ發シタモノデア
ツテ、而カモ到底之レ以上ノ省略ヲ許サヌノデアアル。

『諸報告ヲ綜合スレバ、敵ハル、ポアン、デユ、ヂユール、モンチニー、ラ、グランデ間ノ高地ヲ維
持セントスルモノ、如シ。』

敵ノ歩兵四大隊ハボア、デ、ヂエニヴオーク(森林)内ニ前進セリ。——陛下ハ「第十二及近衛軍團
ヲシテ、敵ガ若シブリーニ向ツテ退却スル場合ニハ、サント、マリ、オー、シエーヌ附近ニ於テ
之ニ追及シ、敵ガ若シ高地上ニ留マル場合ニハ、アマンヴィレルノ方向ヨリ之ヲ攻撃スル目的ヲ
以テ、パチリニ向ツテ前進セシムルヲ適當トスベシ」トノ意見ヲ有セラル。攻撃ハ第一軍ハボア、
ドウ、ヴオーク及グラヴィエロツトヨリ、第九軍團ハボア、デ、ヂエニヴオーク及ヴェルネヴィル
ニ向ヒ、第二軍ノ左翼ハ北方ヨリ、各方面同時ニ之ヲ行フベシ。』

之レハグラヴィエロツト、サンブリヴァノ會戰前ノ攻撃、即チ二十萬ノ兵ヲ動カシタ攻撃ノ爲メノ、
重要ナ命令デアアルガ、其中ニハ軍隊ノ區分法、警戒上ノ處置、其援助、相互ノ連絡法等ニ就テハ、一
言モ示シテナイ。此レ等ハ總テ軍司令官及軍團長ノ裁量ニ全ク一任シテアル。
之ニ附帶シテ第二軍ガ下シタ攻撃ノ實施命令ヲ左ニ紹介スル。

『敵ハライブチツヒ及ボア、ドウ、ウオークノ高地ニアリ。

軍ハ本日此ノ敵ヲ左ノ部署ヲ以テ攻撃セントス。

近衛軍團ハアマンヴィレルヲ經テ。

第九軍團ハラ、フオリーヲ經テ。

第七及第九軍團ハ正面ヨリ。

左ノ諸軍團ハ後援トシテ第二線ヲ前進スベシ。

第十二軍團ハサントウ、マリニ向ヒ。

第十軍團ハサントールニ向ヒ。

第三軍團ハヴェルネヴィルニ向ヒ。

第二軍團ハルゾンヴィルニ向ヒ。』

右ノ場合ニ於テモ亦、確カニ一言モ無用ノモノハナイ。否ナ其後ノ演習ニ於テハ、寧ロ不十分。各
軍團ニ其戰フベキ地域、即チ所謂「戦闘地帯」ヲ正確ニ示スコトヲ要求サレタ。然シ夫レハ地名ヲ列
舉スルダケデハ、到底不可能デアツタ。

特別ノ場合ニハ、上ノ方カラ直接ニ細部ヲ命令スルノガ、適當ナコトモアル。即チ其重要ナル所以
ヲ下級者ガ分ルマイト豫想シタ場合ニハ之ヲ實行スベキデアアル。例ヘバ將帥ガ包圍ニ當テタ兵力ガ、